

国立国語研究所学術情報リポジトリ

方言談話資料（7）：

老年層と若年層との会話 青森・岩手・新潟・千葉
・静岡・長野・愛知・福井

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002276

方言談話資料(7)

—老年層と若年層との会話—

青森・岩手・新潟・千葉

静岡・長野・愛知・福井

国立国語研究所資料集 10-7

国立国語研究所

1983

方言談話資料(7)

—老年層と若年層との会話—

青森・岩手・新潟・千葉
静岡・長野・愛知・福井

国立国語研究所

刊 行 の こ と ば

国立国語研究所では、昭和49年度から同51年度にかけて、「『各地方言資料の収集および文字化』のための研究」という題目の下に、全国各地で方言による談話の録音と、その文字化（標準語訳・注つき）を行ってきました。この研究は、急速に失われつつある方言を現時点で録音・文字化し、国語研究の基本的資料とすることを目的としており、当研究所地方研究員の協力を得てこれを実施しました。

その成果は、機を得て、順次刊行する予定であり、昭和56年度までに、老年層話者による談話として『方言談話資料(1)』～『方言談話資料(6)』を刊行しました。本年度は、老年層話者と若年層話者との談話として、その第七集を刊行します。

本書に収めた資料の録音・文字化は、もっぱら、佐々木隆次（収録当時青森県担当地方研究員・現県立青森北高等学校教諭）、本堂寛（当時岩手県担当地方研究員・現文部省初中局教科調査官）、剣持隼一郎（当時新潟県担当地方研究員・現柏崎実践学園講師）、加藤信昭（当時千葉県担当地方研究員・現千葉大学教育学部教授）、日野資純（当時静岡県担当地方研究員・現静岡大学人文学部教授）、馬瀬良雄（当時長野県担当地方研究員・現信州大学人文学部教授）、山口幸洋（当時愛知県担当地方研究員）、佐藤茂（当時福井県担当地方研究員・現ノートルダム清心女子大学教授）・加藤和夫（同協力者・現東京都立大学人文学部助手）の各氏に担当していただきました。また話者もしくは司会者として、桜田幸一・桜田鉄彌（以上青森県）、小沢ゆき子・菊地邦男・佐藤金六・若松林平（以上岩手県）、高橋真・高橋道明（以上新潟県）、坂本勇・武田金市郎・武田政子・武田由蔵（以上千葉県）、海野晟男・海野重市・大門康男（以上静岡県）、井沢賢一・下平正司（以上長野県）、鈴木清光・堤邦房（以上愛知県）、谷口松樹（福井県）の各氏の協力を得たほか、有志の助力がありました。記して深く感謝の意を表します。

昭和58年9月

国立国語研究所長 野元菊雄

方言談話資料作成のための担当者

国立国語研究所言語変化研究部第一研究室

飯 豊 毅 一 (現在、金沢大学教授) 徳 川 宗 賢 (現在、大阪大学教授)

佐 藤 亮 一 (室長) 真 田 信 治 (現在、大阪大学助教授)

沢 木 幹 栄 (研究員) 白 沢 宏 枝 (研究員)

国立国語研究所地方研究員 (五十音順)

秋 山 正 次	愛宕 八郎康隆	五十嵐 三 郎	井 上 章	井 上 史 雄
今 石 元 久	岩 井 隆 盛	上 野 勇	遠 藤 潤 一	大 島 一 郎
大 橋 勝 男	岡 野 信 子	奥 村 三 雄	寛 大 城	加 治 工 真 市
加 藤 信 昭	加 藤 正 信	金 沢 直 人	川 本 栄 一 郎	神 部 宏 泰
剣 持 隼 一 郎	後 藤 和 彦	小 松 代 融 一	斎 藤 義 七 郎	迫 野 虔 徳
佐 々 木 隆 次	佐 藤 茂	佐 藤 虎 男	清 水 茂 夫	杉 山 正 世
田 尻 英 三	種 友 明	玉 井 節 子	近 石 泰 秋	土 居 重 俊
日 高 貢 一 郎	日 野 資 純	広 戸 惇	廣 濱 文 雄	北 条 忠 雄
本 堂 寛	馬 瀬 良 雄	松 本 宙	三 浦 芳 夫	虫 明 吉 治 郎
村 内 英 一	室 山 敏 昭	谷 開 石 雄	矢 作 春 樹	山 口 幸 洋
山 本 俊 治	和 田 實			

「方言談話資料」(7) 編集担当者

飛 田 良 文 佐 藤 亮 一 沢 木 幹 栄 小 林 隆 白 沢 宏 枝

収録・文字化担当者 (協力者)

青 森…佐 々 木 隆 次 岩 手…本 堂 寛 新 潟…剣 持 隼 一 郎
千 葉…加 藤 信 昭 静 岡…日 野 資 純 長 野…馬 瀬 良 雄
愛 知…山 口 幸 洋 福 井…佐 藤 茂 (加 藤 和 夫)

目 次

刊行のことば	3
まえがき	7
凡 例	10
I 青森県青森市大字牛館	11
思い出話	
その1 新町野分校	15
その2 遠足	20
その3 先生のこと・幼児を背負って通学する生徒のこと	28
その4 金車	32
II 岩手県江刺市男石1丁目	43
お盆の頃	46
III 新潟県柏崎市大字折居字餅粮	59
消防について	62
IV 千葉県館山市相浜	97
鶏冠海苔の収穫	100
V 静岡県静岡市北	133
水害の話など	
1. 大正の豪雨と昭和49年の七夕豪雨	136
2. 過去の地震と、将来の地震の可能性	143
3. 麻機・静岡の方言	151
4. 弓の話題	166

VI	長野県上伊那郡中川村南向	173
	解説	175
	1. 祭り	184
	2. 相撲の話	197
VII	愛知県北設楽郡富山村中の甲	211
	若い頃の旅行	214
VIII	福井県武生市下中津原町	239
	思い出話	242

まえがき

研究の経過

この研究は、昭和49年度から同51年度にかけて行った。

昭和49年度は準備期間とし、全国47都道府県で各種の実験的録音・文字化を行い、その結果に基づいて、次年度以降の計画を立案した。

50年度は、全国的視野のもとに重点地域を定め、23の府県から各1地点を選定して、老年層の男性と同女性との対話、もしくは、男女を含む老年層話者3人の会話を録音し、文字化することとした。

51年度は収録地点を4地点減らし、19の府県について、原則として50年度と同一の地点で、(a) 目上・目下の関係にある老年層の男性2人による対話、(b) 老年層の男性と若年層の男性との対話、もしくは、両者を含む3人の話者の会話、(c) 場面設定の会話、の3項目についての録音・文字化を行い、収録可能な地域では、付録として、民話の収録・文字化も実施することとした。(c)については、「品物を借りる」「(旅行などに)誘う」「新築の祝いを述べる」「隣家の主人の所在をたずねる」「けんかをする」「道で知人に会う」「道で目上の知人に会う」「うわさ話をする」の八場面を、全地点共通の場面として設定した。

以上の録音・文字化資料は、すべて国立国語研究所で整理し、保管しているが、当研究所では、このうち、50年度分についてはすべて刊行した。51年度分は本巻をはじめとして順次刊行していく予定である。今回は、51年度に収録・文字化を行った老年層話者と若年層話者による談話資料のうち、「青森県青森市大字牛館」「岩手県江刺市男石1丁目」「新潟県柏崎市大字折居字餅糰」「千葉県館山市相浜」「静岡県静岡市北」「長野県上伊那郡中川村南向」「愛知県北設楽郡富山村中の甲」「福井県武生市下中津原町」の8地点分について、オフセットにより複製印行する。

話者の条件

話者には次の条件の人を選ぶこととした。

1. 老年層話者による談話(50年度)

その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、その期間が比較的短い人で、日常生活ではもっぱら方言を用い、また、録音機を前にしても方言色豊かなおしゃべりが可能な人。したがって、よその土地から嫁入り、婿入りした人は採らない。ただし、女性については、他に適当な人が得られないときには、近隣地から嫁入りした人でも、収録地点との間に大きな方言の違いが認められない場合は可とする。話者の年齢は、原則として収録時において60歳以上とし、やむをえないときは、55歳以上も可とする。発音その他の障害がなければ、高齢者でも差し支えないが、話者相互の年齢が離れすぎるのは好ましくない。また、話者相互の地位・身分関係も、ほぼ対等であることを原則とする。

2. 目上・目下の関係にある老年層の男性2人による対話(51年度)

話者の年齢は上記1に準ずる。この項は、改まった表現や種々の敬語形式などを得ることをねらって設定したものであり、対話の具体的な人物像として、たとえば、旧地主階層の人物対旧小作階層の人物、僧侶対その壇家にあたる人物、その土地出身の教員(校長など)対その土地の一般的職業(農業・漁業など)に従事している人物などを候補として示したが、地域の事情もあると思われるので、この点は各地の担当者(地方研究員)に一任した。なお、目上にあたる人物として、在外期間の比較的長い人物を登場させなくてはならない場合もあると考えられるので、在外歴に厳しい条件はつけないことにした。

3. 老年層男性と若年層男性との談話(51年度)

老年層については原則として60歳以上、若年層については原則として20~30歳台とする。話者相互の地位・身分関係は、ほぼ対等であることが望ましい。職業は老若ともにその土地における一般的なものであること。在外歴については1に準ずる。

4. 場面設定の会話(51年度)

上記1に準ずる条件を備えた老年層の男女に、場面に応じて、種々の演技的対話をしてもらった。

5. 民話

特に条件はつけず、その土地で生まれ育った民話の語り手があれば可とした。

司会者

主たる話者のほかに、話の引き出し役としての司会者が同席することとした。司会者はこの研究の主旨を理解し、かつ、司会役としての能力を有する地元方言の話し手が望ましい。司会者の年齢・居住歴等に、特に条件はつけなかった。

録音量・文字化量

50年度・51年度ともに各約60分程度の録音量(51年度については、各項目平均20分、合計60分程度)について文字化を行うこととした。また、内容の豊かな文字化資料を得るために、文字化すべき録音量の数倍を録音し、その中から適切な部分(話がとぎれず、しかも発言が特定の話者にかたよっていないこと。話の流れ、話題の展開が自然であること、など)を選択して文字化することとした。

文字化原稿の作成・表記

1. 将来のオフセットによる複製印行に備えて、一定の様式の文字化用紙を作成し、担当地方研究員に配布した。
2. 文字化は原則として表音のカタカナ表記によることとした。これは、利用者の便宜、文字化作業の能率などを考慮してのことである。ただし、対象とする方言の性格によって、カナ表記では特殊な字母を多数必要とし、かえって煩雑になると判断される場合は、国際音声字母による表記も可とした。なお、それぞれのカナで表わす具体的音声の範囲・内容については、各担

当者が「解説」の中で説明することとした。

3. アクセント、文末イントネーションの記述の有無は、その表記法を含めて担当者の判断にまかせた。
4. 聞き取りが困難な箇所や、言いよどみ、言い重なり、言い直し、笑い声などについては、これらを一定の符号で表わすことにした（凡例参照）。

文字化には、標準語訳、および、場面、文脈、特徴的音声、方言形の意味・用法などについての注をつけることとした。なお、標準語訳はあくまでも内容理解のための手がかりの一つと考え、訳が問題となるような箇所については、できるだけ詳しい注をつけることを担当者に求めた。

収録方言・表記・収録内容についての解説

文字化原稿とは別に、収録方言・表記・収録内容についての解説を担当者に求めた。解説には、原則として次の事項を記すこととした。

1. 地点名
2. タイトル
3. 録音年月日
4. 録音場所
5. 話し手の氏名・性・生年・職歴・役職歴・居住歴・言語的特徴など
6. 録音環境（同席者・話の進行状況・場の雰囲気など）

なお、収録地点の概観と収録した方言の特色等については、原則として、50年度分の文字化資料（既刊）にゆづった。

凡 例

1. 場面、文脈、特徴的音声、方言形の意味・用法などについての注は各章の末尾にまとめて記し、該当箇所を本文のそれぞれの位置に番号（かっこつき）で示した。
2. 発言や録音が不明瞭なため聞き取りが困難な箇所には ~~~~~ 線をつけた。
例 ノセデ モラッテ イッタラ (34ページ7段)
3. 最終的に聞き取り不能の箇所には ~~~~~ 線のみを記した。
4. 言いよどみは、その末尾に ----- 線をつけた。
5. 複数の発言が重複した場合には、重複部分に _____ 線をつけた。
例 A アノ ヤマゲス (Dオノウエ, アー) (23ページ1段)
6. 言いかけて、それを言いなおした場合には、言いかけた部分に xxxxxx をつけた。
例 ヘバ エマ エマダラ ログサ ログ ムツツデ (16ページ9段)
xxxx xxxxxx xxxx
7. 笑い声、咳ばらいなどは、(笑)、(咳) のように示した。
8. 同席者の短い発言や突然の訪問者のことばなどは文字化していない場合がある。その際や、録音テープを編集して談話内容の一部を削除した際には、該当箇所に * の符号をつけた。

I. 青森県^{あおもり}青森市^{うしたて}大字牛館

収録・文字化担当者 佐々木 隆 次

1. 地点名 青森県青森市大字牛館
2. タイトル 思い出話
- その1 新町野分校
 - その2 遠足
 - その3 先生のこと・幼児を背負って通学する生徒のこと
 - その4 金車

3. 録音年月日 昭和54年4月26日

4. 録音場所 青森市大字牛館字松枝73 桜田敏光氏宅

5. 話し手

A 桜田鉄彌 (男) 明治36年生まれ 農業(自営)

この収録地に生育し、まだ一度も他所に居住したことがない。ほんの少し耳が遠くなったらしく補聴器をつけているが、言語動作は常人と何ら変りない。話好きで話題が豊富である。間投詞的に使うことは「こんど(コンド, コンドア, コンダ)」。ほら(ホラ, ホラー, ホロ, ロー)」が多く発せられる。

D 桜田幸一 (男) 昭和26年生まれ 会社員

収録場所の桜田敏光氏の長男。新制高校卒業後会社員として仙台市に約4～5年間勤務。現在は転勤して青森市内に勤務。現代の若者らしく明瞭に「チツシスジズ」等を区別して発音するが、この収録においては同調して、必ずしも区別が明確でない。

6. 協力者

・桜田敏光 農業 53歳。収録・文字化担当者の叔父にあたり、この家を収録場所とした。また、文字化、標準語訳を行う際に不明の

箇所を判断してもらった。

・佐々木繁野 主婦 64歳。青森市（収録・文字化担当者と同居）在住。担当者の母。桜田敏光の実姉。収録地の牛館の出身のため、文字化・標準語訳を行う際に不明の箇所を判断してもらった。

・高山 治 県立青森南高等学校教諭（国語科） 33歳。録音を担当。

7. 録音環境

ほとんど自動車の通らない、騒音のない場所である。各話者はなごやかな雰囲気、予定どおりに滞ることなく話した。

8. 表記について

長音，促音，撥音は標準語に比して半分程の長さで発音することが多い。ここではひとつひとつ表記はせず，標準語と同様の長さに聞き取った場合のみ文字化することにした。

9. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては、『方言談話資料(3)』を参照。

思い出話

話し手

(略号)

(氏名)

(性)

(生年)

A

桜田 鉄彌

男

明治36年生まれ

D

桜田 幸一

男

昭和26年生まれ

その1 新町野分校

D セバ オジチャニサ (A アー) キグケントモサ、アノー オ
じゃ お爺ちゃんにね (はい) 崩れくわれどもさ、あやう 北

ンジチャ ハタ コロ ダエブ ナ モー ログジューネンプラエ
爺ちゃん(が)入った 頃(は) ずいぶん^{xxx} もう 六十 年 ぐうい

マエニ ナルンダガ、ショガッコエ ハエタ コロテ へば。
前に なるのかい、小 学校へ 入った 頃と いうと。

A ンダーナー、オラ ガッコ.....
ん ちうななあ、俺(が) 学校

D ショーガッコテ シャベネガモ スンネケドモ ムガスタラ
小 学校と 言わないかも しらないけれど昔 なら

ナンテ、ジンジョーダガ、ナンダガ、コートーショガッコダガッテ。
何と(言った)、尋常(小)学校(が)、何とか、高等小 学校とか言ッテ。

A オラー、ウー、ショ⁴ンガッコサ ハテカラーダバ ホラ ログジュ
俺(が)、ん、小 学校へ 入ッてから なら ほん 六十

ーネン アー ログジューゴネンバリネ ナルナー (D ウン) ツイ
年 ああ 六十 五年ばかりになるなあ (うん)

オラ ハタ トギダバヨー、スンマズノーズンジョー ショーガッコ
俺(か)入った 時は、新町野尋常小学校

デー (D ウー) アッテァタネナー、エマノ (D ヨゴ^{xxx} ヨ
ヒいて (うん) ああ、今 (

(2)
ゴウズ、スンマズノガ、マルツキリ) アー エマノ アレー ゴ
横内(か)、新町野(か) (これ) なる(道)か) ああ 今(あ) あれ 合

(3)
ースザワノ セーマエジョー アーベ (D アー ワガル ワガ^{xxxx}
子 沢の 精米 所(か) あら(る) (はい) わか

ル ワガル アー) アー アッコ ホラ ムガス オラ ショガ
る わかる ああ) ああ あそこ(は) ほう 昔 俺(か) 小

ッコサ ハタ ズギノ スンマズノーズンジョー アッタヤズ。
校へ入った 時の 新町野 小学校 だ、たのぞ。

(D アー) アー オラ ア アッコサ ハエタ ワゲダー。
(ああ) ああ 俺(は) ^{xx} あそこへ 入った わけぞ。

D へバ エマ エマダラ ログサ ログ ムッツデ ハルダエナー、
じゃ ^{xxx} 今(は) ^{xxxx} ^{xxx} 六つで 入るぞよなあ。

ションガッコサナー。アン ズギ ナンボデ ^{xxxx} ハイッ ヤッパリ
小学校へ。 あの 時 何歳で ヤッパリ

ムッツデ ハルンダガー ジンジョー ショガッコ。
六つで 入るのかい、尋常小学校と(いうのは)。

A アノ トギワー ヤッパリ ホレー マー ヤッツデ ハエッテ。
あの 時は ヤッパリ ほう 今(は) 八つで 入って。

オンメダズ ハエッタ ズギダバ ヨゴウズ ウズダ ベ。
お前達(か) 入った 時は 横 ^{xxxx} 内(小学校) なるぞ。

D オラダズ ハエツタ ズギサー アラガワショ ⁽⁴⁾ ンガッコサ ハエツ
 俺達(が)入った 時(は)は 荒川 小 学校 校に 入っ
 タンダエナー。
 なんなんなあ。

A アー ホンダナー。 (D ウー) アラガワデ アツタガー。
 ああ なんなんなあ。 (うん) 荒川で あつたが。
 (D ウーン) ウーン。
 (うん) うん。

D オラダズヨリ ナンネン ⁽⁵⁾ ゴログネンマエガラ ホレー
 俺達より 何年 五・六年前から ほら
 アラガワニ カワッテ マツタンダエナー、 (A ウーン) ヨゴ
 荒川に かわって しまなんなんなあ、 (うん) 横
ウズガラ ウン。
 内から うん

A ンダナー、 (D ウン) オンメダズノ ズギダバ アラガワダオ
 なんなんなあ、 (うん) 五年前の 時は 荒川 だも
 ンナー。ウーンへバ アラガワダバ ツカフデー エーフテァタ
 のなあ。 うん じゃ 荒川 なら 近くて 良かった
 オナー、カヨウネナー、
 よなあ、通(り)になあ。

D ウー ムガス ナンダガ タンダテ ネガタテァ シャベテ アタ
 うん 昔 何か だ(き)で なかると じゃべって いた
 エナー、フユダナンテナー。
 よなあ、冬 なんかなあ。

A オラダキヤー、オラダズヨー スンマズノ ーマンデ エグデァバー
 俺達(が)よ 新町野 まで 行くといと

アー スンマズノード オラ¹⁴ホノ アエダー (D ウン)
ああ 新¹⁵町野と 俺達の(村¹⁶の) 間(は) (うん)

アー アノ タンボ¹⁷ タンボダベ¹⁸ (D ウン フグ¹⁹ モノナー) アー
ああ あの 田んぼ²⁰だろう。(うん 吹雪くものなあ) ああ

(D フユニ ナレバー) ヤー ナズダバ エバタテヨー (D
冬²¹に なると) やあ 夏²²は 長いけれど

ウン) コンダ フユサ ナレバー ユギ フル ワゲダバ (D
うん) こんど、冬²³に なると 雪²⁴(か) 降る わけなら

ウン) ヤ ナンモカモ タンダデア ネア ヤダエナー。
うん) 何かかも 手²⁵で ないのなよなあ。

D ナエデ マルベ²⁶ (笑)。
泣いて してやがるぞ

A ウン。ヤー サンビズ ケア²⁷ンド ネーズ²⁸ー。 (D ウン) オン
うん。 やあ 寒²⁹いといし 街道³⁰ (は) ないといし。(うん) み

メダズ ヘバ タエスタ スアワヘダネ³¹ー。
前³²達(は) それじゃ 大変 幸³³せぬぞ。

D ンダネ³⁴ー。(A アー) ヤッパリ³⁵ フユダラ ワラグツミンタ
そうだねえ。(ああ) やっぱり 冬³⁶なら 藁³⁷沓³⁸みたいな

モノ ハエデ エグンダガ³⁹ー。(A ウ) ワラグツミタエナ
物⁴⁰(は) 履⁴¹いて いくのかい (え?) 藁⁴²沓⁴³みんな

モノ ハエデ エグンダガ。

物⁴⁴(は) 履⁴⁵いて 行くのかい。

A ウン ワー ムガスダハンデ⁴⁶ナー (D アー) エンモノ ヨニ
うん 音⁴⁷(は) 昔⁴⁸ ぞ 知らな⁴⁹あ (ああ) 今⁵⁰の ぶん

ホラ ゴムグツ ネース (D ウン) ハー ワラグズッテ ワラデ⁵¹
ほら、ゴム靴⁵²(か) ないし、(うん) 藁⁵³沓⁵⁴といっ? 藁⁵⁵ぞ

ツクッテ ホラー、クズ、ツクテ (D ウーン) ソエデ、タンビモ、ナ
作って ほら 沓(を) 作って (うん) それで 足袋も 何
ンモ ハガネンデヨー、 (D アー) マー コンダ コスケァテ⁽¹¹⁾
も 履かないでよ、 (ああ) まあ、こんど コスケァヒotte

アグド^{x x x x} アグドサ アラー、アグドサ マンダ ハ、ハグ ヤズ
踵に あれ、踵に せん 履く やつ

マンダ アル、モンダ、ソエデ、ホレ、タンビ、ハガネンデ
(め) せん ある、もんなんぞ、それで、ほら、足袋(を) 履かないで

クズサ コンダ、アグド⁽¹²⁾ コンダ、クズバリダバ、アグドサ^{x x} アノ スン
沓に、こんど、踵、こんど、沓ばかりなら、踵(は) あうの、つ

ブテ、ハンテ (D ウーン) アグドサ、コンダ、マンダ、アンデー⁽¹³⁾
めたいから (うん) 踵に、こんど、また、編んで

ステ、ホラ、コーステ、ムスンデ、ハエダ、モンダ、ンダ、(D ウーン) ア
そして、ほら、こうして、結んで、履いた、もんなんだ、(うん) あ

ー、ソエデ、コンダ、ガッ、コサ、エゲバ、ホラー、コンダ、ミンナ⁽¹⁴⁾
あ、それで、こんど、学校へ、行くと、ほら、こんど、みんな

スンバズ、オエデ、タハンデ、ナー、エマデ^{x x x x} エマダ、ケニ、ストフ
火鉢(を) 置いて、いるから、なあ、今の、ように、ストーブ

デ、ネァア、(D ア、ヘンバズ、ガー) ウーン、コー、オッキ
で、ないや、(あ、火鉢か) うん、こい、大きい

スンバズ、アッテ、ンゴサ、サンジャグニ、サンジャグ、グレアノ
火鉢(め) あって、そこの、三尺に、三尺、ぐらゐの

スバズサ、スミ^{x x x} スミ、オゴステ、ヨー、(D ウーン) コンダ
火鉢に、炭(を) おこしてよ、(うん)、こんど

ソノ、ガワリサ、ミンナ、ヨコ⁽¹⁵⁾、エテ、ラハンテ、カゲデー、エサ
えの、側、に、みんな(は) 濡れてるから、(マコ等を) 掛けて、家に

クルマンデ コンダ カワガス ワゲセア。(D アー) ウー
来るまで こんど 乾かす わけよ。(ああ) じん

(D ウーン) セバ オンメァダズダバ ナンモ ホタ ゴト
(うん) すると お前達は 何も そんな こじは)

ネァオナー。

ないよなあ。

D ンダナー。(A笑) ガッコ カワテ マッタス ホレ ナー (A アー)
そうだなあ。 学校(が) 移転してしまったし、ほらなあ (ああ)

スング ソバダス、ホレァ。

すぐ近くだし、ほら。もう

A ヤッパリ ヨノナガ ヘラゲデ キタハンデナー。(D ウー)
やっぱり 世の中(が) 崩れて きたからなあ。(うん)

ウー。

じん。

そのス 遠足

D オレダズノ ショガッコノ ⁽¹⁶⁾ズキノサ アノ エングテバサ ハ
俺達の 小学校の 時のさ あう 遠足といえばさ 春

ルサ、ハルワ コー ヤマサ エッタ ンダケ ンドモサ (A アー)
(あさ、春は こい 山へ 行ったん 忘れじいさ (ああ)

ステー アギニ ナレバ コンド バスデ エグンデァナー。(A
そして 秋に なると こんど バスで 行くんだよなあ。(

A ウンウンウー) ⁽¹⁷⁾ヘロサギダノ ホレ (A アー) ハズノ
(うんうんうん) 弘前(が)の ほら (ああ) ハ

(18)

ヘダノテ。(A アー) ステ オンズチャノ トギ ドンダッタ
戸なのと(行った)。 ああ) それで お爺さんの(その)時(は) どうだった

べ、アノ ズギダバ.....。

あ、あの 時は.....。

(19)

A オラタズー、ンダナー、オラタズ ホレ ガッコサ アガッテラ
俺達(は)、とんだなあ、俺達(が) (ほら) 学校に 在学している

ズギダバ タエデー モー アー ショガッコノ トギヨリモ オ
時は ぬいてい もう ああ 小学校の 時(は)も 俺

ラ コ アラガワノ コートサ アガッタハンデ (D アー)
(は) ^{^^} 荒川の 高等(小学校)に 入学してから ああ

コートネ ナレバ ホレ (D ウン) マー エンリグッテ
高等(小学校)になると (ほら) (うん) まあ 遠足といって

アー アヘッテバリ ホレ (D アー) アー、ホエゴン ナ
ああ 歩いてばかり (ほら) (ああ) ああ、それこそ な

ンダナー、ワラズ ハエデー ハガマ ハエデヨ、(D アー
んだなあ、草鞋(を) はいて 袴(を) はいてよ、 (ああ

ハガマ ハエデ) エー ハオリ キタ キタンタテ エンングデ
袴(を) はいて) うん 羽織(を) ^{xxx} 着た(は)いても 遠足 ^{xxxxxxx} で

ソステ エンングネ アリグアダエナー (D アー) アー。
そして 遠足に 歩くの(は)なあ (ああ) ああ。

D ドゴエラヘンサ エグ モンダべ、
何処(い)らへんへ 行く もんだらう。

A オラ アラガワノ コートノ ドギ ホレ アヘテバリ (D
俺(が) 荒川の 高等(小)校の 時 (ほら) 歩いてばかり (

ウン) オーワニマンデ エッタ ワゲダー。(D アー)
うん) ⁽²⁰⁾ 大鱈(さ)で 行(く)ら(ぬ)けだ。(ああ)

アラカワガラ コンダ マメサガ⁽²¹⁾ マワッテ ナンミオガサ⁽²²⁾
(行程) 荒川から こんど 豆坂(を) 回って 浪風へ

⁽²³⁾
エッテセ、クロエスサ エッテ ホラ。
行ってよ、(23) 黒石へ 行って ほら。

D ヘバ トマリカゲデ¹ エグンダベ² ヘバ。(A アー) トマリカ
じゃ 泊まりがけで 行くんぢやろ³ じゃ。(ああ?) 泊まりが
ゲデ⁴ エグ ワゲダ。オーワニマデ⁵ダッタラ ア エズニ⁶ズデー
けで 行く わけだ。大鯨⁷まで だ⁸たら 一日で
ナー。

なあ。

A ウンウンウー トマリカゲデ。オーワニマデ¹、ソエデモ マンダ
うんうん² 泊まりがけで。大鯨³まで、えれでも せえ
オーワニマデ⁴ヨ、ソノ スニ (D ウン) オーワニマデ⁵
大鯨⁶までよ、その 日に (うん) 大鯨⁷まで

アルエテ マッタデバ (D アー) ステ オーワニサ、コンダ
歩いて しまたではないか (ああ) えて 大鯨¹へ、こんど

⁽²⁴⁾
ホレ オンセンサ、フトバケ¹ トマッタ ワゲダ、(D ハハー)
ほら 温泉に、一晩 泊まった わけだ、(ははあ)

アー。

ああ。

D ウーン。セバ オーワニガラ¹ ヘバ² ソノ ツキ³ ツキノヘッテバ
うん。じゃ 大鯨⁴から じゃ その 次⁵の日というて

ドゴサ エッタ¹ンダベ。ズット マワル モンダガー。
何処へ 行っせんぢやろ。ずっと 回る もんかい。

A ンダ、オーワニガラ¹ コンダヨ² マンダ³ アルエテ⁴
せうだ、大鯨⁵から こんど⁶よう また 歩いて

(25) オノエダズガサ アノ ヤマゲス⁽²⁶⁾ (D オノウエ、アー) エー
尾上 だとか あの 山 岸 (と) 尾上、ああ) うん

オノエッテ オノボエデベ。
尾上って 覚えてるだろう。

D ン、キダ ゴト アルケンド アー。
ん、聞いたこと(は) あるけれど ああ。

A ハナスニ キデル⁽²⁷⁾ベ、ウン。
話 に 聞いてるだろう、ん。

D ウン キーデル ウン。
ん 聞いてる うん。

A アレガラ コンダ アノ ヤマゲスノ ホーサ エッテヨ (D
あれから こんど あの 山 岸の 方へ 行ってよ
ウン) コンダ ⁽²⁸⁾ヌルユッテ オ
うん こんど 温湯^{xx}って

D アー ヌルユオンセンダナ アー。
ああ 温湯温泉だな ああ。

A ウン ヌルユオンセンテ アーベ。
うん 温湯温泉って あるだろう。

D ウン アル アル。
うん ある ある。

A アー アレガラ コンド マダ ちょっと エケバ、コンダ マンダ イ
あれ あれから こんど また ちょっと 行くと、こんど また 板
ダド⁽²⁹⁾ メテモ アルンダ。 (D アー) アー ステ ソゴサ
留^てっても あるんだ。 (ああ) ああ として そこに

マンダ フトバ^ンゲ トマタ ワゲダ。 (D ファン^ン) アー
また 一 晩 泊めたわけだ、 (うん^ん) ああ

オーワニガラ ホレ ~~ノラ~~ アノ エダンドメマテ アルエテ アー。
大鯨から ほら あの 板留まで 歩いて ああ。

D ドッカ コー ミンデ アルグ モンダガ、 (D ウ) ドッカ
何処か こう みて 歩く もんかい、 (え?) 何処か

コー ナンチュ テンダベア、 オンセントガサ コー メーショトガ
こう 何 といふ人なろう、 温泉 とかま こう 名所 とか

コー ヤッパ⁽³⁰⁾リ
こう ヤッぱり

A アーアー ソーユ ドゴサ マー ト トマタ ワゲダー。 (D
ああああ そうい 所に まあ 泊まな わけだ。 (

アー) アー オンセンダバ ソラ ツカレデ クラハンデー ユ
ああ ああ 温泉 なら せら 疲れて くるから 湯

コサ ハテ ユックリ ヤスム ワゲセア、 (D ウー) アー。
ト 入って 休む わけよ、 (うん) ああ。

D セバ ゼンコーセート ミンナデ エグンダガ、 (A エー ベン)
じゃ 全校生徒(が) みんなで 行くわかい、 (xxxx xxxxx)

ソエトモ ガグネンゴドニ エグンダガ。
それとも 学 年 ごとに 行くわかい。

A エー。ベント コンダ ヤンドデ ホラ (D ア) ヘルメスタ
ああ。弁当(を) こんど 荷で ほら (ああ) 昼飯は

バ モダヘル ワゲ、 (D アー) アー。
持たせる わけ、 (ああ) ああ。

D ⁽³¹⁾
チョット ヘバ..... ソセバ エズネンニ コー ナンカエガ ア
ちょっと じゃ..... そうすると 一年に こう 何回か あ

ンダガー、 アギトガ ハルトガ、 ソーユノ。
るわかい、 秋 とか 春 とか、 そうい(が)

A エー エズネンニ エッカエダナー。 (D エッカエグレァガ)
 うん 一年に 一回 なのなあ。 (一回 ぐらいか)

ウー、 (D アー) エズネンニ エッカエ、^{ハル}ハル ^{エッカエ}エッカエ
 うん (ああ) 一年に 一回、 ^{ハル}春(は) 一回

ダナ、 (D アー) アー。
 だな、 (ああ) ああ。

D セバ ミッカガ ヨッカグレァノ コー ⁽³²⁾アレデ エダ ワゲダ。
 じゃ 三日か 四日 ぐらいの こう あれで 行く わけだ。

A ウンダ、^{フタバン} ^{ホラ}マー ^{フタバン} トマツテセァ (D ウン)
 せうだ、 ^{xxxxxxx} (ほら) なあ 二晩 泊まってよ (うん)

オーワニサ フトバング、エダドメサ フトバング、ソエガラ コン
 大鯨に 一晩、極留に 一晩、それから ン

ダ エダ ⁽³³⁾ ンドメガラ アド クロモリス" アレー ムガスノ オデ
 ど 極留 から あと(は) 黒森 とい あれ 昔の お寺

ラ ⁽³⁴⁾ ハナス、クロモリス ヤマー アルンダ (D アー) ウン エダ
 (の) 話 (を)、黒森 とい 山 (が) ある んだ (ああ) うん 枝

ンドメガラ エゲバ、ソゴデ ホラ ムガス ミンナ エー コノ
 紹 から 行くヒ、そこで ほら 昔 みんな えーと この

ヘンノ フトンド ソゴデ マー テラコヤ ズー ンダ ガ ガッコー ム
 ヘンノ 人々 (が) そこで まあ 寺小屋 という のだが、学校

ガスノ ガッコー アツタツテ ヨー、タエデー コノ ヘンノ フ
 昔ノ 学校 (が) あつた てよう、たいてい この ヘンノ 人

トンド ソゴサ エツテ、ホラー ソゴソ アノ ナンダー、ガクモン
 々 (が) そこへ 行って、ほら それこそ 何 だ、学問 (を)

ナラッテ キタ フト マ オーグ アルオンナ (D アー)
 習 って 来た 人 (が) まあ 多く ある な、 (ああ)

ウン。

うん。

D ヤッパリ コー テラダナンテ マワル モンダガ、コー (A
ヤッパリ こう 寺 など 回る もんかい、こう

エ) エマ アノ エマダラサ (A アー) エマノ エソグ
え?) ^{xxx} あ の 今 は さ (ああ) 今 の 遠 足 (は)

ナンツンテ、テラ マワッテ ハグブツカントガナー (A
何と言うんだ、寺を 回って、 博物館 とかなあ

アー) ソユ ドゴ マワルケドモ ムガス ヤッパリ コー
ああ) そういふ 祈 (を) 回る けれども 昔 ヤッパリ こう

テラマワリトガ ジンジャ マワタリ ス モンダガ。ソー.....
寺 回り とか 神 社 (を) 回 っ たり する もんかい。

A ウー マー ソー ソーユ ゴトワ ハグブ ムガスダバ オラ
うん まあ ^{xxx} そういふ ^{xxxx} ことは 昔 は ^{xxx}

エタ オラ ガコサ エタ ⁽³⁵⁾ トギダバー ハグブツカンモ ナンモ
^{xxx} 俺 (が) 学校へ 行った 時は 博物館も 何も

ソーユ ゴトダバ ネーフテタハンデナ。 (D ウン) ウン。
そういふ ことは 無 かつた から な。 (うん) うん。

D タンダ コー アルグテバ オガスケンドモ ナンテバ エンダベナー.....
ただ こう 歩くといえは おかしいけれども 何といえは いいんだろうなあ.....

A タンダ マー アー オラダズノ トギダバ マー タノスミナガ
ただ まあ ああ 俺 達 の 時は まあ 楽しみなが

ら (D タノスミナガラ アー) エソグスタエンタ モンダ
ら (楽 しみ なが ら ああ) 遠 足 し た よう な もんだ。

D ウン ホントノ エソグダオナー。

うん ほんとうの 遠足だものなあ。

A アー ホントノ アスンデ エナガラ《笑》 スガラステ
ああ ほんとうの 遊んで いながら 字からして

エンソグテ カゲバ ハー トーク アルグダハンデ アー テ
遠足と 書けば 遠く 歩く だから ああ、そして

クロモリガラ コンダ⁽³⁶⁾ ホレ コノ スモユノ ウエサ キテ
黒森から コンビ ほら この 下湯の 上に(歩いて)来て

(^D アー キテ) ステ コンダ⁽³⁶⁾ スモユガラ コンダ⁽³⁶⁾ ナンモ
(ああ 来て) そして コンビ 下湯から コンビ 何も

ドーロモ ナンモ ネー ドゴヨ (^D アー) エー (^D ンダベナー)
道路も 何も 無い 所よ (ああ) うん (そうだろうなあ)

ヤマノ キスガラ コンダ⁽³⁶⁾ オリテ⁽³⁶⁾ キテ、スモユサ キテ スモ
山の 岸から コンビ 降りて 来て、 下湯へ 来て

ガラ スモユガラ マンダ⁽³⁶⁾ ナンダナ⁽³⁶⁾ ア アルエテ ホレ エマノ
下湯から 何だな 歩いて ほら

ヨニ スモユ エマダバ⁽³⁶⁾ ス スモユサ バス エグバタテ (^D
今は 下湯へ バス(が) 行くけれど

ウン ムガス ナンモ ナガッタンダ⁽³⁶⁾ベ) エー ムガスダ⁽³⁶⁾バ
うん 昔 何も 無かったんだろう) うん 昔は

ナンモ バスモ フトデモヨー (^D ウン) エワヤ アッテ
何も、 バスも 人でもよう (うん) 岩屋(が)あって

ワンツカ ケンドコ エッシャグバリスカ ネー ドゴ、カワバダヨ、
わづか 道(が) 一尺ばかりしか 無い 所、(つまり)川端よ、

ガゲノ トゴ ヤット エワヤ エワ ツタワテ⁽³⁷⁾ テ ンザワサ
(つまり)崖の 所(を) やっと(の思いで) 岩(を) 伝わって そして 野沢へ(戻

キタ モンダエナ (^D ウーン) テ ンザワガラ ホレ。
て来た もんだよな (うん) そして 野沢から ほら(我が村へ帰り着いた)

D アー キタ ワゲダ。(Aウン) アノ スモユッテモ ヤッパリ アエ
 ああ 来た わけだ。(うん) あの 下湯というのも ヤッパリ あれ
 ダンダガ、ムガス ロテンプログ ナンガダッタンダガ。
 なんかい、昔 露天風呂が 何か 変わったかい。

A ンダナー スモユ ムガスカラ アッタバタテ マー アエ エ
 そうだなあ 下湯(は) 昔 から あったけれど 生あ あれ(は)
 マノエンタ アーユ スモユデ ナフテタエナー。 コヤコデヨー。
 今のような ああいう 下湯で 無かったよなあ。 小屋 でしょう。

(D アー) アー ソエゴン ナンダジャ ナンモ ロ ロ ロ
 ああ ああ それこそ 何だぜ 何れ 霧
 テンプログズ ンダガサ ウー アオゾラ オンセンスンダガサ エマノ
 天風呂というのか うん 青空温泉というのか 今の
 エンテァ ネーフタナー、ムガスダバナー アー。
 ように 無かったなあ、昔 はなあ ああ。

D ウーン。
 うん。

その3 先生のこと、幼児を背負って通学する生徒のこと

D アノ オンジチャノ コロノサ。(Aウン) シャシン ミレバサ (Aウン)
 あのう お爺ちゃん(小学生の)頃の(うん) 写真(を) 見るとさ(うん)
 ア スゴグ センセ オッカネグ ミエダンダケド ヤッパリ
 ああ すごく 先生(は) あっかなく 見えなさん(けれど) やっパリ
 ムガシ ヤッパリ オッカネガッタ モンダガ、センセテ。
 昔 (は) やっパリ あっかなかた もんかい、先生といのは。

A ンダナー、オラ ガッコサ アガッテラ ズギダバヨ、ムガスノ
 そうだなあ、俺(が) 学校に 在学している 時はよ、昔の
 センセーダバ ヤ ナンモカモ オッコナフテ オッコナフテヨー
 先生は やあ どれもこれも あっかなくて あっかなくて よ

ダエズ ハー ワンツカデモ エグネ ゴト ヘバヨー タゲノ
 第一(に) わずかでも 良くない こと(を) するとよ 竹の

ブズ モテー (D アー タゲノ ブツ) アー アダマ タ
 答(を) もって (ああ 竹の 答) ああ 頭(を)叩

デアダリヨー ボツツド⁽⁴⁰⁾ ツ^{xx} ツダリナントリ⁽⁴¹⁾ ステ、ヤ ナンモ
 いちりよう ぶつと 突いちりなんか して、やあ どれも

カナ⁽⁴²⁾ アラゲナフテ⁽⁴³⁾。エマノ センセダラ マー ドンダガサナ。
 これも 荒っぽくて。 今の 先生は まあ どうかな。

D ン、エマダラ ホレ ミンナ セートド エッショニ アンブシタ
 ん、今は ほれ みんな 生徒と 一緒に 遊ぶような

カンジデネァ。(A ウンウン) ウン ソタ ゴト ナンモ ネガ
 感じでねえ。(うんうんうん) うん、(借)んな こと 何も なか

ッタ ワゲダ、ヘバ。(A ウンウンダ) コドバ^{xxxx} コドバズガ
 った わけだ、じゃ。(うんうん なんだ) ことはゴの

エモ チャント サネバネァ。(A ウンウン) ウン。
 いも ちゃんと しないとねえ。(うんうん) うん。

A ナンモカモヨー アラゲナフテ、スタハデ ハー オッコナフテ
 どれもこれもよ 荒っぽくて、だから あっかなくて

オッコナフテ センセー ハー キョースツサ ハンダバ ハー ビリ
 あっかなくて 先生(が) 教室に 入るなら ビリ

(44)
 ビリテ ハー (D 笑 ホンダ モンダガー) ウーン。
 ビリとして (そうな もんかい) うん。

D ホントー、アノ ヘバ ~~ハエツタ~~ ジンジョー ショガッコサ ハエツタ
 ほんじ(かい)、あの じゃ 尋常 小 学 校 に 入 っ た
 コロガラ ソンダッタ モンダガ、ベズニ コーガクネンニ ナネ
 頃 から 入 っ た もんかい。別に 高 学 年 に ならな
 クテモ サエショガラ ヤッパリ オツカネ モンダガ。サエショ
 くてモ 最 初 から やっぱり おつかない もんかい。最 初
 ダラ オラダズダラ ホレ アノ (A ウン) エズネンセーノ
 は 俺 達 は ほら あつ (うん) 一 年 生 の
 コロダラ ミンナ コー アレ センセモ ヤサスクテ ホレ
 頃 は みんな こゝ あれ 先生も やさしくて ほら
 ナー マンズ ヨーツエンノ センセミテァーナ カンジダケンド、
 なあ サズ 幼稚園の 先生のような 感じだけれど、
 エマノナ。(A ウン) ウン。
 今のはなあ。(うん) うん。

(45)
 A ンダナー エマノ、ナダエンタナー、セート ンドダバ アー ミ
 入 っ たなあ 今、何だよなあ、生徒 達 は ああ み
 ンナ ガッコサ エグ ズギデモ コー ソロツテノー (D ウ
 んな 学校 へ 行く 時でも こゝ 揃 っ て のう (う
 ン エマ ソロツテ エグネア) エグバツテ オラホーダバ、~~ナ~~ ナ
 ん 今(は) 揃 っ て 行くねえ) 行くけれど 俺 方(村)は、何
 (46)
 ンダァ、ムガスダバヨー メーメネ ハー ハエ ヤズモ アル、オ
 だ、昔 は よい めいめい 早い 奴も ある(し)、通
 セァ ヤズモ アル、マー メーメ カツテネ、ハー アヘテ ア
 い 奴も ある(し)、まあ めいめい 勝手 には 歩 いて い
 (47)
 ッタ モンダナー (D ン) ウン。ウン マー、ソエサ コンドヨー
 た もんだなあ、(うん) うん。うん まあ、それに 入 っ っ っ

オラ ガッコノズギダバ オナゴワラハンドダバ ミンナ ハー ガッ
俺(が)(小学校(生徒)の時は 女子供は みんな 学

コサ コンドモ ⁽⁴⁸⁾ヘデ ホレ オンボッテ (D ア コドモ ヘ
校へ (幼)子供(を)連れて ぼろ おんぶして ああ(幼)子供(を)連

テ)ウン (Dアー) スタテ エノ ヘトンド ミンナ ハダラガネ
れて)うん (ああ) ぶって(各)家の人達(は)みんな 働かない

ア マエネベー。 (D ホンダオーナー) アー エマノ エネ ホ
と ぶめぶろい。 (とんだよなあ) ああ 今の ように

ホ ホエフショダノ ヨーツエンダアテ アル ワゲ ネアスナ
** 保育所(の) 幼稚園(は)なんて あるわけ(が)ないしな

ー ウン。

あ。うん。

D ソエデモ オラダズ⁽⁴⁹⁾ チャックエ ズギモサー、ショ^レガッコノ コ
それでも 俺達(は)小さい 時(の)さ、小 学校の頃

口、オラダズ⁽⁵⁰⁾ ナン^{xxxx} ナンニンガ ツデ キタ ズギ アッタナー
俺達(は) 何人か 連れて 来た 時(の)あつたなあ

、(A ウーン) クラスバー。(笑) エンガス ズギデ、ホ
うん (幼)子供を。 忙しい 時(で)、ほ

レ (A ウンウー) ナンガ タウエダガ^レ ナンダガノ ドギダ
うんうん 何か 田植か 何かの 時

ガササ (A ウンウー) ウン。
かにさ (うんうん) うん。

A ソエニ ミンナ マー ナ オラノ ドキダバ ハー タエデー オンナゴ
それに みんな まあ 俺の 時は たいてい(い) 女

ワラハンドダバ ハー ミンナ コンドモ ⁽⁵¹⁾モッテ エガエダー
子供(は) はあ みんな (幼)子供(を)おぶって 行く(の)を

(D アー) アー ステ コンダ ホラ ガッコサ エゲバ コ
 ああ ああ なんて ンビ ほん 学校へ 行くと ン
 ンダ タエソバサ、ツデ イッタラ コンドモダズ ミンナ コン
 ンビ 体育場は、連れて 行ったら (幼子 供達 (を) みんな ン
 ダ アスバヘデ オグ ワゲセア (D アー) ウーン。
 ど 遊ばせて おく わけよ (ああ) ーん。

D ヤッパリ コー オドゴド オナゴ ワゲダ モンダガー、クラス
 やっぱり ン 男(生徒)と女(生徒)を 合けた もんかい、クラス
 キョースツワ。

(76) 教室は。

A ンダナー (D サエショガラ) マー フタリスンズダバ スワ
 ンダナー (最初から) まあ 二人ずつは ^{xxx}

ヘネガタノー スワラヘネッバタテー ホラ ツグエデ コンダ
^{xxxxxxxxxxxx} だらせないけれど (ほん 机で ンビ)

⁽⁵²⁾
 トーリ ツケデ、オナゴ コズトガ、オドゴ コズトガ (D アー
 通路をつけて、女(生徒) こっちか、男(生徒) こっちか (ああ

~~~~~) アー ソーユ フニ ステ ヤッタ モンダー。  
 ああ せい い ふうん して やった もんぞ。

#### その4 金車

A オメダズノダ<sup>(53)</sup>ガ<sup>xxx</sup> エマ マ エマノ ワゲモンダバデナ。ムガスノ  
 お前達 まあ 今の 若い者だからな。昔の

<sup>(54)</sup>  
 カナグルマテアキャ ワガラネベナー。  
 金車というのは わからないだろうなあ。



D カナ グルマ。 (A アー) ダ<sup>エ</sup> ダエハズ グルマミタナ モノテ<sup>〃</sup>  
金 車 ? ( ああ ) <sup>xxx</sup> 大 八 車 み たい な も っ て  
ア ッ タ ン ダ ガ 。

A エー ダエハズ グルマ ダナー。  
うん 大 八 車 だ なあ。

D ミタエナ モンダングガー。  
(大八車) み たい な も の な の か い 。

A アーア ホンダ ホンダ。  
ああ ああ そう だ 、 そう だ 。

D アー アノ ニリンシャニ ナッチャランダガー。  
ああ あのう = 輪 車 に な っ て い る の か い 。

A エー クルマ フタツ ツエデ アレア (D アー) デアー  
うん 車 (が) ニツ ついて (いる) あれ ( ああ ) え っ て  
コンダ キデ コスラエデー。  
こんど 末で しら えて (いるのさ) 。

D ヤッパ<sup>〃</sup> ウー、ヘバ<sup>〃</sup> ヘトエカ<sup>〃</sup> ヘトガ<sup>〃</sup> ヘッパル ワゲダー。  
<sup>xxxxxx</sup> うん、じや <sup>xxxxxx</sup> 人 が 引 っ ぱ る わ け だ 。

A アーアーア スト フパルノセア。(D アー) ンー スタハンデヨ  
ああ ああ ああ 人 (が) 引 っ ぱ る の さ 。 ( ああ ) うん、 だ か ら さ う

(D ウン) ワー アノー ワゲア ズギヨ (D ウン)  
( うん ) 吾 (が) あのう 若い 時 だ ( うん ) (体が)

ワリグ ナッタエナー (D アー) タ カエデデ<sup>(56)</sup> ゴンガズマ  
悪く な っ た (んだ) は なあ ( ああ ) 田 (を) 耕 っ て いて (のさ) 五 月 前

エネ タ カエデデヨ コンダ ムリステ コンダ アノ シヤ<sup>xxx</sup> サ  
に 田 (を) 耕 っ て いて ンビ 無 理 して ンビ あのう 寒

ンビ ズギ<sup>(57)</sup> ミンズサ ハテ ロー (D ウン) スタキヤ コ  
い 時(田)水に 入って ほら (うん) えしたら ニ

ンド= カンジェ フェデ ワルグ ナッタエナー。(D アー  
んど 風邪(を)引いて 悪く なつた(んだ)よなあ。( ああ

ネズ(ダ)ステー) アー (D アー) スタケァー オエノ コンダ ツ  
熱(を)出して ああ (ああ) えしたら 俺の こんど 父

ズオヤヨ<sup>(57)</sup>ー ソノ アダリダバ ホラー コノ ヘンネ エシヤ  
親(が)よ、 その 頃 は ほら この 辺に 医者(が)

ナフタンダ、アオ<sup>(58)</sup>ンモリデ ネァバ、(D アー) ウン。  
無かんだ、青 森 で ないと、 (ああ) うん

D ソノ カナグルマサ ノセデー (A ウン) ノセデ モラッテ  
その 金車に 乗せて (うん) 乗せて ろびって

イッたら<sup>(59)</sup> (笑)

A カラ<sup>(60)</sup>ンダ ワリ ヤズヨ、アノ カナグルマサ ガラガラ ガラ  
体(が) 悪い のをよ、あの 金車に ガラガラ ガラ

ガラ ガラガラテ 又ヘデ (D アダマサ ヘンビグベ<sup>(61)</sup> ヘバ)  
ガラ ガラガラと 乗せて (頭 に 響くぞうじ じゃ)

ウー ケアッテ ワリダ ナルエインタ モンデアナー。(D 笑)  
うん 却って 悪く なるような もんだよなあ。

ステ コンダ アオモリノ ムガス ウラマズネ<sup>(62)</sup> ササズ ビョー  
えして こんど 青森の、昔 浦町に 笹という 病

イン アッテヨ (D アー ササ<sup>(63)</sup>) ウー ソノ アダリダバ  
院(が) あってよ (ああ 笹) うん その 頃 は

ホラ アオモリデモ マンダ エシヤ ナンボモ ネアフタネナー、  
ほら 青森でも 昔 医者(は) いくらも 無かんだよなあ、

ナンゲンモ。(D ハハー) オエノ ズツチャ ホロー ソノ 工  
何軒も(無かた)。 (ははあ) 俺の 爺さん(は) ほう その

カナグルマサ ヌヘデー、ビョーニンバ、(笑) フパテ アリタ  
金車に 乗せて、病人を 引はつて 歩いた  
モンダジャー。  
もんたよ。

D ムガス ヘバ <sup>(64)</sup> マツサ コー ナンガ モノ ハゴブテバ ヤッパ  
昔(は) じゃ 街へ こい 何か 物(を) 違ふ(と) いうと やっぱ  
り ソノ カナグルマガ ナンガ ツカウ モンダジャー。  
り その 金車か 何か 使うもん(だ)かい。

A ウー ソノ カナグルマデバリ。(D アー) ウン。  
うん その 金車でばかり。 ああ うん。

D バシャッテバ ナガッタンダガ。バシヤモ アッタケンドモ  
馬車(は) いうと 無かつたのかい。(それか) 馬車も あつたけれども……

A ウー バシヤ コンダサー ソノゴネ コンダ バシヤ マンダ  
うん 馬車(は) こんどさ その後に こんど 馬車(は) ます

デーギデー (D アー) アー。  
できア (ああ) ああ。

D セバ フツー ミナ <sup>(65)</sup> バドゴノ エサモ カナグルマッテバ ヘ  
じゃ 普通 皆 じゃ どの 家にも 金車(は) いうと 一  
トツグレタワ アッタ ワゲダ。エマ  
つぐらいは あつた わけだ。 今

A マー ソレ マー ソノ カナグルマデモヨ ドゴネモ マンダ  
まあ それ まあ その 金車(は) でもよ どの家にも ます  
ネー ワゲダジャー。(D アー ホンダノ。笑) オラホーネダ  
無い わけだよ。(ああ えいなの。) 俺方(の村)に

バ ネアフタネー。(D アー) ヤジヤ<sup>(66)</sup>グアダリノ コンダ ソ  
は 無かたせ。( ああ ) ハッ役 あたりの ンビ せ

ラ オーヤゲデ ネバ。(D アー) アー ムガスダエナー。  
ら 金持ちの畵で ない(無かた)。( ああ ) ああ 昔 たよなあ。

D ヘア オーヤゲガラ カエデ クル ワゲダー。  
じゃ 金持ちの畵から 借りて くる わけだ。

A ステ カエデ ホラー (D アー) エズ ンツカン ナンボテヨ  
えして 借りて ほら ( ああ ) 一 時間(はつぎ借賃は)いくらとよ

ー。(笑)

う。

D (笑) エツズカン ナンボテガー (A エ) タダテ"ネ ワ  
一 時間 いくらとかい ( えっ? ) ただて 無いわ

ゲダ。(笑)

けだ。

A エズ ンツカン ナンボテ コンダ カカカ カレツン ハラル ワ  
一 時間 いくらと ンビ<sup>xxxxxx</sup> 借り賃(を)払う わ

ゲセア。(D ハー) ウー (D フーン) ステ ホラ ワー  
けよ。( はあ ) うん ( ふん ) えして ほら 無(か)

ワリ ズギョー、ヘズナフテ<sup>(67)</sup> スンゾー エグネナンテ ダクメ  
悪い 時よ、体が悪くて 心臓(が)よくないなどと ダクダク

グ ズギー、アノー エスカラ カナグルマサ ノヘデ アサグア  
強 時、あのよな 石ころ道(を) 金車に 乗せて あるくの

ダエナー。

たよなあ。

D ヘバ エー モノモ ワルグ ナッテ マルナー、ホントネナー  
じゃ 良い ものも 悪く なって しやうなあ、ほんとはなあ

(A ウン ホントネ) マスマス ワリグ ナッテ マルナー。  
うん ほんとに) ますます 悪く なっ? しまうなあ。

A エー フトデモ、タッシャデ ゲンキダ ストモ デモ エマノ  
良い 人でも、違者で 元気な 人<sup>^^</sup> でも 今の  
ストダキャ、ナンデア、ゲンキダ ストデモ カナグルマサ ヌヘ  
人は、なんだ、元気な 人でも 金 車に 乗せ  
デ アオモリサ エテ エマ <sup>(68)</sup>モンドテ クル ワゲダラヨー  
て 青森へ 行って 今(頃) 戻って 来る わけならよう  
ウン <sup>(69)</sup>タンゲ ゲンキデモ オガスグ ナッテ マレアー。(笑)  
うん かなり 元気で ぶかしく なって しまうぜ。

D ビューインエ エッテモ マンダ オガスグ ナッテ マルナー。  
病院へ 行っても ぜん ぶかしく なって しまうなあ。

A ウン エマ ヘバナー (D ジヤリミズダスナー) ウン。(D  
うん 今(は) じゃ なあ (昔は) 砂利 道 だしなあ) うん。(D  
ウン) <sup>(70)</sup>エマノ フト ヘバ、オメアダズ スアヘダネー。  
うん) 今 の 人(は) <sup>(70)</sup>とかな比べると、お前達は 奇せなせ。

D ンダベナー ミンナ (A ウーン) クルマダスナー。  
もうだろなあ みんな (うん) 車 だしなあ。

A ワルグ ネットタテ、エートマガ <sup>(71)</sup>ドゴサ エグツタテー スカヨー  
要く ないって、 <sup>(72)</sup>ちょっとの間 何処へ 行くって 自転車(車)  
デ <sup>(72)</sup>タナー <sup>(73)</sup>グングダゲ エットマガネ エテ クルスヨ  
で やあ <sup>(72)</sup>グングンと <sup>(73)</sup>ちょっとの間に 行って くるしよ。

D ホンダネアー。(A ウン) ソノ テンデワナー。(A ウン) エマ  
えうだねえ。(うん) えの 点 ではないなあ。(うん) 今  
ノ ホーノ メクマエデアナー。ソ一。  
の 方(が) 恵まれてるよなあ。うん

A ヤッパリ ヨノナカガナ スラゲダテ スンドエ モンダエナー。  
やっぱり 世の中がな 滑りケル(から)て ひどい もんだよなあ。

D ンダキャ。  
とんだよなあ。

A ア ムガスド エマド ホラ。  
ああ 昔と 今と ほら(ずいぶん変ったもんぞ)。

D ンダ ンダ。  
とんだ とんだ。

## 注

### その1 新町野分校

- (1) 本文の「新町野尋常小学校」という名はなく、「横内小学校新町野分校」だ。ただし、冬期間のみ1・2年生に開校した。戦後、なくなった。「新町野」は青森市大字<sup>しんまちの</sup>新町野。収録地から約1km東方にある。
- (2) 青森市大字<sup>おひな</sup>横内。収録地から約3km東方にある。
- (3) 青森市大字<sup>おしご</sup>谷子沢。収録地から約2km東方にある。
- (4) 「荒川」は青森市大字<sup>あらい</sup>荒川。収録地から約2km西方にある。
- (5) かすかなつぶやき。
- (6) 「吹雪く」を当地では「フグ(吹く)」という。
- (7) 「困難極まりないことに会う」を「ナグ(泣く)」とか「ナイデ マル(泣いてしまう)」と表現する。
- (8) 「道」を一般に「ケンド。ケァンド」という。
- (9) 「大した」は連体詞にも副詞にも使う。
- (10) 「ネー」は東京語の「ネー」と同じである。最近の若年層はごく当り前に使用する。
- (11) 藁で踵の形に編み緒をつけて雪中を履いて歩くもの。
- (12) ここの意は、「背に裸足の踵をつっこむとつめたいから」
- (13) 「編んだコスケを」の意。
- (14) 「ミンナ」は5行後の「ヨゴエデラハンデ」にかかる。
- (15) 「水。雨。雪」に濡れることを「汚れる」で表現する。当時は主にフランネル製マントを着用したという。

### その2 遠足

- (16) 昭和36~39年頃。
- (17) 青森県弘前市。
- (18) 青森県八戸市。
- (19) 「入学する」を「学校サ アガル」、「在学している。在学した」

を「学校サ アガッテラ。学枝サ アガッテダ」等という。

- (20) 青森県南津軽郡大鰐<sup>オホウ</sup>町。収録地から約80km余の行程(往復)。
- (21) 青森市の南部にあり、青森空港への上り坂を豆坂という。昔、奥羽本線が開通する前は津軽平野と青森平野を結ぶ道であった。
- (22) 青森県南津軽郡浓岡町。
- (23) 青森県黒石市。
- (24) 大鰐は温泉町で、昔から湯治客等で賑わった。現在はスキー場もあり、観光地として一層賑わっている。
- (25) 青森県南津軽郡<sup>オホウ</sup>屋上町。
- (26) 「山沿の道」の意。
- (27) 「ハナスニ キデルベ」とは「屋上という地名は聞いているだろう」
- (28) 黒石市の八甲田山西麓にある温泉。
- (29) 温湯温泉よりも東方2kmある。同じく黒石市である。
- (30) 「いろいろ見巡る歩くものかい」などの意を言っているらしい。
- (31) 「ちょっとじゃ また 尋ねるが」の意を言っているらしい。
- (32) 「アレ」とは「行程、日数」などをさす。
- (33) 板留温泉から北方へ約5km。標高606mの黒森山があり、その麓に浄法寺という寺がある。
- (34) 「お寺の話を聞いたことがあるだろう」の意を中絶して、別のことばに返してしまふ。
- (35) 「在学した」の意。
- (36) 青森市の南方にある下湯<sup>シユ</sup>温泉のすぐ上の山へ歩いて来るのである。
- (37) 青森市大字<sup>ウツ</sup>興沢。下湯温泉からは北方約5km。収録地年籠からは南方へ4km。
- (38) 「アエ」は以下の「露天風呂か何か」をさす。

その3 先生のこと、幼児を背負って通学する生徒のこと

- (39) 「ナンモカモ」は「何かかも」だが、「どうにもどうにも」と意訳してある。
- (40) 「ど」と突く」の意の擬態語としては「ボツツド」は一般的でない



使い方であるようだが。

- (41) 「突いたろなんか」の「なんか」の部分はこのように「ナンタリ」を用いることが多い。
- (42) 「ナンモカタ」と聞こえるが、「ナンモカモ」というべき。(39)参照。
- (43) 「荒げ甚し」(終止形)が接源だろう。
- (44) 「ビリビリと緊張している」の意。
- (45)(46)間投詞的使用。
- (47) 「～ている」を「～てある」と表現するのは当地の特色。
- (48) 「ヘデ」は「引いて」の訛音。
- (49) 「チャッケ」は「チャッコエ」の訛音。
- (50) 「俺達のうちの誰か何人かが、幼児を学校へ連れて来る」の意。
- (51) 「モッテ(持って)」と聞こえるが、「オボッテ(おぶって)」と発音したのかもしれない。
- (52) 机間の通路。

#### その4 金車

- (53) 「～ノダガ」の部分は何を言おうとしたか不明。
- (54) 大八車と同じもので農産物やその他のいろいろな荷物を運搬した。車輪は二つで、地面に接する部分に鉄製の輪を取り付けてある。この金車の以後、ゴムタイヤとなった。
- (55) 普通は「ナッテランダガ」という表現になる。
- (56) 「田を掻く」は、馬鍬などで田の土を耕すこと。
- (57) 「父親が」に添ざる述語は次のDとAのことは出てくる。
- (58) 収録地の牛館は、当時、横内村に属し、農業以外何をするにも徒歩1時間の距離にある青森市へ出てこなければならなかった。
- (59) 不明瞭。
- (60) 漢字は「奴」。
- (61) この「へバ」は文脈上、文初にあるべきだが、かように文末に使うことも多い。
- (62) 「浦町」は青森市の旧町名。現在の瑞幸ニ丁目及び三丁目のあたり

をさす。

- (63) Dはササ病院の存在は勿論わからない。「ササ」は「佐々」が必知れない。
- (64) 青森亨街。
- (65) 「セバ」「ヘバ」の「セ」「ヘ」が脱落した。
- (66) 「ハッ役」は牛館と川を隔てて接している。現在、青森市大学ハッ役。一般に「ヤジャグ」と称す。
- (67) 標準語の「セツない」に由来するが、意味内容が違ふ。つまり、極度の疲労、体調悪化等の場合に使う。
- (68) 収録している夜ク時頃と同じ頃をさす。
- (69) 漢字は「大概」。
- (70) 「ヘバ」は「じゃ」「それでは」の訳でまにあうのだが、ここは意味を訳しておく。
- (71) 「一時間(いっせきま)」が語源だろう。
- (72) 本来、感声的な語だろう。語源不明。
- (73) 「ダゲ」は限定程度の副助詞「だけ」。「ぐんぐんと飛ばすくらい」の意。

## II. 岩手県<sup>えさし</sup>江刺市<sup>おいし</sup>男石 1 丁目

収録・文字化担当者 本 堂 寛

1 地点名 岩手県江刺市男石1丁目

2 タイトル お盆の頃

3 録音年月日 昭和51年8月18日

4 録音場所 江刺市男石1丁目 菊地邦男氏宅

5 話し手

A 若松 林平 (男) 大正5年生まれ 木材業  
岩谷堂青年団副団長、岩谷堂中学校PTA副会長をし、現在、  
江刺市本町の納税組合長、本町町内会幹事をしている。満州に  
2年間兵役で行った以外、他地で生活したことはない。

B 佐藤 金六 (男) 大正4年生まれ 商業

C 菊地 邦男 (男) 大正4年生まれ 商業  
仕事の関係で仙台に6年、兵役で北支に5年間行っていた。

D 小沢ゆき子 (女) 昭和23年生まれ 無職  
菊地邦男氏の娘。お盆のため実家に帰っていたもの。

6 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料(5)』を参照。

# お盆の頃

話し手

| (略号) | (氏名)   | (性) | (生年)     |
|------|--------|-----|----------|
| A    | 若松 林平  | 男   | 大正5年生まれ  |
| B    | 佐藤 金六  | 男   | 大正4年生まれ  |
| C    | 菊地 邦男  | 男   | 大正4年生まれ  |
| D    | 小沢 ゆき子 | 女   | 昭和23年生まれ |
| 孫    |        | 男   | 昭和48年生まれ |

B コンニジワ。 オジャマ シテアシタジェ。 ア ハッハッハッ。  
今日は。 おじゃま しましたよ。

A アー アー。  
ああ ああ

D アラ ドーモ。 コンニジワ。  
あら どうも。 今日は。

C フッフッフッ。  
ふっふっふっ。

A イッペ カッテ モラッテキタ。 バント。  
たくさん 買って 貰ってきたの。 たくさん。

C マゴダオナ。 マゴデネガッタガ。 タマゴダッタカ。  
孫だからね。 孫でなかったか。 卵だったか？

A ア ハッハッハッハッ。  
あ はっはっはっ

B ハ ハッハッハッ。マゴ。 ウン マゴタマゴダ。 オッキグナッタジャ。  
はっはっはっ 孫 うん 孫卵だ。 大きくなったね。

A ンダ ンダヨ。 ワリット 。  
そうだよ 割合い。

C コンニチワ? ( 孫 コンニチワ )  
今日は は? ( 今日 は )

A コンニチワ。  
今日は。

B オッキグナッタンネチャー。  
大きくなったね。

孫 トーチョー。<sup>(1)</sup>  
とうちょう。

C ウン ソッチャ オゲ ソッチャ。 ( B エ へ へ へ 。 ) オッ。  
うん そっちに 置け、 そっちに。 ( え へ へ へ )  
ウー。

D ハ コンニジワ。  
はい 今日は。

B コンニジワ ( A コンニジワ ) オジャマ シテアシタ。  
今日は ( 今日 は ) お邪魔 しています。

A ナンダリ カンダリ ( D オセワサマデ ゴザイマス。 )  
なにや かやと ( お世話様で ございます。 )

コッチゴソ オモシワゲネーチャ。 ( C ナニー ) イズダリ  
こちらこそ 申し訳ありませんね。 ( なに ) いつも

カンダリ。  
いつも。

C オラエノ ムスメ。キタ。

俺の家の 娘です。来たのだ。

A コンニジワ。シバラク。

今日は。しばらく。

D ドーモ ゴブサタ シテオリマシテ ( A イヤ イヤ イヤ )  
どうも 御無沙汰 していて ( いや いや )

イツモ オセワサマ ニナッテ ( A イヤ コッチゴソ。 )  
いつも お世話になって ( こちらこそ。 )

アリガトーゴザイマス。

有難うございます。

B イガッタネ イッペ トマッテ。

よかったね たくさん 泊って。

D ウア ハッ ハッ ハッ。

うん。

孫 カーチャン カーチャン。

母ちゃん 母ちゃん。

A コゴロノゴリネクレエ トマッタベガラ。

心残りないくらい 泊っただろうから。

D ウー ア ハッ ハッ。

うん

A ジッカ ハ ナンボ トマッテモ イー ナンテ イウダゴッテネ

実家(は) 何日 泊っても 良い などと 言うのではない

が。

ですか。

D ア ハッ ハッ ハッ。

ああ。

B アー マゴ イット イー。 ニギヤガデ ハー。 アド アド ケ。  
ああ 孫が いると 良いね。 にぎやかで。 あとは。

A ナンダ。 アドヤ アドヤ。  
なんだ。 そのほかの子どもは？

D ウン マズ コトモガ イルガラ ニギヤガ ナンダネー。  
うん まず 子どもが 居るから にぎやかで なにだね。

C アド ネーオ オラ マダ。  
まだ。 そのほかの孫はないよ。俺はまだ。

B ウン アシタ アシタアダリ ハ ガサット マゴ テギンベ。  
うん 明日 あたり 急に 孫が出来るのではないか。  
ン。

A ナンダ ヒトリデ ヤメダノガ ( D エー? ) ヒトリデ  
なんだ 一人で やめたのか ( ええ? ) 一人で  
ヤメダノガ。 ナーナンダッケナヤ。 オラ マダ アド <sup>ヒ</sup>  
やめたのか。 なんだ。 俺は また あとの子が <sup>xx</sup>  
デハッタラガド オモッテラッタ。  
出来ていたかと 思っていたが。

D ア ハッハッハッ ( B ア ハッハッハッ )  
あ ほっほっほっ ( あ ほっほっほっ )

A オドツァンノ ケンカ エーデヨ。 ( C ウン? ) ジンツァンノ  
親父さんの けんか 相手に。 ( うん? ) 爺さんの  
ジンツァンノ ケンカ エーデデモ ~~~~~。  
爺さんの けんか 相手でも

C マ マダ マダ モド トンネオナ ヒトリデナ。 ( A ウフフフ )  
<sup>xx</sup> また 元を とらないからね 一人ならば。 ( うん )



フタリナレバ モド トンダゲドモ。

二人だったら 元をとったのだからね。

A ンダガラヨ ( C ウン ) ウン モドバリモ トッテ モラウンダデヤ。  
だから ( うん ) 元だけでも 取ってもらうんだね。

ジンチャンヨ ヒトキギアワリナ。 ンデ ハ イー。

爺さん (一人では) 人聞きが悪いよ。 それでは 良いなあ。

アシタ ケンノガ。

明日 帰るのか。

C ン アシタダナ ボンネ。 アシタノアダリダ。

うん 明日だな。 盆だね。 明日のあたりだね。

A ンデモ コノエダノ オボンノ クレデ<sup>(2)</sup> ネガエンダ<sup>(3)</sup>ナ ドーロワ。  
それでも この前の お盆の くらいではないだろうな 道路は。

B ア コンダ モー ハ ホドント ヒギアゲ シタベジェ。

ああ 今度は もう 殆んど 引揚げて しまっただろうよ。

A コノエダ ヤスマネガッタベ。

この前は 休まなかっただろうよ。

D ソンナニ コマネグ ナッタオネ。

そんなに 混雑しなくなったからね。

C ソンナ コマネグ ナッタベオンナ。

そんなに 混雑しなくなっただろうからね。

( D. ウン。 )  
うん。

B ウン。 ンデアスケア ハ ( C ウン ) モー ピーク スンダン

うん。 それだから もう 最高潮を 過ぎた

ダオ ハ。 ウー。

からね。

C シカシ コトシノ オボン ハ ウマグネガッタ ナエヤ。

しかし 今年の お盆(は) 良くなかったねえ。

B ンー ナンダッタ コンナゴドモ ネンダナー。 イヤー オボンニア  
うん なんとんでも こんなことは なかったんだね。 いや、 お盆に  
ジューサンニジニア ハガメーリノ アダリ アメ フツタリ  
十三日に、 墓参りの 頃に 雨が 降ったり  
メードシ スンダガ (C ンー) コゴンドゴ ツズゲザマズー  
毎年 するのだが このところ 続けざまと言う  
ゴト (C ソング) ネアンモンダオナ ウーン。 ジューサンニジ  
ことは ないからね。 うん。 十三日には  
マズマズデ バンカダカラ ヤッパリ フツタンダガ アイッタ  
まずまず 晩の頃から やっぱり 降ったのだから? ああいう  
ヨーナゴドハ オーオーニシテ アッタンモンダゲットモ  
ようなことは 往々にして あったもんだけれども  
ズート ツズゲザマ フツタナンツゴド ネーモンナ。  
ずっと 続けざまに 降ったなどと言うことはなかったからね。

C ヒ タガネデ シマッタジェナ。  
迎え火をたかないでしまったしね。

B ン ケッキョク タガネデ シマッタオー ン。  
うん 結局 たかないで しまったからね。

A ナンボガ タイダツケ。 ~~~~~ (C ンー) シシオドリモ  
いくらかは たいたようだよ。 (うん) 鹿踊りも  
(5) ケンベエモ シシオドリモ ケンベエモ バンザイ ナンボガ  
鬼剣舞も 鹿踊りも 鬼剣舞も 万才踊りも いくらかは  
キタガ。  
来たのか?

B ン シシオドリ ヒトズ キタダゲ ハ。  
うん 鹿踊り 一つが 来たただけだよ

C コドシノ イガッタノ バジンコヤ アダッタズナヤ。 ドコサモ  
今年の 良かったのは パチンコ屋が 当たったそうだよ。 どこにも  
イグドゴネクテヨ。  
行くところがなくて。

B ハー パチンコヤ アア イグドゴネガラ。  
はあ パチンコ屋 ああ 行くところがないからね。

A テ<sub>xx</sub> テンマグテ リンジ パチンコヤ。 (B ンー)  
天幕を張って 臨時の パチンコ屋。

C ソレガラ ビール ウレネテ サゲ ウレダズスナ。  
それから ビールが 売れないで 酒が 売れたそうだしね。

B ンダド。 (C ンー) サガヤ ソー カダッタカ アノー。  
そうだしそうだよ。 酒屋が そのように 言っていたよ。 あの。

C ヤッパリ サムガラ ビールデネオナ。 ワゲシタッタガラゲントモ。  
やっぱり 寒いから ビールではないからね。 若い人たちがたたらだけれども。

(A オメエテ オメエテヨ ) オラエデモ ヤッパリ  
お前の家では? 俺の家でも やっぱり

ヤッパリ サゲ<sub>xx xx</sub> ビールッコ ハン<sub>xx xx</sub> ビールッコバリダエ ヤッパリ  
やっぱり 酒 ビール 半 ビールだけだね やっぱり

ンデモ ワゲヒタッタガラ。 (B ア ハッハッハッ)  
それでも 若い人達だからね。 ( ああ ほんほん )

ゼンゼン アイスクリーム ハ。 (B オロシクミアイテ ソー  
全然 アイスクリーム(は)。 卸し組合で そう

カダッテラ ) ダメ。 (B サゲダッタズ イソガシーナ。)  
言っていたよ。 駄目。 酒だったそうだよ。 いそがしいのは。

ビンノ ダシイレ スッコド ネクテ ハンタ コーラ ウゲネクテ  
びんの 出し入れを することが なくて ファンタ コーラが 売れなくて

イガッタ。ツカレネクテヨ。(A ア ハッハッハッ)  
よかった。疲れなくてね。あ ほっほっほっ

ア ハッハッハッ。シイレッコドモネガラ。イーオンダッテ  
仕入れることもないから。いいんだ。そうた。

コンテ。ウレネド。  
これで。売れないと。

A タマゲダナ。  
驚いたなあ。

B テンコーニ ホントニシハイサレツカラ。ヒデオナー。  
天候に 本当に 左右されるから。ひどいものだよ。

C ンデモ。モノモ。ワリグナンネノナ。サムイガラナー。(B アー)  
それでも 物も 悪くならないのだよ。寒いからね。

ニューバイドキノナダレバ。アノ。ボヤボヤッツノ。アノ。(B ~~~~)  
梅雨時だったら。あの。ボヤボヤとした。

ソゴムシシタガラダゲンド。ソーユーゴドネガラ。モノワリグネ  
底むしした暑さなのだけれども。そういうことがないから。物が悪くならず

サガナヤモ。カダッテアケンド。サガナヤデ。サガナ。ワリグナン  
魚屋も。話していたけれども。魚屋で。魚が。悪くなら

ネテ。ヘッコワ。コネシ。マゴドニ。イー。オボンダ。ナンテ  
ないで。蠅も。来ないし。実は。良い。お盆だ。などと

イッタヤッケヨ。ニッショ。ーモ。フソグダオンナ。  
言っていたよ。日照も。不足だからね。

B ンダヤ。マズ。ンデ。モノミットギ<sup>(6)</sup>ニ。ダラバ。ナニモ。オー  
そうだね。まず。物を見る時に。ならば。何にも

ギリギリアズグネクテ。イーオンダ。ウーン。  
ものすごく暑くなくて。良いからね。うん。

- C ソーダナ ンー。 そうだね。
- B タダ トレネズゴドニ。 ただ 米が取れないということになれば。
- C コンデ ナズマゲシタ ヒト アンダベガ。 これで 夏負けした 人が 居ただろうか。
- B オラダジ ショ ショベー シテデモ ヤッパリ エーデー  
俺達が 商売を していても やっぱり 相手が  
ヨウェバ イー スモーモ トラエネガラナ。  
弱いと 良い 相撲も 取られないからね。
- C ソウダナ ウン。 (B ンー。) ナズマゲ シタヒト ハ  
そうだね。 うん。 (うん。) 夏負け した人(は)  
ネガベデェ。  
ないだろうね。
- B ン ン ン ネンダナ。  
うん ないだろう。
- C アセボ ダシタヒトモ ネガベシナ。 アルガナ。  
あせもを出した人も ないだろう。 あるだろうか。
- B クスリヤモ オズメダガ。 ア ハッハッハッ。  
薬屋も 不況だったろうか。
- C オズメナンダナ。  
不況なんだね。
- A カドリセンコーガ コドシア ワルゾー  
蚊取り線香も 今年も 悪かったはずだね。
- C ドッチガッテモ ウン ウレネシナー。 ヘトリモ デモ ウレネジエ。  
どっちにしても 売れないね。 蠅取りも 売れないね。

B ンダベナー。 シー。

そうだろうね。

C ~~~~~ イッカエ ツルセバ イーンダモ。 ナーニ ウレダ<sup>ン</sup>ダガナ。  
一度 吊るせばそれでいいからね。 何が 売れたの<sup>で</sup>だろうかな。

イリョーヒンダッテモ チガッタンダシナ。 フユモノ。 ゼンゼン  
衣料品でも 売れ行きは違っただろうね。 冬物。 全く

ナズモノ ウレネガラナ。

夏物は 売れないだろうからね。

B ンダシナ。 アノ オレミデナ ヤッパリ ハギモノ ウッデモ  
そうだね。 あの 俺のような やっぱり 履き物を 売っていても

ナズモノ (C シー) ヤッパリ ズット ~~~~~

夏物は やっぱり ずっと (売れ行きは悪い)。

C キモノ キテ アリグダレバ ゲタ<sup>ハ</sup>ゲバ イーンダ。 デハ<sup>ン</sup>ネ  
着物を 着て 歩くの<sup>で</sup>と 下駄を履くと 良いの<sup>で</sup>。  
xx xx xx

デハラネガラナ キ。

(外に)出ないからね。

B シー。 マニ アワシエラレデ<sup>(7)</sup>シマウナー。

間に 合わせられてしまうからね。

C ウン。 ナガニ イデア オワリダオナ。 イズマデ ツズグ コレ  
うん。 家の中に 居て それで終わりだからね。 いつまで 続く

(A サーテ) コノ モヨー。 (A ン?) コノ モヨー イズマデ<sup>(8)</sup>  
この 空模様は。 この 空模様 いつまで

ツズグガナ。 テンコーサ。 ナンボガ ハ ホッコ デデ<sup>(8)</sup> キタ  
続くかな。 天候が。 いくらか (稲の)穂が 出て 来た

ズナ。

そうだね。

- A ~~~~ オラ シアネデ。 ア ハッハッハッハッ。  
俺は 知らないよ。
- B オレ オドドイガナ。 アノ オババノ ギリ ~~~~ シネバネクテ  
俺は 一昨日かな 婆さんの義理の ~~~~ をしなければならなので  
カンノンドマデ イッタッタ。 デダドゴド デネドゴアッケ。  
観音堂まで 行ったところ。 穂が出たところと出ないところがあったよ。  
アノー キノー ナンボガ アッタゲガッタガラ。 ウン。  
昨日は いくらか あたたかたつたからね。 うん。
- C ウン デデ キタッケ。  
うん 穂が出て来たよ。
- A ア ナニ カンノンドサ オメサン オガムノ アルノガ。  
ああ なに 観音堂に お前さんは 拝みに行くところがあるのか。
- B ン ホレア シモガラ。  
うん それ 下川原。
- A アッ アー アー アー ンダ ホンダ。  
ああ ああ そうだ そうだ。
- C バンチャノ ホーナ。  
婆さんの ほうね。
- B ンダ。  
そうだ。
- A アー ンダ ンダ。 アー ソッチノ ホーナ カンノンドサ  
ああ そちらの 方の 観音堂へ  
クンノカ。  
行くのか。
- B ンー。 ンデ オデラワ アノー コメニ ダッケ。  
それで お寺は あの 古目にあるのだ。

A オデラ コメニテ<sup>(10)</sup> カンノンドノ ハガガ。  
お寺は 古目にあつて 観音堂の 墓が。

B ン ハガワ ウン。  
うん 墓は そうだ。



## 注

- (1) 玩具の名前。
- (2) 道路の混みぐあいのことを言っている。
- (3) 推量の助動詞エン。ベーの変化形である。
- (4) 宮城・岩手両県に分布する民俗芸能の一つ。鹿の頭をかぶり、胸に太鼓、背に割り竹製の長い竿などをつけて踊る。剣舞と同じく盆の行事である。
- (5) 岩手県和賀郡以南で行なわれる民俗芸能。盆に踊る供養の踊りで、刀を持ち威嚇的な面をつけて踊るもの。
- (6) 芝居を見たり、観光旅行をしたりということ。
- (7) 買わないで間に合わされてしまう。
- (8) 強めの終助詞。
- (9) 地名。
- (10) お寺は百目にあって、一方、墓は観音堂にあるのか、の意。

### III. 新潟県<sup>かしわざき</sup>柏崎市大字<sup>おりい</sup>折居字<sup>もちろう</sup>餅糧

収録・文字化担当者 剣 持 隼一郎

1. 地点名 新潟県柏崎市大字折居字餅粮
2. タイトル 消防について
3. 録音年月日 昭和51年7月27日
4. 録音場所 餅粮の高橋真氏宅の座敷
5. 話し手の氏名 A.高橋 真 (男)  
 同 生 年 大正7年  
 同 職 歴 農業  
 同 居 住 歴 餅粮に生育し餅粮に居住。但し昭和14年より6年間  
 兵役のため東京都及び外国で過ごした。  
 同 言 語 的 特 徴 元気に大声で朗らかに話す。頭の回転が早く、話の  
 テンポが早く、ことばに飛躍があり、早口でききと  
 りにくい点もあるが、俚語も保有し、また会話をリ  
 ードして行く。
- 話し手の氏名 B.高橋道明 (男)  
 同 生 年 昭和24年  
 同 職 歴 柏崎市鶴川農協職員5年勤務の後、地方公務員とな  
 り、現在まで柏崎消防署につとめている。  
 同 居 住 歴 餅粮に生育し、柏崎市の農業高校・村の農協・市の  
 消防署に通学通勤したので、よその居住経歴はない。  
 同 言 語 的 特 徴 話しぶりはややなめらかでなく、時に口ごもること  
 もある。青年らしく共通語化している。
6. 録音環境 場所が道路に面しているため、時々通行のバイクの  
 音が入って来た。また隣室で赤ん坊をあやす老人の  
 声が入ったところもある。外部マイク3こを使用した。
7. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資  
 料(5)』を参照。

# 消防について

## 話し手

| (略号) | (氏名)       | (性) |          |
|------|------------|-----|----------|
| A    | 高橋 真       | 男   | 大正7年生まれ  |
| B    | 高橋 道明      | 男   | 昭和24年生まれ |
| C    | (同会) 剣持隼一郎 | 男   | 明治45年生まれ |

B コナエダ<sup>(1)</sup> ネー アノー ア ニジューゴン<sup>(1)</sup> チダツ タカ チョアード マー  
 この間 ねえ あの ああ 二十五日であったか ちょうど<sup>(2)</sup> まあ  
 アノー エン<sup>(2)</sup>...<sup>(2)</sup>... ハナビデ<sup>(2)</sup> ハナビノ ヒ ネー アノー  
 あの 花火で 花火の 日にねえ、あの  
 ニシホン<sup>(3)</sup> チョアノ ジョアー<sup>(3)</sup> コアー<sup>(3)</sup> ジテ ドコデ<sup>(3)</sup> カジガ<sup>(3)</sup> アリマシテネー。  
 西本町の 浄光寺というところで 火事が ありましてねえ。

A ア ソアッカネー (B ハエ マ) ホア。  
 あ そうかねえ。 (はい) ほう。

B マワリガ<sup>(4)</sup> モルタルミテア<sup>(4)</sup> デモッテ アレダツタスケ ミンナ  
 周囲が モルタルみたいで なにだったから(火が)みんな  
 ウエノ<sup>(5)</sup> ホアエ アガッテ スゴエ<sup>(5)</sup> テンジョアー テンジョアノ ホアガネ  
 上の 方へ 上がって すごく 天井、 天井の 方が  
 スゴエ<sup>(6)</sup> ネッキデ<sup>(6)</sup> アツクエ<sup>(6)</sup> ナツテテネー。  
 すごく 熱気で 暑く なっていてねえ。

A ア ソアッカネ。 ソラー アレカネ アノー ナンカ アノー シモトワ<sup>(7)</sup>  
 あ そうかね。 それは なにかね。あの なにか あの 火元は  
 ソア<sup>(8)</sup> ナンダネ。  
 それは 何だね。

B ヒモトワ ネー マー エナオアー マー デテ ネー ンダケド マー  
火元は ねえ まあ 一応 まあ 分って 居ないのだけれども まあ

ローソクノ タネビノ (A ハー) アトシマツガ ワリカッタンテ  
ろうそくの 種火の (はあ) 後始末が わるかったので

ソレガ ゲンエンデ (A ハー) (C ン) アノ ダエニ ウツッテ  
それが 原因で (はあ) (ふうん) あの 台に 移って

ソレカラ コアー ウエー アガッテッタラシー ンダドモネー。  
それから こう 上へ 上がって行ったらしいのだけれどもねえ。

A ハハー (C ン) キケンダネー。 クジッテ ヨーエジャ ネー。  
ははあ、 (ふうん) 危険だねえ。 火事という と 容易では 無い。

ショアーボアーショモ シカシ クジッテ コレ タエヘンダローネー。  
消防署も しかし 火事という とこれは 大変だろうねえ。

B ダカラ アー ユー モルタルミテァデ マタ セノ アノ  
だから ああ いう モルタルなどで マタ 背の、あの

テンジョアバリガ タカケリヤ ナオサラネー。  
天井張りが 高ければ なおさらねえ。

A ハー キケンダネー ン。  
はあ 危険だねえ うん。

B ホントニ<sup>(9)</sup> アノ (A ン) ミズデモッテ ヒヤシタンダド  
ほんとに。 あの (うん) 水で 冷やしたのだけれども

ウエー テンジョアバリー ミズガ タマッタノ オナテ クット  
上へ 天井張りに 水の たまったのが 落ちて 来ると

ナーナ<sup>(10)</sup> アッチェンデステー。  
まったく 熱いのですよ。

A ハハー ン。<sup>(11)</sup>  
ははあ ふうん。

B オレ ハシ ハシゴ ニレンバシゴ ツカテ ウエー ソーナ<sup>(12)</sup>  
 わたし はしごを、ニ連はしごを 使って 上へ まったく  
 アガッテ ミタドモ トッテモネー<sup>(13)</sup> アツエテ<sup>(14)</sup> アガランネアデネー。  
 上がって見たけれども とても 熱くて 上がられなくてねえ。

A ハハー ハーン。エマ アレダカネ ソノ コト エバ カシワザキノ  
 ははあ、ふうん。今 なんだかね そう言えば 柏崎の  
 ショア<sup>(15)</sup> ボア ショ アタリワ マー アノー ミアリテノワ エルンダカ  
 消防署の あたりは まあ あのう 見張りというものは居るのか  
 エネンダカネ。  
 居ないのかね。

B エヤ ヘア ボア ロー テノワ ネア ンデ ステ。  
 いや、もう 望楼 というのは 無いのですよ。

A ネア (B ハー) ボア ロー ネア ノカネ ハー ハーン。  
 無い、(はあ) 望楼は 無いのかね、はあ、はあ。

B ヘア デン ワガ フ キュー シテ ヘア ソイ モナ ----。  
 もう 電話が 普及して もう そういうものは----

A ヘア ゼン ブ デン ワ ネー (C ハー) ハー。  
 もう 全部 電話だねえ、(はあ) はあ。

B デン ワガ ヘア ツ テキ タリ (A ア ソ カ) マー カケ コ ミ ガ  
 電話が はいってきたり、(ああ そうか) まあ 馬駆け込みが  
 タマーニ アルクレアデスカネ。  
 たまたま 有るくらいですかね。

A ア ソ アツ カネ (C ハー) フーン。  
 ああ そうかね、(はあ) ふうん。

B ソン ガ ノ モン デー ----。  
 そんな もので----

A フーン。 ソア カシワザキワ アノ ホンショウ アレウ  
ふうん。 そうすると 柏崎では あの 本署は あれば  
エバラメカ <sup>(17)</sup> ドコ。  
茨目か。 どこ？。

B ソア エバラメ ハー。  
そう。 茨目です はい。

A エバラメエ コンド ウツタンダネー。 ホデ コッチノ ホアーウ  
茨目へ こんど 移ったのだねえ。それで こっちの 方は  
ヤー セヤ アエ ナンカショニ ワカレテルアンダ。  
そうすれば あれば 何か所に 分れているのだ。

B ント ゼンブデ ヨンカショ アンデ ホンブト (A アー  
ええと 全部で 四か所 あるので、 本部と (ああ)  
アト マ ニシホン<sup>(18)</sup>チョー<sup>(19)</sup>ン ドコト タカヤナギト エズモザキト  
あと まあ 西本町の 所と 高柳町と 出雲崎町と  
アンデステ。  
あるのですよ。

A アー アノ カシワザキ ホアセバ アノ アレデスネ アノー  
ああ あの 柏崎市には そうすれば あの なんですね。 あの  
ニシホン<sup>(20)</sup>チョー<sup>(20)</sup>ニ アルノト ソエカラ ホンショト フタツダケダネ。  
西本町に あるのと それから 本署と 二つだけだね。

B ソアソア カシワザキシナイワ フタツシカ ナイデス。  
そうそう 柏崎市内は 二つしか 無いです。

A ハーア アラー アノ ショア<sup>(21)</sup>ホア<sup>(21)</sup>コア<sup>(21)</sup>エキクミアエ---ダツタ  
はあ。 あれば あの 消防広域組合---だったのでは  
ネカネ ダカラ (B ソアソア コア<sup>(21)</sup>エキクミアイニ ナツテネー  
無いかね。だから そうそう 広域組合に なってねえ。)

エズモザキト タカヤナギト。(Bハー) ハーン ソッカネー ハーン。  
出雲崎と 高柳と----。(はい) はあん そうかねえ はあん。

B ダスケ オラー アノ ホレ マ コノ シチハツガツガ エチバン  
だから 私どもは あの それま この 七、八月が いちばん  
キューキューナンカ エッペアーナンダドモネー。(Aハー) オラン  
救急などが 多いのだけれどもねえ。(はあ) 私どもの  
ドコ ミンナ カエガンセン モッテルンデ<sup>(22)</sup> (Aア ソッカエ)  
所は みんな 海岸線を 受け持っているの(あ そうかい)。  
マー スイナンダトカ ソンガン ドキワ<sup>(23)</sup>ネー----。  
まあ 水難だとか そんな 時は~~~~ねえ----。

A アー ソッカエ ハーン ハー。  
ああ そうかい、ふうん ふうん。

C ホアー ショアーボアーダケジャ ナインデスネ。  
ほう、消防だけでは 無いのですね。

B エアー キューキューノ ホアーモ アル----。  
ええ、救急の 方も ある----。

A キューキューノ ホアーモ アル ワケナンダ ハーン。 ソッカ  
救急の 方も ある わけなのだ。ああ。 そうか  
ソエジャ<sup>(24)</sup> マー アノ ヨルノ アレダネアーノ ソームー<sup>(25)</sup> ケッキョク  
それでは まあ あの 夜の なんだね あの ううん 結局  
コアータエセーデ マー アノ オキテルンダロガ コレモ ヨアーエジャ  
交替制で まあ あのう 起きているのだろうか これも 容易では  
ネアーネー。  
無いねえ。

B マー ソアーダネー。<sup>(26)</sup> ニニ デンワガ コエバ ハアー キューキューカ  
まあ そうだねえ。ほんとうに 電話が 来れば もう 救急か



ヘアー カジカ <sup>(27)</sup> ナニカタト <sup>(A ハーン)</sup> ヘアー ヨルワネー。  
もう 火事か なにかだと、 <sup>(ふうん)</sup> もう 夜はねえ。

<sup>(A ハーハー)</sup> ホンテ デ <sup>(28)</sup> ケンガイカラ クル グンマトカ  
<sup>(はいはい)</sup> それで で 県外 から 来る、 群馬 とか

ナガノカラ クル シトガ エッペアデショア。 <sup>(A アー ソーカ)</sup>  
長野から 来る 人が たくさんでしょう。 <sup>(ああ そうか)</sup>

ダスクアー チョット テー キッタリナンカ <sup>(A ハー)</sup> シタッテ  
だから ちょっと 手を 切ったりなど <sup>(はあ)</sup> しても

ヤッパリ エシャエ エキテースケ ソー シット <sup>(A ハー)</sup>  
やっぱり 医者へ 行きたいから、 そう すると <sup>(はい)</sup>

エシャ ワカランケヤ スグ <sup>(29)</sup> ヘアー マー <sup>(A キューキューシャダネ)</sup>  
医者が 分からなければ すぐ もう まあ <sup>(救急車だね)</sup>

キューキューシャ ダステショアー。 ソー シット マー <sup>(A ハーン)</sup>  
救急車を 出すでしょう。 そう すると まあ <sup>(ふうん)</sup>

チットナノダドモ <sup>(30)</sup> ジモトノ ホァーダケラ コトワルンダドモ  
小さい(事故)なのだけれども 地元のことなら こどわるのだけれども

<sup>(A ハーン)</sup> ケンガイカラ キテ ワカランダモ ソー セヤ  
<sup>(ふうん)</sup> 県外 から 来て 不案内なのどもの それじゃあ

デルコテヤ テテ デルノガネー <sup>(A ハーン)</sup> ケッコアー エッペアー  
出勤するさと言って 出るのがねえ、 <sup>(ふうん)</sup> けっこう たくさん  
アルンデスガネー。

あるのですよねえ。

A ソラ タシカニ <sup>(31)</sup> ソアーアネ。 コノヘンモネ アノ ホレ アノ  
それは たしかに そうだね。 この 辺も あの それ あの  
マタ ドアー ユー モンダカネ ドョアー ニチョアーニ カケテ  
また どういう ものかね 土曜(日) 日曜(日)に かけて

ワリアエニ キュービョア-ニンガ オ-インデスヨ。マ- (B ソア-ダネ-)  
ゆりあいにも 急病人が 多いのですよ。まあ (そうだねえ。)

ソンガニ ショア-ポア-ショノ キューキューシャ タノマンデモ エート  
そんなに 消防署の 救急車を 頼まなくても いいと

モ-テモネ ケツキョク アノ オイシャサンガネ ドヨア-ン  
思ってもね、結局 あの お医者さんがね 土曜に

ナツテート マ- ヤスミダツタリ ニケヨア- ヤスミテ<sup>32)</sup>ショア-  
なるというも まあ 休診だったり、日曜は 休診でしょう、

(<sup>B</sup> エア-エア-) ソア-テ ミテ クランネ<sup>33)</sup>ンデスネ。ソレデ  
(ええ ええ) そうして みてくれないんですね。それで

ドア- ショア-モ ネ-カラ マ- アラユル<sup>34)</sup>テ ツクシテ ビョア-インヤ  
どうしようも ないから まあ あらゆる 手を尽くして 病院に

アノ ニ <sup>35)</sup>デンワ スルンデス。ダカ<sup>36)</sup> ダメダ<sup>37)</sup> ダメダ<sup>38)</sup>テテ  
電話 するのです。だが だめだ だめだといって

コトワラ<sup>39)</sup>ル<sup>40)</sup>ル<sup>41)</sup>テ<sup>42)</sup>ショア-。 (<sup>B</sup> エア-) シカタガ<sup>43)</sup> ネア- マ-  
こじわられるでしょう。 (ええ) 仕方が なく まあ

キューキューシャ タノモア-テ キューキューシャ タノメヤ ナントカ  
救急車を 頼もうよ、救急車を 頼めば<sup>44)</sup> なんとか

シテ クレット<sup>45)</sup>----。ダカラ アノ ソア-エ シト オ-エンデスヨ。  
して くれると----。だから あの そういふ 人が 多いのですよ。

ア-。

ああ。

B ソア-アネ-。マ- ニケヨア----ヤナンカ ベツニ タイシタ コタ  
そうだねえ。まあ 日曜----などは 別に たいした ことは

ネア-ドモ ケツキョクワ イシャガ<sup>46)</sup> ネア-スケ タノム シトガ<sup>47)</sup>  
ないけれども 結局は 医者が 無いから 頼む 人が

エッペーダ<sup>36)</sup>ネー。(A ハーン) マー ソンデー シヤクショアタリ  
 多いねえ。(はあん) まあ それで 市役所あたりに  
 キュージツシンリョア<sup>37)</sup>ーショガ デキタラ ワリニ マー ソアエノガ  
 休日診療所が 出来たら わりあいに まあ そういことか  
 ヘッタラシードモネ。(A ハーン ソアカネ ハーン。) ダッケー  
 へったらしいけれどもね。(はあん, そうかね, はあん) だから  
 ハンブングラエ スクネア ナッタ<sup>38)</sup>ンダ ネアローカネー キュージツ  
 半分ほど 少なくなつたのではないだろうかねえ, 休日  
 シンリョア<sup>37)</sup>ーガ デキテカラ。(A ハーン ソアカネ ーン。) マ ソア  
 診療所が 出来てから。(はあん, そうかね, うん。) まあ そうで  
 ネアケヘ エママデ<sup>38)</sup> エマデモ マダ タクシーガワリミテアニ  
 なければもう 今まで, 今でも まだ タクシー代りみたいに  
 ツカウ シトモ ケッコア アルガンダドモ。(A ーン ソアダネー  
 使う 人も けっこう あるのだけれども。(うん, そうだねえ,  
 ハーン。) マヨナカナンカネー (A マヨナカニネー ハハーン.)  
 はあん。) 真夜中などねえ, (真夜中にねえ, ははあん。)  
キュージツシンリョア<sup>37)</sup>ーガ ネアスケア ナオサラ (A ーン) セツネケラ  
 休日診療所がないから なおさら (うん) 苦しければ  
 ドア<sup>38)</sup> シテモネー エシャヨビ シテアン。  
 どうしてもねえ 医者呼びを したいから。

A アー。 アー ソアカエ ーン。  
 ああ。 ああ そうかね, うん。

C キューキューシャテノワ コレワ ケーサツジャ ナインデスネ。  
 救急車というものは これは 警察では ないのですね。

ショア<sup>38)</sup>ポア<sup>38)</sup>ーショニ アルンデスネ。  
 消防署に あるんですね。

B ハー ショア-ボア-ショニ アルンデス。  
はい 消防署に あるのです。

C ハーン ナルホドネー。<sup>(39)</sup>  
はあん なるほどねえ。

A ソア-ツカネー。ソア-カ。<sup>(40)</sup> ヤ ソデモ<sup>(41)</sup> カシワザキワ マー デモ<sup>(42)</sup>  
そうかねえ。そうか。や それでも 柏崎は まあ それでも  
アノー タカイ タテモンガ<sup>(43)</sup> ネア-スケー マー アエダドモ  
あの 高い 建物が 無いから まあ なんだけれども、  
アノ シカシ アエダノア-タカエ タテモンノ クロジナンカン  
あの しかし なんだねえ---- 高い 建物の 火事などに  
ナツタリ ソエカラ アノ アブラバッカ<sup>(44)</sup> ドコナンカ キケンダノ。  
なったり それから あの 油ばかりの 所などは 危険だねえ。

B マー アブラ ツカウ ドコネー。<sup>(45)</sup> ダクア- ニッセキナンカー  
まあ 油を 使う 所はねえ。だから 日石などは  
マ-ンデ アレガ<sup>(46)</sup> ドア-カ ナレヤ<sup>(47)</sup> ンデ---(A-ン) ソレクッサ  
まったく あれが どうにかなれば まったく--- うん) それこそは  
アノ マワリノ モン ミンナ アレダガ<sup>(48)</sup> ンネ<sup>(49)</sup> トツテモネア-  
あの まわりの 物 すべて なにだが ほんとうに とても  
ネー テ ツケランネアヨア-ン ナルンダ<sup>(49)</sup> ネア-ローカト  
ねえ 手をつけれないように なるのでは ないだろうか  
オモ-ンダガネー。  
思うのだがねえ。

A マー ソア-ダローネー<sup>(50)</sup> ン。  
まあ そうだろうねえ、うん。

B ジシガ クレバネー<sup>(50)</sup> モエレバネー。  
地震が 来ればねえ、もえればねえ。

A アブラルイワ オメアン<sup>(51)</sup> マ ソラ マー アノ カシワザキ  
 油類は あなた まあ それはまあ あの 柏崎の  
 ショア-ボア-ショダッテ マー アノ アブラモ アルカラ ソレ  
 消防署だって まあ あの 油も あるから それを  
 ショア-クワスル ウー ヤクザイモ エッペアー アルダローケレドモサー。  
 消火する くん 薬剤も たくさん あるだろうけれどもねえ。  
 アー。(B ソア-ダネ。) ソラ アレデスカ アノー カシワザキニワ  
 ああ。(そうだね。) それは なんですか、あのう 柏崎には  
 ソノ ソノ ソノ センモンノ オー アレダカネ ジドアーシャ  
 その その 専門の あう なにかね 自動車  
 アレンダカネ ネア-ンダカネ。  
 あるのかね 無いのかね。

B ハ カガクシャ<sup>(52)</sup> (A クガクシャ アレンダカネ。) ソア-ユー  
 はあ、化学車や (化学車 あるのかね。) そうい  
 ショア-ボア-シャテノ アンダドモ マー ケッキョク アーエ デッキアー  
 消防車というのが あるのだが まあ 結局 ああいう大きい  
 カジン ナレヤ マワリニ<sup>(53)</sup> オア-エンキョア-テ-テノガ アッテ  
 火事に なれば まわりに 応援協定というのが あって、  
 (A アー) クガクシャ<sup>(54)</sup>ナンカ ミンナ モッテ ヨッテ ショア-ク  
 (ああ) 化学車 など みんな 持って 寄って 消化  
 シルヨア-ン ナッテルンデスドモネ。  
 するようになっっているのですがね。

A アーアー ソア-ッカ。 アノ ソアッテ カシワザキダケテ ナク  
 ああああ そうか。 あの そうやって 柏崎 だけでなく  
 ホア-ボア-カラ マー (B ハー) ク クルワケダネー オア-エンニネー。  
 方方から まあ (はあ) 来るわけだねえ、応援にねえ。

B ソレニ ジョア-エツジョア-ボア-ダトカ <sup>(55)</sup> (A ハ-ン ナガオカ-----) <sup>(56)</sup>  
それに 上越 消防だとか ( はあん 長岡----- )

ナガオカトカ。 (A ハ- ハ-ン) ニ-ガタエ エッタ アンノ  
長岡とか。 ( はあ はあん ) 新潟へ 行った、あの

<sup>(57)</sup>  
タイカ アッタミテ-ニ (A ハ-) ア-エ トキ。 ニ-ガタン  
大火のあった(時)のように ( はあ ) ああいう時。 新潟の  
ドキモ マ- カシワザキ イチダエ エッタンカナ。  
時も まあ 柏崎は 一台 行ったのかな。

A ア ソア-ツカネ (C ホ-) ハ- ハ-。  
あ そうかね ( ほう ) はあ はあ。

B マ-ッキ <sup>(58)</sup> デツケ- ナレバネ- (A ン- ソア-ネ。) テノ  
ひびく 大きく なればねえ ( うん そうだね。 ) 手の

ツケヨア-ガ ネア- ナツモア-シネ-。  
付けようが なくなってしまうしねえ。

A ハ-ン ン。 ハ-。  
はあん うん。 はあ。

B ダスケ- オコサンヨア-ネ ヨボア-シタリ (A ン-) ソア- ユ-  
だから 起こさないように 予防したり ( うん ) そういう  
ボア-サイケ-カクダトカ ソア-エノ タツテネ- <sup>(59)</sup> (A ン- ソア-ダネ-  
防災計画 だとか そういうものを立ててねえ、 ( うん そうだねえ  
ア-ン。) アレ シテンダドモ。  
ああん。) なに しているのだけれども。

A マ- ソア- ナレバ アレダゴテ コア-エキデモッテ ゼンブ マ-  
まあ そう なれば なんだよ 広域でもって 全部----, まあ  
アノ ショア-ボア- ヒトツニ ナッテルンダスケ。 マ- コラ アノ  
あの 消防は ひとつに なっているのだから。 まあ これはあの

モトワ ソレ アノ ソア-エ コタ ナカッタカラ ケッキョク  
昔は それ あの そういふことは なかったから、結局

ウカワダケヤ ウカワチクニー ショア-ボア-ダンガ ケッセ-サレテテ  
鶺川なら 鶺川地区に 消防団が 結成されていて

サ (B エア-) マー エマモ ソレア- アルケドンネ アルケドン<sup>(60)</sup>  
ね、( ええ ) まあ 今も それは あるけれどもね あるけれども

エマノ ショア-ボア-ダンワ マー アレカラ ミレヤ モトカラ  
今の 消防団は まあ あれから みれば、昔から

ミレヤ エ- アレダゴテ チカラ エウエコテ- ハー ワケア-  
みれば ええ なんだよ 力は 弱いさ、 はあ 若い

ヒトガ (B ソレカラ アノ----) エネアスケアダドモ。  
人が ( それから あの---- ) 居ないからだけれども。

B アノ ツーキンチガ カシワザキ) ホア-エ ツトメテ エル  
あのう 通勤地が 柏崎の 方へ 勤めて 居る

シトガ エッペア-デショア。ダケ<sup>(62)</sup> (A ソア-ソア-ソア-ソア-。  
人が 多いでしょう。 だから ( そうそうそうそう。

ソア-エンダネ。) ヒルマ カジン ナルトネ- (A ソ-ン)  
そうなんだね。) 昼間 火事に なるってねえ ( うんうん )

コマンドスヨネ。

困るんですよね。

A ソ- ソア-ナンダネ。

うん そうなんだね。

B ジモトエ <sup>(63)</sup> ノコテ ポンプ<sup>°</sup> モッテ <sup>(64)</sup> アエック <sup>(65)</sup> ショガ (A ソ-)  
地元に残って ポンプを持って 歩く 人々が ( うん )

ケッキョク エネア ナスケア-。ヨルダケラ (A ア-ン) マー  
結局 居なく なるから。夜ならば ( ああん ) まあ

みんな ケアッテルスケーア (A アーン) アルドモ。<sup>(66)</sup>  
みんな 帰っているから (ああん) あるけれども。

A ソレデネー アノ エマ アレデシヨアア アノ ゼンブ ホレ アノ  
それでねえ、あの 今 なんでしょう、あの 全部 それ あの  
ポンプガ アノ ジドアーシキノ アノ ア アレデシヨアア ホンプ  
ポンプが あの 自動式の あの なんでしょう ホンプ  
デシヨアア。 (B エアー) ムカシアネー オラ ドキャー ホレ  
でしょう。 (ええ) 昔はねえ、私どもの 時は それ  
アノ ハッピ キテ ミンナ ア テモミダツタカラ (B エアー)  
あの 法被を着て みんな 手もみであったから (ええ)  
ワッショエワッショエト コレコソ アレダコテ アノ アエコサ  
わっしょいわっしょいと これこそ なんだよ あの あれこそ  
ジンカエセンジュツダコテネー。 (B エアー) ヤッタスケア マー  
人海戦術だよねえ。 (ええ) (そう)したから まあ  
トショリデモ オンナドモン デキタワケデス。 トコロガネー  
年寄りでも 女どもでも できたわけです。 ところがねえ  
エマネー アノネー マ オラモ カンゲアアテ エルンダケレドモ  
今はねえ あのねえ ま 私どもも 考えて いるのだけれども、  
アレアネー エケオアア クンレン ウケテ ネットネー タトエバ  
あれはねえ 一心 訓練を受けて いないとねえ、たとえば  
キコミ<sup>(67)</sup> ポンプガ キタタツテ ソアサガ ナランケラ ドアーニモ  
急に ポンプが 来ても 操作が できなければ どうにも  
ナランガンデス。ハー。  
ならないのです。はい。

B ソアダネー。 マワシタリ アノ ミズ アゲテ ダスナンテツタツテ  
そうだねえ。 回したり あの 水を 揚げて 出すなどといっても



チョット シキエ<sup>(68)</sup> トシ トッタ ショワ ワカラン ドコガ アル  
ちょっと ほんとうに 年を とった 人は 分らない 所が ある  
モンネ。  
からぬ。

A ワカランダ ワカランダ。 ハー。 ダカラ アラネー ヤッパシネ  
分らない。 分らない。 はい。 だから あれはねえ、やはりね  
アノ クンレンテノワ アノー ネンニ ナンカエナリ ソノ  
あの 訓練ということは あの 年に 何回か その  
ショア<sup>(69)</sup>ボア<sup>(70)</sup>ショ エグエノ シトモ ナローテ オガング<sup>(69)</sup> ナンシ<sup>(70)</sup>  
消防署 以外の 人も 習って 置かなければならぬし  
シネケ ナランダス<sup>(71)</sup> ハー。  
しなければならぬです、はい。

B ヤーダネー。  
そうだねえ。

A ヤーダ<sup>(72)</sup> ネーテトネー タトエバ アノ ナレテシテモネー アノ  
そうで ないとねえ、 たとえば あの 馬刺れている人でもねえ あの  
アー ~~ス~~ フダン クンレンシネアト チョット ワカラン ワスレツッ  
ああ ふだん 訓練しないと ちょっと 分らない、忘れるという  
コト アルカラネー ハー。 ダカラ アレア マー シカシ  
ことがあるからねえ はい。 だから あれは まあ しかし  
ヤッパシ アノー ショア<sup>(69)</sup>ボア<sup>(70)</sup>ショ エグエモ クンレンシネケ  
やはり あのう 消防署 以外も 訓練しなければ  
ナンガナ ハー。  
ならないがね、はい。

B ソンデネー エザ カジ アルト ドア<sup>(72)</sup> シテモ ミンナ アワテ  
それでねえ いざ 火事があると どうしても みんな あわて

<sup>(73)</sup>  
ンダンネー。

るからねえ。

A アワテル アワテル アー。

あわてる あわてる、ああ。

B ンデ アワテッスケー ケッ キョク マター フダン コアー シテテモ  
それで あわてるから 結局 また ふだん こうしていても

ア ワカッテテモ (A アー) チョットシテ ワカラン ナッテネー。  
あ 分っていても (ああ) ちょっとして 分らなく なってねえ。

A ダカラネ アノ カミ<sup>(74)</sup> クジダタコテ ワシラモ エッタドモ。  
だからね あの 上野の 火事(の時)だったよ、私どもも 行ったけれども。

ホレ アノ レンゲツカ<sup>(75)</sup> テナ コアー アノ ツナグ ヤツサ  
ほれ あの 連結環 というのは こう あの つなぐ やつね、

(B エアー) ドー ツナエテ エーカ ワカランモンダーンネー<sup>(76)</sup>  
(ええ) どう つないで いいか 分らないのだからねえ、

モッチャ エッテッドモ ショアホアショ キテ クンネアシサ (B エアー)  
持っては 行っているけれども、消防署は 来てくれないしね、(ええ)

ハー。

はい。

B マーンデー<sup>(77)</sup> (A ~~~~) ダンドン マー カンタンニ ナッテンダドモ  
まるで (~~~~) だんだん まあ 簡単に なっているのだけれども、

(A アーン) カンタンニ ナレヤ ナルホド マタネー----。  
(ああ) 簡単に なれば なるほど またねえ----。

A アー ワカラダ。(B エアー) ソレガネー フダン クンレン  
ああ 分らないのだ。(ええ) それからねえ ふだん 訓練

シテ ネアーカラ (B エアー) ゼンゼン ワカラン ハー。  
して いないから (ええ) 全然 分らない はい。

ホァーッカ ショァーホァーショモ<sup>(78)</sup> ナカナカ ヨァーエジャ ネァワノァー  
そうか 消防署も なかなか 容易じゃ ないよねえ、  
デ トーエ ドコマテ<sup>マ</sup> マー コンダ<sup>アノ</sup> ハシランケァー  
それで遠い 所まで まあ 今は あの 走らなければ  
ナンカラ。  
ならないから。

B マ <sup>ス</sup> ナカナカ ハンエガ<sup>ア</sup> ヒロー ナツタスケ ナオサラネー。  
まあ なかなか 範囲が 広く なったから なおさらねえ。

A ハンエ ヒロエスケーネー ハー。 ソレト アノ マー ブラク  
範囲が 広いからねえ はい。 それと あの まあ(この)集落  
アタリモ アエダ<sup>(79)</sup>コテ アノ ホレ アノ ミズダメ チョスイチガ  
なども なんだよ あの それ あの 水溜め、貯水池が  
アルコテネ。 ( <sup>B</sup> ハイ ) アレワ シカシ ソァートァー <sup>ス</sup> ユー  
あるよね。 ( はい ) あれは しかし 相当に 有  
コァーナ モンデ<sup>(80)</sup>ステ。  
効な ものですぜ。

B ソァーダ<sup>ア</sup>ネー。  
そうだねえ。

A コノ ネー アノ モチロァーノ<sup>(81)</sup> ロァーノ ソコノ アノ タメナンカ<sup>ニ</sup>  
この ねえ あの 餅粮の 池の そのの あの 溜め池など  
モチロァーニ クジガ<sup>ア</sup> アツタコテ ( <sup>B</sup> エァーエァー ) アノ ドキ  
餅粮に 火事が あったさ、 ( ええ ええ ) あの 時  
ナンカネー サンデァーノ ポンプ<sup>ア</sup>デ<sup>ア</sup> アゲタンダガネー タエネァ  
などねえ 三台の ポンプで 揚げたのだがねえ 絶えな  
カッタ<sup>(82)</sup>デネ。  
かったですよ。



サー シカタネーコテ。(B エアー) トコロガ ルイショアーオ  
それは しかたがないさ。(ええ) ところが 類焼を

フセグニャ シューイニ~~~~ アレガ アッタ タメニ フセガッタ  
防ぐには 周囲に~~~~ あれが あったために 防ぐことがで

ワケサ。(B ハー) アン ドキモ アレデスコテ エアー ココニ  
きたわけさ。(はあ) あの 時も なんですよ ええ ここに

ミズガ タマツテタカラ (B ソーソー) ソレオ ツカーテル  
水が 溜まっていたから (そうそう) それを 使っている

ウチニ コンダ ホカカラ ミンナ モツテ キテ イレタカラネ  
中に、こんどは よそから みんな 持つて 来て 入れたからね、

ソエデ マー ルイショアー クイトメタ ワケダガネ。サー  
それで まあ 類焼を 食い止めた わけだがね。さあ

ウツッタ ウツッタタツテ エアー<sup>(86)</sup> ミズガ ソン ドキ ヒョット  
移った 移ったといっても ええ 水が その 時 ひょっと

マニアエバネー (B エアー) サート カケレバ---。(B ソーソー) 間に合えばねえ (ええ) さあっと かければ---。(うん、そうそう)

~~~~ シモノノ クラジワ オレ ソツテ<sup>(87)</sup> ヤラレタノダ。(B ハー)  
~~~~ 下野の 火事は ほら それで やられたのだ。(はい)

アラ アノ タート モエアガッテ ~~モエ~~ モエテル ウチワ マー  
あれは あの はあっと 燃え上がって 燃えているうちは まあ

ソラー アレダコテ エアー ドアー ショーモ ネアーツテ。(B エアー)  
それは なんだよ ええ どうしようも ないと。(ええ)

ソレガ カゼニ アオラッテ カヤー コアー タツテッテ アラ  
それが 風に あおられて 茅が こう とんでいって あれは

サンビャクメートルモ<sup>(90)</sup> ヨンビャクメートルモ ハナレタ ムコアーノ  
三百メートルも 四百メートルも 離れた 向こうの

ウチエ イッテ クツツイタ (B ソアーソアー) ワケダコテネ。  
家へ 行って かついた (そう そう) わけだよね。

ダレガ カンゲテモ アンガン ドコエ エク ワケワ ネット  
誰が 考えても あんな 所に 行く わけは 無いと

モータンダドモ。 ソレガネ オラ マー カケツケテッタ ドキ  
思うのだけれども。 それがね 私どもが まあ 駆けつけて行った 時は、

<sup>(91)</sup>  
ハー コ ヒー--- ヒガ アノ ツイタノガ タツテクゾ  
ああ 火--- 火が あの ついたのが 飛んで来るぞ

タツテク (B エアー) エッタトコエガ ソエガ ムコアーエ  
飛んで来ると (ええ) いていたところが、それが 向こうへ

<sup>(92)</sup>  
オツテッテ サンビャクメーモ <sup>(93)</sup> ヨンヒャクメーモ ハナレタ  
落ちていて 三百メートルも 四百メートルも 離れた

<sup>(94)</sup>  
ヒトオキ アル ムコアーエ エッテテ オツテ ソシテ ノキバノ  
「ひと沖」有る 向こうへ 行っていて落ちて、そして 軒場の

カヤニ クツツイテ (B アー) アレガ モエタンダコテネー。  
茅に かついて、 (ああ) あれが 燃えたんだよねえ。

アン ドキモネ ミズガ ソバニ アレバ スグ (B カケラッタ)  
あの 時もね 水が そばに 有れば すぐ (掛けられた。)

カケレヤ ソエテ<sup>(95)</sup> オサマツタンダドン サー ミズガ ネット  
掛ければ それで 収まったのだけれども、さあ 水が 無いから

ソエテ<sup>(96)</sup> タカエ ドコワ バケツモ トドカン ナニン トドカン  
それで 高い 所は バケツも 届かない 何も 届かない、

ソレー アレ マー モエタンダ  
それで あれは まあ 燃えたのだ。

B バケツテ <sup>(97)</sup> ミズ ブンナゲタツテネー アガランダンネー。(笑)  
バケツで 水を ぶん投げてもねえ 上がらないからねえ。

A アー。

ああ。

B シカシ <sup>(98)</sup> ダモ アスコノ コジベ<sup>(99)</sup>ーノ カジン ドキモ マーンテ  
しかし だが あそこの 五治兵衛の 火事の 時も ほんとうに  
スゴ<sup>(100)</sup>イ マッカン ナリマシタデネー。  
すごく 真赤に なりましたよねえ。

A アー マッカン ナッタ。ソレデネ アノネー コノネー <sup>(101)</sup> ゴンガンノ  
ああ 真赤に なった。それでね あのねえ、このねえ、五観音の  
<sup>(102)</sup> ヘンノ アノ <sup>(103)</sup> ヘンノ ヤマガ トコロドコロ ミンナ モエテ  
辺の あの 辺の 山が 所所 みんな 燃えて  
マシタデー。  
いましたよ。

B アー ソーカネ。  
ああ そうかね。

A アン ドキャーネ アメアガリテ<sup>(104)</sup> ワリアエニ アノ スー シメッテ  
あの 時はね 雨上がりで わりあいにあの 湿って  
タ ワケダドモ シカシ エラエ モンダ<sup>(B</sup>ネ <sup>ンー</sup>) アー。  
いた わけだけれども、しかし ひびいものだね、 <sup>うん</sup>) ああ。  
アコダケバ アノ ハッピャクメートルモ サキダ<sup>(105)</sup>コテ。  
あそこなら あの 八百メートルも 先だよ。

(<sup>B</sup> ソーダネー。) ハッピャクメートルモ。ソレガネ ミンナ カヤガ  
そうだねえ。 八百メートルも。 それがね、みんな 茅が  
トコロドコロ モエテマシタデ<sup>(105)</sup> アー。アレガ マー ギャクニ  
所所 燃えていましたよ、ああ。あれが まあ 逆に  
カゼガネー アネガ アレデスコテ アノ ニシカゼ<sup>(105)</sup>タ<sup>(105)</sup> ナクテサ  
風がねえ、あれが なんですよ、あの 西風では なくてね

ヒガシ アルイワ キタカゼノオデ<sup>ア</sup> アオレバ コラー ヒドカッタ  
東 あるいは 北風の方で あおれば これは ひどかった

コテ。(B キツ ヲアダネー。 ミンナ ネー。) コノ エンモ  
よ。( キツ と そうだねえ。 みんな ねえ。) この 辺も

モエタッタコテ ハー。 ダカラ アノ タメテ ノモ シカシ  
燃えたよ、はい。 だから あの 溜めというものも しかし

アラー シツヨアダ タシカニ。

あれは 必要だ、 たしかに。

B ヲアダネ (A アア) シツヨアダネ。  
そうだね ( ああ ) 必要だね。

A ナカニワ ソノ ン ク ジ ン ナレヤ ナニ モ エ ル ア ン ダ  
中には その いや 火事になれば なあに 燃えるのだ、

<sup>(106)</sup>  
コツツ モン ミス カケ タ ッ テ ダ メ ダ ナ ン テ ユ ド モ  
こんなもの 水を 掛けたって だめだなどと 言うけれども

アラー ナガイマスヨ。(B ヲアデスネ。) アラ ネ サ エ シ ョ ワ  
あれは 違いますよ。( そう です ね。) あれはね、最初は

アノ ミス ガ アル タ メ ニ モ ッ テ ル イ シ ョ ア オ フ セ エ ダ リ  
あの 水が あるために 類焼を 防いだり

ソレカラ アノ アノ シ ョ キ ノ ウ チ ワ ミ ン ナ ア レ ケ サ レ ル  
それから あの あの 初期の ちは みんな あれは 消される

ン デ ス。(B ヲアダネ シ ョ キ シ ョ ア ----) ミス ガ ネ ミス ガ  
のです。( そう だねえ 初期 消 火 ---- ) 水 が ね 水 が

ネ タ メ ニ モ ッ テ ア ラ ー ミ ン ナ モ エ ル ン ダ カ ラ ネ ー ア ー。  
無い ためだ あれは みんな 燃えるのだからねえ。うん。

B マ ー ン デ ア レ ダ コ テ コ ノ オ リ イ ノ ホ ア ー デ モ モ チ ロ ア ー  
まあ それで なんだよ、 この 折居の方でも 餅糧



グレアデ アト オクノ ホァーワ チョスイヤーナンカ ネァーデス  
ぐらいで、あと 奥の 方は 貯水槽 など 無いです  
コテネー。

よねえ。

A アーンマリ <sup>(107)</sup> ネーヨァーダネー。  
あんまり 無いようだねえ。

B スボリナンカ <sup>(108)</sup> ハァー ミンナ ウモツテ ウマツチモァーテ ダメダ  
素掘りなど もう まったく 埋まってしまって だめだ  
シネー。

しねえ。

A ン。ソァーソァーソァーソァー。  
うん。そう そう そう そう。

B ダスケァ <sup>(109)</sup> ハエニガ カジン ナツタラ ドァー ナンダーナン チッテ  
だから 拝庭が 火事に なったら どう なるのだなどと言って

ユエマ ユーテマストモサー。  
言っていますけれどもさ。

A ン <sup>(110)</sup> ミシガ ネー ハー。  
うん 水が ねえ、はい。

B ダスケー <sup>(111)</sup> ソッコソ ドーノ ドコエ エッテ----。  
だから それこそ 溜池の 所へ 行って----。

A ハズシテ <sup>(112)</sup> コネケ ナラン アー。  
外して 来なければならぬ、ああ。

B ソァー <sup>(113)</sup> ナケ ソレ エジョァー エーカネ アト アンガ <sup>(114)</sup> シタマデ  
そうでなければ それ以上 いいかね、ほかにあんな 下まで

テヤ ソレコソ ポンプ アコマデ<sup>テ</sup> モツテ オレテ アレ  
といえば それこそ ポンプを そこまで 持って 降りて なに

シッカネー<sup>(115)</sup> ソア<sup>(116)</sup> ~~~~~ (A ソアソアソアソア) ホース エッポド<sup>(117)</sup>  
するかねえ、そう ~~~~~ (そう そう そう そう) ホースを よほど

ヒッパッテ コナケラ (A ハー) ダメダシ<sup>~~~~~</sup>。  
引っぱって 来なければ (はい) だめだし<sup>~~~~~</sup>。

A ホアアッコワ ホレ アノ ミズノ ネア ドコダモンネー。  
そうして あそこは それ あの 水の 無い ところだものねえ。  
(笑) マー コレア ンダクケ タメテ ノワ ヒツヨア<sup>ダ</sup>ネー。  
まあ これは だから 水溜めというものは必要だねえ。

B ソア<sup>ダ</sup>ネー (A ア) ヒツヨア<sup>ダ</sup>エネー。  
そうだねえ、(ああ) 必要ですねえ。

A アア コレワ マー ヒツヨア<sup>ダ</sup>ア。ソレト アレダコテ  
ああああ これは まあ 必要だ ああ。それと なんだよ

アノ マ エマノ ワケア<sup>シ</sup>モ ヨア<sup>エ</sup>ジャ ネアドモ ヤッ  
あの まあ 今の 青年も 容易ではないけれども や

パシ マー アノ ソノ キニ スンデル ガンダクケ ヤッパシ  
はり まあ あの その 地域に 住んでいるのだから やはり

ホア<sup>シ</sup>ダドモ デ アッダ<sup>コ</sup>テ----- ショア<sup>ホ</sup>ノ クンレンモ  
奉仕だけれども、で なんだよ----- 消防の 訓練も

コレ マー ホネ オエテ シテモランケナンコテ ハー。  
これは まあ 骨が 折れても してもらわなければならんよ、はい。

B ソア<sup>ネ</sup>ー ミンナネー イケオア<sup>ン</sup>デ シッテレバ ソレテ  
そうですねえ、みんなねえ 一応 それでも 知っていれば それで

(A ハー) ソノサキワ<sup>(118)</sup> マタ ダニカネー (A ソアソアソアソア)  
(はい) その先は また どうにかねえ (そう そう そう そう)

ソアシテ (A ン) シラレルンダン。  
そうして (うん) できるから。

A コレア ナカナカ アレドナーネ スー<sup>(119)</sup> ウー クジテ ノワ エツ  
これは なかなか なんだよ うう 火事というものは いつ  
ドコデ オキッカ ワカランカラネ。(B ソーダナー。) アー  
どこで 起きるか 分からないからね。 そうだねえ。 ああ

ヨソァーシネァ ドキ オキテ クルカラ ハー。  
予想しない 時 起きて 来るから、はあ。

B ソレコソ ウチノ モン ゼンブ ミンナネー アレシテ ハエン  
それこそ 家の 物を 全部 みんなねえ ~~~~~ 灰に  
シテョァー<sup>(120)</sup>ンダンネー。  
してしまうからねえ。

A ハー ソレデ マー シトニ メーワクモ カケルシ ジブンモ コマツテ  
はい。それで まあ 人に 迷惑も 掛けるし、自分も 困って  
シマウシ<sup>(121)</sup> ンァー コレ ナカナカ ヨァーエジャ ネァー ハー。  
しまうし、ああ これは なかなか 大変だ はい。

ソァーシテ オメァサンガタ アエデスカ アノ エマ アノ ハナシワ  
そうして あんた方 なんですか、あの 今 あの 話は  
チガウケド ツトメワ アレダカネ ニコァー<sup>(122)</sup>タエ。  
違うが 勤めは あれかね ニ交替？

B ハー ニコァー<sup>(122)</sup>タエ ~~~~~ ナンデスエネ。  
はい ニ交替 なんですよ。

A ハーア ソァーカエ。  
はあ そうかね。

B マー エチンチ アサ デテ エツテ (A ハー) ツグヒノ アサ  
まあ 一日、朝 出て行って (はい) 翌日の 朝  
ケァツテ<sup>(123)</sup> クンデスガネー。  
帰って 来るのですがねえ。

A ハーハー。<sup>(124)</sup> ホスト アノ ヨル コァータエ シルンジャ ナクテ。  
はいはい。そうするとあの 夜 交替 するのは なくて。

ヒル----

昼-----。

B ヨルワ コァータエ シネアンダエネ。  
夜は 交替 しないのですよ。

A アー ズーット ヨル ツトメルワケ。  
ああ、ずうっと 夜 勤めるわけ？

B ハー ヨル ツトメテ----。  
はい、夜 勤めて-----。

A ハーハーハーハー ハーン。マー ナツワ エードモ シカシ エテ  
はあ はあ はあ はあ はあん。まあ 夏は いいけれども、しかし、いいと  
ユー アレジャ ネアドモ フユワ ヤダネ サムテネー。  
いう なんてではないが、冬は いやだね 寒くてねえ。

B フユワネー ンデ マー エチバン カジ アツタリ シテ フユ  
冬はねえ、ほんとうに まあ いちばん 火事があったり して、冬  
アラレナンカ <sup>(125)</sup> フッテル ドキワ <sup>(126)</sup> ンーキ メガ エター ナリマステ  
霰 などが 降っている時は ほんとうに 目が 痛く なりますよ  
ンーテ。  
まったく。

A ソァーローネ ハー。  
そうだろうね、はい。

B アラレガ ミンナー カオエ アタルデショァー。  
霰 が どんどん 顔に 当たるでしょう。

A ンーンンー。  
うん うん うん。

B カオエ アタルスケアー <sup>(127)</sup> ンーデ<sup>メー</sup> アケテ ランネアーヨアーダ  
顔に 当るから まったく 目を 明けて 居られないようだ、  
ネー。  
ねえ。

A ハー ヲッカネー ンー。  
はあ そうかねえ、うん。

B トマー ナツバーガ エチバン ソレクソ ニジ サンジニ  
それとまあ 夏場が いちばん それこそ(夜の)二時 三時に  
キューキューガ アンデネー ~~~~~。  
救急が ~~~~~ あるのでねえ、~~~~~。

A アー ヲッカエ ンー。  
ああ そうかね うん。

B ドアー シテモ ナツワ ミズモン ノンダリナンカ スンデショアーネ。  
どうしても 夏は 水物を 飲んだりなど するでしょうね。

A ハーン。  
ああ。

B ダスケアー---- アノ---- ソレゴロン ナルト ドアー シテン ハラ  
だから---- あのう---- その頃に になると どう しても 腹  
ガ エテアー ナツタリ ナンカン ナツテネー。  
が 痛く なったり などに なってねえ。

A ンー ヲアーヲアーヲアーヲアー。 ヲアーネー ハー。  
うん そう そう そう そう。 そうだねえ はあ。

B ソコエ キテ コンド エシャガ <sup>(128)</sup> ネアーテ コト~~~~ ナレヤネー。  
その エ, コンビ 医者が 無いということに なればねえ。

A ン ヲアーヲアーヲアーヲアー。 ソレデ<sup>エマ</sup> オレ アノ デンワガ  
うん そう そう そう そう。 それで 今は ほら あの 電話が

アルスケァ ミンナ スグダコテァー。

あるから みんな すぐだよ。

B ソァーソァーソァー スグネー。

そう そう そう すぐねえ。

A ア マタ アノ トクエト チガテ コノ ヘンノ シト ノンビリ  
あ また あの 都会と ちがって この 辺の 人は のんびりと

シタ ドコモ アンドァー。 アノ マー オラモ ソァーダケドモ  
した 所も あるんだよ。 あの まあ むたしも そうだけれども

ケーサツノト ショァーホァーショノ バンゴァー マチゴァーテネー。

警察と 消防署の 番号を 間違ってるねえ。

B (笑) エァー (A アー) ソァーネー。

ええ、 (ああ) そうだねえ。

A ドツチエ ドァー カケテ エーンダ<sup>(129)</sup> コンテァラ<sup>(129)</sup> アー ワカランデサー  
どっちへ どう かけて いいのであることやら ああ 分からないでさ、

(B ソァー) アー (B 笑) ヒャクバンナンダ<sup>(129)</sup> コンテァラ<sup>(129)</sup> ヒャク  
(そう) ああ。 百番である こじやら 百

ジューキューバンナンダ<sup>(129)</sup> コンテァラ<sup>(129)</sup> ワカランデサー ハー。

十九番である こじやら 分からないでさ、 はあ。

## 注

- 1) ダッタカ ダに〔r〕音がかすかにきこえるようである。
- 2) このあたりに赤ん坊の声が入る。
- 3) カジ [kadʒi] で共通語化している。老人たちはクジ。
- 4) マワリ [ma:ri] に近く W 音はかすか。
- 5) スゴエ (形容詞) 終止形と同形が連用修飾に用いられ、「アツェァ ナッテ」を修飾していると考えられる。
- 6) 5) に同じ。「アツェァ」も終止形と同形の連用形である。
- 7) シモト [simoto] と思う。中頸城郡の影響と思われる。
- 8) ソァ (句) それは。ソレワ>ソラ>ソア この方言は〔r〕音を脱落することがある。
- 9) ホントニ 「ホン」の部分がかすかにきこえる。
- 10) ンーナ (副詞) みんな。ミが脱落し撥音が語頭にあらわれる。この地方の老人語にしばしばきかれる。「ほんとうに」「全く」などに近い意。
- 11) この辺に、また、赤ん坊の話し声が入る。
- 12) ンーナ (副詞) 10) の語と同語源の語であるが、ここでは「どんどん」「かまわず」くらいの意味に用いられているようである。
- 13) トッテモネァ (形容詞) トッテモという副詞に形容詞を作る接尾語「ナイ」をつけて形容詞とした。終止形と同形で次のアツェァ (熱い) を修飾する連用形である。「とてつもない」などの影響もあるが。
- 14) アツェァ (形容詞) [ætʃɛ] アツイ>アツツイ>アツチャエ>アツェァ。「あつい」の終止形と同形を連用形に用いている。
- 15) ミアリ ミハリ (見張り) の〔h〕音がきこえないようである。
- 16) ソンカノ 形容動詞ソнгаダ(そんなだ)の連体形。ソングニ (三島郡出雲崎町), ソンゲァ-ダ・ソッゲァ-ダ(南魚沼郡), ソンゲ(佐渡郡)。
- 17) エバラメ 地名茨目。柏崎市内。
- 18) タカヤナギ 地名刈羽郡高柳町。
- 19) エズモザキ 地名三島郡出雲崎町。

- 20) ソエカラ [soekara] と聞こえる。[r]脱落。
- 21) キューキュー [kjü:kjü:] のように聞こえる。あとで [kjw:kjw:] が  
出てくるから、ここは一時的な発音のくずれであろうか。
- 22) モッテルンデ 「モッテンデ」 のようにも思われる。ルを落とす傾  
向がある。
- 23) ここの所を話者は「スイナントカ エッタヨアーナ モンガネー」と  
言ったと主張するが、そうとは思われない。
- 24) ソエジャ それでは。ソツジャではなく[r]の脱落したソエジャであろ  
う。刈羽郡刈羽村あたりにもきかれる傾向である。
- 25) ンームー [N:mu:] のように思われる。ことばが出ず考えている  
時の間投声。
- 26) ンニ 「ホンニ」の「ホ」が脱落した。副詞。ンネ、オネとなること  
もある。
- 27) カジ [kwadzj] ではないようである。
- 28) ガイ グアイではない。共通語化している。
- 29) この辺に赤ん坊の声が入っている。
- 30) 早口のためかこのところことばがはつきりしない。
- 31) ヲアーアネ [so:dame] d音はかすか。
- 32) エアー [ɛ:] 感動詞で応答語。共通語化している。
- 33) クランネァ クレラレナイの変化。ラレは尊敬の助動詞。
- 34) ネァー (形容詞) 連用形で「タノモァー」にかわる。
- 35) この辺にまた赤ん坊の声が入る。
- 36) ここに隣室の赤ん坊をあやす老婦人の声が入る。
- 37) ダッケー (接続詞) ダスケァーの変化。
- 38) シテァンダン (句) シタイモノダモノガ>シタイモンダモンガ>  
シタインダモンガ>シテァンダンガ>シテァンダンと変化したものであ  
ろう。「ものだから」で、理由をあらわす。「さかい」から来た「スケァ  
・スケ・ッケ」よりも古いもので「モンガ」は老人層語となってい  
るが、「ンガ・ダンガ」は青年も使うようである。
- 39) この辺にまた老人と赤ん坊の話し声が入る。



- 40) ヴァーカ かすかな声でいっている。
- 41) ソデモ ソレデモ>ソエデモ>ソデモ
- 42) デモ 「ソレ」が脱落した。ていねいな発音ではおとさない。
- 43) アエタドモ 次のことばが出ないのでこう言った。
- 44) バッカ 「ばかり」の変化。〔ri〕の脱落と促音添加。
- 45) ニッセキ 日本石油加工株式会社柏崎工場・日本石油輸送株式会社をさす。
- 46) ンデ 「マルデ」の変化。ほんとうに、全くというような意味の副詞。
- 47) ソレクッサ (句)それこそはの変化。
- 48) アレダガ 「危険な石油関係の物ばかり集まっているのだが」と言うような意味のことばを言いたかったのであろう。
- 49) ンネ ほんに。ほんとうにの意。
- 50) この辺 ジシンガ クレバネー ときこえるがはっきりしない。
- 51) オメアン オメアサン>オメサン>オメアン。但しこの人のこの時だけの発音と思う。
- 52) カガク [kagakū]
- 53) カジ [kadzi]
- 54) クワガク [kwagakū]
- 55) 上越消防 上越市の消防署。
- 56) 長岡 長岡市消防署。
- 57) 大火 新潟地震(昭和39年6月)の時の石油タンクの火災をさす。
- 58) マーッキ まるっきりの変化。副詞。う行音の脱落。ひどくの意。
- 59) タッテ 立てて。他動詞+て。
- 60) ケドン [kedom]。〔re〕をおとし、〔mo〕の母音をおとした。
- 61) エウエ ヨワイの変化。ヨワイ>エワエ>エウエァ>エウエ。
- 62) ダケ ダスケの「ス」が早口のため脱落したか、あるいは「ス」の無声化によりテープではきこえないか。
- 63) ノコテ ノコッテの促音が消えた。
- 64) アエック (動詞)カ行五段活用。ア里克>アイク>アエク>アエック。あるく。動きまわる。

- 65) ショガ [ʃoːga] [ʃuː>ʃoː>ʃoː]. 衆, 人々。
- 66) アルドモ 家に居る人もあるけれどもの意。
- 67) キコニ キューニの言いまちがい。
- 68) ンキデ<sup>レ</sup> ホンキデのホの脱落と話者は説明した。「ほんとうに」「まったく」とでも訳すべきか。
- 69) オガンゲ オクは普通オグと発音される。オカナケレバの変化。たまたまここではケも濁音化している。
- 70) ナン (句) ナラン(ならない)のラが消えた。
- 71) ナランデス<sup>レ</sup>の次に「エ」の様な音がある。終助詞「エネ」「ヨ」でも言おうとしたものか。
- 72) ナレテシテモ 「ナレテルシトデモ」を早口に言ったのであろう。
- 73) アワテンダンネー 直訳すれば「あわてるものだものねえ」となるか。
- 74) カミノ 地名, 鵜川地区大字女谷の中の字名。
- 75) レンゲツカ 話者は「レンケツカン」だと言った。ホースのつなぎ目の金属の環だという。「連結環」であろうか。消防士である話者Bはこめことはを知らない。
- 76) モンダーンネー 語源は「モノダモノガネー」であろうか。
- 77) マーンデー 低い声で発音している。副詞「まるで」の変化。「ほんとうに・ひどく・まったく」などの意。
- 78) ナカナカ<sup>レ</sup> 発音がはっきりしない。
- 79) アエタコテ エはかすかで短い。[re]の変化。コテはコトイを語源とする間投助詞。強調して訴える。全体で「なにさ」くらいの語にあたる。
- 80) デ 終助詞。ゾ・ドよりも丁寧である。関西方言の「で」が入って来たものか、それとも「ぜ」が変化したものか不明である。柏崎地方でド・デは広く用いられる。魚沼方面はゾ・ゼである。
- 81) ロァー [ro:] の様にきき, 餅粮の高橋孝宣氏にただしたらドァー[do:]と言ったのだろうと言うことであった。ドァーは灌漑用水をたくわえるための池を言う。「塘」が語源であろうか。柏崎旧市域でも刈羽郡

内でもドーと言っている。富山市在で溜池をドー，東北地方で堰をドー，中蒲原郡・三重・鳥取で用水路の水門をドー，宮城・三重で樋をドーと言うと言う。111) で話者Bは同じ物を〔do:]と発音する。「餅粮のどあう」は「拜庭のどあう」とも言って餅粮・拜庭両字の共用の溜池である。

- 82) デネ (終助詞) 親しい人に丁寧に訴える表現。
- 83) コツネカラ 川の流氷によって，上の方から溜池に水を入れることか。
- 84) オアワ [ho:wa] の変化。「方は」。
- 85) ノアカ [no:ka] 副詞。なおさら，いっそう。ナオカの変化。  
ノアコト(なおのこと 南魚沼郡) ナオカ(新潟県佐渡郡) ナオカデ(富山) ナオカイデ(富山) ナオカエ(福井) ナオシカ(長野)。
- 86) エァー [ɛ:] 間投助詞。
- 87) ムァー というような音がきこえる。
- 88) シモノ 下野。地名。大字女谷内にある字名。
- 89) ソッテ ソレデ>ソンデ>ソッテ。濁音が，促音が入ったため清音化した。
- 90) メートルの〔r〕音はほとんどきこえない。
- 91) ム 不明。
- 92) この部分も早口で分かりにくい。
- 93) メートルの「トル」は消えていてきこえない。
- 94) ヒトオキ オキは共通語の「沖」で田畑原野の開けたところ。この集落は傾斜地のせまいところに家が点在しているが，家と家，集落と集落の間にある耕地はせまくてもやはりオキと言う。ヒトオキは「ひと田原」とでも訳すべきか。
- 95) ドン [doN] ドモの変化。「けれども」に相当する接続助詞。
- 96) ナニン 「ナニモ」の変化。
- 97) ブン [bɔn] 接頭語。
- 98) ダモ [ndam] のようにもきこえる。ンダドモ(そうだけれども)の変化か。接続詞。「しかし」の意。「それにしても」くらいの意。
- 99) ゴジベァー 屋号。

- 100) スゴイ [suŋoɪ] すごく。終止形と同形の連用形。
- 101) ゴンガン [gɔŋgɑN] ゴンガンでない。地名。「五観音」に由来するという。大字女谷小字「中の島」から大字清水谷地内を通過して、字熊谷へ抜ける細い道路附近を言う。
- 102) ヘン 「辺」であるがやや「テン」に近い様にもきこえる。
- 103) ヘン この場合は「エン」に近くきこえる。
- 104) 吸気の音。
- 105) ア<sup>ネ</sup>ガ 「アレガ」の言いまちがえ。
- 106) コツツァ [kɔtʃtsɑ] コノツレ > コンツァ > コツツァ。形容動詞の連体形で「こんな」の意。身近なものをさして軽んじののしって言う。「こんな」より粗末な、品のないことは。「このつれの」(此の連の、「天草本伊曾保」)が語源。南魚沼郡に「コンツレーノ」がある。ソ<sup>ン</sup>ツァ・アンツァ・ドンツァ と体系をなす。
- 107) ネー [ne:] と言うのが普通であるが、この場合 [ne:] である。
- 108) はじめ「ツボイ」の様にきいたが、話者にたしかめたところ「スボリ」であることが分った。s の発音がはっきりせず [ri] の [r] は消える傾向がある。「素掘り」とはただ土を掘り除いただけでコンクリート等でかこわれない自然のままの池の作り方を言う。
- 109) ハエニ 集落名。餅糎に隣接する小字名。丁寧に発音すれば「ハエニワ」であるが普通この様に発音している。ハイニョアーのようにも言う。
- 110) ミシ この様にきこえたので話者にたずねると「ミズ」だという。次のネーは間投助詞で、「水が問題だ、消火用水が不足で心配だ」という心持。
- 111) ドー [do:] 注81) でのべた様に話者A(老人)は [ro:] [do:] の様に開音であったが、青年Bは合音で言っている。池・用水池を言う。拝庭集落の上手にある人造の水田のための用水池。
- 112) ハズシ 前に出た「ドー」の水門を外して水を流し出すこと。
- 113) この辺以下文脈がやや乱れている。
- 114) アンガ シタ 「あんな下」とは集落の下、谷の底を流れる川をさすか。次に「アコ」と指して言う所もこれであろう。

- 115) アレ シッカネー 「あれ」は水を揚げることをさすのであろう。
- 116) ソァー ~~~~ 「せうでなければ」のような意味のことばが消えている。
- 117) エッポド よほど。副詞。よほど長く伸ばして水を引いての意。
- 118) ソノサキワ のようにきこえるが、はっきりしない。
- 119) 吸気音
- 120) シチャ<sup>ャ</sup>ー<sup>ン</sup>ダンネー [ʃitʃo:ndanne:] してしまうものねえ。  
[ʃitʃau] より [ʃitʃo:] に近いと思われる。老人 A は 121) 以下に出てくる様に「シマウ」「チカウ」など [~au] であるが、青年である B は東京語の影響か [au] を長母音化している。
- 121) シマウ [ʃimau] のようである。
- 122) ナンデスエネ の部分、A のことばと重なってよくききとれない。
- 123) クン クルンのルは消えているようである。
- 124) ホァト ホテの様にもきこえる。
- 125) ナンカ ンは短く、かすか。
- 126) ンーキ ホンキ > ホンーキ > ンーキ。本気。副詞。ほんとうに、全く。
- 127) ンーテ<sup>テ</sup> 副詞。まるで、ほんとうに、全く。
- 128) コト<sup>~~~~</sup> ことばがもつれて分らない。
- 129) コンテ<sup>ァ</sup>ラ コトダ<sup>ダ</sup>ヤラの変化。[r] 音はかすか。

## IV. 千葉県たてやま館山市あいはま相浜

収録・文字化担当者 加藤 信昭

- 1 地点名 千葉県館山市相浜
- 2 タイトル 鶏冠海苔の収穫
- 3 録音年月日 昭和51年12月12日
- 4 録音場所 館山市相浜76の1 武田由蔵氏宅

5 話し手

T 武田 由蔵 (男) 大正2年生まれ 漁業  
漁船にて各地をまわったが、他所の地での定住はない。

S 坂本 勇 (男) 昭和14年生まれ 漁業組合職員

M 武田 政子 (女) 大正8年生まれ 無職  
由蔵氏の妻。お茶菓子を持って来て、途中の一部に加わった。

K 武田全市郎 (男) 昭和11年生まれ 教員(司会者)

6 録音環境

収録は武田由蔵氏宅の居間(十一畳の畳間)で行われた。夕食時にかかったため、多少それらの雑音も入ったようである。

- 7 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては、『方言談話資料(5)』を参照。

## 鶏冠海苔の収穫

話し手

| (略号) | (氏名)  | (性) | (生 年)      |
|------|-------|-----|------------|
| T    | 武田 由蔵 | 男   | 大正 2 年生まれ  |
| S    | 坂本 勇  | 男   | 昭和 14 年生まれ |
| M    | 武田 政子 | 女   | 大正 8 年生まれ  |
| K    | 武田金市郎 | 男   | 昭和 11 年生まれ |

K アンデ アイカノー アノー トサカッチューノワ イツモ イマゴロ  
 で あれかねえ あのう 鶏冠海苔というのは いつも いまごろ  
 トレンノカイ。  
 採れるのかい。

S ウン マ コイカラ サキダデオー。  
 うん ま これから 先だよ。

T マー ダイタイ ヨケー ブッチャガルッテ アノ ダレデモ  
 まあ だいたい 沢山 打ち上がって だれも  
 トラレルッチューノワ ヤッパリ シガツカナ シガツノ カ  
 採られるというのは やはり 四月かな 四月か  
 ゴガツダッペナ。  
 五月だろうな。

S キュネンワ シチガツマデ イッタカンノー。  
 去年は 七月まで いったからねえ。

T デ クミアイガ ハジメタノワ クミアイガ アンデ ジエイセン  
 で 組合が 始めたのは 組合が あれて 自営船



ハジメタノワ ナンガツ (S ゴガツ) ゴガツダツタカイ  
始めたのは 何月 五月

ゴガツツイタチカラダッペ。  
五月一日からだろう。

S ウン ダカラ キョネンノ アンデワ シガツワ モー イクラモ  
うん だから 去年の なにでは 四月は 幾らも  
アガッテ イネアデ (T ウーン) ゴガツ ロクガツダカンノー。  
上がって いない (ううん) 五月 六月だからねえ。

T ダッケン アンダー ハ アノー トサッカノ ホンバノ アマク  
だけれど あれた は あのう 鶏冠海苔の本場の 天草<sup>(2)</sup>  
<sup>(1)</sup>サン ホーノ クミアイ ミテ アノ アンシタッケナ イツワ  
の 方の 組合 見て なんと行ったかな 五和<sup>イッワ</sup>

トカ ゴワトカッテ ケテアッタナー。 ホノ クミアイデ アレ  
とか 五和とか 書いてあったなあ。 その 組合で あれ

シテ ミタトロ アンダナー ヤッパリ ニガツ サンガツニ  
して みたところ あれたなあ やっぱり 二月 三月に

ナルト ドンドン アガッテルノー。 ダッケン マー ムコーワ  
なると どんどん 上がっているねえ。 だけれど まあ 向うは

<sup>(3)</sup>モグリガ センモンダカラサー アンデ マー フツノー ブ  
潜りが 専門 だからさあ あれて まあ 普通の<sup>x</sup>

ヒョーチャク チューノワ キカネッタナー。 ムコーワナー  
漂着 というのは 聞かなかったなあ。 向うはねえ。

ダカラ モグリセンガ ゴジュッペモ ロクジュッペモ アルンダヨ。  
だから 潜り船が 五十杯も 六十杯も あるんだよ。

ンデ ソノ ナカマワ ヤッパリ オッカト アンダッペナ  
で その 仲間は やっぱり 女房と あれだろうな

オヤジト コイラン アノー モグッテンダッペケンノ。キョネンワ  
亭主と こいらの あの 潜っているんだろけどね。 去年は

アンダッタナー イチバン タカネガ セン<sup>xxx</sup> キロ セン イクラ  
あれだったなあ 一番 高値が 千 キロ 千 いくら

ダッタカナー セン セン ニジュー ナンエンチューノガ  
だったかなあ 千 二十 何円というのが

アッタッタナー。 何年か前  
あったなあ。

S ヤッパリ コノ シンノ ホーガ ホントワ タケンデネンカノー。  
やはりお金の 新の 方が 本当は 高価なのじゃないかねえ。

T ダカラ タケヤデオー。 ダカラ イマ キノー キータラノー  
だから 高価だよ。 だから いま 昨日 聞いたらね

(4)  
(S ウン) カノーガ ハナシデワ ナンカ アンダッテオー  
加納の 話 では ないか あれだったよ

ソノー ゼヒ ホシダッテ イマノ ヤツガ (S ウン) ダカラ  
そのう 是非 欲しいんだって いまの 品が だから

カッテ デテクレッテ ユーゴトダッケンノ マ リョーガ ドノ  
買って おいてくれて ということだけどね。 ま 水揚げが どの

クレガ アルカ ワケワカラネーシ ダカラ マー イチオー  
くらいがあるか わからないし だから まあ 一応

ヤスネノ ツケテアンデネンカナー。  
安値が つけてあるので ないのかなあ。

S デ コトシワ アレカイ ヤッパリ イッペダゲシカ ヤラセネン  
で、今年は あれかい やはり 一杯だけしか やらせないの

カイ。 アンデ マダ ヤリテッチュー ニンゲン イルミタイダテ。  
かい。 あれで まだ やりたいという 人達 いるようだが。

- (6)
- T ウーン ダカラノ アレワ アノー コノアイダ マー サンキョー  
うん だからね あれは あのう この間 まあ 三共
- アタリモ ヤラシテ クレッチューシ。 ダカラ コレオ ドー  
なども やらせて くれというし。 だから これを どう
- シタラ イーカッチュコトデ ヤッパシ モンダイガ アッダッケン。  
したら よいかということでは やほり 問題があったのだけど。
- コエンキョ<sup>(7)</sup> アンカモ ヤイタ<sub>xxxxxx</sub> キョネン ヤイタガッテタヨナー。  
小隠居 なんかも やりた 去年 やりたがっていたよねえ。
- S ダカ コンデ ヤッパイ アレカ アマリ キッチャッテヨー ヒロー  
だからこれで やほり あまり 切っちゃって 捨う
- ニンゲンノヤツガ スクナウナッチウカノー。  
人達が 少なくなってしまうからねえ。
- T エー ダカラ アマンナカマガ アイノハマワ ホーデモネッケン  
ええ だから 海女の仲間が 相決は そうでもないけど
- メラガ イッコー キビガワリダオー。 イッペ ヤンニモ  
布良が 一向 恐ろしいほどだよ。 一杯 やるにも
- ヤレ ワレワレガ トンノガ ネノ。 ダケ アマシッタッテ  
やれ われわれが 採るのが ないの。 けれど 海女にしても
- フネ モッテ イッテモグル アマッチューノワ タッタ オメ  
船 もって 行って潜る 海女というのは たった あなた
- ナンベ エート シヘシカ ネッチャデオー。 ホンデ オメ  
何杯 ええと、 四杯しか ないそうだよ。 それで あなた
- シヘ<sub>xxx</sub> ヨニンノ<sub>xxxxxxx</sub> ヨンケンノ ウミデモ アルメシサ。 ダカラ  
四人の 四軒の 海でも あるまいさ。 だから
- ソー ユー トコロガ ドーモ アンダヨ ヤッパシ アマサン  
そう いう ところが どうも あれたよ やほり 海女さん

アマサンッテ アマサンバリ デー ジニ シテルヨダッ ケンノー  
海女さんといって 海女さんばかり 大事に しているようだけど

コラ ヤッパリ マズイヨノー。  
これは やはり まずいねえ。

S コンテ ヤッパリ センスイフト アイカイ アマト モグル  
これで やはり 潜水夫と あれかい 海女と 潜る

ソバワ スイセンワ ヤッパ アラマシ オナジン ナッチャウンカ  
ところは 水域は やはり おおかた 同じに なるのか  
ノー。  
ねえ。

T エー ダイタイ イマ ナンメートルダッ ケナー ジューサンメー  
ええ だいたい いま 何メートルだらけなあ 十三メー

ターカ ジューサンメーター<sup>(8)</sup> センチュートコデ キメテ アンダ  
ターか 十三メーター 線ということて きめて あるんだ

ケモ イマー ジューサンメーター オキーデット ショガ ハエッ  
けども いま 十三メーター 沖に出ると 潮が 早い

ペ ダカラ ショガ ハエカラ ヤッパリ アノ オイ<sup>xxx</sup> オイノ  
でしょう だから 潮が 早いから やはり 沖の

ホーカラ ナダエ ナダエト セメルシノー。テ アマダッタッタッテ  
方から 灘へ 灘へと 攻めるしねえ。で 海女だって

ジブンヒトリデモッテ カセグベ シタッテ アマダケ イバ  
自分一人で 稼ごうと したって 海女だけ よければ

イッチュー ワケデワネダカラサ。マー イママデノヨニ コレガ  
いいという わけてではないのだからさ。まあ いままでのように これが

マー アンダッチュート ケッキョクワ アンダ カンダ シッタ  
まあ なんだという 結局は あれた これだ といった

タッテ ヤッパリサ リョーガ<sup>9</sup> ネバ ソレ トッタ ホーガ  
って やはりさ 漁が なければ<sup>9</sup> それ 採った 方が

イッチュー コトニ ナレバ ミンナ トリタウ ナッチャウシノー。  
よいという ことに なれば<sup>9</sup> みんな 採りたく なってしまうしねえ。

ソレ アマー ヒトリジメン サレテモ コマンノダヨ。 マ  
それを 海女が 一人占めに されても 困るのだよ。 ま

コトシワ アンダッペオー マスコシ アンダカラ ヤクインデモ  
今年は あれだろうよ もう少し あれだから 役員 でも

ナカマデモ マー マイッペ ヤッタラ イッペアンカチュー  
仲間でも まあ もう一杯 やったら いいだろうという

ヒトモ イルシノ。 (S ~~~~~) コナイダ クマジロラガ<sup>(9)</sup>  
人も いるけどね。 この間 熊次郎らが

キテ アノー ソノー マー アレガ ヤンダッチューヨナ  
来て あのう そのう あれが やるんだというような

<sup>(10)</sup>  
オコガ ヤッダッチュー ハナシダカラ (S ウン) エ  
億が やるんだという 話だから (うん) え

ホラ オガ マジッ シッタダオ。 (S ウン) ソラ サンキョーガ<sup>9</sup>  
そら 私が まずいといったのだよ。 (うん) そりゃ 三共が

リョーガ ナウテサ (S ウン) ホンテ<sup>9</sup> ヤルヤル ヤルッチュー  
漁が なくてさ (うん) それで やるとい

コトダバ (S ウン) ソラ フネガ ネカラ フネ カリテ  
ことならば (うん) それは 船が ないから 船 借りて

キタッテサ (S ウン) コラ マー ショーガネッケモ ソーユー  
来たってさ (うん) これは まあ しょうがないけれども そうい

フーナ スガタデ<sup>9</sup> モッテ オメラ ハナシ モッテ コナウテウ  
ような すがたで もって 話 もって こなくてほ

オコニ タノマイタカラッチュ ハナシデワ コレワ コトワルヨカ  
億に 頼まれたからという 話では これは 断わるよか

ドーシヨーモネシツタダオ。 (S ソダノー) ソンデ ナウテモ  
どうしようもないといっただよ。 ( そうだねえ ) それで なくても

ハー ジモトノ ヒトたちモ ヤイベツチュー ヨナ ヒトガ  
もう 地元の 人たちも やろうという ような 人が

イッダカンノー。 イワオラダッテ ヤスミン ナレバ (S アー)  
いるんだからねえ。 岩男らだって 休みに なれば ( ああ )

ヒマン ナレバ ヤッダッペ アレスレバ リョーガ アレバノー。  
暇に なれば やるだろうと あれすれば 漁が あればねえ。

トサカガ イーナト オモエバ ヤンダッペオ。  
鶏冠が いいなと 思えば やるんだろうよ。

S ハー アラマシ イー ワリーガ ワカ ワカイカンノー。 ~~~~~  
もう だいたい いい 悪いが <sup>xx</sup> わかるからねえ。

T ~~~~~ オサ キョネンワ スッパリ ~~~~~ アレダッタノー ヤンドモニ  
そうさ 去年は 完全に 野郎共は

ヤラレチャッタノー。  
やられてしまったねえ。

S ウーン ウンメッタヨノ。  
ううん 上手だったねえ。

T ~~~~~ イッセン イッセンカラ イッセンゴヒャクマン グライ ゴロッ  
<sup>xxxxxxx</sup> 一十 一十から 一十五百万 ぐらい 五六

ピャクマン アゲタッペヨナー。 イッセンゴロッピャクマン  
百万 揚げただろうよねえ。 一十五・六百万

グライ アゲテルカンノー。 ホンデ ハンブンワケダモン  
ぐらい 揚げているからねえ。 それで 半分わけたのだから

ナナハクゴジョーマン トッチマツダダモノオー。 ホンデ  
七百五十万 取ってしまったのだもの。 それで

アンダッペ アイゲー オカマ<sup>(12)</sup> オカマーリンネ アノー オカマー  
あれだろう あれに ~~×××××~~ 岡回りでない ~~×××××~~ 岡回リ

リッチューカーナー ソノー アノー フネー ノッテル ノリコン  
というのかなあ そのう あのう 船に 乗っている 残りの

ゲワ イクラ ナナセンエントカ ハッセントカノ アンダッチャデヤー  
者は いくら 七千円とか 八千とかの あれだつていう

(S ブエ ブエ ナシデカイ) ブエ ナシデ。 (S ホー)  
歩合 歩合 なしでかい 歩合 なしで。 (ほう)

ダカラ ナナセンエンカラ ハッセンエンダッペ フタリ タノメバ  
だから 七千円から 八千円 だろう。二人 頼めば

イチマンゴセンエンダデヨ イチマンゴセンエンデ エ ヒャクニチ  
一万五千円 だからよ 一万五千円で え 百日

ヤッタッタッテ ヒャクゴジョーマンダッペ。 (S イー モーケ  
やったって 百五十万 だろう。 (いい もうけ

シタノー) イー モーケ シタダ。 ダ コトシワ ホーユー  
したねえ) いい もうけ したのだ。 今年は そうい

ワケニワ イガネヤ (S ウン) コトシワ ヨッポド カンゲ  
わけには いかないや (うん) 今年は よほど 考え

テ ヤラネッチュート チョード アンダオ。 マ ワレワレモ  
て やらないという と ちょうど あれだよ。 ま われわれも

サイショワノ モー コレヤッテ チョード コンナモン ヤッテ  
最初 はね もう これやって ちょうど こんなもの やって

トサッカ ヤッテ チョード クミアイ ジエー ヤッタラ  
鶏冠 やって ちょうど 組合 自営 やつたら

ソシチマッタ アンカチュー ヨデワ ショーガネカラト  
損してしまった なんかという ようでは しょうがないからと

オモッテ マー ソーユー グウェニ ヤッテ ミタンダッケン。  
思って まあ そういう 具合に やって みたのだから。

S ヤッパイ アンダノー。 ハジメテン ニンゲンワ マ ヤッテ  
やはり あれだねえ。 初めての 人達は ま

アケテミネバ ワカラネッケン ンナノモ ウンマク イグト  
開けてみなければ わからないけれど うまく いくと

ケッコー ボロモーケ スルノー ヤッパイノ。  
けっこう ぼろ儲け するねえ やらほりね。

T ボロモーケ スルノー。  
ぼろ儲け するねえ。

S ウン。  
うん。

T ダッケン ヤツワノ ダカラ キット ハー アンダカラオ  
だけど 奴はね だから きっと もう あれだから

ハジメノウチワノ ニットーガ イクラデ キメタワケダダオ  
初めのうちね 日当が いくらで 決めたわけだよ

ノリクミインガ イッコ サンゼンエンダカ ゴセンエンダカデ  
乗組員が 一個 三千元だから 五千元だから

キメテサ ホンテ モグリガ ア モグリガ イチマンエン  
決めてさ それで 潜りが 潜りが 一万円

ホイカラ エ モグリガ イチマンエン フネガ イクラカナ  
それから え 潜りが 一万円 船が いくらかなあ

キメテ ヤッタッケン。 ハ ホノ シゴニチ ヤッテミタラ  
決めて やったけど。 もう その 四・五日 やってみたら



エ コラ トテモ コンナノツテユー ワケデ ハー ウミ ミー  
え これは とても こんなではという わけで もう 海を見に

<sup>(13)</sup>  
イッ タダノー。 (S アー) ウミ ハー サート ウミ  
行ったのだねえ。 (ああ) 海 もう さあっと 海

ミチマツテデテ ヨシ コンデワ コンナ モンデワ ソンシチャウ  
見てしまっておいて よし これでは こんな ものでは 損してしまう

カラ ッチュー ワケデ ヤッタダオ。 (S ウーン) ウンマイ  
から という わけで やったのだよ。 (うん) うまい

サクセンニ ノックッチッター。 (S ウン) マー コトシワ  
作戦に 乗ってしまったあ。 (うん) ほあ 今年は

<sup>(14)</sup>  
アンダッテオ スノサキアンカ スゲッテオー。 ウン スノサキン  
あれだってよ 州の崎 なんか すごいでよ。 うん 州の崎の

クミアイチョーワ トサッカデモッテ ウミガ マッカダヨ  
組合長は 鶏冠でもって 海が 真赤だよ

アンカ ユツテラ ハッハッハッ……。 (笑) ホー コラ シッケ  
なんかと いる。 ほっほっほ、……。 ほう これは どう

モケン ナラネシツテラ。  
しようも ないといっている。

K アニ アレカイ シッケモケン ナラネツチューノワ トサッカガ  
なに あれかい どうしようも ないというのは 鶏冠が

イッペダト アンカイ ホカガ……。  
沢山だと あれかい 他が……。

T トサッカガ トサッカガ ハエルツチュー コトワ イソガ  
鶏冠が 鶏冠が 生えるという ことは 磯が

アレルツチュー コトダオ。  
荒れるという ことだよ。

K アー アレンノカイ。

ああ 荒れるのかい。

S ホカノ カイソーガ コンダノ。

他の 海藻が 今度ほね。

T ハエナウ ナッチャウカラ。

生えなく になってしまうから。

K アー。

ああ。

T ホカノ カイソーガ ハエナイ。 ホンデ アノ アワビヤ

他の 海藻が 生えない。 それで あの 鮑は

アワビヤ カジメオ クツテル ワケダカラ ンデソノ カジメガ  
鮑は 搦布を 食っている わけだから 搦布が

ナウナッチャッテ トサッカガ ヘチャウダカラ。

なくなってしまうと 鶏冠が 生えてしまうのだから。

K アー ソーカ ( T ウン )

ああ そうか ( うん )

S ダカラ キョネンノ アワビアンカ ケバリ オッキートモ

だから 去年の 鮑なんか 貝ばかり 大きくても

ナカミガ チッサコーテサ。

中身が

K ハッハッハッ……。 (笑)

ほっほっほっ……。

S サッパリ リョガ ネダデオ。

さっぱり 魚が ないのだよ。

K ア アレネ アノ ケト アノ ナカミチューノワ ダイタイ

あ あれね あの 貝と あの 中身というのは だいたい

イッショニ オックユー ナンデネンカイ。  
一緒に 大きく なるのではないのかい。

S イエ ダカラ オックユー ナツテモサ ヤセチャウダデ コンダ  
いえ だから 大きく なってもさ 痩せてしまうのだ。こんど  
ノー……  
ねえ……

T ミガ エーヨー シツチョーニ ナツチャウダデ。  
身が 栄養 失調に なってしまうのだ。

K アー ソーカ。  
ああ そうか。

T エーヨ エーヨ エーヨシツチョーニ ナツチャツテサ。 ダカラ  
××××× 栄養 失調に なってしまってさ。 だから

オ オーキナ アワビダナート オモツテ ウチエ モツテ キタラ  
× 大きな 鮑だ。なあと 思って 家へ 持って きたら

モツテ キテ イレタラ<sup>(15)</sup> コー チーチャツコー ナツチャツテ  
持って きて 入れたら 小さく なってしまて

クワンネツテオー。  
食べられないうてよ。

K アッハ ナルホドネー。  
あッは なるほどね。

T ホンデ アイガ シラハマデワ サ アノ アワビブネオ オロ  
それで あれが 白浜では さあ の 鮑船を おろ

シテ ソノ サクエノ トコロノ アワビオ コー マ トツタ  
して その 境の ところの 鮑を こう ま 採った

ワケダデ。 トツタワ イッケン ソラ エーヨシツチョーダ  
わけた。 採ったのは よいけれど そら 栄養失調だ

モンダカラ ショーガネカラ ソノ アノ アワビオ コンダ  
ものだから どうしようもないので その あの 鮑を こんど

アノ モクノ アル トコエト モッテッテ ウッチャッタダテオ。  
あの モクの ある ところへ 持って行って 捨ててしまったのだよ。

(K ウンウン) ホシタラ ヤッパ カイフク シタッテオ。  
(うんうん) そしたら やはり 回復 したってよ。

(K ウンウン) オッキュー ナッタテオ。(K オー)  
(うんうん) 大きく なったってよ。(おう)

ホーットノ ハー アノー エーヨー シッコョーニ ナイトノー  
栄養失調に なるかね

アワビノ アノ ミセー テオ コー ツッコムト テガ スボズ  
鮑の 身に 手を こう 突っこむと 手が すぼす

ボッテ ヘーリダッチューカラ ウン ホッデノ ハーノ ユテルッ  
ぼって 入るんだっていうから うん そうするとね もうね 茹でる

チュート チーチャッコー ナッチャッテノ カンネッテ。ニガウテ。  
と 小さく なってしまつてね 食べられなかつたと。苦くて。

(K ホー) ウン。  
(ほう) うん。

K アンデ トサッカガ ホンナン フェタンカノー。  
なんで 鶏冠が そんなに 殖えたのかねえ。

T ンダカラ イソガ アレタカラダッペオ。 イソガ アレテ  
磯が 荒れたからだろうよ。 磯が 荒れて

ショガ ヒヤッケ センネンカイ。 ダッケン タカベワ イツタ  
潮が 冷たい せいではないのかい。 だけど 鱈<sup>(16)</sup>は よかつたん

ダッペヨナー。 タカベワ カンケガネ。 ハッハッハッ……  
だろうよなあ。 鱈は 関係がない。 ほっほっほ。……

カンケガ ネットダグン アンダグン シラネッケン ホカノ アンダ  
 関係が なかったのだから なんだか 知らないけど 他の あれだ  
 モンロー サカナアンカ ソノ カラキシ ホンダカラ アジワ  
 もの 魚 なんか からまし それだから 鱈は  
 イネシサ。 アト コザカナガ イッピースモ イネッペ。 ダカラ  
 いないし。 あと 小魚が 一匹も いないだろう。 だから  
 オンダカ ヘータイカラ ケツテ キタトキ アンダグンネカ アノ  
 私達が 兵隊から 帰って 来たとき あれでなかったか あの  
 メラゼカラ<sup>(17)</sup> アッチート イッコ サンメハギノ<sup>(18)</sup> アジツリデ  
 布良瀬から あっちへと 一向 三枚接ぎの 鱈釣りで  
 モッテ ベツタリ シチャッタッタデオー。 ホンダカラ ホノ  
 もって ベツタリ してしまったねえ。 それだから その  
 アジ~~xxxx~~ アジワ ハー イッピースモ イネダカラ アジツリンモンガ  
 鱈は もう 一匹も いないのだから 鱈釣りの者が  
 ハーナンギ シチャッタラテ。 ホンダカラ コンテ アンダッペオ  
 難儀 してしまっているよ。 それだから これで あれだろうよ  
 ヤッパリ ソーユー ソノー トサッカガ フェタッテユー コト  
 やはり そういう そのう 鶏冠が 殖えたっていう こと  
 ワ スイオンノ カイリユーノガ ワリノカ ア アルイワ マタ  
 は 水温の 海流のが 悪いのか があるいは また  
 コーガイ カンケイナノカノー ワケワカラネッケン。 コナイダノ  
 公害 関係なのかねえ 理由がわからないけど。 この間の  
 アンダデオ シンブン ミテタラ トーダイノ アノ サカナノ  
 あれだよ 新聞 見ていたら 東大の あの 魚の  
 ハカセノ アンデワ トーキョーワンワ マー モトドーリニ  
 博士の あれでは 東京湾は まあ 元通りに

モドッタ シッターノ (K アー アノ) スゲッタッタテノ。  
戻った といっているね ( ああ あのう ) すごかったってねえ。

K キレン ナッタチュウ ハナシダノ。  
きれいに なったという 話だねえ。

T ダカラ アサリモ マタ ハマグリモ オンモリ フェテ クンダッ  
だから 浅蜷も また 蛤も 沢山 殖えて くるんだ

ペ アンカ シッターケン ダケン ウメタテチマウカラ アンダッ  
ろう などと いったけど だけど 埋め立ててしまうから あれだ

ペオー フェベシッタッタテ アイガ ナウナッチマウベノ。  
ろうよ 殖えようとして あれが なくなってしまうだろねえ。

K デイヤッパイ アイカイ イサムサンナンカ アノ クミアイテ  
で やはり あれかい 勇さん ぽんか あの 組合で

トサカ ヤッテンノカイ。

鶏冠 やっているのかい。

S ダカラノ キョネンノ ミズアゲワノ。 エート トサカデ ニ<sup>xx</sup>  
だからね 去年の 水揚げはねえ。 ええと 鶏冠で

ニセンマンカイ トサカデ イチワリ テスーリョ モラッタ  
二千万 かい 鶏冠で 一割 手数料 もらった

ワケダデ (K ホーホー) トサカデ ニヒャク ニヒャクマン  
わけだで 鶏冠で 二百 二百万

ダデ。

だで。

T ダカラ キョネンノ アンダノ。  
だから 去年の あれだねえ。

S ダカラ キョネンノ トサカガ アンデ ネバ オメ クミアイワ  
だから 去年の 鶏冠が あれで なければあなた 組合は

チョット コマッ チャッタテ。 (K ハー)  
ちよっと 困ってしまったて。 (はあ)

T デ デ リョーホデ モッテ トサッカノ ブエガネ ヨンヒャク  
だから 両方で もって 鶏冠の 歩合が 四百  
ナンマンッテ イッテルベヨ。  
何万と いらしているだろうよ。

S ウン チョード オラホガ オラホト シショト オナジグレ  
うん ちよっと うちの方が うちの方と 支所と 同じ位  
アガッタカラサ。  
揚がってたからさ。

T ンダカラ ホ オ ア アンテ ジエーガ ヨンヒャク ヨンヒャク  
だから ほ お あれで 自営が 四百 四百  
マン。 サンビャク サンビャク キュージュ ナンマン キュー  
万。 三百 三百 九十何万 九

キューゴマンカ ヘッテッカンノー。 チョード アンテ アンダオ  
十五万か 入っているからねえ！ ちよっと あれで あれだよ  
トサッカノ リエキダケデ モッテ キューヒャクマンカラ  
鶏冠の 利益だけで もって 九百万から

イッテンノー。 ホシット リョーシノ ミズアゲガ キョネンワ  
いらしているねえ。 そうすると 漁師の 水揚げが 去年は

イクラダッタ イチオク イチオク イッセンマン グレシカ  
いくらだった。 一億 一億 一千万 ぐらいしか

イッテネットナ。 (S ホンナモンダ) イチオクイッセンマンダ  
いらなかったな。 (そんなものだ) 一億一千万だ

カラ ヨンブゴリン トッタッタテ ヨン ヨンブ ゴヒャク  
から 四分五厘 取ったって 四 四分 五百

マンダデヤ。 デ トサカッテ トサッカン モーケンホーガ  
万だよ。 で 鶏冠の 儲けの方が

オッキタオー。

大きかったよ。

K ホラ アニ アノ ホシ<sup>xxx</sup> ホスンカイ。 ホシテカイ ソレトモ  
ほら なに あの 乾 乾すのかい。 乾してかい それとも  
ナマンママ。  
生のまま。

S ナマンママ。  
生のまま。

K ナマンママ カッチャウ。 ンデ ダスノモ ナマンママデ ダシ  
生のまま 買ってしまふ。 で 出すのも 生のままて 出して  
チャウ。  
しまふ。

S エー ダカラ ナマデ ギョーシャニ ワタシチャッタテ。  
だから 生で 業者に 渡してしまたて。

K アー ギョーシャニ ワタシチャウ。  
ああ 業者に 渡してしまふ。

T ウーン ダカラ ギョーシャワ ホノ ナモノヤツオサ ショニ  
うん だから 業者は その 生のやつを 塩に  
シテ ホンデ エー ホレオ コー アノー アンダデオ ソノママ  
して それで ええ それを こう あのう あれだよ そのまま  
タルズメンシテ モッテ イッチャウダオ。  
樽詰めにして 持って 行ってしまふのだよ。

K アー ヤッパシ ショニ スル。  
ああ やはり 塩に する。



T ショニ スンダオ。

塩に するんだよ。

K アッ ショミズ イレル。

あ、塩水 入れる。

T ウン ダカラ <sup>xxx</sup>イチ イクラッ シッタカナー。 エー アンデ  
うん だから いち いくらと いったかなあ。 ええ あれで

サンバイカ イレンダッペ ショオナー。 (S ウン) エート  
何倍か 入れるんだろう 塩をねえ。 (うん) ええと

イクラッ シッテ オラ ケーテ アッ タッ ケンナー。 アンデモ  
いくらと いった 私は 書いて あったけどなあ。 なんでも

サンバイカ ヨンバイ イレンダッペヨナー。

三倍か 四倍 入れるんだろうねえ。

S ウン サンバイグレー イレンダヨ ウン。 アラ ホンデ アン  
うん 三倍ぐらい 入れるんだよ うん。 あれは それで あれ

ダヨ ケーヒ カガンネッペ (K へっへっ へっへっ)  
だよ 経費 かからないでしょう (へっへっ へっへっ)

ホントニ アラ ハカルダケン アレダカンネー。 ダッケン  
本当に あれは 計るだけの あれだからね。 だよけど

キョネン アレダッタヨ シッパイ シタノワネー アタラシク  
去年 あれたったよ 失敗 したのはねえ 新しく(買った)

クルマデノー ホレオ メラマデ ウンパン シタダデ ホンダ  
車でねえ それを 布良まで 運搬 したのはだか それだよ

モンデ ヤッパリ ホラ デ ショ オッカブセタッペ  
もので やはり そら で 塩が おっ被さったでしょう

クルマガ イチネンデ ダメン ナッチャッタ。 (K ハー)  
車が 一年で だめに なってしまった。 (はあ)

ダカラ コトシ ヤンダラ アンダオー クルマ アノ ホンコツン  
だから 今年 やるのなら あれだよ 車 あの ほんこつの  
クルマオ イチデー カッテ センヨーン クルマ ツカーネッチュー  
車を 一台 買って 専用にと 車 使わないという  
ト。  
と。

T ウーン ダメダワ。 ダカラ ヨシマツワ <sup>(19)</sup> アンダッテオー コノ  
うん だめだわ。 だから 由松は あれだつてよ この  
アイダ オートバイ イー アタラシ カッタモンダカラ ソノ  
あいた オートバイ 良い 新しい 買ったものだから その  
オートバイ ウッチマツテサ ホンデ ソノ ニマンエン グレデ  
オートバイ 売ってしまつてさ それで その ニ万円 位で  
モツテ チューブルノ ヤツオ カッテ キテヨー ホンデ ホレ  
もつて 中古の やつを 買って きてさ それで それ  
トサツカガ オワツタラ ウッチマウダテオ。 ウッチャウダテオ。  
鶏冠が 終つたら 売つてしまふんだつてよ。 捨ててしまふんだつてよ。  
ホーシネバ トテモ アノー オートバイン ゼニガ デテ コネ  
そうしないと とても あのう オートバイの 銭が 出てるこな  
シツタオー。

(19) いとつたよ。

S アノー トリー イグ ニンゲンモサ アノ ハマオ ハシルベー  
あのう 採りに 行く人達もさ 浜を 走るでしょう  
アノー ナミウチギワオ。  
あのう 波打ち際を。

K アー ソレカイ ブンチャガツタ ヤツオ トリー イグンカイ。  
ああ それかい 打ち上がった やつを 採りに 行くのかい。

(T エー トリー イグダテオ)  
ええ 採りに 行くのだよ)

- S ア ソソー モグリンネ ヒトワサ ミンナ モグレンネ ニンゲ  
あ そそう 潜りでない 人はさ みんな 潜れない 人達  
ンワ ブッチャガッタ ヤツオ ブッチャガル、チューカ ブッチャ  
は 打ち上がった やつを 打ち上がるというか 打ち上  
ガル スンゼンノオ マー ウミン ナカエ ヘッテッケン  
がる 寸前のを まあ 海の中へ 入っているけど  
ノー。 ダカラ ホレオ アノー ナミウチギワ ズート ミナガラ  
ねえ。 だから それを 波打ち際 ずうっと 見ながら  
イッテサ ホンデ マー イロガ カワッテ イルカラ ワカル  
行ってさ それで まあ 色が 変わって いるから わかる  
ワケダデア。 ダカラ ホノー ショニヨッテ キョーワ コッチ  
わけなんだよ。 だから そのう 潮によって きょうは こっち  
ヨッタ アシタワ アッチー ヨッタ チューカラサ ナミウチギ  
寄った あしたは あっちへ 寄った というからさ 波打ち際  
ワオ ヤッパイ カイマラネト ワカンネ ワケダデオ。  
を やはり 駆け回らないと わからない わけなんだよ。  
T ダガ キョネンワ モットモ カモン モンガモ ウリー キタ  
だけれど 去年は もっとも 加茂の 者が 売りに 来た  
リアンカ シタカラナー。 ニヒャク ナンゲンダン アッタデナー  
りなんか したからなあ。 二百 何軒 だが あったようだなあ  
イッカイナー。  
一回ねえ。  
M イサムサン トッタ コド アイカイ。 ネンカイ。  
勇さん 採った。 こと あるかい。 ないのかい。

S ネ。

ない。

M オンダラモ ホンナ モント エンガ ネカラ ホンナ モンアン  
私たちも そんな ものと 縁が ないから そんな ものなん  
カ ヨッテ クレネッテモ イーノー。  
か 寄って くれなくても いいねえ。

T マルガミアンカ シカカッチャッテラデ<sup>(22)</sup> ハッハッハッハッ (笑)  
丸上 なんか 仕掛かかってしまっているで ほっほっほ。

S イマ マルガミト ヤマダワ<sup>(23)</sup> オメ ハ……。 (笑)  
いま 丸上と 山田は あなた もう……。

M ヤマダサンワ マイデ ハバガ ホシタリ スイダノー モノガノー。  
山田さんは またく 乾したり 好きだねえ ものがねえ。

S スイダーノー ヤッパリノー。 ヤッパー アラ スイデ<sup>(24)</sup> ネバ  
好きだねえ やほりねえ。 やほり あれは 好きで なければ  
デキネヨ。

できないよ。

T ホラ ホダ。  
そら そうだ。

M オラ コドモン ジブンカラ ハマン ゴトアンカ ヤッタ ゴタ  
私は 子どもの 時分から 涙の ことなんか やった ことは  
ネカラ。

ないから。

S デモ アンダ ヤッタ ゴタネ ニンゲンデモノ イッカイ イッテ  
でも あれだ やった ことがない 人達でもね 一回 行って  
スイニ ナッチャウ ニンゲン イッカラノー。  
好きに なってしょう 人達 いるからねえ。

T ホラ ホダヨー。

それは そうだよ。

S オンダ<sup>(24)</sup> ミタイニ イッカイ イッテ ピリリ シチャウ ニンゲ  
私 みたいに 一回 行って ひりり してしまう 人間  
ンモ イルシサ ハッハッハッ……。 (笑)  
も いるしさ。 はっはっはっ……。

K ヤッパリ ハッケンカイ。  
やはり 冷たいのかい。

S ウーン ヤッパリ コンダヨ アレネー。  
うん やはり <sup>ん</sup>根 だよ あれねえ。

K アー アー。  
ああ ああ。

S イッテ イッテ アンダデア オッキー モン ワカメ ミテーナ  
行って 行って あれですよ 大きい 物 若布 みたいな  
オッキー モンダラサ (K ウンウン) スグ カゴデ イッペ  
大きい 物 ならさ すぐ 籠で 一杯  
グレー マー アレバノー トレンダン シラネッケン アーユー  
くらい まあ あればねえ 採れるかも 知らないけど ああいう  
ヨーナ チーチャッケヤツオ オメ コノ タメテ ヤンダッペー  
ような 小さなのを あんた この 溜めて やるでしょう。

T ピリリ シチャウナー。  
ひりり してしまうなあ。

S ホンデ ホノー チューゴシテ コーファン ヒロツテンダッペー。  
それで そのう 中腰で このように 捨てているでしょう。  
コシワ イタウ ナルシサ。  
腰は 痛く なるしさ。

T オンナドモワ アンダッチャデオ <sup>(25)</sup> ブッタラガッチャウッチャデオー。  
女達は あれだということだ ぶったらがってしまうということだよ。

ダカラ オトドモワ <sup>(26)</sup> アジョシテ <sup>(27)</sup> カナーネッタ ヒロウニワ。  
だから 男達は どうしても かなわないだ 捨うのには。

M オラ トシコトノ <sup>(26)</sup> キーゴロ <sup>(27)</sup> フタイガノ アンダ<sup>(28)</sup> ハウモンオ  
うちの とし子とね 久五郎 二人がね あれだ 履く物を  
カウダアンカシテ <sup>(28)</sup> キンノ アミイチニ デンワ カケテ イタ。  
買うのだなんかとって 昨日 網一に 電話 かけて いた。

S アンシタテ。  
なんにしても。

T オラ オラ トシコモ スイダカンナー。  
うちの とし子も 好きだからなあ。

S アラー ヤッパイ スキデノ コンノ コンノ ツエー ニンゲン  
あれは やっぱり 好きでね 根の 根の 強い 人間  
ニワ カナワネヨー。 ダカラ オトコアンカ ホラー アノ  
のには かなわないよ。 だから 男なんか ほらあ あの

アノ チョット ナウナイト ハー スグ ドッカニ ホカニ マタ  
あの ちょっと なくなると もう すぐ 何処かに 他所に また  
オッキー カタマリガ ネカト オモッテ マタ サガシー イッチ  
大きな 固まりが ないかと 思って また 捜しに 行って  
マウシサ。 ホノ サガシテ イル アイダニ ヤッパリ コンノ  
しまうし。 その 捜して いる あいだに やっぱり 根の  
ヒトアル ヒトワ ミンナ ホデ スコシズツ タメイカンノー。  
ある 人は みんな そこで 少しずつ 溜めるからねえ。

ケッキョク ホノ ヒトガ カチン ナッチャウダー。  
結局 その 人が 勝ちに なるのだよ。

T ダカラ アンダッテオ オンナドモワノ ナ ナミオ オトコドモ  
だから あれだってよ 女達ほね な 波を 男達

ワ ナミガキテ アッチムコオ ミナガラ ヒロウケン オンナ  
は 波が来て 向うを 見ながら 捨うけれど 女

ドモワノ ケツツンメチャウダッテオ ナミオ ケツンシチャウダッテ  
達ほね お尻を向けてしまうのだよ。 波を お尻の(方)にしようのだって。

ホンデ オカ ツンムテノホンデ ドンドン ヒロウテ インダ  
それで 岡を つん向いてね それで どんどん 捨って いるんだ

ッテ ブッタラガッチャッテ。 ホシット ワレワレ シロートワサ  
って ぶったらがってしまって。 そうすると われわれ 素人は

ムコカラ アソイ クンナ コイ クンナッテ ヒロウベ ヒロウ  
向うから あそこへ来るな ここへ 来るなといって 捨うだろ 捨お

ベ シッテルカラノー ナミ ガブン ガブンテ カブッチャウダッテ  
うとしているからね 波 がぶん がぶんと 被ってしまうのだ。

(K ハー) ソーユー トコワノ ヤッパリノ オンナン ホガノー  
はあ) そういう ところはね やほりね 女の 方がねえ

アジョシテン オンナノ ホニカナワネッテオ。  
どうしても 女の 方に かなわないうてよ。

K オー ホカノー。  
おう そうかねえ。

M ~~~~~ シテ クラッ シェ。  
して ください。

T コンデ アンダオカナー。 コンデ テンマデ テンマデ オレ  
これで なんだろかねえ。 これ で 伝馬船で 伝馬船で 私

トリー イコーカノー テンマデ ヘッヘッヘッ…… (笑)  
採りに 行こうかねえ 伝馬船で ヘッヘッヘッ……。

M イビェミ<sup>(29)</sup> ヤローカヨー アンカチューカラノ。  
海老網 やろうかよう なんかというからね。

S テンマデワ ヤッパリ アンダッペオー。  
伝馬船では やはり あれだろうよ。

M アイハマヘ<sup>(30)</sup> キテカラ エビヤミ ヤッタラ イッペ イッペッテ  
相浜へ 来てから 海老網 やったら いいだろう いいだろうって  
イッカイ ヤッタ コトガ アイダヤー。 ホシタラ アサデ  
一回 やった ことが あるのだよ。 そしたら 朝  
ハ ャッコーテ ャッコーテ<sup>(31)</sup> オー トンデモネー トテモデネガ。  
冷たくて 冷たくて おう とんでもない とてもでないが。

T オー テガ カジカンジャッテ イッコ オラノー オ テブクロ  
おう 手が かじかんでしまって 一向 私ほね お 手袋  
ハメテモアンデンノー ゴムン テブクロデ アンデモ アンダオー  
はめても なんでもね ゴムの 手袋で なんでも なんだよ  
タイガイ ャッコーテノ シブレチャウダモノ。 オー ハー  
たいがい 冷たくてね しびれてしまうのだもの。 おう もう  
ピリリ シチマッテ イチンチダン フツカ カイタナー。  
ひりり してしまって 一日 だか 二日 掛けたなあ。

ホンテ マタノー アノ テンマエ ノッテ アノ テンマノ  
それで またね あの 伝馬へ 乗って あの 伝馬の  
ユレカタガ<sup>(32)</sup> チガウダデ。 ヒョコ ヒョコ ヒョコ ヒョコ  
揺れ方が ちがうのだ。 ひょこ ひょこ ひょこ ひょこ

ユレテベ。 エー チョード コシガ タタネダデ<sup>(33)</sup> デメンキョン  
揺れているだろう。 え ちょうど 腰が 立たないのだ 伝衛門隠居  
ジーサマガ アンダタテオ コシガ イッコ タタネアデ<sup>(33)</sup> ハッハッ  
爺さんが どうしたのだからよ 腰が 一向 立たないやで はっはっ



ハッ…… (笑)

ほ、……。

S ゴガツ ロクガツダバ イッケン イマン ウチデワ チョード  
五月 六月ならば よいのだが いまの うちでは ちょうど  
アンデ アンダオー。  
あれで あれたよ。

T イマン ウチデワ アンダワ ウミン ショーベワ オイネヤ  
いまの うちでは あれたよ 海の 商売は いけないや  
サバダケダ モンナー イーノワナー。  
鯖 だけだ ものなあ いいのは。

S マテンマオ ヤッタッテ オメラ アンダッペヨ ホンノ ヨドミ  
ま 伝馬を やったって あんたら あれたろうよ ほんの 澁み  
ダケシカ ヤランネッペオ。  
だけしか やられないだろうよ。

T ホラ ホダヨ。 ホラノ ホラ アンダヨ イカリ ヤッテタデワサ  
そら そうだよ。 それはね それは あれたよ 錨 やっていたのではさ  
オイネシ チョード キカイ コーシテ ヤッテレバ フックイル  
いけないし ちょうど 機械 こうして やっていれば 引っ掛ける  
マガネシノー。 マー イー ナギデモッテ アンダッペサ  
間がないしねえ。 まあ よい 風でもって あれたろうさ  
サンメハギアンカデモッテ コウ アレ シテレバノ ダラ  
三枚接ぎ なんかでもって こう あれ していればね それなら  
チョットワ フッカケラレイケン マー ワレワレミテーナ シロー  
ちよとは 引っ掛けられるけど まあ われわれ みたいな 素人  
トガ イッタッテ ダメダ。  
が 行っても だめだ。

K アンデ フッカエンダカイ。 アノ ヤッパリ コーユーフン。  
なんで 引、掛けるのだから。 やはり こういうふうには。

S ウン フッカインノ。  
うん 引、掛けるねえ。

K ワカメ トッタ ヤツミテーナ。  
若布 採った やつみたいなの。

S ウン アーユー ミ<sub>x</sub> サオノ ミジケー ヤツデショ。  
うん ああいう 竿の 短い やつでしょ。

K ソソデワ ツルツル スベッチャーネカノー。  
それでは つるつる すべってしまわないかねえ。

S ウーン ヤッパリ フッカガッテ クラデヤ。 アノ アルテード  
ううん やっぱり 引、掛かるとくるでしょ。 あの あるていど  
イトガ ハッテ アルカラサ。  
糸が 張って あるから。

T ダカラ ミナトガ アン<sub>x</sub> ナカデアンカ トッテ イテモ ホントノ  
だから 港の 中でなんか 採って いても 本当の  
タンセーダモンナー。  
丹精だものなあ。

S ンデ<sup>ナ</sup> ホラ フッカガル シテモ アンダカラサ イッカイ コー  
で そら 引、掛かる といつても あれだからさ。 一回 こう

シテ ミンナ モクモ アンモカンモ ゼンブ フキアゲラセル  
して みんな モクも なんもかも 全部 引き上げらせる

ワケダデ。 ホンデ<sup>ナ</sup> マタ アンノ ヤツワ チチャッケカラ オチチャウ  
わけだ。 それでまたあれの やつは 小さいから 落ちてしま

カラ テデ<sup>ナ</sup> ヒロッテワケヨ。 ウキアガラワセテサ (K アーアー)  
から 手で 拾っているわけよ。 浮き上がらせて (ああああ)

ホンデ テデ コンド ヒロウダデ  
それで 手で こんど 捨うのだよ。

T シンデ トサカダケ トッテ ホカンモン ザツブツワ ミンナ  
で 鶏冠だけ 採って 他の物 雑物は みんな  
ウッチャチャウダデ。  
捨ててしまうのだよ。

K ウンウン アーソーカ。  
うんうん ああそうか。

T ダカラ アソン アンダンネカオー ヒョーゼミドンノ ジサンガ  
だから あそこの あれでないかよう。 兵左衛門 どんの 爺さんが

ヨー アレデモッテ マー ヨー アイネ モンダナートモッテ  
よく あれでもって まあ よく 厭ない ものだなあと思って

カンゲーラデヨー。 イチンチジュー ミナトン ナカデモッテ  
考えているのだよ。 一日中 港の 中でもって

コシコシ コシコシ ヤッテワ アガ アンダデ クツーテ クン  
こしこし こしこし やっては あれが あれたよ くっついて くる

ノワ タマニシカ ネヤデヨ。 アンデ マー アサデカラ バン  
のは たまにしか ないのね。 あれで まあ 朝から 晩

ゲマデ アーシテ ヤッテンダモノヨ アノ コーガ マネワ  
まで ああして やってるんだものよ。 あの 真似は

デキネヤ トテモ。  
できないや とても。

K シンデ ヒロー ヒトデ アンデ イクラグレン ナッテルカイ。  
で 捨う 人で あれで いくらぐらいに なっているかい。

S アノ オンナタチデ イ イチンチ イ  
あの 女達で  
xx xxxxxx xx

- K アー イチンチデ。  
 ああ 一日で。
- S イチンチデカイ。 イチンチデ アンデ サイコー ニマングレン  
 一日でかい。 一日で あれで 最高 二万くらいに  
 ナッタ ヒトガ インイベ アンデノー。  
 なった 人が いるだろう あれでねえ。
- T ウン オラ トシコラガ アンダッペオー ツトメー イクメ  
 うん うちの としこらが あれたらうよ 勤めに 行く前  
 アサ アサデ イッテ コノメー ナナセンエンカ ハッセンエン  
 朝 朝 行って この前 七千円か 八千円  
 グレン ナッタデネカイ。  
 くらいになつたのではないかな。
- K ナンジカングレデ。  
 何時間くらいで。
- T イチジカンカ ソコイラデ。  
 一時間 そこいらで。
- K アー ソー  
 ああ そう。
- T ウーン アソノー コメヤンガガ ~~コメヤンガガ~~ アノ アソコエ  
 うん あそこの 米屋の者が 米屋の者が あの あそこへ  
 スイサンジムショニ カヨッテンダケンノ アサデ シッキンメニ  
 水産事務所に 通っているんだけどね 朝 出勤前に  
 イッテサ ナナセンエンニ ナッタ シッタオ。  
 行ってさ 七千円に なつた といったよ。
- K フーン。  
 ふうん。

M オラ トシコモ スイダヨー。

うちのとしこも 好きだよ。

T オラ トシコモ ヤセッポッチダケン スイダヨー。

うちのとしこも 痩せっぽっちだけど 好きだよ。

S ダケン マー アンダヨ アラー ダカラー チョット アガレバ

だけど まあ あれだよ あれは だから ちょっと 揚がれば

イーショーベダダノー。 トルニンゲンモヨー。

よい商売なのだねえ。 採るものもねえ。

M ホス テマガ カカラネカンノー。

乾す 手間が かからないからねえ。

S ナマデ ホラ スグ ウラレルカウサ。 ワカメン アンカン

生で ほら すぐ 売られるからさ。 若布 なんかの

バアイニワ ホラ ナマデ ホンナニ カイテガ イネカラ

場合には ほら 生で そんなに 買手が いないから

イチオー モッテ キテワ ジブンデ ホサネバ オイネッペ。

一応 持って 来ては 自分で 乾さなければいけないでしよ。

エライ テマガ カカル コンドワ。 ダカラ シッキンジカン

大変 手間が かかる こんどは。 だから 出勤時間

イッタシッタテ オメー コンダー ケッテ キテ ダゲニン

行ったとしても あんた こんどは 帰って 来て だれかに

マカセテ イガネバ オイネッペ。

まかせて 行かなければ いけないでしよ。

(K ウン ウン)  
うん うん

アラー オメ ハー ウッチマエバ スグ。

あれは あんた 売ってしまえば すぐ。

## 注

- (1) 九州の天草。
- (2) 五和町・漁業協同組合。
- (3) 潜水夫。
- (4) 人名。
- (5) 一せきの船。
- (6) 三共丸（船名）。
- (7) 家号。
- (8) 水深 13 M。
- (9) 人名。
- (10) 億次郎（人名）の通称。
- (11) 人名。
- (12) 水揚げされたものを処理する作業員。
- (13) 漁場の調査に行った。
- (14) 千葉県館山市州の崎地区。
- (15) 煮物鍋に入れて、煮たら。
- (16) 布良瀬で非常によく採れる。
- (17) 瀬（海の浅いところ）の名。館山市と白浜町の境（通称トツオの浜）から伊豆大島に向ってのびている一の瀬と馬瀬から同じく伊豆大島に向ってのびている二の瀬とをひくくめてこう呼ぶ。
- (18) 三枚の板を接ぎ合わせたの意味から、一人乗りの漁船。
- (19) 人名。
- (20) 鶏冠などの海藻のために海の色が変わって見える。
- (21) 千葉県館山市犬石の加茂地区。
- (22) 人名。
- (23) 人名。
- (24) こりる。
- (25) 手足を伸ばして腰を下し疲れ切った状態になるという意。
- (26) 武田由蔵氏の義妹。

(27) 家号。

(28) 館山の漁具店。

(29) 伊勢海老網のこと。

(30) 嫁に來てからの意。

(31) 武田氏は平素大型船に乗っているので。

(32) 家号。

(33) 爺さんが、腰の立たない武田氏の姿を見て、「どうしたのだ」と心配  
とも冷やかしくもつかぬ言い方をしたものだらう。

(34) 澁みにたった鶏冠しか採れないだらうよ。

(35) 家号。

(36) 家号。

# V. 静岡県<sup>しずおか</sup>静岡市<sup>きた</sup>北

収録・文字化担当者 日 野 資 純



- 1 地点名 静岡県静岡市北
- 2 タイトル 水害の話など  
 1. 大正の豪雨と昭和49年の七夕豪雨  
 2. 過去の地震と、将来の地震の可能性  
 3. 麻機・静岡の方言  
 4. 弓の話題
- 3 録音年月日 昭和52年3月16日
- 4 録音場所 静岡市北 海野氏宅
- 5 話し手
- |   |       |     |          |       |
|---|-------|-----|----------|-------|
| A | 海野 重市 | (男) | 明治31年生まれ | 農業    |
| B | 大門 康男 | (男) | 昭和14年生まれ | 農業    |
| C | 海野 歳男 | (男) | 昭和5年生まれ  | 自動車販売 |
- 6 録音環境  
 老年層の男性(A)と、若年層(B・C)を含む3人の話者の会話。Aの話をもB, Cが聞き出すような形を主として、会話は比較的スムーズに運んだ。
- 7 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては、『方言談話資料(5)』を参照。

# 水害の話など

話し手

| (略号) | (氏名)            | (性) | (生 年)    |
|------|-----------------|-----|----------|
| A    | ウンノシゲイチ<br>海野重市 | 男   | 明治31年生まれ |
| B    | ダイモンヤスオ<br>大門康男 | 男   | 昭和14年生まれ |
| C    | ウンノアキオ<br>海野晟男  | 男   | 昭和5年生まれ  |

## 1. 大正の豪雨と昭和49年の七夕豪雨

- A アサバタカイドーガノー (C ンー.) ソレヨカ <sup>(1)</sup>ズーット  
麻機 街道 がね うん. それより ずっと(長い間)
- トーラレネーデ エレ. (C ンー.) ソエダモンダンデアレ  
通れないんてよ ねえ. うん. それで
- アノ ガッ コーントッカラナ アレマデ フネデ カヨッタ.  
あの 学校の所からな あそこまで 船で 通った.
- B ア
- C フネデ……. ホー.  
船で……. ほう.
- A ソレ タイショ ーナンネンニ ナルカナ. (C ンー.) ンー  
それは 大正 何年に なるかな. うん

アノトキワ (C ン.) ヨク キオクワ ネーケンノー.

あの時は よく 記憶は ないがねえ.

(B, C ン.) アレワ ホントニ イマデモ ナンデーノー

あの大正の豪雨は 本当に 今でも

オビエルクライナダッケナ. ~~~~~

おびえるくらいな(大変なもの)だったな.

B アー

C ン. コナイダノ アノー ナナテンナナト ドーダカナ. (2)

うん. この間の 7月7日の豪雨と(比べて) どうか.

(B ン.) ナナテンナナノ コーズイト. (B ン. アノー)

7月7日の 洪水と(比べて).

アレヨカ マダ マダ アレダッタノカ.

あれより または ひどかったのか.

A ヨースルニサ アノ ドーユンダローナ ソノ フル ソノ

要するにさ 降る

ニッスーガ イクンチモダ. (B アー.) アノコロワ イッシュー

日数が 数日も(続いたの)だ. あのころは 一週

カンクレー フッタエショ. (B ホー.) エ ソエダモンデ ソノ

間 くらい 降ったでしょう. それだから

コロワ ダケドマー トモエガワノ カイシューガ デキテイナイ (3)

だけどまあ 巴川の 改修が できていない

モンダデ……. (C ン.) ナオ ソノ…….

もので(大変だった). なお その…….

C ン ナオ イカッタ…….

なお 水が多く出た…….

A イカッタデ……、(C ンー.) ソーシテ ソンダ<sup>(4)</sup>ンデノ アゲツチワ  
 水が多く出たよ……。 そうして そのために 上土は  
 ホー エー ミズノナカエ……。 水の中へ……。

C ンー ナツチャッタワケダ。  
 つかってしまったわけだ。

A コッチカラ アノ フネデモッテ アレダヨ ムスビオ ハコンダ  
 こちらから 船で 握り飯を 運んだ  
 ワケダ。(C ホー ンー.) ンー. アゲツチンノー。(C ンー.)  
 わけた。 上土になあ。

コンダ (C ンー.) ユカエ オリタトコロ ホー ソラ シタノ  
 このごろは (意味不明) 下の

ホーデ カイシューガ デキテキタッテノー ソノトージワ  
 方で 改修工事が できてきた(からよいが) その 当時は

カイシューガ ネーダモンダデナ シタノホーカラ ツカエテタモ  
 改修工事が ないものでな、 下の方から (水が)つかえていた

ンダ<sup>(4)</sup>ンデ……。 (C ンー.)  
 もので……。

B ンー ナルホド (A ンー) ンー。

C カイシュー コージワ ヘジャー タ、タイショーノ……。  
 改修工事(をやったの)は それでは 大正の……。

A ソノゴダヨナ。  
 その後だよな。

C タイショーズラナ。(A ンー.) タイショーノ コロダナ。 ンー。  
 大正だろうな。 大正のころだな。

B ナルホドナー。  
なるほどなあ。

A アー。  
ああ。

C ホレデ<sup>テ</sup> ホー コナイダノ マタ アレズラ コーチセーリノ  
それで この間の また あれでしょう 耕地整理の  
ゼンゴデ<sup>テ</sup> モーイッペン ホッテ アノー カイシュー ヤッタワケ  
前後で もう一度 掘って 改修を やったわけ  
ですナ。 シー。  
ですな。

B シー。

A アノ ヨシダガワガ チョード (C シー.) ナンデーノ オー  
(大正の水害時には)吉田川が ちようど

アレ セナガワノ アスコントコエ (B シー.) コー ソレコ  
瀬名川の あそこへ それこそ

サー セリニナッテ アー キタモンナ。 (B, C シー.)  
まとまって押し寄せた きたものな。

ソエダモンダ<sup>ン</sup>デ<sup>テ</sup> ホー (B シー.) アレカラ シタガ (B シー.)  
それだから あそこから Fが

ハケナイモンダ<sup>テ</sup> (B ナルホド) ケツキョク コッチー  
(水が)はけなないために 結局 こちら側へ

アガッ<sup>テ</sup>チャッタモンダ<sup>ナ</sup>。 (C シー.) (B へー.) アントージワ  
あがってしまったものな。 あの当時は

ナンデ ソノ アメノフルバアイ タントク<sup>テ</sup> ネーダ<sup>ナ</sup>。  
雨の 降る場合 単独で(その時だけで) ないんだな。

アントキワ マー イッシューカンモ (B ンー.) マー フツタエショー.  
あの時は 一週間も (続けて)降ったでしょう.

(B ンー.) コンド タナバタタイフーノバアイ イチゲァーニ  
今度の(三年前の)七月の台風の場合 一度に

キタダモンダンデナー. (B ンー.) アー. (B ンー. ソーテスナー.)  
(水が)来た=ためにな...

C ダカラ テァーテァーカラ ソノネー アノー アソコノ ヌマツテ  
だから 大体において あそこの 沼と

ユー アサバタヌマツテユーカサー (B オー) コノ ココラヘンノ  
いなか 麻機沼といなか. (あそこで) この辺の

ミズガ ゼンブデタヤツオ アソケー イッペン タメテ (B ンー.)  
水が 全部 出たのを 麻機沼へ 一度 貯めて

ソイデ シゼンニ ソノ ジワジワジワジワ (B ンー.)  
それで 自然に じわじわ じわじわ

トモエガワデ コノ ナゲァーテクト コー コーユー ソノ  
巴川を通して 流して行く, とういう(役目のある)

イケオサ..... (A, B ンー.) ソレオ リューツーセンターヤラ  
池(つまり上の「麻機沼」)をさ. 流通センターヤ

ナンヤラデモツテ ドカドカドカドカ ウメチャツタ モンダンデ.....  
何か(を作るために) どんどん 埋めてしまったもので.....

B ソー ソー ソー. .....  
そう そう そう.

C ソエダンテ ケツキョク アーユー (B ンー.) ナナテンナナ  
それで 結局 ああいう 7月7日(豪雨)

ミタイナ (B ンー.) イケァー アレダナ スイガイン  
みたいな 大きな 水害が

デキチャウダ。 (A ンー。) ンデ アレ ヤッパ テンサイモ  
できてしまうのだ。 だから あれば やっぱり 天災も

アルダケカ ジンサイトユーコトモ (A アー。) ジンサイッテ  
あるけれども 人災ということも 人災という

コトモ エカゲン カンガエラレル モンダイダナ。  
ことも 相当 考えられる 問題 だ。

B ソーダナ。 ンー。  
そうだな。 うん。

A アーマタ アノ ホラ (B ソーダナ) ハイスイノ ホーメ  
また ほう (B そうだな) 排水の 方面  
ンガ ナンダエノ ワルイダ モンテ……。  
が 悪いもので……。

B トージ シゲチャン アレカヤ ソノー タイショーノネ (A ンー.)  
当時 重ちゃん 大正の

ソノ ゴウデ マー ソーユーファーニ イカッタッテ ユー  
豪雨で 水につかたという 水につかたという

トキニワ ヤッパ コノ アサバタノヤマノミカン ヤマノ  
時には やっぱり 麻機 の山のミカン —— 山の

ジョータイワ イマノヨーニ コーユーファーナ ゼンゼン コノ  
状態は 今のようにな 今のように こういうふうな 全部が

ミカンエンニ ナッテ イタダ。  
ミカン園に なくて いたかね。

A ソーダネ ヤッパリ イマヨリヤー ショクリンガ (B ンー.)  
そうだね やっぱり 今よりは 植林が

ケッキョク オーイデノ…… (B ウン ソーダナ) ソノ  
結局 多いからね…… うん そうだな その

カーリ マー アレデ ショーワニ ナッテカラダナ ムヤミニ  
代わり まあ 昭和に なってからのな 妙に

オカシク ~~~~~ タナーサ. アー.  
不都合に なったのはさ. ああ.

B ハーハー ナルホドナ. ンー マー ソーシテミリヤー マー  
なるほどな. そうしてみれば

ソノ チスイト ユーテンノ アレダヨナー アノー ケツキョク  
治水と いう点の, 結局

カイコンガ ススンダカラ ミズガ テッポーミズガ デタトカッ  
開墾が 進んだために 水が 鉄砲水が 出たとか

テユーコトワ ソーワ カンケーワ ネーヤナー. (A ンー.) ンー.  
いうことは それほど 関係は ないよなあ.

A アー ドッチオシテモ<sup>(5)</sup> ソノコロワ イマトチガッテ コンダノ  
うん. どちらにしても そのころは 今と違って、今度の

ミズトワ チガッテ イクンチモフツタトオモードンテナー.  
出水とは 違って 幾日も(続いて)降ったと思うからなあ.

(B, C ンー. ンー) ゴーウガ. アー ソイデ ハイリキレネー  
豪雨が. それで (水が)(水路に)入りきれ

モンダンテナ (C ンー.) ソイデ ソノ ハイスイロ ~~~~~  
ないためには それで 排水路,

ハイスイガ ワルイダモンダンテナ……. (B ンー.) イクンチモ  
排水が 悪いために……. 幾日も

イカッタ ワケダ. (B, C ンー.) イマンナラバ <sup>(6)</sup> イッケー  
(たまっている) わけた. 今なら 一回

ザットフツテモ フツカモ タチャー ~~~~~.  
ざっと 降っても 二日も 降れば (水が引く.)



C ヒーチャウダ シー.

引いてしまうよ うん.

B コナイダノ ゴーウ ケッキョク ゴジューネンブリグライッテユー  
この間の 豪雨は 結局 50年ぶりぐらいという

カンジノヤツダッタナ。 タイショー ナンネンダツケ (A ア  
感じのものだったな。 大正何年だったけ。

ソーダツケノ。 ) ワカンナイク タイショー…….

わからない? 大正…….

A ワシラン ジューロクグライノトキダント マー ゴジューネン…….  
わしらが 16ぐらいの時だから まあ 50年…….

C ゴジューネンナー アー.

50年なあ、 ああ.

## 2. 過去の地震と、将来の地震の可能性

B ナンデモ ソダケド サイカイッテナー コノー ワスレタコロニ  
何でも それだけど 災害というのほ 忘れたころに

クルッテユーケーガ……. (C ソーダ.) ネー コー ワリアイ  
来るといふが……. ( そうだ.) わりあい

カコノデーターナンカオ キーテミルトユート シューキッテノウ  
過去のデーターなどを 聞いてみると 周期というのほ

アルヨーダヨナ. (A シー.) ナンネンカ タツト クルッテ  
あるようだよな。 何年か たつと 来ると

ユーヨーナ. エー アノー アレカヤー ジシンガ クルクル  
いふような。 地震が 来る来る

ナンテ サワガレテルケドサ……、 (A ンー。) カントーダイシ  
などと 騒がれているけれどさ……。 関東大震

ンサイノトキニワ <sup>(7)</sup> コノヘンモ ソートー ユレタツケダヨナー。  
災の時には この辺も 相当 揺れたんだよなあ。

A ユレタモ アー。 アー アレ ナンネンダツケ。  
揺れたとも。 あれば 何年だったけ？

C タイショージューニネン……。  
大正 12年……。

A ジューニネンカ。  
12年か。

C ジューニネングライダ。 ダツテ (A ンー。) アノー オタクノ  
12年ぐらいだ。 だって お宅の

(A ソノコロダ) テツローサンガ ウマレタ トキダツテ……。  
哲郎さんが 生まれた 時だと(いうから)……。

(A ソーダ ソーダ ンマレタ) クガツ クガツ……。  
9月, 9月……。

A シンサイチューニ ウマレタツケダヨ。(笑)  
震災中に 生まれたんだよ。

C アノ リュージサンノ ソーリョーガサ……。 (A ハー ハー。)  
あの 龍次さんの 総領 さま……。

アノー チョード テツローサンテヒト マー コレ コノヒト  
ちょうど 哲郎さんという人 これ この人(は)

ワカクテ <sup>(8)</sup> ナクナツタダケーガ チョード ウマレタトキニ  
若くて 亡くなったんだが、 ちょうど 生まれた時に

カントーダイシンサイ……。 タシカ タイショージューニネン (A ホー)  
関東大震災……。 たしか 大正 12年

ジャーネーカナ。 (A アー.) ンー。 ンー。  
ではないかな。

B ソエダケーガナー ソノー イマ キーテミルト ゴジューネンマエニ  
それだけだな、 今 聞いてみると 50年前に

コナイダノ ゴーウノヨーナ (C ンー.) ゴーウガ アッタッテ  
この間の 豪雨のような 豪雨が あったと

ユーコトーキクトサ ドーモ スル スルガワンジシンダナンテ  
いうことを 聞くとさ、 どうも <sup>xxxxxx</sup> 駿河湾地震だなどと (人が)

ユッテルケーガ ジシンモ ワカンネーナー。  
言ってるが 地震も わからないなあ。

C ワカンネーナ。 クル クルカモシンネーナ。  
わからないな。 来るかもしれないな。

A コトニヨルッテート ソケー イクカモシンネー。 (C ホー.)  
ことによると そこへ 行く(起る)かもしれない。

ダイタイガ アンセーノダイジシン ナントカ アッタワケダナ。  
大体が 安政の大地震 などが あったわけだな。

(C オーオー.) ソレカラ チョード ナンズラ アー ショーフ  
それから ちょうど なんだろう 昭和

メージノ (B ンー.) ゴジューネン (B ンー.) マー ヤク  
明治の 50年、 まあ 約

ゴジューネンソコソコダエナー (B ンー ンー.) <sup>xx</sup>ゴジューネン  
50年ぐらいだよなあ、 50年

ノヨーカナ アンセーカラ……。 (B ンー ンー.) アノー タイショーノ  
以上かな 安政から……。 大正の

オージシンマデ……。 (B ンー.) ナー。 ソコエイクト ヒャー  
大地震まで……。 まあ。 もう

ボツボツ マー クルトキダカモシンネー。  
ほつほつ 来る時かもしれない。

B ソーダカモワカンネーナー。  
そうかもしれないなあ。

A オオー ネンキガナー。  
ああ 年まわりがなあ。

B ナンシロ アノー コンド アレダ。 アノー ルーマニヤノホーサ  
なにしろ 今度 ルーマニヤの方さ、

エー コノマエ トルコダツケカ。(C ンー。) コー セカイノ  
この前(ほ)トルコだったか。 世界の

(10)  
カクチデ<sup>(10)</sup> イケァー ジシンカ<sup>o</sup> オキテルダヨナー。  
各地で 大きい地震が 起きているんだなあ。

C オキテルダナ。  
起きているんだな。

B ンー ホイデ アレダヨナー アノー マー ガクシャカ<sup>o</sup> ヨソク  
それで 学者が 予測

シテ ヨソクシタカラッテユート アレダケーガ ソンナ アノー  
して、予測したから(起こると)いうと 問題かもしれないが そんな

ゴーウカ<sup>o</sup> ゴジューネンマエデ ヘデ カントーダイシンサイモ  
豪雨が、50年前で それで 関東大震災も

ヤク ゴジューネンマエダヨナー。(C ンー。) ソンナトコカラ  
約 50年前 だなあ。 そんなところから

イクト ワリアイ モシカシタラ モシカンナツチャウカモシレネーナー  
考えると わりあい もしかしたら 来ってしまうかもしれないなあ

オー。

おお。

C タカマツノ一<sup>(11)</sup>ジシンガ イツゴロダツタツケ。 アレンナー  
 高松の 地震が いつごろだったっけ。 あれがな、  
 タシカナ タイショーノナ タイショーテナイ ショーワダナ。  
 たしかな、大正のな、(いや)大正でない、昭和たな。  
 (B ンー。) ショーワノ ジュー ジューネン ジューネンゴロジャ  
 昭和の xxxxxx xxxxxxxxxxxxxxxx 10年ごろでは  
 ネー ネーカナ。  
 ないかな。

A ホーカモシレネーナ。  
 そうかもしれないな。

C ンー。 ジューネンゴロジャネーカナ。 アレ モー トージ  
 うん。 10年ごろではないかな。 あれは もう 当時  
 タカマツワ モー エライメニ アツタダヨナー アノトキ……。  
 高松は ひとい目に あったんだよねあ、あの時……。  
 (A ンー。) ンー。

B ソノ カントーダイシンサイノ トキニャー コノ ソレコソ  
 その 関東大震災の 時には  
 シゲチャンチノ ウチアタリ ナンカモ ソートー ユレタツケク  
 重ちゃんの 家なども 相当 揺れたかほ。  
 ウチ……。  
 家(が)……。

A ユレタ ユレタ。  
 揺れた= 揺れた。

B アー イタムホドニャー (A イチ) イカネーツケク  
 いたむほどには いかねかつた？

(A オー.) イタムホドニャー イカネーツケダク  
いたむほどには いかねかつた?

A イタムホドニャー イカネーツケノー。(B ンー.) アレヨリ  
いたむほどには いかねかつたなめ。 あれより

ソノ ナンダヨ ウチンノ コー ズーット マキガキデンノー。  
私の家のほ ズーっと 横垣でなめ。

(B ンー.) ニケングラァー (B オー.) イケァー マキガキデ  
二間 ぐらい 大きな 横垣で

ズーット カコマレテタデー。(B オー.) ソレデナ (B オー.)  
ズーっと 囲まれていたよ。 それでな、

コーナッチャウノー。(B オー.) ソレデ アノ (B ンー.)  
家が大きく揺れてしまうの。 それで

ソレデ ワシノ カナイワ イマニモ オサンオ シソーナッテユー  
それで 私の 妻は 今にも お産を しそうだといい

トコデ~~~~~ (B, C 笑) サンバサンガ ツイテル。  
場合で 産婆さんが ついている。

(B オー オー ホー.) ンー。 ソーユーコトダモンダッテ  
そういう事情なので

シカタンネァー アケツピロゲテナ……。 (B オー.) ソシテ  
仕方がない 開け広げてな……。 そして

ソノー ミンナシテ (笑) ソケーラカラナ ソトーミテルトナ……  
皆で その辺から 外を見ているとなめ、

(B ホー.) コーナッテ クルタンビニナ……。 (B オー. ホー.)  
こうなって(揺れて)くるたうにはな……。

マツタク ナンダッケヨ。(B オー.) スゲーツケヨ。  
全く すごかつたよ。

B スゲーナー ホー。  
すじいなあ ほう。

C ~~~~~

A ヤマガ…… ヤマガ ナンデナ ジナリンナー ホー ナンテ  
山が 地鳴りがなあ ほう… などと

ユーカラ……。 (B オー.) ~~~~~ チョード ヤッパリ ヤマガ  
いうから……。 ちょうど やっぱり 山が

モー ナ ナリ ナリヒビ〜テクルトナ (C ンー.) ヤッパリ  
xx xx xx 鳴りひびいてくるとな, やっぱり

ズーット コー ナンタデーナ オンナジジャーネー. ヤッパリ  
ずーっと 同じ状態ではない. やっぱり

コー ナミオ ウッテ クルダヤー. (B オー.) ンー。  
(地面が) 波を 打って(山津波として)くるんだよ。

C ダケーガ ソノナ ムカシッカラ ソノー エレアー アノー  
たけど 昔から 偉い

イジントカ (A ンー.) ホイカラ リッパナ ニンゲンガ  
偉人とか それから リッぱな 人間が

(A ンー.) ウマレルトキャー カナラズ ソーユー ンー  
生まれる時は 必ず そういう

(A ンー.) ジシンヤナニカノトキニ (A ンー.) ウマレタコドモッテ  
地震や何かの時に 生まれ=子供と

ノワ モノスゲー オーモノニ ナル ナルダッテサー。  
xxx いうのは ものすげえ 大物に なるそうだよ。

(A ホー ホー ホー.) ダケーガ マー キノドクニ  
たけど まあ(その時生まれ=人)気の毒に

ワカクシテサ (B ンー.) アノー ジューゴプレーダツケネ…….  
若くて 15 ぐらいだよ…….

ジューゴロクテショー…….  
15 か 16 でしょう…….

A ジューロク…….  
16 …….

C ジューゴロクテ マー ナクナツチャツタケトサ カエーソーニ…….  
15 か 16 で 亡くなってしまったけどさ、かわいそうに…….

ソイデ イキテリヤー タイシタモンデーナ。(笑) ソーユートキニ  
それで(今)生きていれば 大したものだね。 そういう時は

ウマレタニンゲンテナー オーモノニナルダツテサ ンー。  
生まれた人間というのほ 大物に なるそうだよ。

B ナンシロ アレダネ アノー アレダヨナー サイガイッテノワ  
何しろ 災害というのほ

フロント コー ヒトツノ シューキ…….  
本当に 一つの 周期(がある)。

A パターンガ アルデナ  
パターンが あるからな。

C シューキダナー。  
周期 たなあ。

B アレデ タシカニ オツカネーダヨナー ジシンテユーコト…….  
確かに 恐ろしいのだよなあ、地震ということ(ほ)…….

(C ンー.) オー。 ソーカヤ。 ソノトキニ ソレダケーガ  
そうか。 その時に たけど

イクンチモ ユレタダカヤー。 カントーダイシンサイントキ  
幾日も 揺れたのかなあ。 関東大震災の時



イクンチモ ジシンガキタノ

幾日も 地震がっづいた?

A ホーダノー アレデ マー オーユレワ アノ クガツノツイタチ  
そうたな あれで 大揺れは 9月の1日

(B ツイタチダ。 ツイタチダナー。) イチンチダッタケレドモ。  
1日 た。 1日 たなあ。

ナンデノー コユレワ ヤッパリ ヨシंगा。  
小揺れは やっぱり 余震が。

B ヨシंगा アッタワケダ。 アー。  
余震が あったわけだ。 ああ。

### 3. 麻機・静岡の方言

C アサバタノ コノ ホーゲンデサー アノ ヨク ア ナンダツケ  
麻機の 方言でさ、 よく 何たっけ

ア アゲツチ アゲツチ マコト (B ンー。) セナ ラ ラッ  
上土 上土 マコト 瀬名

キャーダツタツケ。

ラッキャーだっけ?

B ンー ンー。 ソーソー…  
うん うん。

C ソイカラ アサバタコトバ ナニ (A, B ヤッチモネー (笑))  
それから 麻機 ことばに

ヤッチモネー。 ヤッチモネー コーユー アノ アルダヨナー。

ヤッチモネー。 ヤッチモネー こういう(言い方が) あるんだよなあ。

B コノ ヤッチモネーってノワナー……。(C ンー。) タシカニ  
この ヤッチモネーというのはなあ 確かに

アレダヨナー (C ンー。) アノー マー アサバタドクトクノ  
麻機独特の

アレカドーカ ヤー ワカンネー シラネーケーガサー……。  
ことばかどうか わからない, 知らないがなあ……。

(C ンー。) オラホーノ オンナシューカ<sup>カ</sup> コー シミズ<sup>ス</sup> ナー  
私の方の(知っている)女性が 清水の

(12)  
カシワオダケーカ<sup>カ</sup> ヘデ<sup>デ</sup> キテツカラ<sup>ラ</sup> マー ウチノシューモ  
柏尾出身だが 来た 「私の家の者も

ヤッチモネーって ユーダヨナー。(C ウー。) イミ  
ヤッチモネーと言う」という。 意味が

ワカンネーツケダナー。(A, C アー.) オンナシューカ……。  
わからなかったなあ。 女性が(そう言う)。

C ヤッパ アサバタノ ジャー ドクトクノ アレカナー ホーゲン  
やっぱり(それは)麻機の では 独特の 方言

(13)  
カナー ヤッチモネーって……。  
かなあ ヤッチモネー とは……。

B ホエデナ ホエデ<sup>デ</sup> ワラツタダヨ バカニシテ オンナシューオ……。  
それでな それで 笑ったんだよ バカにして 女性たちを……。

(C ンー。) バカダナ オマ<sup>マ</sup>ー ヤッチモネーって イミ  
ばかだな お前 ヤッチモネー では 意味が

ワカンネーって (C ンー。) イヤ ワカンネーってユーヨ。  
わからないと, いや わからないと言うよ。

(C ンー。) ハジメテ キータツテユーヨ。 ヤッチモネー  
初めて 聞いたと言うよ。 ヤッチモネー とは

(C シー.) ドーユーコトダ ヤッチモネーッテ トニカク  
どういふことだ(と<sup>レ</sup>言うから) ヤッチモネー とは とにかく

タヤーネーアトカ (A, C シー.) アノー ツマンネーナーアトカ  
タワイもないとか つまらないなあとか

(A シー.) テユーヨーナコトデモッテ ワカンネーワケネージャ  
いふよふなことで わからないわけはないでは

ネーカッテ. (A (笑)) トコロガ ソノ シミズノ サカエソー  
ないかって. しかし その 清水の

ノホージャ ツカッテナケリャー (A エー.) (C シー.)  
の方で 使っていないければ

ヤッパー ホーゲンダデ (A ワカンネー) ワカンネーダヨナ.  
やっぱり 方言だから わからないんだよな.

C ワカンネーナ. ワカンネーナ.  
わからないな. わからないな.

B コトバニ ネーダモンデ…….  
(自分たちの)ことばにないんだから(わからない.)

A シー.

C コレデ モー アレダヨ オー アサバタト モー シミズジャー  
これで もう 麻機と もう 清水では

(B シー.) マルデ チガウダヨナ. (B シー.) アノー  
まるで 違うんだよな.

コトバノ ドッカニ (B シー.) ソノネー ナマリガ チガウ  
ことばの どこかに 訛りが 違う

トコガ アルダヨ. (B シー.) ソイデ ~~ゴセ~~ ~~ゴセ~~ ~~ペー~~ッテ  
点が あるんだよ. それで ~~ゴセ~~ ~~ペー~~という

ナー アレワ コノヘンデモ ドコデモ ユーダケンサ……。  
のは この辺でも どこでも 言うんたがさ……。

(B ンー.) アレァー ナンダカ シズオカノ ホー<sup>××××</sup> ホーゲン  
あれは 何たが 静岡の 方言

ラシーケーガ (A, B ンー.) ゴセッポイッテノガ ホントダ  
らしいが ゴセッポイというのが 本当たが

ケン コノヘンジャー ゴセッペーッテダナー。  
この辺では ゴセッペーと言うんたなあ。

A ンニ。

B ソーダヨナ。

C ンー ゴセッペーダ。  
ゴセッペーだ。

B ホイデナー ヨク コノー マー トシヨリノシューガ ミソシル  
それでなあ よく 年寄りの者が 味噌汁

トカサー (C ンー.) ナニカオ コノ シタジッテユージャー。  
とかさ 何かを シタジと言うたろう。

(C ンー.) シタジッテコト ユーナー。 (C オー ユーナー.)  
シタジということ言うなあ。 (うん 言うなあ。)

シタジッテユノー<sup>ワ</sup> ワシモ ワカンネーッケダ。 (C オー.)  
シタジというのは 私も わからなかったんだ。

シタジ<sup>ワ</sup> (A ケツキョク) シタジッテユコトバワサー  
シタジ シタジということばはさ、

(14)

ソノ アンマ キコエガヨクネーダナー シタジッテナー (C ンー.)  
あまり きこえがよくないんだなあ、 シタジとなあ……。

アノー ナンダ…… (C ンー.) エー ツユ ツユノコンダケ  
おつゆ おつゆのことだが

ナー. (A, C ンー.) アノー シタジッテユーノワ ドーダ  
なあ. シタジというのは

(C ンー.) オンナシューガ アレダヨ コドモニ イルトコデ<sup>(15)</sup>  
女性が 子供に対して(子供の)いる所で

シタジナンテ オランユート (A, C (笑)) ミットネアー (C  
シタジなどと 私が言うと

(笑) ) ~~~~~ ミットモネアー オキャクサンデモ キタトキニ  
「みっともない, お客さんでも 来た時に

シタジナンテ ミットモネー シタジ シタジッテコトワ ユー  
シタジなんて(言うと) みっともない」(と言われるが) シタジシタジということはよく言う

ヨナー. コノヘンジャー ベツニ ソンナワリーコトバデモ  
よなあ. この辺では 別に そんなに悪い ことばでも

ネアーヨーニ ツカッテ アノ イママデ ツカッテ イル  
ないように 使って 今まで 使って <sup>xxxx</sup>

イタケンサ……. いたけどさ…….

C コレ アノー ホレ アノー タカベアタリニャーサ (B アー.)  
高部 あたりにはさ,

アノ シタラナンテユーミョージ アルダヨナー. シタラ.  
設楽 などという姓が あるんだよなあ. 設楽.

(B アー アーアー.) ラクセツッテカク…….  
ラクセツと書く…….

B オー ソーソー.  
おお そうそう.

- C シタラ。 ナンカ ソノ タカベツテ アノ ムカシワ ホレ  
 設楽。 何か 高部 とは 昔は
- キカミンゾクガサ……。 (B ンー。) アノー タイリクカラキタ  
 帰化民族 がさ……。 (中国)大陸 から来た
- キカミンゾクガ (B ンー。) ナニベ ナニベツテ コー  
 帰化民族 が 何部 何部 と
- (B ンー。) ベオ ツケタワケダヨナ。 (B ンー ンー。)   
 部を つけたわけだよな。
- タカベツテノモ ナニカ ソーイッタ イミデ ヤッパ キカミン  
 高部 というのも 何か そういった 意味で やっぱり 帰化
- ゾクジャナイカナ。 (B ンー。) デァーテァー ソノー オレ  
 民族ではないかな。 大体 私が
- ヤッパ ヨンダホンデネ……。 (B ンー。) アノー アサバトカ  
 やっぱり 読んだ本でね……。 麻機 とか
- (B ンー。) シズハタ (B ンー。) ハトリ (B ンー。)   
 賤機 羽鳥
- コリチャー ソノー ハタモノツツッテ (B ンー。) タイリクカラ  
 これは 秦者 といって 大陸 から
- キカシテ (B ンー。) イロンナ マー (B ンー。) ソノ  
 帰化して 色々な
- ナンテユーカナー (B ンー。) ンー <sup>ギジツオ</sup><sub>xxxxxxx</sub> (B ンー。)   
 技術を
- ギジツオ モッテキタ アノー イミンゾクダト (B ンー。)   
 技術を 持って来た 異民族 だと
- ユー アノー ハナシオ キータコト アルダヨ。 (B ンー ンー。)   
 いう 話を 聞いたことがあるんだよ。

ホイデ マー アサバタワ マー コーユーコトデ (B ンー。)  
それで まあ 麻機(に住んでいた者)は こういう事情で

アー アノー ハタオオッタミンゾクカモシンネーシ (B ンー。)  
機を織った民族かもしれないし、

ヘーカラ マー ハトリノトカ シズハタワサ ナニオシタカ  
それから 羽鳥の(人)とか 賤機の(人)は 何をしたか

シレネーケーガ ソーユー ソノー (B ンー。) ンー ヒトツノ  
しれないが そういう 一つの

ギジツオ モツテキタ イミンゾクノ (B ンー。) シソソジャネー  
技術を 持ってきた 異民族の 子孫ではないか

カト (B ンー。) ユーハナシガアルダケドサー。  
と いう話があるんですけど。

B ンー。~~~~~

C ダケン ドッチカッテイヤー ザッ シュダゼー。 ハエアーハナシガ。  
だけど どちらかと言えば 雑種だぜ。 早い話が。

ハエアーハナシガ ザッ シュダゼー。  
早い話が 雑種だぜ。

B ソコデナ イマナ コッチカワノ ヘヤデ アノ ハナショーシタダ  
そこでな 今 こちらがわの(別の)部屋で 話をしたのだ

ケーガサ (C ンー。) コナイダ アノ タクシーデ オンナシュー  
が この間 タクシーで 女性と

ト フタリデ アノー ケアッテクルトキニナ タクシーノ  
二人で 帰ってくる時にな、 タクシーの

ウンテンシュガ ドコノシュッシントイッ タカナ カントーノ  
運転手が どの出身と言ったかな 関東の

オソラク サイタマトカ <sup>(17)</sup>カ グンマトカ アッチノホージャネー  
おそらく 埼玉とか 群馬とか あちらの方ではないか  
カトオモダケン ダケンナ…… (C ンー。) コーユーダツケヨ。  
と思うのだが だけどな……。 こう言ったんだよ。

ソノ シズオカノシュー シューノ ソノ コトバンワルイッテ  
静岡の者の ことばが悪いと

ユーダヨ。 (C ンー。) ナンダッテッタラ ソノ トクニ オンナ  
言うんだよ。 何だと言ったら 特に 女性が

シューガ ワルイッテユーダヨ。 (C ンー。) ナンダッタラ  
悪いと言うんだよ。 何だと言ったら

ソノー アラ ホントッテユーカ コー ホントッテユーコトー  
「あら ほんと」というか 「ほんと」ということを

スゴク ツカウッテ ユーダナ。 (C オー。) キキカエスタナー  
すごく 使うと 言うんだな。 (相手に) 聞き返すんだなあ

ユーヒトノ ハナシオ…… (C ンー。) タイワ シテテモ……  
人の 話を……。 対話を していても……。

(C ンー。) アノー タシカニ ソノー イミワ ソーデスカッテ  
確かに 意味は 「そうですね」と

ユーフナー アイズチダケガ (C ンー ンー。) アノー  
というような 相槌だが

ワシラン シュッシンノ ワシン シュッシンノチイキテ” アラ  
「(その運転手は)「私の出身の地域で 『あら

ホントーナンテユーコト イワレルト (A ンー。) キミジカノ  
ほんと』などということ を 言われると、 気みじかの

ヒトワ オコル オコルッテ ユーダ。 (C ンー。) 怒る  
人は <sup>xxxxxx</sup> 怒る」と 言うんだ。



A ンー ケッキョク ウタグルヨーナ……。 (笑)  
うん 結局 疑うような (気がするんだな。)

B ウタグル。 シンヨーシテナイト……。  
疑う。 「信用していない」と (思われる)。

A, C ンー。  
うん。

B ソイデ モー スポク シズオカノ ジョセーフ ソノ ツカウツテ  
それで もう すごく 静岡の 女性は (アラホントを) 使うと  
ユーダナ。 (A ンー。) アラ ホントー。 (A ンー。)  
言うんだな。 「あら ほんと。」  
アラ ホントッタラ……。 アラ ホントーツテユーフーナ コノ  
「あら ほんと」と言ったら……。 「あら ほんと」というのは  
アイズチノ イミデナ。  
相槌の 意味でな。

A ケッキョク フカク カンゲーリャー ソーユーコトナンダヨナ。  
結局 深く 考えれば ということなんだよな。

B ソレオナー……。 A) タケンノ ソノヒトン タシカ ムコーノ  
それを (使うんだ)。 他県の その人は たしか 向こうの  
サイタマダカ グンマノヒトダツケダケドサー。 (C ンー。)  
埼玉 だか 群馬の人だったけどさ。

スポク ソノ キーテテ ヒトキキンワルイッテユーダ。 カンジン  
「すごく 聞いていて 人聞きが悪い」と言うんだ。 「感じが

ヨクネァー。 ソリャー シズオカダカラ ソレデモツテ トール  
よくない。」 それは 静岡 なら それで 通用する

ズラケーガ ワレワレン キータラ フーントニ シズオカノ  
だろうが 「我々が 聞いたら 本当は 静岡の

ジョセワ ナンテ コトバンワリー……。

女性は 何と ことばが悪い(だろう)ということになる。)

C (笑) ヤッパ コレ ションネータナ。 ソレテ エート シテルダ  
やっぱり これは 仕方がないんだな。 それで よいとしているんだ

モンテ……。

から……。

B ソータヨ オー。

そうだよ おお。

A イチイチ ソレダケン シズオカワ ソノ アレダナ コトバワ  
一々 それだけれども 静岡は ことばは

(18)  
アンマ ヨカーネー。

あまり よくはない。

B ヨカーネーナ ン。

よくはないな、 うん。

A ~~~~~

C ダケド コ コレンネー アノー マー ホーゲン ホーゲンテナー  
<sub>xx</sub> <sub>xxxxxxx</sub>  
だけど これがねえ、 方言 方言というのは

(19)  
ナンダケーガ マー テレビノエーキョーテ トル イマノコトモッ  
おかしいが テレビの影響で 今の子供と

テナー マ マルッキリ ソレン ナクナッテ キチャッタ ワケサ。  
<sub>xx</sub>  
いのは 全く 方言が なくなっちゃったわけさ。

A ヨクナッタ。 (C ソレテ アノー) マッタク ゲンザイワ  
(ことばが) よくなった。 全く 現在は

ヨクナッタ。

よくなった。

C ソーダナ。 ソレデ アノー オレ ヨク テッポーニイッテ  
そうだな。 それで 私は よく 鉄砲うちに行つて  
ホレ ナガノカ ニーガタエ イクラブ (B ンー。) ホート  
長野か 新潟へ 行くだらう。 そうすると

コドモガ ソノネー ナンテユーカ ナマリガ マルッキリ  
子供が 訛りが 全く

ナクナッチャッタダヨ。 (B ンー。 ) ニーガタアタリワ  
なくなつてしまつたんだよ。 新潟あたりは

ソエデモ マダ ケッコー ナマリソ ツエーケーガサ ナガノ  
それでも まだ かなり 訛りが 強いけれど、 長野

アタリヤー ゼンゼン ヒョージュンゴダヨ。 (B ンー。 )  
あたりは 全く 標準語だよ。

ホレデ ミチオキータリ ナンダリシテ コドモニ ハナシスルウ。  
それで 道を聞いたり なにかして 子供に 話をするだらう。

(B ンー。 ) ホートナ ゼンゼン ソノ テレビデユツテルト  
すると、 全く テレビで言つているのと

オナジヨーナ アノー アレダダヨナ ナマリガ ナ<sup>xx</sup> ナクナッチャ  
同じような ことはだよな。 訛りが なくなつて

タダヨ。 ソエデ ナンカ コノー キョー ドショクツテモノワ  
しまつたんだよ。 それで 何か 郷土色というものほ

ダンダダンダン ナクナッチャウジャネーカナト カンジタツケンサ。  
だんだん だんだん なくなつてしまふんじゃないかなと 感じたんだがさ。

ンー。  
うん。

A ソラ イチバン キョーイクノオカゲダヨナ。 (C ンー。 )  
それは 一番 教育のおかげだよな。 うん。

~~~~ キョーイクノオカゲダヨ エレ.

教育のおかげだよ。

B ソースントサ オラ ヒトツ フシギニオモウノワ アノ ガッコ
 そうすると 私が 一つ ふしぎに思うのは 学校
 ントキニ ジッシューデ アノ ホッカイドーエ イッタクケタケニ
 の時は 実習で 北海道へ 行ったんだが
 カ ホッカイドーノ シュー マー コノヘンニ イドーハンデ
 北海道の 人が この辺に 移動班で
 キテクレルジャー ミカンキリニ…… (C ンー.) ホッカイドーノ
 (静岡へ)来てくれるだろう ミカンを伐りに……。 北海道の
 シュー……。 (C ンー.) ホッカイドーツテ ユーコトバワ
 人……。 北海道と いう(土地の)ことばは
 アレダヨナ ワリニ ヒョージュンゴダヨナー。
 割に 標準語だよなあ。

A ~~~~ コトバ イナー。
 ことばがいいなあ。

B ~~~~ ヒョージュンゴ……。
 標準語……。

C トコロ トコロ トコロ トコロ トコロ トコロ トコロ トコロ
 ところがなあ 場所によって ものすごく 違うんだ
 アスコワ……。 (B ンー.) ソラ トンデンヘーヤ ナンヤラデ
 あそこは……。 そら 屯田兵や 何やらで
 サー (B ンー.) アソコエ メージカラ ダーツトコー
 さ あそこへ 明治から 沢山
 イロンナ チホーカラ ヒトガハイッタモンデ……。 (B ンー.)
 色々な 地方から 人が入ったもので……。

ブブンブブンテサ (B ンー.) モノスゴク ソノ ズーズーノ
地域地域で ものすごく ズーズー弁の

トコモアルシ (B ンー.) ホイデ ヒジョーニ ヒョージュンゴン
所もあるし、 それで 非常に 標準語の

トコモアルシ (B ンー.) ホイデ マー ナンテユーカ
所もあるし、 それで まあ 何というか

ホッカイドーノ ンー モ トクシュナ ナマリッテユーナー マ
北海道の もう 特殊な 訛りというものは

(B ンー.) スクネアージャナイカー アスコワ。 (B ンー.)
少ないんじゃないかなあ あそこは。

ダカラ チホーチホーデ ミンナチガウミタイヨ ンー。
だから 地方地方で 皆(ことばが)違うらしいよ うん。

B タダ アレダヨナー コノー マー ホーゲンテイッテモ アレ
ただ あれだよなあ 方言といっても あれ

ダケーガ アノー シゾーカデ コー アノトキガ アノ ワラシ
だが 静岡で 薬科

ナオク⁽²¹⁾ (C ンー.) アベオクッテッテ (C ンー ンー.)
の奥 安倍川の奥といって

コノー アクセントッテユーカサ ハツオンガナ……
アクセントというか 発音がな……

C チガウナ ソーダナー ハツオンガ チガーナー。
違うな そうだよなあ 発音が 違うなあ。

B スゲー ドクトクノ アレ アルダヨナ。
すごい 独特の 発音があるんだよな。

C ンー。 ナンセ カワネットカ アノヘンワ ヘーケノ オチムシヤ
うん。 なにしろ 川根とか あの辺は 平家の 落ち武者

ナンテユー ハナシモアルシサ (B アー.) マー ナンカ
(がいる)という 話もあるし、 まあ なにか

アソコワ モー アクセントが ゼンゼン チガーナー。
あそこは もう アクセントが 全く 違うなあ。

B ホイデマー (C ンー.) アノー オサカ モチムネノ⁽²²⁾ オサカ
それでまあ 小坂, 用宗の 小坂

(C ンー.) アソコノ ドーキューセーナンカ トキドキ アウコト
あそこの 同級生など 時々 会うことが

アルダケカ オマーッテユーコト ユーダヨナー. (C ンー.
あるけれども 「オマー」ということを 言うんだよなあ。

ホーダホーダ^{ホーダホーダ}.) オマエトカサ. ンー (C
そうだ ~ ~ ~ 「オマエ」とかさ。

ウエーラー ウエーラート) ウエーラート ソンデ ホーケー
ウエーラー ウエーラーと(言う)。 ウエーラーと それで ホーケー

ホーケートカ (C ンー.) ホイデ アノー ワラシナイクト
ホーケー(そうかい, そうかい)とか。 それで 薬科へ行くと

ホーカヤーッテノ ホーカヤーッテ コー ゴビ アケルダヨナー。
「ホーカヤー」という, 「ホーカヤー---」と 語尾を上げるんだよなあ。

(笑) ゴビ アケルダ。
語尾を上げるんだ。

A ヒクデーナー。
(語尾を)引くんだよなあ。

C ンー ドクトクノナー ンー。
うん 独特のなあ。 うん。

A ホエカラ ソノー ナンダヨ コノ チョックリト コノ ハマエ
それから 少し 海岸方面へ

イクト マタ コレ……。
行くと また これ(が違う。)

C ソー ソーダヨナー。(B) ハマー マタ チガー
そう そうだよなあ。 海岸は また 違うん
ダヨナー。
だよなあ。

A ンー。 チョックリ ハナショーシテモ ソレコサー オコ
うん 少し 話をしても それこそは ^{XXXX}
オコッテンダカ ボコチーテンダカ……(笑)。
怒っているんだか ぶつぶつ言っているんだか(わからない)……。

C アラッペー コトバダナー。
あらっほい ことばだよなあ。

A ンー アライダヨ。 イロイロナンデ アレ ヤッパリ ナミノ
うん あらいんだよ。 いろいろなので あれは やっぱり 波の
オトノ カゲンダカナ ムズカシーモンダ。
音の 加減なのかな むずかしいものだ。

B アノー アサバタノナカデモサ イケガヤノ シュート ヘーテ
麻機の中でも 池ヶ谷の 人と それで
コノ キタムラノ オクノホーノシュートデワ ヤッパ ドッカ
北村の 奥の方の人とでは やっぱり どこか
チガウダ。
違うのだ。

C ソリャー チガウワケダナ。 アー ムコーワ ヤー マチーチカ
それは 違うわけだな。 向こうは 町に近い
イダモンテ……。
もので……。

B ソー ソー ソー。
そう そう そう。

4. 弓の話題

C オジーチャンワ モー ユミワ イーカゲン ナガイノキヤー。
おじいちゃんは もう 弓は 相当 長く(やっているの)か。

A ワシ?
私?

C ンー。
うん。

A ンー ユミワ マー……。
弓は まあ……。

C イクツグレァー イクツグレァーツカラ ハジメタ?
いくつぐらい いくつぐらいから 始めた?

A ニジューシチツカラ モー ヘー……
27オから もう(やっている)。

C ニジューシチツカラ オー ナルホドナー。
27オから、 おお なるほどなあ。

A ゴジューニサンネン ~~~~~
52-53年

C オー。
おう。

A ンー。
うん。

C トニカク アサ……. マー アレ ユミオヤッテルッテコト
 とにかく 朝……. まあ 弓をやっていてということとは
 ケンコーニツナガルズラケーガ トニカク アー アレダナー
 健康につながるんだらうが とにかく
 ヤッパ アーユー ヒトツノ スポーツッテカサ アリヤー
 やっぱり ああいう 一つの スポーツというか あれば
 エーコンダヨ. (A: ンー.) ンー.
 いいことだよ. うん.

B トニカク アレダネ シゲチャンワ ジョーブダヨ.
 とにかく 重ちゃんほ 丈夫だよ.

A シゼンニナ シゼンノ ウンドーニ ナルンダヨ アレ. ~~~~~
 自然にな 自然の 運動に なるんだよ あれば.

C ンー. ソーダナ ンー. (A: ンー)
 うん. そうだな うん. (うん)

B トニカク タッシャダ. ミタトコモ ワケアーダモン.
 とにかく 達者だ. 見たところも 若いもの.

C ワケアーナー. (B: ワケアー ~~~~~) ワケアーヨ.
 若いなあ. 若い 若いよ.

A ワカカネーサ. ヘデ ヤッパリ ハチジューワ ハチジューテ
 若くはないさ. それで やっぱり 80才ほ 80才で,
 ダレガミテモ…… (笑).
 だれが見ても…….

B トテモ ソンナニヤー ミエネー.
 とても そんなには 見えない.

A エー.
 ええ.

B ソンナニャー トテモ ミエナイ。
そんなには とても 見えない。

C ヘデ ヤシキノ ミカンナンカ ミンナ キッチャウズラダ
それで 邸の みかんなど 皆(一人で)伐ってしまうだろう。

A ソレデモナ……。 (B ンー。) アンタネ オトテーノ (B ンー。)
それでもな……。 あんたね、一昨日ね、

アッタダ エレ ヤッパリ アノ ンー アレ レーハイガ
あったんだ。 それ やっぱり。 礼拝が

アッタダ。 レーハイッテ ニチヨーニ ドッカデ レーハイッテノワ
あったんだ。 礼拝とって 日曜に どこかで 礼拝というのは

(B ンー。) アレ ソコデモッテ ココデモッテ ブロックデ
あちこちで ブロックごとは

(B ンー。) ヤルダネ。 (B ンー ンー。) ゴコクジンジャデ
やるんだね。 護国神社で

モッテ (B ンー。) アレダネ オトトイ ニチヨーノヒダ。
一昨日 日曜の日だ。

(B ンー。) レーハイガ アッタワケダ。 (B ンー。) ソレデモノー
礼拝が あったわけだ。 それでもねえ

アレダヨ ワシャー ンデモ ヨッタリメカ (B ンー。)
私は (年の順で) 4人目か

ウエカラ……。
上から……。

B, C ホー……。
ほう。

A ホー。 アー ナンダ シミズノ (B ンー。) ソレコサー
ほう。 清水の それこそは

ナンダ ヤンバラカラクル コノ アレダ キッかわサンテユーヒト
山原から来る 吉川さんという人

コレン ハチジュースンサイサ。(B オー. C オー.)
これが 83才か。

ソエカラ コノ ナンゴーカーラクル ムラタサンガナー (B. ン.)
それから 南郷から来る 村田さんがなあ

コレ ヤッパリ ハチジュースニサイカ。(C ン- ン.) ン-
これが やっぱり 82才か。

ヘーカラ アノー コレ ウマレワ ドッカノ オーサカノホー
それから 生まれは どこかの 大阪の方

ラシーケーガ (C ン-) イマ ヌマウエニイルダエ。
らしいが 今 沼上にいるんだよ。

(C ン-) ソレト ヘーカラ ワシガ ワシワ マー ハチジュ-
その人と それから 私が、 私は 80。

カゾエダケン ソノヒトワ マンダデ……。 (C ア-)。
(私は) 数え年だが その人は 満80才だよ……。

チーット チガウモンダンデ……。 (C ン- ン- ン-)。
少し 違うもので……。

ソエデモ アレダデ……。 ハ ハ ニジュ-ゴロクニン ヨッテ
それでも 25-26人 集まった

ナー……。 (C ン-) ソエデモ ハチジッサイノヒトガ
なあ……。 それでも 80才の人が

ヨッタリ イタデー。(C ハ、ハー……)
4人 いたよ。

C マダ ジャー ウエー アッタダ。(笑)
まだ では(あなたより)年上があったんだ。

A オー。 ウエー アッタ。(C ~~~~~) トニカク アレダヨ
うん。 上が あった。 とにかく

キュージッサイグライ~~~~ デテクルヨ。(B ホー)
90オぐらい(の人が) 出ているよ。

C ホー ナルホドネ。
ほう なるほどね。

A ホイデモ ケンカデモ メージカイッテノ ヤッタダ。 メージノ
それでも 県下でも 明治会というのを やったんだ。 明治(生まれ)の
シューダケ……。 (C オー オー。) ケンカデ ヤル。
者だけ……。 県下で やる。

ソートー ヨルダヨ。(C ンー。 ンー。) へー コノ シガツノ
相当 集まるんだよ。 すぐ 4月の

ムイカガ メージカイテナ……。 アノー アレナ……。
6日が 明治会でな……。

B ンー ヤッパ アレダネ ユミオヤッタシューワ ヤッパ
うん やっぱり 弓をやった人は やっぱり
ナガイキ シルダヨナー。
長生きを するんだよなあ。

C ソーダナー。 ケンコーニ イーダヨ。
そうだなあ。 健康に いいんだよ。

B ケンコーニ イーダヨ。
健康に いいんだよ。

C ンー。
うん。

A キョネン キョネンノ ナクナッタケーガ マー アレダナ
xxxxxxx 去年 亡くなったが

ニホンデモッテ マー ダイイチニンシャダ。アノー キュードー
日本で 第一人者だ、 弓道

ジューダン ハンシガ ナー コノ シゾーカカラ デテタダナー。
十段 (という人が) 静岡から 出ていたんだなあ。

マツイセンセーッテユーノ ナー (B ンー。) キューニ
松井先生という人が なあ。 急に

ナンダヨナー キョネンノ クレノコロ ナクナッタデ。(B ンー。)
去年の 暮のころ 亡くなったよ。

アレ アノ イキテルヒトデ キュードー ジューダンテノワ
(それで) 生きている人で 弓道十段というのは

イマワ マー ニホンニ ネーダ。(B アー。) ナクナッテッ
今は 日本に ないんだ。 亡くなって

カラノ シューワ アルヨナ。
から(十段位を得た)人はあるよな。

B ナルホドナー。
なるほどなあ。

C ヤッパリ メーヨデ モラウワケダ。(B ンー ソーダナ。)
やっぱり 名誉(称号として)もらうわけだ。(うん そうだなあ。)

マー トニカク (A マー) エーコンダナ アーユー
まあ とにかく いいことだなあ ああいう

スポーツッテノワ。
スポーツというのは。

注

- (1) 大正の豪雨の話で、「ソレヨカ = ほかのことほともかく。」の意。
- (2) 昭和49年7月7日の、静岡地方集中豪雨。
- (3) 「テ^キテ」の「キ」は〔ki〕の〔i〕が無声化しない、有声のままの発音であることを示す。以下同じ。例えば(8) <「ワカ^クテ」>
- (4) 静岡市東部の地名。
- (5) 「ド^ッチニシテモ」の言い誤り。
- (6) 「イマナウ」の強調。
- (7) 「トキ」と「ニワ」の間に音の小休止がある。
- (8) → (3)
- (9) 「くるかもしれない、危険性が多い」という意。
- (10) 〔kakutside〕。〔u〕が無声化していない。
- (11) 昭和10年7月11日に、静岡市・清水市一帯に起こった地震。
- (12) 清水市西北部の地名。
- (13) 〔jattsimone:〕は「埒もない」からの変化形と思われる。
- (14) 「アンマ」は〔ammari〕の〔ri〕を落とした形。定着した訛語の形。→ (18)
- (15) 「コドモニ イルトコテ」は、正しくは「コドモガ イルトコテ」
- (16) 「ラクセツ」は「セツラク」の誤り。
- (17) もう一度「関東」と言いかけたか。
- (18) → (14)
- (19) この「トル」、意不明。
- (20) 「エレ」は「それ」などにあたる感動詞。
- (21) 旧安倍郡川根村・中川根村・大川村などの地域の、無アクセント地帯のことを言っている。
- (22) 用宗は国鉄静岡駅から西下して次の駅。小坂は用宗の近く。

VI. 長野県^{かみ い な}上伊那郡^{なかがわ}中川村^{みなかた}南向

収録・文字化担当者 馬 瀬 良 雄

A 収録地点とその方言について

1 地点名 長野県上伊那郡中川村南向

2 収録地点の概観 長野県上伊那郡中川村は伊那谷のほぼ中央、上伊那郡の最南部に位置し、天龍川を中に挟み、それが形成する河岸段立の上に広がる。昭和33年(1958)、天龍川の東の南向村と西の片桐村とが合併して中川村となった。人口5552人(昭51)、世帯数1308(昭51)、面積77.24km²。産業は米・果樹・養蚕が主体の農業。

ここでは中川村の旧南向村地域の方言をとりあげる。そしてこの地域を中川村南向、また、その方言を中川村南向方言と称する。

3 収録した方言の特色

① 方言区画上の位置・隣接諸方言との関係 長野県の方言は、東茶操氏に従えば、東部方言の東海東山方言に、都竹通年雄氏に従うならば、東部方言のナヤシ方言(長野・山梨・静岡方言)に分類される。長野県の方言は、さらに奥信濃・北信・中信・南信の各方言に区分される。南信方言は木曾、下伊那及び上伊那の南部の方言がこれに属し、中川村方言はこの中に分類される。南信方言では西部方言的特徴が長野県の他の方言と比較して多くなる。

② 音韻上の特色 中川村南向方言音韻の体系記述をしていないので、同じ中川村の片桐方言(話者松下大佐氏、明治23年生)により示す。

1) 音韻体系

松下大佐氏の方言からは次の音素が帰納される。

母音音素 /u, o, a, e, i/ 鼻母音音素 /~/

半母音素 /j, w/ 子音音素 /ʔ, h, g, ŋ, k, z, c,

s, r, d, t, n, m, b, p/ 拍音素 /N, ə, R/

音素では鼻母音音素 /~/ を持つ点に特徴がある。次のような語に現れる鼻母音を鼻母音音素を設定して解釈した。

[kaĩda] (嗅いだ) /ka'ĩda/ cf. [kaŋida] (鍵田—鍵状に曲がった田—), [kaida] (開田—長野県木曾郡の村名) /ka'ida/

[so:kanaũ] (そうかね) /soŋkanaũ/ cf. [kanaN] (河南) /ka

nan/ , [naw] (絢う) /na'u/

この /~ / は録音資料その他には , /ũ / , /õ / , /ã / , /ĩ / としては現れるが , /ê / としては現れていない。鼻母音は片かな表記では $\tilde{}$ で表わした。

拍では , 上のほか , /'wo / , /'we / , /'wjo / , /'wja / を有し , かっ , /co / , /ca / を有する点に特徴がある。

2) 連母音の融合

連母音として /a'i / , /a'e / , /o'i / , /o'e / , /u'i / をとり , これがこの方言でどう現れるかを見る。やはり , 松下氏の方言による。

共通語の /a'i / , /a'e / に /er / で対応する語が多い。

/'erso / (愛想) /'erdajara / (間柄) /terjer / (大概)

/najer / (長い) /herru / (入る) /'ermono / (あえ物)

/merba / (前歯) /keru / (帰る) /'irder / (飯田へ)

いわゆるサ行イ音便形を含むハナイタ (話した) , サイタ (差した) などは , この方言では /hanerta / , /serta / となる。

共通語の /o'i / , /o'e / , /u'i / には , この方言の /o'i / , /o'e / , /u'i / が対応し , /er / や /ir / の対応することはない。例をあげれば――

/'cu'jo'i / (強い) /'hido'i / (ひどい) /kiko'eru / (聞える)

/'obo'eru / (覚える) /sabu'i / (寒い)

3) 母音の無声化

次の語を調査した。

北 鹿 下 菊 叱る (頭の) ふけ 拭く 拭け 突く 突け 漬
け物 口 った (蔦) 靴 月 土 鮫 汽車 吹く 着く 来た
振った 吸った 降った 食った 奥 松 菓子 書く

話者に通常速度での回発音してもらい , そのうち 1 回でも無声化の現れた語を示すと , 次のとおりである。

鹿 (2 回) 下 (3 回) 叱る (頭の) ふけ

これにより , この方言の母音の無声化は東京語などに比較して極めて少ないことがわかる。そしてその認められる語は , CiCV ~ CuCV の V が , すべて e , a のような広い母音であるも注意してよい。

4) 促音の挿入現象

促音の挿入現象とは、「空風」を karaakaze, 「川縁」を ka'waapuci とする類をさす。この現象をみせた語の幾つかをその語形とともに示す。

hanaakami (鼻紙) karaakaze (空風) sitoraako (一人子)
gakeapuci (崖縁) u'waakar (上皮) 'uacukusiR (美しい)

促音の挿入現象を見せなかった語もある。'acu'i (暑い), kitaner (汚ない), 'akakute (赤くて) などである。

この結果は、例えば岐阜県中津川市落合方言でこの現象が全く認められないのと比較すると、この方言ではこの現象がかなり活潑であることを示している。とは言うものの同じ長野県方言でも、例えば東信佐久方言などに比較すると、劣勢であると言える。

樫垣実は表日本式音韻を東日本方言と西日本方言とに分け、前者の特徴として、上の 2), 3), 4) をあげた。中川村方言はこの点についてどうであったか。連母音の融合では、共通語の /a'i/, /a'e/ にあたるところには活潑に現れるが、共通語の /o'i/, /o'e/, /u'i/ にあたるところには原則として現れない。母音の無声化は認められるが、東京語などに比べると非常に目立たない。促音の挿入現象も認められるが、佐久方言ほどに顕著ではない。つまり、中川村方言音韻は東日本方言の特徴とともに、西日本方言の特徴を合わせ持つ方言と言える。

③ アクセント

中川村方言アクセントは有アクセントに属し、東京式に属する。アクセントの型とその種類、体系は東京語と変わるところはない。

個々の語の型所属も東京語に近いが、語アクセントの特徴を周辺方言とも比較しながら、かんたんに述べる。

1 拍名詞の類の対立は、I・II (○▼) / III (●▼) である。

2 拍名詞の類の対立は、I (○●▼) / II・III (○●▼) / IV・V (●○▼) である。長野県へは、一方は天竜川沿いに南から、他方は千曲川沿いに北から、第2類が第1類に合流して平板型を示す勢力が侵入している。中川村方言ではこれらの影響はまったく認められない。調査26語中「人」の1語が平板型を示すにとどまる。長野県の中で最も平板型の少ない方言の一つである。

3拍名詞では第5類のアクセントについてだけ述べる。第5類では中高型所属の語が比較的多い。調査16語中次の7語が中高型を示す。

朝日 命 心 姿 涙 火箸 まなこ(眼)

この類の語で中高型の多い地方として、上伊那地方、諏訪地方、松本平の中・南部地方、木曾地方がある。例えば、上伊那北部辰野町方言では上に加えて、「油」「胡瓜」「柱」「枕」の4語が中高型を示す。上伊那地方では北部から南部にかけて中高型は漸減する。だが、共通語で中高型が「心」の1語であるのと比較すると、7語の中高型はなお多いと言える。

4拍名詞では、類を離れ、A型・B型のアクセントについて述べる。東京語では「雷」「物差し」などの語は○●●●▽(A型)と○●●○▽(B型)の2型を持つ。中川村方言ではA型所属の語が多く、B型所属の語は少ない。

④ 文法

中川村は文法上東西両方言の境界地帯に位置する。幾つかの指標をあげ、中川村方言がこの点についてどうであるかを見て行く。両方言対立の指標として何を選ぶかは難しい問題を含むが、九つの指標を選び、その具体的な使用の中でこの問題を考えて行く。／の左に東日本方言的特徴、右に西日本方言的特徴を示す語形を記した。

- 1 イカナイ、イカネー(行かない) / イカナン、イカネン
- 2 イカナカッタ(行かなかった) / イカナンダ
- 3 イカナケレバ、イカナケリヤー、イカネーケリヤー(行かなければ) / イカネバ、イカニヤー
- 4 コレダ(これだ) / コレジャ、コレヤ
- 5 オキロ(起きろ) / オキヨ、オキョー、オキー
- 6 カッタ(買った) / コータ、カータ
- 7 サシタ(差した) / サイタ、セータ
- 8 シロクナル(白くなる) / シローナル、シロナル
- 9 タマッテル(継続態と結果態の区別なし) / タマリオル(継続態)、タマリオル(結果態)

これらの指標に対し、中川村方言ではどのような語形をとるか。かん

ともに中川村南向方言として扱った。

4 その他

地点選定の理由としては、中川村方言について以前調査したことがあり、その方言について知っていること、中川村が文法上東西方言の境界地帯にあり、東西両方言対立に関わる諸特徴が談話語の中でどう現れるかに関心があったことなどをあげることができる。

本調査には、信州大学人文学部学生徳本智恵美・細江厚子が同行し、録音操作にあたり、また、文字化作業で協力した。また、文字化作業と清書で馬瀬則子の協力を得た。

この調査では、話し手の紹介をはじめとして万端にわたって、中川村教育長湯沢俊氏の御協力を賜った。また、中川村南向地域出身の清水悟郎氏（信州大学名誉教授）に録音テープを聞きつつ、原稿を見ていただき、最終的補訂を行った。

関係各位に心より御礼を申しあげる。

B 表記について

表記は片かなを用いた。その具体音声をかたんに記す。

ウ：[u] 円唇でなく平唇。オ：[o] 基本母音の[o]よりも広い。
ア：[a] 基本母音の[a]よりも前寄り。エ：[e] 基本母音の[e]よりも広い。イ：[i] 基本母音の[i]よりも調音点多少低く、やや後寄り。

ン：[~] 鼻母音を表わす。例えば、ソーダナウン[so:danaũ]。

ユ：[ju] ヨ：[jo] ヤ：[ja] イェ：[je] イェ：[je]

ウォ：[wo] ウォ：[wo] ワ：[wa]

フ：[ɸu] 母音間では半有声化することもある。ホ：[ho] ハ：[ha] ヘ：[he] [h]は往々半有声化したり、有声化したりする。母音間では特にそうである。ヒ：[ɕa] ヒュ：[ɕu] ヒョ：[ɕo] ヒャ：[ɕa] [ɕ]の摩擦的噪音は共通語のように強くはない。また、[h]の音声の聞かれることもある。

グ：[ɣu] ゴ：[ɣo] ガ：[ɣa] ゲ：[ɣe] キョ：[ɣi] キュ：[ɣju] キョ：[ɣjo] キャ：[ɣja]

グ：[gɰ] ゴ：[go] ガ：[ga] ゲ：[ge] キョ：[gi] キュ：[gju] キョ：[gjo] キャ：[gja] [g]は時に[gʰ]で発音されることもあり、母音間ではその傾向があり、その場合[ɣ]となることもある。

ク：[kw] コ：[ko] カ：[ka] ケ：[ke] キ：[ki] キュ：[kju] キョ：[kjo] キャ：[kja] [k]のアスピレーションは共通語ほど強くはない。母音間では特にその傾向が強く、半有声化することも多い。

ズ：[dzɰ, zu] ゾ：[dzo, zo] ザ：[dza, za] ゼ：[dze, ze] 一般に母音間では摩擦音[z]、他の位置で破擦音[dz]が現れる。なお、[dzɰ]の摩擦音の弱いことがある。[dʒɰkin]（頭巾）のように。また、[dzɰ, zu]において母音の中舌化は少なくとも老年層では認められない。

ジ：[dʒi, zi] ジュ：[dʒu, zu] ジョ：[dʒo, zo] ジャ：[dʒa, za] なお、[dʒ]の摩擦音の弱い場合がある。[dʒiki]（時期）のように。

ツ：[tɰ] ツォ：[tso] ツァ：[tsa] [ts]の摩擦音の弱い場合がある。[tɰtɰ]（筒）のように。なお、[tɰ]の母音の中舌化は少なくとも

老年層では認められない。

チ：[tʃi] チュ：[tʃu] チョ：[tʃo] チャ：[tʃa] ただし、[tʃ]の摩擦音の弱いことがある。[tʃi tʃi] (乳) のように。

ス：[su] 共通語におけるような母音の中舌化は認められない。ソ：[so] サ：[sa] セ：[se] シ：[ʃi] シュ：[ʃu] ショ：[ʃo] シャ：[ʃa] ル：[dru, ru] ロ：[dro, ro] ラ：[dra, ra] レ：[dre, re] リ：[dri, ri] リュ：[drju, rju] リョ：[drjo, rjo] リャ：[drja, rja] 一般に母音間では弾き音 [r] [rj] が現れ、他の位置では弱い破裂音で始まる [dr] [drj] が現れる。また、個人によってはふるえ音 [r̥] をまじえる。

ド：[do] タ：[da] テ：[de]

ト：[to] タ：[ta] テ：[te] [t] のアスピレーションは共通語ほど強くはない。母音間では特にその傾向が強く、半有声化することも多い。

ヌ：[nu] ノ：[no] ナ：[na] ネ：[ne] ニ：[ni] ニュ：[nju] ニョ：[no] ニャ：[nja]

ム：[mu] モ：[mo] マ：[ma] メ：[me] ミ：[mi] ミュ：[mju] ミョ：[mjo] ミャ：[mja]

ブ：[bu] ボ：[bo] バ：[ba] ベ：[be] ビ：[bi] ビュ：[bjju] ビョ：[bjo] ビャ：[bja] [b] は母音間では [bʰ ~ β] として現れることが多い。

ン：語末では [N] ほかに [honto] (本と), [honna] (本に), [hommoo] (本も), [honna] (本が) などの、シラビックな [n] [ɲ] [m] [ŋ] など、ンで表わす。

ッ：[isso:] (一層), [ippen] (一遍), [itto:] (一等), [iŋso:] (一升) などに見られる、シラビックな内破音 [s] [p] [t] [ʃ] などを表わす。

ー：引き音を表わす。

C 話者・録音環境など

- 1 タイトル 「祭り」「相撲の話」
- 2 録音年月日 昭和51年12月12日
- 3 録音場所 長野県上伊那郡中川村大草中川村福祉センター
- 4 話し手 井沢賢一氏 男性 明治32年生まれ
下平正司氏 男性 昭和29年生まれ

井沢賢一氏は上伊那郡中川村大字大草字下平で生まれ育つ。南向尋常小学校を終えたのち、農業に従事、現在に至る。郷土芸能を愛し、自らも演じ、村の芸能保存会長をつとめる。また、地域産業の振興に力を注ぎ、種兎組合長に推され、さらに村会議員として村政に参画した。温厚な人柄の人物である。

下平正司氏は上伊那郡中川村大字葛島字柏原で生まれ育つ。中川東小学校(南向尋常高等小学校の後身)・中川東中学校を経て、下伊那郡鼎町にある下伊那農業高校卒業。父を助け、複合経営の農業を営む。地元の青年団長を勤め人望も篤い。

5 録音環境 録音中に、時に車のエンジン、時に時刻を知らせるチャイムが入るなど、録音状態は最良というわけには行かなかった。

下平青年は、話しを引き出し、スムーズに展開させ、なおかつ、自らの意見も述べ、年長者に対し、畏敬の念を忘れなかった。井沢老人は、村の長老らしい態度とことばで青年に応待した。

1 祭 り

話し手

(略号)

(性)

(生年)

A 井沢 賢一 男 明治32年生まれ
B 下平 正司 男 昭和29年生まれ

A ソーダナー ムカシカラ⁽¹⁾ ウチノ ホーニャー オマツリガ⁽²⁾ アッテ
そうだなあ 昔から うちの 方には お祭りが あって
イマワ マー イソガシクテー ヘー トニカク アノ ソノー
今は 忙しくて とにかく
オマツリノ ヨキョーノ ケーコオ スルナンチュー ヒマガ
お祭りの 余興の 稽古を するなどという 暇が
ナクナッチマッテ⁽³⁾ (B ハエ) エー ミンナ ヨソエー シゴト
なくなっちゃって 皆 よそに 仕事
ニ デテシマッテ ウチニ オル シ ムスコタチャー ホトンド
に 出てしまっ、 うちに いる 息子たちは ほとんど
ナイッチューヨーナ コトン ナッチマッタモンデナン
ないというような ことに なってしまったものだからね。

B ハエ

A ダケド ムカシワ (咳払い)サンニン アッテモ ヨニン アッテ
だけど 昔は 3人 あっても 4人 あって
モー オトコノ モノワ ミンナ ウチニ オッテー エー アサー
も、 男の 者は 皆 うちに いて、 朝、

アサクサカリッ チュッテ ヤマエ クサカリニ イッテ クルトー
「朝草刈り」と言って、 山に 草刈りに 行って 来ると、
(B ハエ) オヒルゴロワ ケーッテ キテ ソレカラ ユーガタ
お昼頃は 帰って 来て、 それから 夕方
マデワートニカク ダイカグラノ ケーコオ シテ マインチ
までは とにかく 大神楽の 稽古を して 毎日
ヒュードン ヒュードン ユッテ アスンドッタモンダ
「ヒュードン ヒュードン」 言って 遊んでいたものだ。

B (笑) ホニ

A ソレカラ マター アサ ハヤク ヨノ アケン ウチニ ヤマエ
それから また 朝 早く 夜の 明けないうちに 山へ
クサカリニ イッテ キテ イッテ キテ ウチデー ヒルヤスミ
草刈りに 行って 来て、 行って 来て、 家で 昼休み
オ シテ オキルト ダイカグラノ ケーコニ オミヤエ イッチ
を して、 起きると 大神楽の 稽古に お宮へ 行って
チャー (B ホー) マインチ ヒュードン ヒュードン ヤッテ
は、 毎日 「ヒュードン ヒュードン」 やって、
(笑) (B 笑) ヤットッタケード イマワ トニカク ソンナ
やっていたけれど、 今は とにかく そんな
コトオ シトッタ ブンニャ クラシカ デ タタンヨーン ナッ
ことを していた ぶんには、 暮らしが 立たないように なっ
テ シマッタモンダ^テ (B エ ハエ) イマー トニカク ソノ
て しまったものだから 今は とにかく
ー ムカシッカラノ⁽⁴⁾ マー ゲーウオ ホゾンシテクニ クローシ
昔からの 芸を 保存していくのに 苦労し

テ コノゴロモ マー ホゾンカイッテユ モノー コシラエテ
て、この頃も 保存会という ものを 作って

ワカイモノニー イクラナリー ムカシッカラノ オー モノウオ ウケ
若い者に 幾らかでも 昔からの 物を 受

ツク^ク ぽ^ウオ シテ ヤッテ ムライタイッテ ユー コトデ マー ヤ
け^キ 継ぎを して やって もらいたいと いう ことで、 や

ットルケード ムカシャー ナカナカ ドーモ エライ コトデー
っているけれど 昔は どうしてどうして どうも 大変な ことで、

ソンナ コトー セニャー ア トニカク タンボオ ツクッテー
そんな ことを しなければ とにかく 田圃を 作って

オルダケダモンダテ⁽⁵⁾ ヨーガ ナカッテ ソレニ オトコカ^カ サン
いるだけなものだから 用が なくて、それに 男が 3

ニンモ ヨニンモー ゴテゴテ ウチニ オッテ ナンニモ ヨーガ
人も 4人も ゴタゴタと 家に いて、何にも 用が

(B 笑) ナカッタモンデナー (B ハー) エ ソレデ マー
なかったものだからなあ。 それで

ソーユ コト シトッタ ワケダガナー ソレデ マー ウチノ
そういう ことを していた わけだかなあ。 それで うちの

ホーノ⁽⁶⁾ ダイカグラワー ダイタイ シシウオー シュタイニ シテ
方の 大神楽は、大体 獅子を 主体に して、

マー ドコデモ ヤル アクマハライッチュ コトワ マー コリャー
どこでも やる 「悪魔 祓い」という ことは、 これは

ゼンゴクテキニ ヤットルケードモ エー ソノホカニ アノー
全国的に やっているけれども その他に

シシウオ オンナヤクニ シテ イロイロナー (咳払い) アー
獅子を 女役に して 色々な

アンチンキヨヒメダトカ (Bハー) オハンチョーエモントカ
安珍清姫だとか, お半長右衛門とか

(Bエー) ユーヨーナ ムカシノ オ ソーユー モノオ
というような 昔の そういう 物を,

ゲダイモノウオ ナカウタテ^ウ アノー^ウ コッチノ ホーデー⁽⁷⁾
外題物を 長唄で, こっちの 方で

ソノー ウタオ ウタウト ソレニ ヨッテ (Bエー) アノー
唄を 歌うと, それに よって

コトバオ イレテ オドリウオ シテクッチューヨーナ コトー
言葉を 入れて 踊りを して行くというような ことを

ヤッタ ワケダナー

やった わけだな。

B フーン アノ ソノー ウタワ イマモ ツズイテルンデス
唄は 今も 続いているんです?

A ソーダナーン マー イマワ マー ソノ ワシガー ダイタイ ヤレ
そうだね。 今は 私が 大体 やれ

ルダケデ(笑いながら)ホカニワ (Bハー) ヤレル シトカ^{ネーケー}
るだけで, 他には やれる 人が ないけ

レドナーン (Bハー) ア ムカシノ ゲンジブシ⁽⁸⁾ツチャー ヤツ
れどね, 昔の 「源氏節」という やつ

テ^{シロキヤオコマツチャーノオ} (Bエー) ヤリ ソレカラ
で, 「城木屋お駒」というのを やり, それから

マー ム^マ マー ナカウタ ナカウタツチャー^{トルケードモ} マ
「長唄」, 「長唄」と言っているけれども,

ナンテ ユー ウタナンダカ ソーユー コトワ シランケードモ
何と 言う 唄なのか そういう ことは 知らないけれども,

アンチンキヨヒメノ (Bエー) アンチンガ ニゲテク
安珍 清姫の, 安珍が 逃げて行く

トコオ キヨヒメカ アトー オッテ ヒダカガワノ ワタシバマデ
ところを, 清姫が あとを 追って 日高川の 渡し場まで
イク トコー ヤルンダガナー
行く ところを やるんだがなあ。

B ハー

A マ ソレワ (咳払い) イマジャー ゲンジブシナンチュ モノア
それは 今では 「源氏節」なんていう ものは,
トニカク ワカイシューワ ナンノ コンダカ サッパリ (B笑)
とにかく 若い衆は 何の ことだか さっぱり

ワカランチュウ コトン ナットルケードモ (Bエー) マー
判らないという ことになっっているけれども,

シトーツ ヤッテ ミズカナー (笑)
一つ やって みようかなあ。

B ハエ オネガイシマス (A笑, 咳払い)
はい, お願いします。

A オコーマワー カウオーオー フリーアーゲーテー ソリャー キー
「お馬駒は 顔を 振りあげて, そりゃ 聞
コーエマーセヌー サイダーサーン⁽⁹⁾ オマーエートー ワターシ
こえませぬ 才三さん, お前と 私の

ーノ ソノー ナーカーワー キノーオヤー キョーオノ ナカーカーイ
その 仲は 昨日や 今日の 仲かい

ーナーッテ マー コーユー フシダナー (笑) (B笑)
な」って, こういう 節だなあ。

B アリガトー ゴザイマシタ ホレデ アレデスー アノ イマー
ありがとう ございました。それで あれです？ 今は

アノ ソノ シシマイモ ヤルワケデスネー (A アー) ソノ
獅子舞も やるわけですね。 その

ウタニ アワシテ (A アー) ホレデ ソーユーノア ム ア
唄に 合わせて、 それで そうというのは

ムカシッカラ ウケツイデ キテル ワケデスネー
昔から 受け継いで 来ている わけですね。

A アー ソーダ イマモ マー イクニンモア ナイケード アノ
ああ そうだ。今も 何人もは ないけれど、

イマモ ヤレツチュヤ ヤレル (B ハー) シトガ アトメガ
今も 「やれ」と言えば やれる。 人が、 跡目が

デキトルニ
できているよ。

B ソレデ ウタダケワ アトメガ ナインデスカ イマントコ
それで 唄だけは 跡目が ないんですか、今のところ…。

A ソレデ ショーネーデ イマワー (B 笑) アノ テープデ
それで 仕様がないので 今は テープで

ワシノ コエヲ (笑) (B 笑)
私の 声を…

B フー アー ザンネンデスネー ホントニー⁽¹¹⁾
残念ですねえ、本当に。

A ソレデ アノー ナガウタデ アノー アンチンキヨヒメノ ホーノ
それで 長唄で 安珍清姫の 方の

ヤツワ(咳払い) アノー ドーチューヲ ユク トコト ヒダカガワノ
やつは 道中を 行く ところと、日高川の

ワタシバエ アノー イッタ⁽¹²⁾ トコロガ (B エー) ソノ
渡し場へ 行った ところが、 その

ワタシバデ センドーガ ワタシテ クレント ユー トコオ ヤル
渡し場で 船頭が 渡して くないと いう ところを やる

ワケダガナン (B ホー) コレワ (咳払い)
わけだがね、 これは。

ヒダカーガワーノ ワターシーバーエー ヨーヨー タードーリー
「日高川の 渡し場に 漸漸 辿り

ツキーニーケーリー ハヤー ツキーシーローオモー サシーノーボ
着きにけり。 早や 月代も 差し昇り

リー クカー ナクー ミユール⁽¹³⁾ ムコーノー キーシー アー
苦が なく 見ゆる 向こうの 岸、 ああ

ウレシヤ コノ カワ コギユケバ ドージョー ジエワ シトハシリ
嬉しや、この 川 漕ぎ行けば 道成寺へは 一走り

ット コエウオー ハールーカーニー オーイ オーイ コノ カワ
と 声を 遙かに、 『おおい、おおい。この 川

ワタシテ ワタシテト ネミミニ ビックリ フナオサワ メウオ
渡して、 渡して』と。 寝耳に びっくり 舟長(船頭)は 目を

スリコスリ ブーッ チョズラー(笑) ト コ_{xx}(笑) コーユー マ コーユー
すり擦り イム頂面 」 と、 こういう、 こういう

ヨーナ ワケダ^ッタン (B ハーン) ダナー (笑、咳払い)
ような わけだ^ッたんだなあ。

B アノー ナンダ イマノ コトワ ダイタイ ワカルンデスケド
今の ことは 大体 判るんですけれど、

ムカシ ソノー ヤッテタ ジブンッテユーノワ アノー アノ
昔 やっていた 時分というのは、

ナンダ ヤッパシ イマミタイニ アノー イマト オンナジヨーニ
やっはり 今みたいに 今と 同じように

アノー ナンダ カクブラ ツカラ イロイロ⁽¹⁴⁾ モノア オミコシカ
各部落から 色々の 物が、お神輿とか

ソーユー モノア デタ ワケナンデスカ
そういう 物が 出た わけなんですか。

A ヤー ソーユー コトワ ナクテナン アノー ブラクダケテ ヤッ
そういう ことは なくてね、 部落だけで やっ

トツテナン (B ハーン) ソノウチニ アノー オミヤカ° イクツ
ていてね、 そのうちに お宮が 幾つ

モ イクツモ アノー カクブラクニ オミヤカ° アッタ ヤツウオ
も 幾つも 各部落に お宮が あった やつを

(B エー) オー セーフノ マー ホーリツデ ソンシャト ユー
政府の 法律で、「村社と いう

モノエ イクツカニ マツメテ ゴーシャオ シテ シマエット
ものに、 幾つかに まとめて 合社を して しまえ」と

ユー コトガ ワシラノ セーネンジダイニ アツテナン
いう ことが、 わしらの 青年時代に あってね。

(B エー) ソレカラ アノー ウチノ ホーノ オミヤワ
それから うちの 方の お宮は

ソンシャト ユー コトデ アノ ハチマンシャエ エー ココノツ
村社と いう ことで、 八幡社へ 九つ

バカノ ブラクガ イッション ナッタ ワケダ ホーシテ アノー
ばかりの 部落が 一緒に なった わけた。 そうして

キタグミノ⁽¹⁵⁾ アノー オミヤト (B ハエ) カズラシマノ アノー
北組の お宮と、 葛島の

オミヤト (B ハエ) コレガ マー ソンシャガ サン ミッツ
お宮と、 これが 村社が

デキタ ワケダノーン (B ウー) アー ソレカラワー カクブラッ
できた わけたね。 それからは 各部落

カラ モチヨッテ アノ ヨキョー スルヨーン ナッテ イクネンカ
から 持ち寄って、 余興するように なって、 何年か

ソレオ ツズケタケードナーン (B ハー) マー トニカク ソノー
それを 続けたけれどね、 とにかく

ウ ウチノ ホーデワー コノ イロイロナー モノオ マイトシ
うちの 方では 色々な ものを 毎年

ヤル ブンニャ ヤレタケード ワキノ ブラクデワ ナンニモ
やる ぶんには やれたけれど、 脇の 部落では 何にも

ヨキョーオ モッテ クル タネガ ナクナッテ (B 笑) シマッテ
余興を 持って来る 種が なくなって しまって、

ソレカラ (B フーン) ヘー トニカク ヘー オヤスミニ
それから 「もう、とにかく もう お休みに

⁽¹⁶⁾
セメーカッチュー ヨーナ コトン ナッテナ (B エー) エー
しようじゃないか」というような ことになっただけ。

ソーユー コトガ ナクナッテ シマッテ エー コノゴロジャー
そういう ことが なくなって しまって、 この頃では

ヘー ⁽¹⁷⁾ オマツリン ナッテモ ソーユー コトワ (B ハエ)
もう お祭りに なっても そういう ことは

イクネンカ オキニ ヤルグライダガ (B ハエ) ライネンワ マタ
何年おきかに やるぐらいたが、 来年は また

ウチノ ホーノ ブラクノ ネンバント ⁽¹⁸⁾ ユー コトン ナットルデナン
うちの 方の 部落の 年番と いう ことになっただけ。

(B ハエ) ホレデ ライネンワ マタ シトトーリ ヤルンジャ
それで 来年は また 一通り やるのでは

ネーカト オモットル ケードナン
ないかと 思っている けれどね。

B アー ソーデスカ フーン ソレデ アノー アノ ナンデスカ
そうですか。 それで 何ですか、

モー ズーット ムカジカラ ツズイテ キトルト オモウンデス
もう ずっと 昔から 続いて 来ていると 思うんです

ケドー アノー センジチューナンカワ ドーユ フーニ ヤッテ
けれど、 戦時中なんかは どういう ふうに やって

タンデスカ
いたんですか。

A マー センソーチューナンカ トニカク ソンナ⁽¹⁹⁾ フヨ フィタリ
戦争中なんか とにかく そんな 笛を 吹いたり、

シャミオ ヒータリナンテ コトワ オコラレチマッテナー
三味線を 弾いたりなんて ことは 怒られてしまってね。

(B 笑 エー エー) ア ソンノウチ チュートシマ ア^xアノー
そのうち 途中のころ

ヤスンジマッタモンデナー ソレカラ コンドワ センソーア
休んでしまったものだからなあ、 それから 今度は 戦争が

オシマインナッテカラニワ オトコノ シューン⁽²⁰⁾ テマカ° ヘッタッテ
おしまいになってからは、 男の 衆の 手間が 減ったと

ユー コトト (B ハエ) コージョー オ^xオ^xエ ミンナ ットメル
いう ことと、 工場 へ 皆 勤める

ヨーン ナッテ シマッテナー (B ハエ) ウチニ オランヨーン
ようになって しまってなあ。 家に いないように

ナッチマッタモンデ ソレカラ デキンヨーン ナッタ ワケダ
なってしまったものだから それから できないように なった わけだ。

(Bフーン) フン ホレデ イマジャー トニカク ソノ ホゾンオ
それで 今では とにかく その 保存を

シテクダケノ アトメカ° オルダケデナーン (Bエー) アー
して行くだけの 跡目が いるだけでね。

トニカク ヘー モー ムカシノヨーナ オーサワキノ ブラクジュー
とにかく もはやもう 昔のような 大騒ぎの 部落中

ミンナ ソーデデ ヤルヨーナ オマツリヤ デキンヨーン
皆 総出で やるような お祭りは できないように

ナッタ ワケダナー (Bホー) (咳払い)
なった わけだなあ。

注

- (1) ムカシのシには [tʃ] が僅かに入る。井沢氏の /si/ の /s/ にあたる
ところには、時にかかる具体音声が聞かれる。
- (2) [omatsuriã] と聞こえる。他にもこれと同じような個所がある。
- (3) ナクナッチマッテのマの子音の唇音性は弱い。この他にもこれと
同じ、ないし、類似の現象が認められる。
- (4) このあたりからしばらくのあいだ、戸外の車のエンジンの音が録
音にはいり、うるさい。
- (5) ナカッテは、話し手によれば、誤用ではなく、日常の言語生活の
中でよく用いられるという。
- (6) [h^o:no] と聞こえる。
- (7) [h^o:de:] と聞こえる。
- (8) 源氏節 [名] 明治時代に行われた邦楽の一つ。幕末に名古屋の岡
本美根大夫が新内節に説教祭文を加えて創始した。明治15年(1882)
の美根大夫没後、これを地にした芝居が大流行したが、妙齡の女子
のみだらな演技が取締りをうけ、間もなく廃絶。〈下略〉『日本国
語大辞典』
- (9) ミズのズは意志を表わす。
- (10) サイダサンは、主人公「オ三郎」を親しんで呼んだサイザサンが、
z > d の音韻変化をこうむったものであろう。
- (11) [honˈttoni] のように聞こえる。
- (12) イッ夕の前に軽い言い淀みがある。
- (13) このあたりからしばらく中川村福祉センターの時報を告げるチャイ
ムの音が録音に入る。
- (14) [iroiroˈmonoa] と聞こえる。[iroirona] の [na] が談話
の流れの中で目立たなくなったものであろう。
- (15) [kitaũmino] 「北組」は集落名。
- (16) セメーカーの -メーカーは勧誘を表わす。
- (17) ヘーのヘの子音性は非常に微弱。

(18) [nemban・to] と聞こえる。

(19) このあたりからしばらく、戸外の子どもの声が録音にはいる。

(20) [ɯ:ˈno]

2 相撲の話

話し手

(略号)

(性)

(生年)

A 井沢 賢一 男 明治32年生まれ

B 下平 正司 男 昭和29年生まれ

B イロイロ テレビも ミルト オモンデスケードー マー スモー
色々 テレビも 見ると 思うんですけど”, 相撲や
ヤナンカノ コトニ チョット ワダイオ フレテ ミタイト オ
なんかの... ことに 一寸 話題を 触れて みたいと
モンデスケド アノー ドー アノー ミラレテ イマス スモ
思うんですけど。 見られて います? 相
一。
撲を。

A ソーダノー ワシワー スモーア スキダモンダテ エ サクバエ
そうだねえ, わしは 相撲は 好きなものだから, 作場
イッテ シゴトー シトッテモ スモーノ⁽²⁾ ハジマル ジカンガ
行って 仕事を しているも, 相撲の 始まる 時間が
クルト⁽³⁾ ウチー ダマッテ キチマウ (B 笑) (笑)
来ると 家に 黙って 来て(まう)。

B アー ソーデスカー トコロテ” アノー ナンダ” ツイ スサイキンモ
そうですか。 ところで なんだ, つい 最近も
スモー⁽⁴⁾ アリマシタケドー アノ ゲンザイノー イマノ スモーオ
相撲が ありましたけれど”, 現在の 今の 相撲と

ミテ ドー オモワレマス

見て どう 思われます？

A (息を吸う音) ホタ ムカシノ スモーヨリカ イマノ スモー
そうだ 音の 相撲よりも 今の 相撲は
ワ アレダナ ムカシワ シキリノ トキニモ シックリ シシキ
あれだな 昔は 仕切の 時にも じっくり 仕切
ッテ テオ ツイテッカラ ニ アノ タツッテ ユー イキカタ
て 手を ついてから に 立っ と いう 行き方
ダッタケードモ イマノ スモーク アレダナー チューゴシノ
だったけれども 今の 相撲は あれだなあ 中腰の
ママデ スーニ アノ トビツイテッテ アノ クミツツクツチュ
ままで 直ぐに とびついて行って 組みつくというよう
ヨーナ スモーン ナッテ (B ハエ) ムカシトワ⁽⁵⁾ マー イ
な 相撲に なって 昔とは
クブン カーッテ キトルト モーカ^{ナウ}
幾分 変って 来ていると 思うがね。

B ハー ローデスカー

そうですか。

A フフーン

B ヤッパシー アノー ナンダ スモークッツッテモ オシズモートカー
やっほり なんだ、 相撲といっても 押し相撲とか
ヨツニ クム スモートカ イロイロ アリマスケド ドーイ ス
四つに 組む 相撲とか いろいろ ありますけど どういう 相
モーカ イチバン スキデス⁽⁶⁾
撲が 一番 好きです？

A マー ワシワ アレダナー オーガラノ シトノ アノー ワリア
 わしは あれたな。 大柄の 人の 割合に
 イニ ブサイクナ スモーヨリカ (B エー) チョット カラ
 不細工な 相撲よりも、 一寸 体の
 タノ チーサイ シトガ (B エー) トニカク ソノ ギノー
 小さい 人が とにかく 技能で
 デ (B エーッ) カツツチュー スモーガ スキダナー
 勝つという 相撲が 好きだなあ。

B ジャー アレデスネー アサヒクニトカ タカノハナトカ ソーユ
 では、 あれですね。 旭国とか 貴の花とか そうい
 う……。

A アー ソーユ アーユ シトノ スモーノ ホーガ スキダナ
 そういう、 ああいう 人の 相撲の 方が 好きだね
 ウン (B ホー)

A ハー

B アレデスカ ジャー ヤッパシー ソーイ ヒトガ スキナンテスカ
 あれですか、 では やっぱり そういう 人が 好きなんですか。

A ハーツ
 ええっ？

B ソーイ ヒトガ スキナンテスカ
 そういう 人が 好きなんですか。

A ソーダナー^(?) マー アサヒクニナンテ ユー シトワ アレダナウ
 そうだね。 旭国なんて いう 人は あれたね。

ア トニカク_x カラダ^ノ チーサイ ワリアイニ オ_x オーキー
とにかく 体の 小さい 割合に 大きい

タカノ_x アノ_x タカミヤマナンカーニ オサレテモナ (B
高見山なんかは 押されてもなあ、

エーエ) ソレウオ トニカク アル テード フミコタエテ
それも とにかく ある 程度 踏みこたえて、

トニカク マカスツテ ユーダケノ カラダ⁽⁸⁾ ネバリガ^o アルッ
とにかく 負かすと いうだけの 体に 粘りが あると

テュ コトワ (B ハエ) マー トニカク アノ レンシュウ
いう ことは、 とにかく 練習も

モ (B フフーン) ソートー スルンダト^o モーガ^o トニカク^o
相当 するんだと思うが、 とにかく

アノ^o ココワ コーユー フーニ キタラ コー スリヤー コ
ここは こういう ふうに 来たら こう すれば こ

ノ^o アイテノ チカラガ^o ヌケルンダツテ ユー ソノ ギノーガ^o
のう 相手の カが 抜けるんだと いう、その 技能が

アルツチュ コトガ^o ア_x トニカク エライ モンダト オモット
あるという ことが とにかく 偉い もんだと 思ってい

ルナ (B エー) (咳払い)
るな。

B ヤッパシ スモーハカセナンテュー アダナガ^o アルダケノ コト
やっぱり 相撲博士なんていう あだなが あるだけの ことは

アリマスネ ヤッパシ (笑い)
ありますね、 やっぱり。

A アー マー トニカク アレー ソレカラ アノ^o イマワ チョッ
とにかく あれ、それから 今は 一寸

トヘー トショー トッテ キテ アノー ヨワリオ ミセルヨー
 もう 一年を 取って来て、 弱りを 見せるよう
 ナッテ キチマッテ (B ハー) ダメダケードモ アノー
 に なって 来てしまって 馬太目だけれども、
 トチアズマナー (B トチアズマデスカ エー) トチワズマナ⁽⁹⁾
 栃東なあ、 栃東ですか、 栃東なんてい
 ンチューノワ トニカク アノ ドヒョーノ キワデ (Bエー) エ_x
 うのは とにかく 土俵の 際で
 ハゲシク マガッテッテ エ_x シトガ アトー ツイテ イキキレナン
 激しく 曲がって行って 人が あとを ついて 行ききれない
 デ ドヒョーノ ソトイ デチマウチュヨーナ スモーオ トッタ
 で 土俵の 外へ 出て(まう)というような 相撲を 取った
 ケードモ アレガ マエマーシオ ツカンデ トニカク アノー ス
 けれども、 あれが 前回しを 掴んで とにかく す
 プニ アノー ヨリダシテ シマウツチュヨーナ (B ハエ) ス
 ぐに 寄り出して (ま)しょうというような 相
 モーオ トチアズマアタリア トッタケードモ マ コノゴロジヤ
 撲を 栃東あたりは 取ったけれども、 この頃では
 アイ スモーオ トニカク アノー ミレンヨーン ナッチマッ
 ああゆう 相撲を とにかく 見られないように なってしまっ
 テ ヘー (B エー) トシオ トッテキタモンデ ダメダケ
 もう 一年を 取って来たものだから 馬太目だけ
 ドナ_ン (B エー) アーユー シトノ スモーオ ミトルト
 どね。 ああいう 人の 相撲を 見ていると、
 イカニモ トニカク ジョーズナ スモトリダッテ ユニ (B
 いかにも とにかく 上手な 相撲取りだ」と いう

ハー) タダ" チカラモチダッテ ユー スモトリト ジョーズ"
ただ" カ持た"と いう 相撲取りと, 上手な
ナ スモトリッテ ユーノト マー アルモンデナー
相撲取りと いうのと あるものだからなあ。

B エー⁽¹⁰⁾ ホーデスネー アノー ナンダ" タカノハナナンカモ オー
そうですね。 なんだ, 貴の花なんかも 大
ゼキン ナル マエノ セキワケノ ジブンナンカ ホント ヨク
関に なる 前の 関脇の 時分なんか 本当に よく
クイツイター イー スモー トツタンデスケドネー
食いついて いい 相撲を 取ったんですけどねえ。

A ソーダノ⁽¹¹⁾ セキワケッカラ オーゼキニ ナッタ キワヨリカー
そうだね, 関脇から 大関に なった 際よりも
コノゴ⁽¹²⁾ロノ タカノハナナワ_x チョット ネバリガ_x ヤ_x ナクナッ
この頃の 貴の花の(相撲)は,一寸 粘りが なくなった
タナート ユー カンジオ ウテルヨーン ナッテキタケードモ
なあと いう 感じを 受けるように なって来たけれども,
ンー ソレデモ アノシトワ マ ニンキモ アルシ ヨク アノ
それでも あの人は 人気も あるし, よく
ー アレダケノ カラダ"デ" ヨク トットルト モーナー
あれだけの 体で よく 取っていると思うなあ,

B (笑) ヤッパシー アレデスネー アノー スモーッテ ユーノワ
やっはり あれですね, 相撲と いうのは
アノー コー キビキビシタ ウゴキッ⁽¹⁴⁾テ" ウゴキマワッテ スモ
キビキビした 動き で 動き回って 相
ー^{*} トルッテユ_xヒト_x アノー スモーノ ホーガ_x アノ ミゴタエガ_x ア
撲を 取るという 相撲の 方が, 見ごたえが

リマスネ ありますね。

A ソータ^ナアノ マー チカラテ^カ カツンダ^カ ウゴ^ウ ウゴイテ
そうだなあ、 カで 勝つんだか 重かいて
ウゴイタ ハズミテ^カ カツンダ^カ シランケード アノー ワシュ
動いた 弾みて 勝つのだか 知らないけれど、 鷲
ヤマナンチューノワ マー トニカク ハゲシク ウゴキマワッ
山なんていうのは、 とにかく 激しく 動き回って
テ ドコデ^カ カッ^カ カツンダ^カ ドノ テデ^カ カツンダ^カ フ
どこで 勝ったんだか、 どの 手で 勝ったんだか
カランヨーナ カチカタオ スルケード アリヤ マー トニカク
判らないような 勝ち方を するけれど、 あれは とにかく
ウー ジブンノ チカラテ^カ カツンダ^カ ウゴイトル^カ ウチニ
自分の カで 勝つんだか 動いている うちに
ハズミテ^カ カツンダ^カ チョット ワケノ ワカランヨーナ カチ
弾みて 勝つんだか 一寸 わけの 判らないような 勝ち
カター スルンダ^カ ナン
方を するんだかなあ。

B (笑) ンー ソエデ^カ アノー マー マ^カ ゲンザイノー スモートリモ
それで 現在の 相撲取りも
テスケド^カ マ ムカシーノ スモートリナンカー アノー ナンテ
ですけれど、 昔の 相撲取りなんか 何と
ウンデスカ アノー モット チガッタ メンデ^カ アノー (A
言うんですか もっと 違った 面で
咳払い) ナンダ^カ イマト^カ イマノ スモート チガッタ メンデ^カ
今の 相撲と 違った 面で

モット イー トコガ⁽¹⁷⁾ アツタト モウンデスケードネー
もっと いい ところが あったと 思うんですけどねえ。

A ソーダ^ナー アノー ヨク シタチヤマ ウメガタニッテ ユー
そうだなあ。 よく 常陸山, 梅ヶ谷と いう
コトー イマダニ ユーケードモ アノ トージノ ヨコズナワ
ことを いまだに 言うけれども, あの 当時の 横綱は
トニカク ヨコズナノ ホーカラ サキー タツナンチュー コト
とにかく 横綱の 方から 先に 立つなどという ことは
ワ ナクテ (B エー) トニカク アノー アイテガ タツテカ
なくて とにかく 相手が 立ってか
ラニ ウケテ タツト ユー スモー⁽¹⁸⁾ トリカタオ シタ ワケ
ら 受けて 立つと いう 相撲の 取り方を した わけ
ダナ
だな。

B ヨコズナラシーッテ ユー
横綱らしいと いう---

A アー ソレデ^ナ ヨコズナラシク アトデ タツテモ ソレデ^ナ チカ
それで 横綱らしく あとで 立っても, それで カ
ラテ^ナ カツト ユー スモード^ナ トッタ ワケダ^ナ (B ハー)
で 勝つと いう 相撲を 取った わけだな。

ダニヨッテ イマダニ シタチヤマダ^ナ (B エー エー) ウメ
それだから いまだに 常陸山だ 梅ヶ

ガタニダ^ナト ユー モノワ ナカ^ナ ノコットルンダ^ナト オモーガ^ナナ
谷だと いう 者は 名が 残っているんだと 思うがな

ー (B ハー) コノゴロワ トニカク^ナ ヨコズナデ^ナモ ナンデ^ナモ
あ。 この頃は とにかく 横綱でも 何でも

サキー タタニャー (B 笑い) タチマケリャー マケチマウ
先に 立たなければ 立ち負ければ 負けてしまう

ツチュヨーナ (B エー) スモーン ナツテ シマッタ ワケ
というような 相撲に なって (まった わけ

タ⁽¹⁹⁾ (B エー エー) (笑い) ソレダケー カーツテ キトル
だ。 それだけ 変って来ていると

ト モーケード マ ソノ ヤッパリ⁽²⁰⁾ (咳払い) イマワー ガッ
思うけれど、 やっぱり 今は 学

コーカラ キテ (B エー) ジュードーヤナニオ サンザ ケ
校から 来て 柔道やなんかを さんざん 稽

一コー シテ キテ ソレカラ スモトリン ナツツチュヨーナ
古を して 来て、 それから 相撲取りに なったというような

シトカ° アルモンデナー (B ハエ) マゴマゴシトリャ ヤラ
人が あるものだからなあ、 まごまごしていると やら

レテシマウト ユー コト⁽²¹⁾ (A B 笑い声) トニカク アル タ
れてしまうと いう こと---、 (そういうことが)とにかく ある た

メニ エー アイテヨリ マケンヨーニ ス_x アー ハヤク タタ
めに 相手より 負けないように 早く 立た

ニャーツテ ユー コトガ° (B ハー) トニカク (B ハー)
なければと いう ことが とにかく

カチマケノ アノー ショーテンニ ナツトルツチュヨーナ ダイ_{x x}
勝ち負けの 焦点に なっているというような

タイヘンニ カーツタ トコガ アル ワケダナーン (B ハー)
大変 変った ところがある わけだね。

B ヤッパシー ナンダ° ムカシノー スモーツチュエーノア アノー
やっぱり なんだ、 昔の 相撲と(いうのは、

ドッ シリシター トコカ° アッタンデスネー ソレダケー
どっしりした ところが あったんですね、 それだけ……。

A ハー ソレデー マー シコー フンデモ^アニオ シテモ^マー
それで 四股を 踏んでも 何を しても

アノー コンドワ アノー ガイコクマデー アノー シハンニ イ
今度は 外国まで 師範に 行

ッテ キタ (B エー エー) ケード アノ ユタカヤマナンチ
って 来た けれど、 豊山などというの

ユーノアノー (B ハエ)ア^Xソーユ メンカラ ユート マー
はね、 そういう 面から 言うと

ムカシノ カタオ イクブンナリ モットルト ユー シトダ"ンダ"
昔の 型を 幾分なり 持っているという 人なんだ"な

ナー (B ハー) ハー
あ。

B アルデス⁽²²⁾ー ムカシー (B 咳払い) ノー ヒトノ⁽²²⁾ー メーバメ
あれです？ 昔 の 人の 名場面

ントカ メーショー ブナンテノ イマデモ オボエテ イマス
とか 名勝負なんてのを 今でも 覚えて います？

A サー ドーモ コレカ° コーッテ ユー モノオ テレビカナニカ
どうも これが こうって いう ものを、テレビかなにか

アリャダケード ソーデナケニャ オボエテ オランケード マ
あれは"だ"けれど、 そうでなければ 覚えて いないけれど、

ソコエ エクト⁽²³⁾ トニカク ムカシー シキリオ スルニ (B ハ
そこへ いくと とにかく 昔 仕切りを するに、

エ) イツマデデモ ジブンガ° キニイルマデ° シキリナオシオ
いつまででも 自分が 気に入るまで 仕切り直しを

シトツタツチューノア タチヤマツツー スモートリダナー (B
していたというのは 太刀山という 相撲取りだなあ。

ホー) コリヤー モー ヨン^x ヨン^x ジューナンカイモ ナガイ
これは もう 40何回も 長い

トキニャー (B 笑い) シキリオ シタツテ ユーケード (B
時には 仕切りを (たと いうけれど)

B ホー) トニカク⁽²⁵⁾ マー ソレデー アノシトワ アー ツキカ⁽²⁶⁾
とにかく それで あの人は 突きが

エテデ (B ハー) タチヤマノ ツキツ⁽²⁷⁾ ヲツテ (B エー)
得意で 「太刀山の 突き」と言って、

マ トニカク ジブンデ⁽²⁵⁾ コンドナラ カテルツテュー トキマデ⁽²⁶⁾
とにかく 自分で 今度なら 勝てるという 時までは

ワ タタンチュー シトダモンデ (B 笑い) ホエデー トニ
立たないという 人だものだから それで とに

カクー タチヤマノ ツキオ ウケレル シトア ネーツテ ユー
かく 「太刀山の 突きを 受けられる 人は ない」と いう

コトー イツタケード⁽²⁵⁾ サ^x サツキカラ ユー トーリ (B ア
ことを 言ったけれど さっきから 言う とおり、

ー) アノー タチアイニ ジブンカ⁽²⁵⁾ コンドワ カテルツテュー
立ち合いに 自分が 今度は 勝てるという

トキデナケニャー タタンツテュー⁽²⁸⁾ スモータモンダデ⁽²⁶⁾ エー タチ
時でなければ 立たないという 相撲だものだから、 立ち

マケデ⁽²⁵⁾ ミンナ マケチマウ ワケダナー (B 笑い) マ ソー
負けで 皆 負けてほう わけたなあ。 そう

ユー ウー ヨコズナモ (B エー) アツタワケダ (Bホーオ)
いう 横綱も あったわけた。

注

- (1) 「作場」。 「農作物を作るところ。田畑」の意。
- (2) スモーノの前にちょっと言い淀みがある。
- (3) クルトはちょっと聞くと、[kɯ:to] のように聞える。これをクルトと表わしたのは、ルの部分を、舌はルの子音の位置をとり、シラビックな流音として発音されているとみたからである。
- (4) スモーのあとにちょっと言い淀みがある。
- (5) [mukaʃiːtowa] と聞える。
- (6) スキテスのスはほとんど聞き取れない。
- (7) ソーダナーン はソーダナーとも聞える。鼻母音と解釈してンを入れるべきかどうか判断に迷うところは、他にもある。
- (8) [karadap] と聞き、シラビックな [ɲ] をニで表わした。
- (9) [totʃiwazuma] と言っている。
- (10) このあとに戸外の子どもの声が入る。
- (11) [so:danã:] のように聞える。
- (12) [konoõlo] のように聞える。
- (13) [takanohananaɰa]。 [takanohananaɰa] の言い間違いであろう。
- (14) [ɯɲoki²de] のように聞える。
- (15) カツンダカーの前に、言い淀みの [ʔ] が入っている。
- (16) カツンダカと促音が入る。カッタまたはカッテと言いかけて止めたものであろう。
- (17) このあたり A のかなり長いスーという吸気が聞える。
- (18) スモーノのノの音声は、舌先が歯茎にしっかりと付くことなく発音されているように聞える。
- (19) この前後に戸外の車の音が入る。
- (20) ヤッパリの前に言い淀みがある。
- (21) ユーコトで、一旦切れ、笑い声があり、それからトニカク---と続く。そこで本文のような訳出をした。
- (22) ヒトノーのヒの子音は多少共通語よりも前寄り。

- (23) [sokoe·kuto] と聞える。
- (24) [sumo:toɾida·na:] と [da·] のように聞える。そうすると、
「相撲だわなあ」と訳す方がよいかもしれない。
- (25) トニカクの前^ニに言^ハい淀^ミみがある。
- (26) [tsukiĩã·] のように聞える。
- (27) [tsukiɽ^sutte] のように聞える。
- (28) テュの子音は、摩擦音的要素が少ないので、このように表わした。

Ⅶ. 愛知県北設楽郡富山村中の甲

収録・文字化担当者 山 口 幸 洋

- 1 地点名 愛知県北設楽郡富山村
- 2 タイトル 若い頃の旅行
- 3 録音年月日 昭和51年9月4日
- 4 録音場所 愛知県北設楽郡富山村中の甲 鈴木清光氏宅
- 5 話し手
S 鈴木清光 (男) 明治27年生まれ 農林業
T 堤 邦房 (男) 昭和25年生まれ 郵便局勤務
- 6 録音環境
「老人と若い男の会話」の収録を意図して鈴木清光さんと、
外孫の堤邦房さんに対談をしてもらった。
- 7 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話
資料(3)』を参照。

若い頃の旅行

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

S 鈴木 清光 男 明治27年生まれ

T 堤 邦房 男 昭和25年生まれ

T コノ テツド⁽¹⁾ー デキタトキャー オジ⁷ーチャンラ 「イ^{xx} (S ウン) (え?)
この 鉄道が できた時は おじいちゃん達は

オジ⁷ーチャン オ「ボエテカラダ^ラ テツド⁷ー デキタノワ
おじいちゃん もの覚えが⁷ついてからだろう 鉄道が できたのは

S 「ソーダソーダ コ「リヤ⁷ー 「ド⁷ッカイ 「ケ⁷ーテアルワケダン テツド⁷ー
そうだ そうだ これは どこかへ 書いてあるわけだが 鉄道

ト 「デンキガ イツ ヘ⁷ーツタ ナンチュ コト
と 電灯が いつ 入った なんていう こと

T 「ホ⁷ー
ほう

S 「ド⁷ッカイ 「ケ⁷ーテータン クライ トコ⁷イ
どこかに 書いておいたが 暗い 所へ

T 「エ⁷ー マ⁷タニ シラズ⁽²⁾ マ⁷タ ミ⁷シテモラウ
ええ 又⁷に してくれ また みせて貰⁷うよ

S 「デンキガ アルテ 「サンコーニ オレン ケ⁷ーテータツツガ
電気が あるから 参考に 俺が 書いた⁷けが

「ライホーエ ハッテアルモンダデ

暗い方へ 貼ってあるので

T 「アー ハッテアルダカイ

ああ 貼ってあるのかね

＊

S ス「イドーガ ショーワサンジューネン シ「ガツサンジューニチ

水道が 昭和 30年 4月30日

T 「デンシャガ ショーワ ジューニ「ネンダネー

電車が 昭和 12年だね

S 「アー ショーワ ジューニ「ネンノ ジューニ「ガツ ニ「ジューイチンチ

ああ 昭和 12年の 12月の 21日

ダナー ソレカラ 「ナンダイナー

だな それから 何だろう

T 「デンキ

電気

S 「アー 「デンキカ

ああ 電気か

T 「デントー

電灯

S タイショー (T ジューサンネン) ジューサンネン ハチガツ

大正 13年 13年 8月

T オー 「デンキガ タイショー「ダエ

え? 電気が 大正って?

S エー

え?

T 「デンキガ タイショー ジューサンネンダ」エ
電気が 大正 13年だね？

S 「ウン タイショー ジューサンネン オカイコデ ツカイソメ」タッ
うん 大正 13年 お蚕で 使い初めたっけ

ツガ 「マズ メズラシー」デンキデ オカイコー カウダトモッテ
が まず 珍しいことだ 電気で お蚕を 飼うだと思って
タノシミ」ダッ ツ (T ホー) 「オラ」デンキオ ハジメテ ミ」タノ
愉快だった 俺が 電気を はじめて みたの

ガ ナンダ」デナー ヒラオカニ オルトキ」ニ ジュー」ニ」トキダガ
が 何だからな 平岡に いる時に 12の 時だか

「イーダ」イ 「シューガクリョ」コーニ (T ホー) イッテ ソノト」キニ
飯田へ 修学旅行に 行って その時に

イーダノ ヤドヤデ 「デンキガ ツイテル」ノオ コレワ メズラシー
飯田の 宿屋で 電気が ついているのを これは 珍しい

トモッ」タッ タガ (T ハッハッハッ) ソレカラ 「エーガモ
と思ったっけ それから 映画も

イーダノ」 ヒロコー」ジノ」 アケボノザ」ツチャー シババイオ ヤッタリ」
飯田の 広小路の あけぼの座っていう 芝居を やったり

「エーガオ (T ハー) ヤッタリ」ナー ソコイ ハジメテ
映画を やったりね そこに はじめて

T 「エーガ」ッテユーモ」ノ ムセーエーガ」カイ
映画っていうもの (それは) 無声映画 かい

S アー 「ド」ーモ ムセーエーガ」ダッ」タセ」 ソノジブ」ンニヤ (T ソー
ああ どうも 無声映画 だったよ その頃には

ヤネー ホー) イーダノ」 キシモトナ」ントカユー シトガ
飯田の 岸本 何とかいう 人が

ヒラオカイ ココイモ キタコトアルガ サタデ ヤッタリ
平岡に(また)ここへも 来たことがあるが 佐太で やったり

「イエーガオ モッテ キチャーナー (T ホー) 「チーサイ ガッ
映画を 持って きてはな 小さい 学

コーノ ヨネンセーグレーナ チーサイ オジデー
校の 四年生ぐらいの 小さい おじいさんで

T ホー コッチジャー ヤッパリ 「サタデ ヤッタ ナニ ドー
こっちでは やっぱり 佐太で やった 何 どう

ガッ「コーデ ヤッタ カ カイジョーフ
学校で やった? 会場は

S コッチジャー オボエネーガ 「サタワ ヤッタ 「サタモ 「サカベモ
こっちでは 覚えがないが 佐太は やった。 佐太も 坂部も

ヤッタ ソノ キシモトガ キテ トクチョーガ 「チーサイ
やった その 岸本が 来て。 特徴は 小さい

オジデーダデ ナンダッ ツヨ (T ハーハッハッ) メズラシカッ ツ
おじいさんだから 何だったよ 珍しかった

「キーナイ コエオ デーチャー セツメーワナー
黄色い 声を出しては。 説明はな

T 「アー ソレガ アレダ「エー
ああ それか あれたよ

S 「アー 「ダイイッカンノ オワリダッ チュート 「ムチデ ナニョー
ああ 第一巻の 終わりだっていうと むちで 何を

「マクオ タデーチャー
幕を たたいては

T ハハー ムセーエーガ「デ「エー
無声映画でね

S 「ア¹ー ム¹セ¹ーエ¹ーガダ (T¹ ヘー) オ¹レ¹ワ¹ ホ¹ッ¹カ¹イ¹ド¹ーエ
 ああ 無声映画だ 俺は 北海道へ
 オ¹バ¹サ¹マ¹ント¹コ¹イ¹ イ¹ッ¹タ¹ト¹キ¹ニ¹ャー コー¹チ¹ノ¹ サ¹サ¹カ¹ワ¹
 おばさんの所へ 行った時には 河内の 笹川
 クニ¹ジ¹サ¹ガ¹ イ¹ッ¹タ¹ツ¹ツ¹ガ¹ ア¹ソ¹コ¹エ¹ー 「エ¹ーガ¹ノ¹ レ¹ン¹サ¹ゲ¹キ¹ッ
 国治さんが 行ったっけが あそこへ 映画の 連鎖劇って
 チュー¹ ヤ¹ツ¹ガ¹ (T¹ フ¹ーン) アル¹デ¹ 「ド¹ーユ¹ー ナ¹ン¹ダ¹ト¹モ¹ッ
 いう やつが あるから どういう 何かと思っ
 タラ¹ 「ナ¹ニ ナ¹ン¹ダ¹ワ¹イ¹ヤ セ¹ツ¹メ¹ーノ デ¹キ¹ン¹ヨ¹ーナ¹コ¹ト¹ワ
 たら 何 何だよ 説明の 出来ないようなことは
 「エ¹ーガ¹デ¹ ヤ¹ッ¹テ ミ¹シ¹テ¹ク¹レ¹タ¹リ
 映画で やって みせてくれたり

T 「ア¹ハ¹ー
 ああ

S ソ¹レ¹カ¹ラ¹ ジ¹ツ¹ブ¹ツ¹ノ¹ ウ¹マ¹ガ¹ナ¹ー (T¹ ホ¹ー) ホ¹ント¹ノ¹ ウ¹マ¹ガ¹
 それから 実物の 馬がね 本当の 馬が
 ソ¹ノ¹ アイ¹サ¹ニ¹ャ¹ー デ¹ー¹テ¹ ソ¹ノ¹ シ¹オ¹バ¹ラ¹ シ¹オ¹ハ¹ラ¹タ¹ス¹ケ¹ヤ¹
 その 間には 出して その 塩原 塩原太助や
 ナ¹ニ¹ヤ¹ ト¹キ¹ヤ¹ ナ¹ン¹ダ¹ゾ¹ ウ¹マ¹ガ¹ ジ¹ツ¹ブ¹ツ¹ノ¹ ウ¹マ¹ガ¹ デ¹テ¹
 何かの 時は 何だよ 馬が 実物の 馬が 出て
 タ¹ス¹ケ¹ト¹ タ¹ス¹ケ¹ワ¹ ソ¹ノ¹ウ¹チ¹ガ¹ オ¹サ¹マ¹ラ¹ン¹モ¹ン¹ダ¹デ¹ ア¹ノ¹ー
 太助と 太助は そのうちが 治まらないので あの
 ア¹リ¹ョ¹ー¹ ヨ¹ー¹シ¹ダ¹ッ¹タ¹デ¹ナ¹ー シ¹オ¹ハ¹ラ¹タ¹ス¹ケ¹ワ¹
 あれを 養子だったからな 塩原太助は

T ア¹ハ¹ー 「ジャ¹ コ¹レ エ¹ーガ¹ト シ¹バ¹イト¹ (S¹ 「ウ¹ン ソ¹ー¹ダ¹
 じゃ これ 映画と 芝居と (うん そうだ

ソーダ) ゴツチャノ ヤツダエー (S ソーダソーダ) ソレデ
そくだ) ごっちゃの やつだね (そくだ そくだ) それで
レンサゲキッテ ユツタダイ
連鎖劇って 言ったんだよ

T ソレ コッチデヤツ「ツ」
それ こっちでやった?

S 「ナニ アレ ホックアイドローデ ミタツツ」
何 あれ 北海道で みたっけ

T ア ホックアイドローデ
あ 北海道で

S ナヨロツチュートコデ (T ホー) アノトージワ マンダ シニヤ
名寄っていうところで あの当時は まだ 市には
ナランダ 「イマー シニナツタデナー ナヨロシワ
ならないのだ 今は 市になったからな 名寄市は

T 「イツジブンニ イツタツツ」 ホックアイドロー (S ンー) 「イツ
いつ頃に 行った? 北海道は いつ
ジブンニ イツタツツ
頃に 行った?

S エート オレガ 「タイオ ジョタイシテ キテツカラダデ タイショー
ええと 俺が 隊を 除隊して 来てからだから 大正
サンネンヘーデ ニュータイシテ ゴネンニ キタダデ タイショー
3年兵で 入隊して 5年に 来たから 大正
ヒチネンカ (T ハー) ハチネンダツタナ
7年か 8年だったな

T ソレ 「マダ デンシャワ ナク ココー トーットランデ」
それ まだ 電車は なくて ここを 通っていないから

S ソノトキ ナニマデ イッツ アソコノ オーカワラマデ
その時 何まで いった あそこの 大河原まで

T 「アー」カワラマデー
ああ 河原まで

S アノトキニヤー 「ナニセンチュツツラナー」アリョー スワッテニ
あの時には 何線っていったらうなあ あれを (吸収して?)
イーダセンニ ナッタデナー コリヤー
飯田線に なったからな これは

T サンシンカラ
三信から

S 「アー」サンシンダッタ (T ソーソー サンシン~~~~) 「アー」
ああ 三信だった (~~~~) ああ
サンシンテッドー 「オーカワラカラ」ノッタツツ
三信鉄道 大河原から 乗ったっけ

T フーン ソイデ 「キシバツカデ」イケター アソコマデ
ふうん それで 汽車ばかりで 行けたよ あそこまで

S フン
え?

T ホッカイドーマデ 「キシバツカデ」アノ アオモリマデ
北海道まで 汽車ばかりで あの 青森まで

S 「オー」ソーダソーダ 「アオモリマデ」キシバデ イッテ アオモリ
おお そうだ そうだ 青森まで 汽車で 行って 青森
カラ 「レンラクセンテ」 (T フーン) 「ハコダテワ」ハコダテ
から 連絡船で 函館は 函館へ
イカッコ 「ウミノ」ウエニ 「サンバシテ」シャバツチュウガ
行かずに 海の上 栈橋停車場っていうのが

アッテナー ソコオ テーシャバノ シタオ コー マルタオ
あってね そこを 停車場の 下を こい 丸太を

ズーット ハケテアッテ ソノウエニ 「イエ」キガ アッテヤー
ずうっと 並べてあって その上に 駅が あってさ

(T ホー) サンバシテーシャバッチュッテ (T フーン) カウニャー
棧橋停車場っていて 買うには

ホッカイドーノ ナヨロマデ カツタツツガ^{xx} ア (T フーン)
北海道の 名寄まで 買ったっけが

「ヨッテ ヨッテ ナンニモ タベラレナンダガ ナニー アオモリ
酔って 酔って 何にも 食べられなかったが 何へ 青森

マデ イッタラ 「ナニカ タベニャー ハラー ヘラン アノ
まで 行ったら 何か 食べなくては 腹は へらないし あの

ミヨラニモ イカントモッテ 「ソバー イッパイ カッテ トルト
体のためにも いけないと思って そばを 一杯 買って 食べると

ソレガ トッテイテナー 「ソバ」チュウ モノワ アノ ハケル
それが 食べていてね そばっていう ものは あの 吐ける

キモ チガッテ 「イーモンダ」 ホヤ
気も 変って いいもんだ そりゃ

T 「ドーダ エッカン カカッタエー (S エー) ホッカイドーマデ
どうだね いいかげん かかったね 北海道まで

「イクンチモ
何日も

S アーソーダ オリャー ナンデ アレワ シゾーカケンノ 「ナンテ
ああそうだ 俺は どうして あれは 静岡県の 何と

ユー エキダカデ 「マドデ ノゾイタラ アノジブンニャー
いう 駅 だかで 窓で 覗いたら あの頃には

デンシャデ ネーモンダデ セキタンオ タイタモンダデ アノ
 電車で ないので 石炭を 焚いたので
 コーヤッテ 「マドオ アケテ ノゾイテ ミタラ 「メー セキタンノ
 こうやって 窓を あけて 覗いて 見たら 目へ 石炭の
 ススガ ハイッテ 「サー イタクテ イタクテ サッパリ ショー
 すすが 入って さあ 痛くて 痛くて さっぱり しょう
 ガナイ アソコデ 「ナンテユー エキダッタナー ユーメーナ
 がない あそこで 何という 駅だったかな 有名な
 エキダガ アソコデ 「イタクテ ショーガネーデ トマッテ ソレ
 駅だが あそこで 痛くて しょうがないから 泊って それ
 カラ アクルヒニ トーキョーマデ イッテ テーシャバニ マン
 から 翌日に 東京まで 行って 停車場に まで
 ダ トーキョーノ ナニガ ジンリキガ ターヘン アッテナー
 東京の 何が 人力車が たくさん あってね

T 「ホー

ほう

S ヒッテキテクレタデ テーシャバマデ オリチャー 「ジンリキナラ
 曳いてきてくれたから 停車場まで 俺は 人力車 なら
 ツイデニ 「メーシャイ イクニ イートモッテ ソレー ノッテ
 ついで 眼医者に 行くのに 良いと思って それへ 乗って
 「ドゥカイ 「キンジョノ オボエタ 「メーシャイ ツレテッテ クリョー
 どこかへ 近所の 知った 眼医者に 連れて行って くれ
 ッチュッテナー ジキ ソバニ アッタッケデ
 行ってね じき そばに あったから

T 「ホー

ほう

S ツレテクレテ¹ オレガ¹ ヤマガカラテ¹ トビダシノ¹ オッ¹チョコ¹チョイ¹
 連れていってくれて 俺が 山村からの とび出しの おっちょこちょい
 ダモンダテ¹ ヘ¹ アノ¹シューワ¹ 「ニンゲンノ¹ ナニヨ¹ー ミ¹ヌク
 だから もう あの衆は 人間の 何を見抜く
 コトワ¹ スバシーンダテ¹ コンナ¹ ヤツオ¹ ト¹ツカマイテ¹ チット¹
 ことは 敏い¹のだから こんな やつを とっつかまえて 少し
 ホ¹ーボ¹ー ケンブツシテヤッテ¹ チット¹ ゼ¹ニヨ¹ー ト¹ラット¹
 方々 見物してやって 少し 銭を取ろうと
 オモ¹ーモンダテ¹ 「マンダ¹ ホッカイド¹ー イクニヤ¹ー ウエノ¹ ノ
 思うもんだから また 北海道へ 行くには 上野の
 マテ¹ イカンナランガ¹ 「アンタ¹ トーキョ¹ーエ キタコター¹ ネ¹ー
 まで 行かにならんが あんたは 東京へ 来たことは ない
 ラッチューテ¹ 「キタコター¹ ネ¹ーツタラ¹ 「マンダ¹ 「ナンチューナー¹ー
 だろうっていから 来たことは ないっていたら また 何といひかな
 アリヤ¹ー ヒヤッ¹カテンガ¹ モトノ¹ ユーメ¹ー マツザカヤジャー¹ー
 あれは 百貨店か もとの 有名な 松坂屋では(ない)
 マツザカヤカ¹
 松坂屋か

T オー 「ヨック¹ シランケド¹
 おお よく 知らないけど

S 「ナンシヨ¹ ヒヤッ¹カテンガ¹ アッ¹タッ¹タゼ¹ 「シンサイント¹キ¹ ヤケ¹
 とにかく 百貨店か あったっけよ 震災の時 焼け
 チャッタ¹ソ¹ マツザカヤガ¹ オレワ¹ アノト¹キ¹ ノボッテ¹ ミタモ¹
 ちゃったぜ 松坂屋か 俺は あのとき 上って 見た
 ンダ¹テ¹ ミタガ¹ ソレカラ¹ ココガ¹ ガイム¹ショーテ¹ 「イーカモン¹ン
 ので みたけど それから ここが 外務省で 井伊掃部守

ノカミガ ココデ コロサレタトカ ナントカ
が ここで 殺されたとか 何とか

T ホー 「フンナー」 「トーキョーケンブツ」 ヤッダダ「エー」
そんなら 東京見物 やったんだね

S 「オー」 ソーダ
うん そうだ

T ジンリキシャデ
人カ車で

S リンリキ「デ」ナー ソイデ カ「ネ」ワ トラ「レ」タ「ゾー」 リンリキノ
人カ車でな それで 金は とられたぞ 人カ車の

ケンブツダモ」ンダデ
見物だから

T 「ゾーダラー」
そうだろう

S ソーヤッ「テ」 シメーニウ「エ」ノノ テー「シャ」バイ ヒッ「テ」ッ「テ」
そうやって しまいに上野の 停車場へ 曳いてって
クレテ キッ「プ」オ カッ「テ」クレテ
くれて 切符を 買ってくれて

T 「イーカモ」ダッ「タ」
良い鴨だった

S リンリキシャノ 「シャ」フガ
人カ車の 車夫が

T フーン
ふうん

S オ「リヤ」ー「アオモリマ」ジャー「ドー」モ トー「イトモ」ッ「テ」 ウ「チ」デ
俺は 青森までは どうも 速いと思って 家で

カンガエルニ イッタラ オモッタヨリ アオモリマジャー トーイ
考えるのに いったら 思ったより 青森までは 遠い

トーイトモッタモンデ 「ハヤク (T ホー) ツイタツツガ マー
遠いと思ったので 早く 着いたっけが まあ

ソリョー アオモリカラ ムコーガ ホッカイドーワ ナニ 「ワズ
それを 青森から むこうが 北海道は 何 わず

カダトモッテ イッタトコガ アクルヒニ レンラクセンデ
かたと思って 行ったところが 翌日に 連絡船で

ハコダテノ サンバシテーシャバイ (T ホー) ツイテ ソツカラ
函館の 桟橋停車場に 着いて そこから

オバーントコイ イマ ナンジニ タツデッ チュッテ 「デンポー
おぼさんのところへ 今 何時に 発っからって 電報

ウットイテナ (T ホー) ソイカラ ノッテッ タツツガ ヨッピトイ
うっといてな それから 乗って行ったっけが 一夜中

ノリヌイテッテ アクルヒノ ナヨルイ ツイタノガ ハチジハン
乗りつづけて 翌日の 名寄へ 着いたのが 8時半

ダカ クジジブン 「クジコイツツタラ オバモ ドーカノ マチガ
だか 9時頃 9時に来いって いったら おぼも どうかの まちがい

イデ ムカイニ テテ クレンガ 「ソイデモ テーシャバノ 「ソバ
で 迎えに 出て くれないうが それでも 停車場の 傍

ダツツモンダデ

だったの

T 「アーハー ホッカイドーワ ソノトキ イッタツキシカイ
ああ 北海道は その時 行っただけかい

S 「アー ソノトキニ イッタツキリダ デ タイワンワ グンタイデ
ああ その時に 行っただけだ で 台湾は 軍隊で

イッテクル ソレカラ センダイトカ ニッコワ サンドバカ
行って来る それから 仙台とか 日光は 三度ばかり

イッテキタガ センダイモ イッテキタガ エーヘージモ イッテ
行って来たが 仙台も 行って来たが 永平寺も 行って
きたがナ
きたがな

T ホーボー アイクニャ アイッタヨー オジーチャン
オマ 歩くには 歩いたね おじいちゃん

S オー オリャー アイッタゾ イズモタイシャモ イッテキタガ
うん 俺は 歩いたよ 出雲大社も 行って来たが

(T アー ソダカイ) キューシューモ イッテキタガ (T オー
ああ そうなのかい) 九州も 行って来たが
ホー) シコクモ イッテキタガ
四国も 行って来たが

T ソリャー ベッタリ アイッタエ
それは 沢山 歩いたね

S キューシューノ シラ アノ シラ シラフネジャーナイ ナンチュツ
九州の シラ あの シラ シラフネではない 何とい
タイ
たか

T アーアーア (S シラ) シラハマ?
シラハマ?

S ンー

T シラハマ
シラハマ

S シラ¹ハマデナイ¹ナー¹ (T ホー) シラ¹ナントカ¹ユー¹
シラハマ でないね

T キ¹シュー¹ (T ホー)
紀州

S キ¹シュー¹ノ¹ ウ¹ミバタ¹ダッ¹ツガ¹ (T ホー) シラ¹ナントカ¹ユー¹
紀州の 海端 だったか シラ 何とかいう

ア¹レー¹モ¹ イッ¹テ¹キ¹タガ¹ イ¹セー¹モ¹ チー¹サイ¹ト¹キ¹ニ¹ イッ¹テ¹クル¹
あれへも 行ってきたが 伊勢へも 小さい時に 行ってくる

ヨ¹ネ¹コー¹ イ¹ク¹オ¹ニ¹ガ¹ シ¹ヌ¹ト¹キ¹ニ¹ ナ¹ン¹ダ¹ネ¹ー¹ ニ¹ュー¹イ¹ン¹シ¹テ¹ル¹
米子を 郁雄兄が 死ぬときに 何だね 入院してる

ト¹キ¹ニ¹ ヨ¹ネ¹コー¹ イ¹セー¹ ツ¹レ¹テ¹ッ¹テ¹ モ¹ド¹リ¹ニ¹ ヨ¹ッ¹タ¹モ¹ン¹ダ¹
時は 米子を 伊勢へ 連れてって その戻りに(病院へ)寄ったので

デ¹ ヨ¹イ¹オリ¹ニ¹ ヨ¹ッ¹タ¹モ¹ン¹ダ¹デ¹ シ¹ニ¹メ¹ニ¹ ア¹ッ¹タ¹ッ¹ツ¹
良い時に 寄ったので 死に目に あったっけ

T アー¹アー¹ オ¹ラ¹ ア¹レ¹ダ¹ラ¹ ミ¹ガ¹ マ¹メ¹ダ¹ラ¹ ア¹レ¹ワ¹ ナ¹イ¹ゾ¹ー¹ワ¹
俺は あれだろう 体が 健康だろう あれは 内臓は

S ナ¹ニ¹ ハ¹ク¹ダイ¹ オ¹リ¹ャ¹ー¹ イ¹マ¹ー¹ ア¹ノ¹ー¹ ヨ¹イ¹ド¹メ¹オ¹ ノ¹ム¹モ¹
何(すぐ)吐くんだよ 俺は 今は あの 酔い止めを 飲む

ン¹ダ¹デ¹ ナ¹ン¹ダ¹ エ¹キ¹ー¹ イ¹キ¹ャ¹ー¹ ヒ¹ト¹ツ¹ボ¹ ツ¹バ¹デ¹ ノ¹メ¹ル¹デ¹
ので 駅に 行けば 一粒 つばで 飲めるから

ナー¹ (T ン¹ー¹) ソ¹ー¹セ¹リ¹ャ¹ー¹ マ¹ー¹ ト¹ヨ¹ハ¹シ¹キン¹ジョ¹マ¹ジャ¹ー¹
ね そうすれば まあ 豊橋あたりまでは

ハ¹キ¹ャ¹ー¹セ¹ン¹ (T ホー) ソ¹イ¹デ¹ コ¹ッ¹チ¹ワ¹ ウ¹ラ¹ガ¹ワ¹キン¹ジョ¹
吐きはしない それで こっちは 浦川あたり

マ¹ジャ¹ー¹ ノ¹マ¹ッ¹コ¹ イ¹ク¹ コ¹ッ¹チ¹ー¹ イ¹ク¹ト¹キ¹ニ¹ャ¹ー¹ ヒ¹ラ¹オ¹カ¹
までは 飲まずに 行く こっちへ 行く時には 平岡

キンジョ マジャー ヒトツボモ ノマンデモ アンジャナーナイ
あたりまでは 一粒も 飲まなくても 心配ない

トイトコイ ソレ モト リョコーニ イッテ ヨウモンダデ
遠いところへ それ 以前 旅行に 行って 酔うので

ヨウト ゴハンガ タベラレンデナー バンノ ゴチソーワ ミナ
酔いと 御飯が 食べられないからね 晩の ごちそうは みな

ミンナニ フルマッ チャッテ テメージャー タベタコター ナイ
みんなに ふるまってしまって 自分では 食べたことは ない

イマー タベルソー (ト ホー) ソレデ アサ ヒトツボ
今は 食べるよ 朝 一粒

ノム ヒルジブンニ ヒトツボ ノミャー マー バンマジャー
飲む。 昼頃 一粒 飲めば まあ 晩までは

ハキヤー センデナー
吐きはしないからね

T オジー イマー ハチジュー イクツダエ
おじいさん 今 八十 いくつだね

S エー ハチジュー マン ハチジューニダガ カゾエノ ハチジュー
ええ 八十 満 八十二 丁が 数えの 八十

サンダー オリャー ニジューニメージ ニジューヒチネンノ
三丁よ 俺は 20 明治 27年の

イチガツ ニジューニンチウマレダデナー
1月 22日 生れたからな

T アー ニジューヒチネンノエー マサシゲサワ ハチジュー ハイ
ああ 27年のね 政重さんは 八十 もう

S アレワ ハチジューナナサイ アレト ミツシゲサノ オッカガ
あれは 八十七才 あれと 光重さんの おかみさんが

T ナニ イッカゲツチガイダッテ
何 一ヶ月違いだって

S アー イッカゲツチガイカ アノシューワ ハチジューナナサイダ
ああ 一ヶ月違いか あの衆は 八十七オト

T ソーダッテエー
そうだってね

S ソノツキニャー オレダゾー
その次には 俺だぞ

T アーソーカイ ソンナラ サンバンメダエー
ああそうかい そんなら 三番めだね

S アノ オンナジャー オトノサガ ソノ オレヨリ マタ ヒトツ
あの 女では おとのさんが その 俺より また ひとつ
ユエダ (T アー) シタデノ
上 シタデ(地名)の

T ホー アノシトガ ウエカネー
ほう あの人が 上かね

S ソイデ ハヤタオジガ イキリャー オトコジャー マサシゲサガ
それで 早太おじが 生きていれば 男では 政重さんが
イチバン トシヨリデ オレガ ニバンメデ ハヤタオジガ サン
一番 年寄りで 俺が 二番めで 早太おじが 三
バンダツツガ ハヤタオジガ シンジャツタデ サンバンメワ
番だったが 早太おじが 死んじゃったから 三番めは

「ドコダ マサヤサダカ トモオジダカ ソンチョーダカ ナンシロ
どこだ 政弥さんだか 友おじいだか 村長だか なにしろ

イッショーノ (T オー ソーダエー) クミダ オトコジャー
一緒の (おお そうだね) (一緒の)組だ 男では

T 「マ¹ アソコ¹ワ マ¹ マンダ¹ ハチジュ¹ーン ナランデ¹エ¹ー
まあ あそこは まあ まだ 八十に ならないからね

S 「ダ¹レ¹ー
誰?

T マサヤサヤ
政弥さんや

S 「ウン ハチジュ¹ーン ナラン 「マンダ¹ トモオジニ イクツダ¹ッチュ¹
うん 八十に ならない まだ 友おじに いくつだつて

ヤー オリヤ¹ー ヒチジュ¹ーヒチダ¹ッテユ¹ー マサヤサ¹ー 「オラト¹
いえば 俺は 七十七だつていう 政弥さんは 俺と

イッショダ¹ッチュ¹ーガ オリヤ¹ー ヒチジュ¹ー「ダ¹ッチュ¹ーデ¹
一緒だつていうが 俺は 七十九だつていうから

マ¹ 「ド¹ッチガ ホント¹ーダ¹ッタラ 「トモオジノホ¹ーワ 「マンデ¹
まあ どちらが 本当だつていたら 友おじいさんの方は 満で

ユ¹ーッテユ¹ー マサヤサ¹ワ カゾエ¹デ¹ ユ¹ーモンダ¹デ¹ ソイデ¹
いうという 政弥さんは 数えて いうので それで

ハヤタオジガ イキテリヤ¹ー オトコ¹ジャ¹ー 「マサオジデ¹ オレデ¹
早太おじが 生きていれば 男では 政おじいで 俺で

ハヤタオジダ¹ッツガナ¹ー トミヤマデ¹
早太おじだつたかな 富山で

T マタ ナンダ¹カイ マメン ナリヤ¹ー オカザキノ ホ¹ーエ マタ
また 何だね 元気に なれば 岡崎の 方へ また

デテ イケルワイヤ
出て 行けるよ

S ウン 「ナ¹ーニ (T~~~~) 「マ¹ イキャ¹ーシンド¹ー
うん 何 まあ 行きはしないぞ

T イキタイモ¹ンダニ
行きたいものだよ

S オリヤー¹ マメナラ¹ オカザキー¹ イッテ トマッテテ¹ ナニー
俺は 健康なら 岡崎に 行って 泊っていて 何へ
イヌヤマノ¹
犬山の

T メーヅムラ¹カイ
明治村 かね

S メーヅムライ¹ イッテコトモ¹ツガ¹ (Tアー)
明治村へ 行って来ようと思って 楽しみにいたらけが
マー ハイ ダメダ¹ アシガ¹ ダメダ¹デ
まあ もう だめだ 足が だめだから

T ソーダ¹ メーヅムラ¹ワ ソーダ¹ アソコカラ¹ イキャー¹ チカイモ¹
そうだ 明治村は そうだ あそこから 行けば 近い も
ンダゾエ¹ (S エー) チカイモ¹ンダ¹ ホイ¹ ニドバカ¹ イッタガ¹
んだぜ 近いもんだ¹ ^{××} ニ度はかり 行ったけど
エー¹

ね

S イッタコト¹カ
行ったことか

T イッテキタノワ¹ ソリヤー¹ イチンチガ¹カリデモ¹ イソカ¹シークライ
行って来たのは そりゃあ 一日がかりでも 忙しいくらい
ダイ アソコ¹ コノー
だよ あそこ この

S オー コツカラ¹ナー
おお ここからね

T タクチャー アノ ココカラダトエー ココカラ イクト¹ イチ
(不明)〜では あの ここからだとね ここから いくと 一日
ンチジャー チョット イソガシーエー
では ちょっと 忙しいよ

S ウン ソリャー ソーダ
うん そりゃ そうだ

T タクサンアッテ タテモノガ
沢山 あって たてものが

S アリャー ノリモンデ イヌヤママデ イケルダカ
あれは のりもので 犬山まで 行けるのか

T ウン アノー ナゴメ^{xxxx} テツデ タシカエー シゼンニ イケル
うん あの 名古屋… 名鉄で たしかね 自然に 行ける

S オー ソーカ
おお そうか

T アソコワ ムカシノ¹ アノー フルイシューナンカ イクトイーエ
あそこは 昔の あの 古い衆なんか 行くといいよ

S ウン アソコノ フルイモノワ (T ~) ノキショーグンノ
うん あそこは 古いものは 乃木将軍の

トーキョーノ ジシンシタ トコロノ ナニヤ アルッチョーナー
東京の 自刃した ところの 何が あるそうだね

T アルアル
あるある

S アノ ソノウチガ
あの その家が

T アルアル
あるある

S ソ「コラ」ギ「フケン」ノ「ナニ」ズクリダ「ットヤラ」ソノ (T「ン」ン)
そこら 岐阜県の 何々造りだとか その

「オーゼー」
多勢

T ガ「ッ」ショ「ース」クリ
合掌造り

S アレ「ゼン」コクカラ ガ「ッ」ショ「ース」クリノ アルジブンニャー
あれ 全国から 合掌造りの ある頃には

オ「ット」ガ イ「ク」タリ ア「ッ」テモ ソノウチ「デ」
弟が 何人 あっても その家で

T 「ソー」ソー
そうそう

S カカ「サー」モラ「ッ」チャ「ー」ナンダ「ッ」タ「ナー」
女房 貰っては 何だったな

T デ「カイ」ウチ「ダ」
大きい家だ

S アレ「テン」ネンキネンブツズ「ラ」
あれ 天然記念物だろう

T 「ソー」ソー「ナン」カ
そうそう 何か

S 「イ」マ ミ「ツシ」マノ「ア」ツシガ シンダ「ダ」ガ アノ「イ」ワマ「ツ」ツ
今 満島の 篤が 死んだが あの 岩松は

ナンダ「ッ」チュ「ー」ナー テンネンキネンブツ「ン」 ナ「ッ」テ フント「ー」ワ
何だっていうね 天然記念物に なって 本当は

アレオ ト「リー」 イ「ッ」タ「ッ」チュ「ー」 コ「ター」 ハ「ッ」ピョ「ー」デキ「ン」ダ「ラ」
あれを 取りに 行ったって言う 事は 発表できないだろう

アリャー

あれは

T 「ソーダ アレワ テンネンキネンブツン ナッテルデエー
そうだ あれは 天然記念物に なってるからね

S エー ソーイッ タデ
ええ そう言ったから

T イワシバツ チュッテ
岩芝っていつて

S 「オー アノホー ジャ ココッ ジャー イワマツッ チューガ
おお あの方では(そいうが) ここでは 岩松っていうが

(T ソーダ) アレモ リッパナ ニワニ イワマツオ イ
あれも 立派な 庭に 岩松を

イクホンモ ハチー イレテ リッパナ モノガ アルガ アレテ
何本も 鉢に 入れて 立派な ものが あるが あれで

ガマンセリャー ヨカッタダガ
我慢すれば よかったんだが

T ナンショ 「トッテクレ クレタヤツガ オーキーッテサ
とにかく 取ってくれ… くれたやつが 大きいつてさ

S 「ウン クレルダカ ウリー ウルダカ シランガ
うん くれるのか 売めるのか 知らんが

T ウッテクレッ チュー トコ ウラッコシ オッテエー
売ってくれていう ところへは 売らずに いてね

S エー
ええ?

T ウッテクレッ チュッテモエー ウラナンズッテ
売ってくれていってもね 売らなかつたて

S 「アー」「ソーダ」
ああ そうだ

T ソイデ 「ホ」メテホ「メ」テ ホ「シ」ーヨ「ー」ナコー ユート「」 クレテヤル「」
それで 沢山 ほめて 欲しいような(ことを) いうと くれてやるって
ツッ チョー「エ」
いったそうだね

S 「アー」 ニ「ワ」ニ マー ト「ー」キョ「ー」カ ナ「ゴ」ヤイ コ「ノ」ミデダ「シ」ャー
ああ 庭に まあ 東京か 名古屋へ 好みで出せば
(T ホ「リ」ャー) ジュ「ー」マンエン「グ」ライナ モノガ オリャー
それは) 十万円ぐらいの ものが 俺は
アルトモッテ コリャー マー ナンダ「ナ」ー コンナ ミ「チ」バタニ
あると思って これは まあ 何だ? な こんな 道端に
カザット「イ」チャー クルマデ「」 キテ 「ホ」イットシテ オロ「イ」テ
かざら^といては(よそ者が) 車で 来て ほいっと(いづくあいに)
モッテカレリャー タ「」ナ「ー」ニ アノー オジサン カカサガ
持っていかれれば (といたら)何 あ^のう おじさん 女房が
ユ「ー」ニ オ「モ」スキテ ソノ「」 ハ「チ」サラ サ「グ」テケレルヨ「ー」ナ
いうのに(岩松は)重すぎて その 鉢ごと さげて行けるような
モンジャ「ー」ネ「ー」ツテ リッ「パ」ナ モノン アルド「ー」
ものではないって(いったが) 立派な ものが あるぞ

T ~~~~~

S イ「ワ」マツニ 「コ」ツテ ケッ「コ」ー イワマツニ イ「ノ」チオ ト「ラ」レチャ
岩松に 凝って とうとう 岩松に 命を とられて
ツタ
しまった

T 「ソーダエー

そうだね

S ハー イカ¹ンナ¹ラ¹ン¹ラ オメーモ

もう(仕事に)行かなければならないだろう お前も

T 「ウン マー ゴ¹ハ¹ン タベ¹テ イカ¹ニヤ¹ー オジ¹ーサン¹モ メ¹シ¹ー

うん まあ ごはん 食べて 行かねばならない。おじいさんも 飯を

タバナガ¹ラ メ¹シ¹ワ

食べながらどうだね。飯はどうだね。

S 「ウン マ¹ンダ¹ダ オレモ

うん まだだ 俺も

T 「イーカ¹ネー

いいかね

S オ¹チャ¹モ イレ¹ナ¹シ¹ネー ド¹ーモ スマ¹ンガ

お茶 入れずにね どうも すまないけど

注

- (1) 国鉄飯田線。
- (2) 「又によう」で、ズは未然形につく「意思」の辞と思われるが、そうすると、サ変動詞「する」の未然形がシラ～ のようになっているのが不可解である。
- (3) 富山村佐太（佐久間ダムで水没）。
- (4) 同じく富山村の字。
- (5) 帰途の意。

VIII. 福井県武生市^{たけふ}下中津原町^{しもなかつはらちょう}

収録・文字化担当者 佐藤 茂
同 協力者 加藤 和夫

1. 地点名

福井県武生市下中津原町

2. タイトル

思い出話

3. 録音年月日

1976年11月14日

4. 録音場所

福井県武生市下中津原町50-6 加藤和夫宅の座敷

5. 話し手

T: 谷口松樹 男 明治32年生れ

方言はよく保有されているが、話し相手のKを意識してやや丁寧な表現が多くなっている。話し好きで話題も豊富である。

K: 加藤和夫 男 昭和29年生れ

調査協力者で大学4年生(当時)。言語経歴的には問題ないが、日常生活では幾分共通語化が進んでいる。予定されていた話者に代わり急遽話をする事になったため、初めのうちやや緊張がみえるが、それも次第にほぐれてくる。

6. 録音環境

担当者佐藤茂と女子学生3名が同席したが、全員が隣室に控えている。

7. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては、『方言談話資料(4)』を参照。

思い出話

T: 谷口松樹 (男) 明治32年生まれ

K: 加藤和夫 (男) 昭和29年生まれ

K ボクラ ブッセンガネ (Tエ) ブッセン ブッセンイン。⁽¹⁾
僕達 仏仙(院)がね (え) 仏仙 仏仙院
(Tン ブッシュェンイン)⁽²⁾ ボクラ モー ア アレ イツゴロヤ
(うん 仏仙院) 僕達 もう あれは いつ頃だっ
ッタカナア ショーガッコノ ニネンクライマデワ ヒト イナ
たかなあ 小学校の 二年(頃)ぐらいまでは 人 いら
⁽³⁾シタデショ。 (Tハ ハー ハー ハー) アソコニネ アレ ブ
しゃったでしょう。 (はあ はあ はあ) あそこにね あれ 仏
ッセンテユノ ダイブ マエ マエーカラ モ ズーット イナシ
仙というの(は) 大分 前 前から もう ずっと いらしゃ
タノ アッコ ヒトワ。
ったの あそこ 人は。

T エート アレデー (Kヤッパ ヒトリモ ダレモ スン⁽⁴⁾)
ええと あれで (やはり ひとりも 誰も 住ん⁽⁴⁾.....)
シューシェン ナッテカラ シバラク ツカモトサンガ⁽⁵⁾ ニネンカ
終戦 なってから しばらく 塚本さんが 二年か
ソコラ ハイッテナシテ (Kアー) ホイテ ツカモトサンガ
そこいら はいってらして (ああ) そして 塚本さんが
デナシタラ アノー.....
出られたら あのう.....

K フーフデ イナシタ トキ アッタデショ ダレカ。 (Tエッ)
夫婦で いらしゃった時(が)あったでしょう 誰か (えっ)

フーフデネ イナシタ トキ ⁽⁶⁾ アッタガ。 オトコノ ヒトト オ
 夫婦でね いらっした時 あったじゃない。 男の 人と 女
 ンナノ ヒトト。
 の 人と。

下 ホ イヤ ソ ソ ソレワ ソノー ツカモトサンガ (K ツカモ
 くん いや xxx xxx それは その 塚本さんが (塚本

トサン) デナシテ ソノ アトエ (K ン) アノー デテイキ
 さん) 出られて その あとへ (ン) あのう 出ていか

ナシタ アンジュサント イッショナ (K ン) アノ アノ ア
 れた 庵主さんと 同じ (ン) xxxxxx xxxxxx あ

ノ オテラニー ⁽⁷⁾ (K アー) アノ コー ユート アノー マー
 の お寺に (ああ) あの こう 言うと あのう まあ

ユート ショーリンジナラ ⁽⁸⁾ ショーリンジネ (K ショーリンジ
 言うと 少林寺なら 少林寺ね (少林寺

ショーリンジ) アレワ (K ドコノ ヒトヤッタカナ) ドコ
 少林寺) あれは (どこの人だったかな) どこ

デシタカナ ワカサデシタカナ ⁽⁹⁾ (K ワカサデスカ) アノ オテ
 でしたかね 若狭でしたかね (若狭ですか) あのう お寺

ラニ ソノー マー ユート オコゾーデ ⁽¹⁰⁾ (K アー アー) イ
 に その まあ 言うと お小僧で (ああ ああ) い

ナシタ デシキョーダイガ ⁽¹¹⁾ アルン。 ソノ イキナシタ ヒトガ
 らっした 弟子兄弟が あるの。 その (出て)いらっした人が

(K ン) デシキョーダイオ シンパイシテ ⁽¹²⁾ ココエ ツカモト
 (ン) 弟子兄弟を 心配して ここへ 塚本さん

サンノ アトエ ハイッテ シバラク イナシテ (K アー) ホ
 の あとに 入って しばらく いらっして (ああ) そ

イテ ソノ ヒトガ ⁽¹³⁾ドユー グヤイヤッタカ アノ ⁽¹⁴⁾シミズエ
 して その 人が どういう 具合だったか あの 清水へ
 イキナシタンデスカ。⁽¹⁵⁾
 いらしゃったんですよ。

K アー ア シミズノ アンジュサンツノワ ⁽¹⁶⁾ (^T エ エ エ エ)
 ああ あ 清水の 庵主さんというのは (え え
 ニ) ソノ ヒト。アー。
 え) その 人。 ああ。

T ⁽¹⁷⁾ホイテ ソノ アトエ (^Kソノ) アノー アノ ヒトワ ナンチ
 そして その あとへ (ん) あのう あの 人は 何とお
 ユナサルンカ (^Kソノ アトエ ハイッタ ヒトガ) ミョート⁽¹⁸⁾
 っしゃるのか (その あとへ 入った 人が) 夫婦で

デ ン フーフデネ (^Kソノ ソー ミョート) ナガイ コト
 うん 夫婦でね (そう 夫婦) 長い こと

ハイッテナシタン (^Kウン ソー) ⁽¹⁹⁾ホ ^{xxx}ホイ^アサカイ ヤ
 入っておられたの (うん そう) そうしたら ヤ

ッパリ ココワ ホノー モー シューシェン⁽²⁰⁾ ナッテカラ コッ
 ぱり ここは その もう 終戦(に) なってから この

チワ ソノー マ ユート ブッポーガ ウスライダモンヤサケ⁽²¹⁾
 かたは そのう ま いうと 仏法が 薄らいだものだから

マイリガ スクネー。 (^Kスクナイネー アッコワネ) マイリ
 参りが 少ない。 (少ないねえ あそこはね) 参りが

ガ スクネーカラ アカリガ⁽²²⁾ スクネ。 (^Kウン アカリ---笑)
 少ないから 上がりか 少ない。 (うん 上がり---)

ホレカラ コンドワ ソノー アンデラグレーデワ シサンガ ネ
 それから 今度は そのう 庵寺ぐらいでは 資産が な

ーデ (^Kホヤネ アソコデワ チョット-----) ザイサンデ ク
いから (そうだね あそこでは ちょっと-----) 財産で 食

テクチュー ワケニワ イカンシ マイリガ ネーデ。 ホンデ
べていくという わけには いかないし 参りが ないから。 それで

ジブンのネ (^Kン) ソノー ソラ ホンノ コンボンノチュー ⁽²³⁾
自分のね (うん) その それは 本当の 根本のという

コトワ ソノー ホトケサンノ ノ オモリニ マー ソノー
ことは その 仏様の お守りに まあ その

オハイリナシテ ⁽²⁴⁾ イナサルンジャケドカヤネ ⁽²⁵⁾ ジブンガ シェーカ
お入りになって いらっしゃるんだけれどもだね 自分が 生活が

ツガ デキンチュ コトン ナルトヤネー ソノ ホトケサン ホ
できないという ことに なるただね その 仏様(を) 放

ツテクチューンデ ⁽²⁶⁾ ネーンニャケドカ ヤッパリ ネ (^Kヤッパ
っていくというので(は) ないんだけれども やはり ね (やはり

り (笑) ホトケサン ホッタラカシテ ヤッパ) ジブンガ
仏様(を) ほったらかして やはり) 自分が

シェーカツガ デキンチュ コトン ナルト ホトケサンノ オモ
生活が できないという ことに なると 仏様の お守

リガ デケンモンヤカラ (^Kホトケ ホットケ----- (笑)) コ
りが できないものだから (仏 放っとけ-----) 今

ンドァ ⁽²⁷⁾ ハルエー イキナシタン。
度は 春江へ いらっしゃった。

K ハルエ イキナシタンヤネ タシカネ。 (^Tン ン) ヨク ナン
春江(へ) いらっしゃったんだね 確かね。 (ん うん) よく 何か

カ ホラ フリキナンカ ツミニキタ (^Tエー エー ソー ソ
ほら 割木なんか(を) 積みに来た (ええ ええ そう そ

— ソー) キナシタネ。 フリキ ダスト ココエ ⁽²⁸⁾ キテナシタ
う そう) いらっしゃったね。 割木 出すと ここへ いらっしゃってた

(^T ソー ソー) アノ ヒトデ"ショ" トラックデ キテナシタ
(そう そう) あの 人でしょう トラックで いらっしゃってた

(^T ソー ソー ソー) ボクラ シッテルノァ アノ ヒトダ"
(そう そう そう) 僕が 知っているのは あの 人だけ

ケヤネ ⁽²⁹⁾ ホイト (^T アー) アノ ヒトニ 。
だね そうすると (ああ) あの 人に

T アノ ヒトデ モー コノ ブッシェン (^K オワリヤッタンヤネ
あの 人で もう この 仏仙院 (終わりだったんだね
タシカネ) オテラネ アノ スワッテイナサル⁽³⁰⁾ チューノー。
確かね) お寺に あの 坐っていらっしゃるといふの。

K モアレカラ ダレモ イナハランモノ。
もう あれから 誰も いらっしゃらないものね。⁽³¹⁾

T ハー (^K ウン) マー ヨホドノ ソノー オマイリガ アルト
はあ (うん) まあ よほどの その お参りが あるとか
カ ナントカ ソノー ノー オテラデナカッタラ。
何とか その ねえ お寺でなかったら。

K イマ ヤッテケンワネ。
今 やっていけないよね。

T アノー アーユー アンデラッテユー (^K ン) ソノー アンデ
あのう ああいう 庵寺っていう (うん) その 庵寺っ
ラッテ マー インデスナー テラデナシニ ⁽³²⁾ イン。 テラデモ
て まあ 院ですなえ 寺でなくて 院。 寺でも

⁽³³⁾
チーサイノヤワ ソノ ケーエーガー モチマセンノヤケド トク
小さいのは その 経営が もちませんのですけれど 特

ニー アーユー ブッシュェンイントカ インノ ツイター オテラ
に ああいう 仏仙院とか 院の ついた お寺で
デワ チーサイモンデッ サカイナ シサンモ アリマシェンシネ。
は 小さいものですからね 資産も ありませんしね。

ホレデモ ハルエナンカンテニネ⁽³⁴⁾ ソノ オッキー トコデネ
それでも 春江なんかのようにね その 大きい 所でね

(^Kン) ホイテ ソノ ユイショーノ ナニカ アル ソノ オ
(うん) そして その 由緒の 何か ある その お

テラヤラ ジャ ナンカッチュト マ ユート オー ガンガケト
寺や だ なんかだというの ま いうと 願掛けとか

カ ソノー アソコノ オテラワ コーユー ソノ アノー ムカ
その あそこの お寺は こういう その あのう 昔

シカラノ レキ レキ アノー フルイ レキシガ ナンシタルン
からの ~~xxxxxx~~ ~~xxxxxx~~ あのう 古い 歴史が 何してあるん

ニヤカラ⁽³⁵⁾ コノー オテ^{xxxxxx} アノ ホトケサンワ トクニ コーダイ⁽³⁶⁾
だから このう あの 仏様は 特に 効大な

ナンジャッチューテ ソノー ナニカ ユイショノ アル オテラ
んだというの そのう 何か 由緒の ある お寺か

カ⁽³⁷⁾ ナンカンナケナ シサンガ⁽³⁷⁾ オーイカンナケナ ホトンドノ ア
何かでなければ 資産が 多いかでなければ ほとんどの 庵

ンデラワ ミナ (^Kヤッテケンワネ) ハー。~~~~~
寺は みんな (やていけないよね) はあ。

K トー^{xxx} ハルエ イキナシテ オテラ ヤッパ ヤッテナハルノ。
(そうする)と 春江(へ) いらっしゃって お寺(を) やはり やってらっしゃるの。

(^Tハー ハー) ハー ホーデスカ。 (^Tハー) ン。
(はあ はあ) はあ そうですか。 (はあ) ふん。

T アノー マー ソノ カン フーフカンケーワ ナンデシヨ アノ
 あのう まあ その ^{xxxxxx} 夫婦関係は なんてしゅう あの
 ー ワカレナサラノレシヨ ケケロネ オテラーワ アノー ア
 う お別れにならないのしょうけ ^{xxx} どね お寺は あのう あ
 ノ ニカジ モッテナサルンデス (^Kアー アー) アノー
 の ニケ寺 持っていらっしやるんです (ああ ああ) あのう
 エー ソノー アンジュサンノ ホーワ ハルエノ モトエ フタ
 えー そのう 庵主さんの 方は 春江の 元へ ふた
 リガ^o ハイナシタ ソコニ イナシテ (^Kン ン) ホシテ ココエ
 リガ^o 入られた そこに いらっしやて (うん うん) せして ここへ
 ワリキ ツミニ キナシタ アノ オッサン⁽⁴⁰⁾フ (^Kオッサン⁽⁴¹⁾(笑))
 割木(を) 積みに いらっしやた あの おっさんは (おっさん)

ナンカ ソノ アノー チガウ オテラデ チカクデ ドッカ ハ
 何か その あのう 違う お寺で 近くで どこか 春
 ルエノ -----。 *
 江の-----。

ナニ シテナサルカ ソレマデワ ゾンジマシェンケドー。
 何(を) していらっしやるか それまでは 存じませんけれど。

K アノ ヒトニ チーサイ コロ ツリザオ モロタ オボエガ ア
 あの 人に 小さい 頃 釣竿(を) もらった 覚えが あ
 ッテー (^Tン ン) サカナ ツル。 ヨー オボエテルンヤケ
 って (うん うん) 魚(を) 釣る。 よく 覚えているだけれ
 ド アノ ヒトダケワ ナンカ。
 ど あの 人だけは なんか。

T アノ ヒトワ ナカナカ マー ソノー ホンシヨクノ アノー
 あの 人は なかなか まあ そのう 本職の あのう

オテラサントシテノ⁽⁴²⁾ ナニワ⁽⁴³⁾ マー ワシラ ワカリマシェンシ
お寺さんとしての 何は まあ 私など わかりませんし

(^Kアー) ホンナ コト マー ナンシルワケデワ⁽⁴⁴⁾ ナエー^ンデ
ああ そんな こと まあ 何するわけでは ないんです

スケドモネ ナカナカノ サイノーカノ (^Kアー ソーデスカ)
けれどもね なかなかの 才能家の (ああ そうですか)

アー モノシリデスサケナー⁽⁴⁵⁾。

ああ 物知りですからねえ。

K アー。 ヤサシー ヒトヤッタノワ ヨー オボエテルン ネー
ああ。 優しい 人だったのは よく 覚えている ねえ

ナンカ。 ショーガッコーニネングライ タシカ ニネングライマ
なんか。 小学校二年ぐらい 確か 二年ぐらいまでだ

デヤッタト オモウンヤケド アトワ モー オボエテエンノヤケ
ったと 思うんだけれど あとは もう 覚えていないだけレ
ド。

ど。

T アノ オタクサンラノ コノ スイ⁽⁴⁶⁾ アノ ウチラモ ナカマノ
あの お宅さん達の この 水 あの うちなども 仲間の

コノ マ ジュッケン ナカマデ (^Kスイド⁽⁴⁷⁾) マカリサカ⁽⁴⁸⁾
この ま 十軒 仲間で (水道) 曲がり坂

ネー。 (^Kアー) ナカソサンノ ヤマノ (^Kナカソノ) ア
ねえ。 (ああ) なかそさんの 山の (なかその) あ

ノー スイドー オネガイシタルテショ (^Kハイ ハイ) アレ
のう 水道(を) お願いしてあるでしょう (はい はい) あれ

オ ハルエノ アノ オッサンワヤネ アノ オミヤサンノ アソ⁽⁵⁰⁾
を 春江の あの おっさんはだね あの お宮さんの あそ

コエ アゲタラ アカント⁽⁵¹⁾。
こへ あげては いけないと。

K ナンデ。
なぜ。

T ア ホー シルト ナツ ミズガ コンヨン ナッテマウ。 (K
あ そう すると 夏 水が こないよになっちゃう。 (

アー アノ) ソラノ ホーデ⁽⁵²⁾ ソノ (ブッセンエ⁽⁵³⁾) アノー
ああ あの) 上の 方で その (仏仙へ)
xxxxxxxxxx

アノ コー アノー スイドーノ モトノ イリクチオ コッシ
xxxxxxx xxxxxxxx
あのう 水道の 元の 入口を つくら

⁽⁵⁵⁾
エナ アカント。 (^Kアー) ハー。 ホンデ ソノー ナツ
なくては いけないと。 (ああ) はあ。 それで そのう 夏

ミスガ ホツテ⁽⁵⁶⁾ アカント。 (^Kシー) モー スコシ サゲテ
水が 細くて いけないと。 (うん) もう 少し 下げて

(^Kアー) ハー ホイテ ソノー シタエ モッテコナ アカ
(ああ) はあ そして そのう 下へ 持ってこなくては いけ

ント。 シ ホンデ ソノー ヨースルニ アノー スイドーノ
ないと。 うん それで そのう 要するに あのう 水道の

アノ ナニオ⁽⁵⁷⁾ マガリサカヨリ アノ ヤマオ デハイリ シルネ
あの 何を 曲がり坂より あの 山を 出入り するね

(^Kエー) アノ チューカンノネ (^Kエー) アソコエ ソ
(ええ) あの 中間のね (ええ) あそこへ そ

ノ スイドーオ コシラエテ (^Kア) ホイテ ソノー アノ
の 水道を つくって (あ) そして そのう あの

ウチノ⁽⁵⁸⁾ イエト クラトノ アワサイオ⁽⁵⁹⁾ アノ ミチニ ソーテ
うちの 家と 倉との 間を あの 道に 沿って

(^Kア) スイドーオ フシテキテ (^Kアー) ホイテ ソノ
ああ 水道(管)を 伏せてきて ああ そして その
アノ トール ミチエ ソノー オロシテ イカナ アカント。
あの 通る 道へ そのう 下ろして いかなくてはいけないと。

K アー ナルホドネー。
ああ なるほどねえ。

T ホンデ アノ オミヤサンノ アソコ イッペン アゲテ (^Kン)
それで あの お宮さんの あそこ(に) 一度 上げて (うん)
ホイテ アラヤサンノ⁽⁶⁰⁾ アソコエ オロイタルンデスナ。⁽⁶¹⁾
そして あらやさんの あそこへ 下ろしてあるんですね。

K ホヤネ ウーン。
そうだね うん。

T アレオ ソノ タニオ チョクジュツニ オロイテキテ (^Kン)
あれを その 谷を 直接に 下ろしてきて (うん)

ホイト ソノー タク^{xxx} オクノ ホーデ スイドーオ アノー シェン
そうすると そのう 奥の 方で 水道を あのう しなくて

デモ (^Kン) シタノ ホーデ スイドーオ シテモ (^Kン)
も (うん) 下の 方で 水道を しても (うん)

コノ ミズガ コッチエ クルト。 (^Kクル アー) ホヤケドカ
この 水が こっちへ 来ると。 (来る ああ) そうだけれども

オミヤサンエ アゲヨート シルト オクデ シェナ アカンサケ。
お宮さんへ 上げようと すると 奥で しなくては いけないから。

K ホヤネ ソリャ ソー ウン。
そうだね それは そう うん。

T アン ホンデ ソノー アノ コ^{xxx} ナンジャ ホン ワチマデ⁽⁶²⁾ デ
うん それで そのう あの なんだ ほんの ロまで 出

(63)
ンカッテ ソノ スコシ モスコシ サガレバ エーンジャッテ。
なくても その 少し もう少し 下がれば いいんだって。

ホジャケドカ アソコエ ヒクト ツツイッパイマデ ソノー
たけども あそこへ 引くと つついはいまで そのう

モー コノー コーテーノ ~~メー~~ アノー コノー タカサオ ハ
もう このう 高低の ~~xxxxxx~~ あのう このう 高さを 測

カッテ ソノー アソコマデ モッテッタ モンジャカラ ナツ
って そのう あそこまで 持っていった ものだから 夏に

ン ナルト モー ソノー-----。
なると もう そのう-----。

K ブッセンノ ホー ミズが イカン。(T アンホイデ) デモ ブッ
仏仙の 方(へ) 水が いかない。(うん それで) でも 仏仙

センワ アノ ブッセンノ オクニ マダ ホラ (T エー エー)
は あの 仏仙の 奥に まだ ほら (ええ ええ)

タニ アルデショ。 シー。
谷(が) あるでしょう。 うん。

T アレワー ナンジャ アノー ブッシェンモ ナカマヤッタシ (
あれは なんだ あのう 仏仙も 仲間だったし

Kン) ホイデ ハルエ イッタ オッサンモ イッショニ ナツ
うん) それで 春江(へ) 行った おっさんも いっしょに なっ

(64)
タモンヤケ モー ソノ オッサンニ マカシテ オッサンガ ナ
たもんだから もう その おっさんに 任せて おっさんが 何

(65)
ンシテタモンヤサケ (K アー) アノー ユートーリニ シテ ソ
してたものだから。(ああ) あのう 言うとおりに して そ

ノー タニノ モー ホンノ ワチー デテ モー コレデ タニ
のう 谷の もう ほんの 口(へ) 出て もう これで 谷が

ガ オワリジャッチュー トコマデ デテ ソコデ チョット ハイ
終わりだという 所まで 出て そこで ちょっと 入っ

ッタ トコデヤネ (^クン) ン タンボデ ノーヤク マイテモ
た 所でだね (うん) うん 田んぼで 農薬 撒いても

ジャマン モー カカッテ コン トコマデ ハイッテ (^クア
じゃまに もう かかって こない 所まで 入って (あ
ー) ホイテ タ アノ ソノ スイケンチノ タンクオ コシエ
あ) そして ^{xxx} あの その 水源地の タンクを つくった

タモンジャカラ ミズガ ハンブンモ コンノヤケドカ ナツン
ものだから 水が 半分も こないのだけれども 夏に

ナッテモ ミズニ メーフク シェン。 (^クアー) ココワ ミ
なっても 水に 迷惑 しない。 (ああ) ここは 水

ズガ ツタッテ ダーット ナガレテルンニヤケドカ (^ク笑)
が 伝って ザーッと 流れているんだけれども

モー ヤッチャモッチャ ユ-テ。 (^クホヤネ) ソノ ケン
もう <"あ"ぐず 言って (そうだね) その けんか

カワ シェンケドモ (^クン-) モー ソノー アサバン モー
は しないけれども (うん) もう そのう 朝 晩 もう

スコシ テリガ ⁽⁶⁷⁾ ツズクト トメニ イッタリ (^クア-) ン。
少し 照りが 続くと 止めに 行ったり (ああ) うん。

ク タシカ アノー ホラ マチンキョラノ ホート コッチワ タン
確か あのう (⁶⁹) ほら まちんきょ達の 方と こちらは タン

ク ベツデショ。
ク 別でしよう。

ト エー ソー ソ-。
ええ そう そう。

K ベツヤネ。(T エー) ベツヤネ。
別だね。(ええ) 別だね。

T エー。
ええ。

K カワッテモタモネー モー。 コーチセーリ⁽⁷⁰⁾ シタデ モー タン
変わってしまったものねえ もう。 耕地整理 したから もう 田ん

ぼ ムカシノ ゼンゼン ワカランモネー。(T エ) ムカシノ
ぼ 昔の 全然 わからないものねえ。(え) 昔の

タンボが ゼンゼン ワカランヨンナッテモタッテ。(T ンー
田んぼが 全然 わからないようになってしまったって。(うん

ソー ソー) コーチセーリ シタデ。 モー ゼンゼン ホン
そう そう) 耕地整理 したから。 もう 全然 本当

トニ ドコニ ジブンの タンボ ドンナ カタチ シテタカ ホ
に どこに 自分の 田んぼ(が) どんな 形(を) していたか (ほ

トンド オモイダサレンノ。⁽⁷¹⁾ (K.T 笑) ラクンナッテモタ
とんど 思い出せないの。 楽になってしまったけ

ケド ホントニ。 オジチャンラ⁽⁷²⁾ イマ タンボ デナハルノ イ
れど 本当に。 おじいちゃんなんか(は)今 田んぼ(に)出られるの 今

マデモ。(T エ) イマデモ タンボ デナハルノ オジチャン。
でも。(え) 今でも 田んぼ(へ)出られるの おじいちゃん。

T ⁽⁷³⁾ウラデスカ。(K ン) エー エー アノー アノー コトシワ
私ですか。(うん) ええ ええ ~~xxxxxxxx~~ あもう 今年は

ー マー モーチョー シリツ シマシタデー (K アー ソヤネ)
まあ 盲腸(を) 手術 しましたから (ああ そうだね)

アノー アキマシェナダケド⁽⁷⁴⁾ マ アノー ナンジャ コンナ
あもう 駄目でしたけれど ま あもう なんだ こんな

チョーシャツチュートー マ マー タンボト ハタケト マー
調子だというと ^{xxx} まあ 田んぼと 畑と まあ

ソノ ジェンブ マワルツチャー ワケニ イカンデスケドカ。
その 全部 回るという わけに(は) いかないですけれども。

(^Kアー) ハー (^Kホヤネ)
ああ はあ そうだね

K キンニョモン⁽⁷⁵⁾ オジジモ⁽⁷⁶⁾ カタイネ。 キョネン キテモロター
きんによ蒙の おじいさんも 元気だね 去年 来てもらった

キンニョモンノ オジジ カタイノナンノ ッテ モー アンナ
きんによ蒙の おじいさん 元気なのなんのって もう あんな

ジョーブナ ヒトモ インノデ ナインカト オモウケド。 キン
丈夫な 人も いないので(は) ないかと 思うけれど。 きん

ニョモンノ オジジ⁽⁷⁷⁾ モ サ⁽⁷⁸⁾ サカヤ イキナシタンヤロカ。
によ蒙の おじいさん^{xxx} もう 酒屋 いらっしゃったのだろうか。 (

TE) キンニョモンノ オジジ サカヤ イキナシタンヤロカ。
え) きんによ蒙の おじいさん 酒屋 いらっしゃったのだろうか。

T アエ モー イキナシタカモ シラン。 (^Kアー ホーデスカ
はい) もう いらっしゃったかも しれない。 (ああ そうですか

イヤー) マダ イナハルカ ドーカ シリマシェンケドー オー
いや) まだ いらっしゃるか どうか 知りませんけれど

モー オーカタ イキナシタカモ シリマシェンカ。

もう おそらく いらっしゃったかも しりませんね。

K アー アラヤサンラモ イッテルノ。
ああ あらやさんなんかも 行ってるの。

T イヤ アラヤサンノワ アート シェンゲツノ ツキジマイニ イ
いや あらやさんのは うーんと 先月の 月末に い

キナシタンデシヨ。

らっしゃったんでしょ。

K ア ホンナ ハヨー イキナシタ (Tン) アー。 オジチャ
ああ そんな(に)早く いらしゃった (うん) ああ。 おじいちゃ
(80) シラ イツゴロマデ サカヤ イッテナシタノ。 (Tエ)
んは いつ頃まで 酒屋 行ってらっしゃったの。 (え)

オジチャンラモ ダイブ サカヤ イキナシタ トキ アツタンデシヨ。
おじいちゃんなんかも 大分 酒屋 いらしゃった 時 あったんでしょ。

T ウラワ モ (Kアンマリ オジチャンワ イカン) (81) ナンデス
私は もう (あまり おじいちゃんは 行かない) 何です

モ アノー ントー アッデー サカヤ ヤメテカラ モー ヨン
あのう うーんと あれて 酒屋 やめてから もう 40

ジュー (Kアー ホンネ ナルノ) アー ヨンジューニネンカ
(ああ そんなに なるの) ああ 42年か

サンネンニ ナリマッシャロー。

3年に なりますでしよ。

K ヤッパ キョート キョートノ ホー イッテナシタノ。
やはり 京都 京都の 方 行ってらっしゃったの。

T アノー フシミエ ヘータイニ ハイルマデワ (Kウン) アノ
あのう 伏見へ 兵隊に 入るまでは (うん) あの

フシミ イッテマシテ (Kフシミ アー) ホイテ ヘーテー
伏見 行ってまして (伏見 ああ) そして 兵隊から

カラ カイッテ アノ サカヤエ ナンショート (82) オモータノガ
帰って あの 酒屋へ 何しようと思っただの

(Kア) スミヤキ シテイテ (Kア) ホイテ アノー ナ
(あ) 炭焼 していて (ああ) そして あのう な

ンジャ サカヤエ ナンシタラ⁽⁸³⁾ シェッカク⁽⁸⁴⁾ キテクレッチューノ
んだ 酒屋へ 何したら 早く 来てくれと言うのを

オ ソノー モー スコシ (^Kン) クギリオ ツケテ ネ ア
そのう もう 少し (うん) 区切りを つけて ね あ

ノー キッテ アノ スミニシタダケ (^Kスミノ ホーオ アー) エー
のう 切って あの 炭にいたのだけ (炭の 方を ああ) よく

モンニ⁽⁸⁵⁾ シテ ホイテ ソノ イコート オモテ ナンシタノ⁽⁸⁶⁾ イ
して そして その 行こうと 思って 何したの 行

クチュータ ヒニ イカナンダラ ヒトオ イレテシマイマシテ。
くと言った 日に 行かなかったら 人を 入れてしまいました。

K コトワラレテモタン。(笑)

断られてしまった。

T ホイテ コンダ フシミ ソグ⁽⁸⁷⁾ キテクレッタ トコ イッタラ
そして 今度は 伏見 すぐ 来てくれと言った 所(へ) 行ったら

モー アンマリ ナンシテモ⁽⁸⁸⁾ コンモンヤケ ヒト イレタンニヤト。⁽⁸⁹⁾
もう あんまり 何しても 来ないものだから 人(を) 入れたんだと。

(^Kアー) ホレデ ナラノ コーユー トコネ アノー ナン
(ああ) それで 奈良の こういう 所に あのう なん

ジャ アルンデッチューテネ。⁽⁹⁰⁾ (^Kン) アノー ウーント ナ
だ あるのでと言ってね。 (うん) あのう うーんと 奈

ラノ ナラシーノ カツラギグンノ アノー エート ナラシー
良の 奈良市の 葛城郡の あのう ええと 奈良市

カツラギグン ンート ミナミモトマチッチュタンカ (^Kハー
葛城郡 うーんと 南元町といったのか (はあ

ナラノ。 カツラギグン) モー アノー。 ノデ アノー ソコ
奈良の。 葛城郡) もう あのう。 ので あのう そこ

ニ ホシッチュタンニヤガ (Kアー) イッテミンカッチューナ
 で 欲しいと言ったんだが (ああ) 行ってみないかとおっしゃ
 ハッテ (Kデ イキナシ……) ホイテ ホコ イッテ (Kア
 て (で いらしゃ……) そして そこ(へ) 行って (あ
 ー) ソコニ サンネン イマシテ (Kアー) エー。 ホイテ
 あ) そこに 3年 いまして (ああ) ええ そして
 アノー ナンジャ モー サカヤ ヤメテ (Kン) ホイテ
 あのう なんだ もう 酒屋 やめて (うん) そして
 ウチニ ナンシテタラ (91) コンドア アノ イマジョーノ (92) アネー
 家に 何していたら 今度は あの 今庄の xxxxxxxx
 アノー ソノ ナラノ サカヤニ (Kア) トーシシテテイナシ (93)
 あのう その 奈良の 酒屋で (あ) 杜氏していらしゃ
 タ ヒトガ ナラ ヤメテ イマジョーノ ホーエ カワンナッタ
 た 人が 奈良(を) やめて 今庄の 方へ 変わられたの
 ンデ (Kウー) (94) ホイタラ アノー アノー ヤクビトノ ア
 で (うん) そうしたら あのう あのう 役人 あ
 ノ エー ヒトガ オモワシーノガ ネーンデ キテクレッチュー
 の いい 人が 適当なのがないので 来てくれと言ってね。
 テネ。 ホイテ アノー イマジョーエ サンネン イキマシテネ。
 そして あのう 今庄へ 3年 行きましてね。
 ホイタラ アノー サンネンメーノ トシニ アノー ソノ ソ
 そうしたら あのう 3年目の 年に あのう xxxxxx そ
 ノ トシデスワ アノー コノー チュージエン ワズローテ ア
 の 年ですよ あのう このう 中耳炎(を) 患って あ
 ノー ニューイン シタノア。 (Kアー) エー ホンデ モー
 のう 入院 したのは。 (ああ) ええ それで もう

(95)
ハイラレントシモテ。

入れないで"しまって。

K ソレカラ モー ホトンド イキナハランノ。
それから もう "ほとんど" いら"しゃらないの。

T ソレデ モー ソレカラ モー サカヤ ヤメタンヤ。 ハー。
それで" もう "それから" もう 酒屋 やめたんだ。 はあ。

K オジチャンラモ ダイブン スミヤキ ヤンナシタホー。 (↑エ) (え)

おじいちゃんなんかも 大分 炭焼 された方。

スミヤキワ ダイブン ヤンナシタホー (↑ダレケ) (96) オジチ
炭焼は 大分 された方 (誰だて) おじい

チャンワ スミヤキ ダイブン-----。 アンマリ センフ。

ちゃんは 炭焼 大分-----。 あまり しないの。

T ウラワ スミヤキワ モー アカンヨン ナルマデ-----。 (97)

私は 炭焼は もう 駄目に なるまで-----。

K ズーット シテ シテナシタ (↑エ ウン) アー。 ダイブ
ずうっと ^{xxxxxx} していらした (え うん) ああ 大分

ダイブン-----。

大分-----。

T ホンデ サカヤ イッタノァ ツンナモンア アノ フユダケデッ

それで 酒屋(へ) 行ったのは そんなものは あの 冬だけですか

サケナー。 (↑K アー フユダケ アー) ココニ イヤ イリヤ
らねえ。 (ああ 冬だけ ああ) ここに ^{xxxxxx} いれば

シゴトガ デキンデ (↑K シン アー) サカヤエ イク イッタ
仕事か できないから (うん ああ) 酒屋へ ^{xxxxxx} 行った

ンデスサケナー。 (98) サカヤエ イキトテ イッタンデ ナケナ サカ
のですからねえ。 酒屋へ (99) 行きたくて 行ったのでもなければ (100) 酒屋

ヤガ⁽¹⁰¹⁾ ボロテ イッタンデア ネー ンデスサケ。 ウン。
が ほろくて 行ったのでは ないのですから。 うん。

K センジチューワ ダイブン コノ アタリァ ヨーケ アッタラシ
戦時中は 大分 このあたりは たくさん あったらしい
ーネ スミ。 (↑エ) スミ アノ センジチューワー (↑オ
ね 炭。 (え) 炭 あの 戦時中は (お
ー) スミノ キョーシュツデ (↑ホーデス) ダイブ ユーメ
お) 炭の 供出で (そうです) 大分 有名
ーヤッタラシーネ ココラアタリ。⁽¹⁰²⁾
だったらしいね ころあたり。

T ホヤケド アノー ワルフ ナカッタ ンジャケドカ (↑Kン) ソ
だけど あのう 悪くは なかったのだけれども (うん) そ
ノー ウラノ シッパイワ イマジョーニ イテー (↑Kア) ア
のう 私の 失敗は 今庄に いて (あ) あ
ノー キカイオ ツコーテ (↑Kア) ヤッタ ンデスナ。 (↑Kハ
のう 機械を 使って (あ) やったんですね。 (は
ーハー) ハー ホイタラ ソノー イマジョーニ イテワ フユ
あはあ) はあ そうしたら そのう 今庄に いては 冬の
ノ アイダワ ソノ スミガ ヤケンモンジャサケ (↑Kアー) ア
間は その 炭が 焼けないものだから (ああ あ
ー) フユー ソノー アノー ソノ キカイ モッテ カイッテ
あ) 冬 そのう あのう その 機械(を) 持って 帰って
ジェンモーケ ショート オモテ。 ン。
金儲け しようと思っ てる。 うん。

K キカイッテ ヲノワ ナンノ キカイ。
機械というのは 何の 機械。

ト アノー コー アノ テッサクテ⁽¹⁰³⁾ アノ キーダシ シルデシヨイ
あのう こう あの 鉄索で あの 木出し(を) するでしょうが。
⁽¹⁰⁴⁾
ネ。

ク アー シマス シマス ウン。
ああ します します うん。

ト ホホン。 アレオ (^クアン) ソノー アノー アノ キカイモ
うん。 あれを () そのう あの あの 機械も

テッサクモ (^クン) イマジョーノ ヤマデ ツコテ イタデ
鉄索も () うん) 今庄の 山で 使って いたから

ヤリマシタンニエ⁽¹⁰⁵⁾。 (^クアー) ネー。 オン。 ^{xxx}ホイテ
やりましたんです。 () ああ) ねえ。 うん。 ^{xxx}そして

コンド⁽¹⁰⁶⁾ア アノー コッチー フユノ アイダ モッテ カエッ
今度は あのう こっち(へ) 冬の 間 持って 帰って

テ フユノ アイダ コッチデ ヤロート オモテ (^クハー)
冬の 間 こっちで やろうと 思って () はあ)

ウン。 ホージョーカラ⁽¹⁰⁷⁾ キューシロサンノ⁽¹⁰⁸⁾ ヤマオ アノー ダ
うん。 方丈から きゅうしろさんの 山を あのう 出

シタンデス。 (^クアー) ウン。 ホイタラ アノー ソレオ
したんです。 () ああ) うん。 そうしたら あのう それを

アノー ホカノ アノー アノー ナンジャ ザエモクノ ナカガ
あのう ほかの あのう あのう なんだ 材木の 仲買

イ シル モンガ ミテイテ ホカノ モン ツコテルントワ ()
(を) する 人が 見ている ほかの 人(が) 使っているのは ()

^クアー) ヤリカタガ ドーモ グアイガ ヨイ エーラシート
ああ) やり方が どうも 具合が いい いろいろと

オモテヤナ (Kアー) オン。 アノー ウラニ キテクレッチ
思ってたな (ああ) うん。 あのう 私に 来てくれと言う

ユ (Kアー) シテクレッチュテ。 (Kン) アンナ トコ
(ああ) してくれと言って。 (うん) あんな 所

エ テー ダサントキャ ヨカッタモンオ。

ヘ 手(と) 出さなければ よかったものを。

K アー ンデァ ソレカラ コー ザイモクカンケー イキナシタノ。
ああ それでは それから こう 材木関係(へ) いらっしゃったの。

T ソヤケドカ モー ソレガ モー シバラクヤツタンデスケドネ。
けれども もう それが もう しばらくだったんですけれどもね。

(Kアー) アノー スミヤキノ ソノ アノ オモシロナイ
(ああ) あのう 炭焼の その あの 面白くない

ジューブンデ ナイ フジューブンナッチュ コトワ (Kン)
十分で ない 不十分だという ことは (うん)

マー ユート ジェンモーケヤネ (Kアー) ジェンモーケニ
まあ 言うと 金儲けたね (ああ) 金儲けに

タイシテ ジシエツニ オーテインチュコトワ モー シバラクデ
対して 時節に あっていないということは もう しばらくでし

シタンニャケドネ (Kアー) マ ヨースルニ ソノ アノー
たんですけれどもね (ああ) ま 要するに その あのう

ナンデスワ ^{xxx} バ アノー キダシオ シタノーガ (Kエー) アノ
なんですよ ^{xxx} あのう 木出しを したのが (ええ) あの

イカーイ ソノ ケーザイテキニ シッパイ シマシタワノ。
大きい その 経済的に 失敗 しましたわね。

K アー。 イッカイ オジチャン オーキー ケガ シナシタデショ
ああ。 1回 おじいちゃん 大きい けが されたでしょう

(^Tエー) ネー タシカネー。 イマデモ アノ キューキュー
(ええ) ねえ 確かねえ。 今でも あの 救急車(が)
ーシャ キタノ オボエテルケド (K.T 笑) アノ トキネー。
来たの 覚えているけれど あの 時ねえ。

アノ トキ ダイブ ロッコツ (^Tアレサエ シェナ) オッ
あの 時 大分 肋骨 (あれさえ しなければ) 折っ
タンデショ アノ トキ。 (^Tエ) ロッコツ ダイブン オレ
たんでしょ あの 時。 (え) 肋骨 大分 折れ

タンヤネ (^Tエー) ナンデモ。
たんだね (ええ) なんでも。

T アレサエ シェーナ キョービ コンナ (^Kネー) アノー ア
あれさえ しなければ 今どき こんな (ねえ) あのう 駄

カンノデス⁽¹⁰⁹⁾ッテ (^Kアー) イワイデ エーンデスケドナ。 カ
目なんですって (ああ) 言わなくて いいんですけどね。 体

ラダカ カタインジャケドカ ソノー ヨースルニ (^Kケガガネ)
が 丈夫なんだけれども そのう 要するに (けかがね)

ケガガ (^Kウン) モトデ (^Kウン) ソノー ウン。
けかが (うん) もとで (うん) そのう うん。

K オジチャン ダイブン ナンカイモ。
おじいちゃん 大分 何回も。

T ケガシタ ホネン トコワ ナオツタンヤケド コノ スジガ モ
けがした 骨の 所は 直ったのだけど この 筋が も
ー ナオラン。
う 直らない。

K アー。 ネー。 アーユー シゴトワ ケガシタラ モー ナンヤ
ああ。 ねえ。 ああいう 仕事は けがしたら もう なんだ

(110)

ネー。

ねえ。

注

- (1) 下中津原の村外れにあるお寺の名称。普通はブッシェン、ブッセンと呼ばれる。かつて、隣村の少林寺の尼寺として建てられ、昭和30年代半ばまでは定住の僧がいたが、その後無人となり、現在は村が管理する集会場となっている。今も年に数回少林寺の住職を招いて法要が営まれている。
- (2) [buʃʃiniŋ] ブッシェンインのシェの母音が後接の母音[i]の影響で狭められたためか。
- (3) 尊敬の補助動詞（助動詞的に用いられる）ナサルの連用形。イナサラン、イナシタ、イナサル、イナサルヒト、イナシタラのように活用する。イナシタ、イナシタラはそれぞれイナッタ、イナッタラともなる。イナサリマスの形もあまり多くはないが用いられる。
- (4) スンデナンダノ（住んでいなか、たの）とでも言おうとしての言いよどみ。
- (5) 仏仙院の僧の名前。
- (6) 相手に同意を求める意の文末詞。これと同様の意で、アッタゲノ（ゲは[ge]。ゲノも文末詞）という表現も用いられる。
- (7) [oterani:ʔ] 「は上昇調，ɾは下降調を表わす。独得のゆすりイントネーション（「うねり音調」とも）。当地方言でも、老年層から若年層まで広く観察される際立った特徴となっている。この独得の音調は主に越前・加賀地方に分布している。本稿でも随所にこの音調が現われている。
- (8) 下中津原の隣（上）の集落にある曹洞宗の寺院。現在は檀家の数こそそう多くないが、その歴史は古く、文献によれば1422年（応永29年）の建立とある。1472年（文明4年）には戦国大名として有名な、越前一乗谷の朝倉氏の祈願寺となり栄えた。しかし、1580年（天正8年）8月織田信長の越前攻めの折、羽柴秀吉に焼き払われ、その後何回かの火災にあい、今の少林寺はそれからずうとあとの再建である。
- (9) 旧国名としての若狭。現在の福井県の西南半分、三方郡美浜町より西の地域。敦賀市以東は越前。

- (10) 寺で修業中の小僧のこと。尊敬の意の接頭辞「お」のついた形。
- (11) いわゆる兄弟弟子のこと。
- (12) 新しい住職として世話をしての意。この種の意を表わすシンパイスルは中・老年層を中心に、当地方言ではしばしば用いられる。
- (13) [do:ju̯]]
- (14) 地名。武生市のすぐ南に接する南条郡南条町清水。
- (15) 注(6)と違い軽い意を添える文末詞が。
- (16) 尼僧のことを当地では一般にアンジュサンという。
- (17) ソシテ→ソイテ(サ行イ音便化)→ホイテの変化によるものか。ソ→ホへの同様の現象は、ソノ→ホノ(その)、ソヤ→ホヤ(そうだ)、ソレカラ→ホレカラ(それから)、ソヤサケ→ホヤサケ(そうだから)、ソシタラ→ホイタラ(そうしたら)などに、ほぼ規則的に現われる。
- (18) [mjə:tə]
- (19) ホイタラと言おうとしてホヤサカイのサカイが出てしまったか。言(誤り)。
- (20) 当地方言では、中・老年層に広く[se]の口蓋化音[ʃe]が現われる。[ʃenʃe:](先生)。
- (21) 信仰心が薄らいだからの意か。
- (22) お布施のこと。
- (23) 僧侶の本来の目的(仕事)はの意。
- (24) 注(3)参照。
- (25) 当地方言においては、指定・断定の助動詞はヤに統一されつつあるが、老年層の多く、中年層の一部ではジャも用いられている。
- (26) 「～けれども」にあたる接続助詞ケドカ。ケドとともによく用いられる。
- (27) 地名。福井市の北の坂井郡春江町のこと。
- (28) 当地では、山の雑木を一定の長さに切り細かく割ったものを束にして業者に売ることがかつて盛んだった。その業者のひとりとして来ていたことを言、ている。

- (29) ホーユートが短音化してホユト [hojuto] となり、さらに [u] の聞こえが弱くなったものか。 [hojuto] 。
- (30) 住んでいるの意。
- (31) 尊敬の助動詞ナハルの未然形。イナハラン、イナハリマス、イナハッタ、イナハル、イナハルヒト、イナハッタラのように活用する。ナサルよりも新しい形式と思われる。
- (32) 「～でなくて」に相当する表現として～デナシニがよく用いられる。
- (33) チーサイノワの言い誤り。
- (34) ～ンテニは「～みたいに」「～のように」の意の表現。
- (35) あるのだからの意。
- (36) ご利益が大きいのか。
- (37) ～デ(ン)ナケナは「～でなければ」「～でなくては」の意の表現。
 アノ ヒトデナケナ デキン シゴトヤ (あの人でなくてはできない仕事だ)
 オイワイワ アタラシー センエンサツソナケナ アカン (お祝いは新しい千円札でなければいけない)
- (38) [ho:desuka]
- (39) 最初に移り住んだお寺にの意。
- (40) 男性への一般的呼称とか卑称ではなく、お寺のお坊さんや和尚さんをさす呼称。福井県ではかなり広い範囲で用いられるようである。
- (41) オッサンを男性への卑称と思つたための笑い。
- (42) お坊さん(僧侶)の敬称。
- (43) 能力・技量の意か。
- (44) とやかく言うわけではの意。
- (45) [monoʃiɾidesusakena:]
- (46) ウチは谷口氏の家をさす。
- (47) この地域は市の水道が来ていないので何軒かが共同で簡易水道を作っている。それをさす。
- (48) 下中津原地籍の字名。
- (49) 加藤氏の親戚で旧武生市街に住む徳橋家の屋号。ナカソにどうい

字が当てられるかは不明。

- (50) 下中津原の村社である神明神社をさす。拝殿がふたつあり左に天照大神、右に薬師如来が祭られる神仏混淆の神社である。
- (51) 水源地から水道管を神明神社の境内に引き、そこにタンクをつくろうという計画が駄目だとの意。
- (52) 谷の上流(上)の方での意。
- (53) 仏仙へ水が来なくなるというのかと言おうとしての言いかけ。
- (54) 水道管への取水口のこと。
- (55) つくる意の動詞コッシュェル。コッシュェルとも。コシラエルから変化したものか。コッシュェン(コシェン)、コッシュェマス(コシェマス)、コッシュェル(コシエル)、コッシュェルヒト(コシエルヒト)、コッシュェタラ(コシェタラ)、コッシュェヤ(コシェヤ)のように活用する。
- (56) 水の流れるが細くての意。
- (57) タンクをの意。
- (58) 谷口氏の家をさす。
- (59) 「あいだ(物と物の間のすきま)」の意の俚言。
- (60) 谷口家の少し下にある下出家の屋号。アラヤは元々「分家」を表わす俚言。
- (61) オロイはオロス(下ろす)のサ行イ音便形。タルはテアルからの変化形。
- (62) 谷の入口の意。
- (63) ~カッテは「~ても」の意の表現。
イキトネンニャデ イカンカッテ イー (行きたくないんだから行かなくてもいい)
ホンナコト キカンカッテ ワカッテル (そんなこと聞かなくてもわかってる)
- (64) 簡易水道の同じ仲間になったものだからの意。[nattamonjasake]の[sa]が落ちた形。
- (65) 役員をしていたとでもいうことか。
- (66) 水に困らないの意。

- (67) 日照りのこと。
- (68) 水を止めに行ったりの意。
- (69) 下中津原の高木家の屋号。かつてマツチという屋号の家からインキョ(分家)したからマチンキョとなったといわれる。
- (70) 大規模農業を目ざして国の補助の下に行われる, 土地改良事業のこと。小さな田の寄せ集まりだった当地の水田の様子がこれにより一変した。
- (71) オモイダサレンは, 動詞オモイダスの未然形に可能の助動詞レルの未然形と否定の助動詞がついた形。当地方言では可能表現の場合, 五段動詞では, 読メル, 書ケルなどの可能動詞形よりも, この例のように読マレル, 書カレルとなる場合が多い。また一段動詞の可能表現の場合も, 中・老年層を中心に, 見ラレル, 寝ラレルという形が根強く用いられている。もっとも最近では, 若年層を中心に読メル, 書ケルなどの可能動詞形, そして見レル, 寝レルなどの形も広がっているようである。
- (72) 他家の老年男性への敬称。祖父に対して使う可能性もあるが, 当地における祖父の一般的呼称はオジジである。接尾辞ラはここでは複数を表わすのではなく, 「～など」「～なんか」の意を軽く添えるものである。
- (73) ウラは自称代名詞。
- (74) アキマシエンは「駄目」の意のアカンの丁寧形。
- (75) 下中津原の山本仁太郎氏の家の屋号。先祖の金右衛門の名に由来する。
- (76) カタイは「丈夫だ」「元気な」の意の形容詞。
- (77) 注(72)参照。ここでは他家の老年男性への呼称としてオジジが用いられている。
- (78) 当地は積雪地帯ということもあり, 冬の農閑期に灘や伏見の造り酒屋へ出稼ぎに行く人が少なくなかった。ここでは, その造り酒屋をさしている。
- (79) 注(60)参照。屋号。

- (80) 接尾辞ラについては注(72)参照。
- (81) イキナハランとも聞こえる。
- (82) もう一度行こうとの意。
- (83) 連絡したらとでもいう意か。
- (84) 「折角」であろう。当地方言では本来の意味が変化し、「早く」とか「急いで」の意で副詞的に用いられる。
- (85) 炭にした分だけちゃんと始末をしての意。
- (86) 行かなかったの(に)の意。
- (87) スグの言い誤りか。それともソク(即)の言い誤りか。
- (88) 待ってもの意か。
- (89) ニャは指定・断定の助動詞ジャ、ヤに同じ。前に[n]がくるときに現われる。[icetanja] → [icetanna]。ヤ[ja]の異形態(al-lomorph)とみることができる。
- (90) 求人があるのでと言ってねの意。
- (91) 家でぶらぶらしていたらとでもいう意か。
- (92) 地名。武生市の南、国鉄北陸線沿い北陸トンネルの入口にあたる、南条郡今庄町。
- (93) トージ(杜氏)は酒をつくる職人のこと。
- (94) 酒をつくる職人は三役といって大きく三つの役に分かれるという。麴をつくる人、酒を仕込む人、できあがった酒を瓶に詰める人の三つである。これら三つの役に従事する人達を「役人」という。
- (95) ハイラレンのレは可能の助動詞レルの未然形。注(71)参照。トシモテはトシモーテの変化した形。
- (96) ケは疑問の意を表わす終助詞。
- (97) 体が駄目になるまでの意。
- (98) ～サケは～サカイと同じ接続助詞。当地方言では～サケの方が圧倒的に多く用いられる。
- (99) イキトテの～トテは「～たくて」の意。本来はトーテと思われるが当地方言では短音化したトテが用いられる。
- (100) 注(37)参照。

- (101) 金がたくさん入って割がいいということでといったような意。
- (102) 下中津原を含めた旧南条郡坂口村をさす。
- (103) 鉄の太い針金をより合わせた綱。
- (104) 相手に理解を求めるような意を添える。～デショイネ。
ホンナコト シタラ アカンテ ユータデショイネ (そんなこととしてはいけないって言ったでしょうが)
- (105) 木出しの仕事をやりましたんですの意。
- (106) 下中津原をさす。
- (107) 下中津原地籍の字名。
- (108) 下中津原の道端正樹氏の家の屋号。先祖の久四郎の名に由来する。
- (109) 動詞の未然形にイデ(モ)が接続して「～なくて」の意を表わす。
ホンネ イソイデ セーデモ イー (そんなに急いでしなくてもいい)
- (110) 駄目だねえの意。

『新編 国語学』

昭和58年9月

昭和58年9月

国立国語研究所

〒115 東京都北区西が丘3丁目9番14号
電話 東京(900)3111(代表)

UDC 809.56-087

NDC 818

本書の市販品発行所

〔〒162〕東京都新宿区納戸町40(03-260-5281)

株式会社 秀英出版

国立国語研究所刊行書一覽

国立国語研究所報告

| | | | |
|------|-----------------------------------|---------|---------|
| 1 | 八丈島の言語調査 | 秀英出版刊 | 品切れ |
| 2 | 言語生活の実態
——白河市および付近の農村における—— | 〃 | 〃 |
| 3 | 現代語の助詞・助動詞
——用法と実例—— | 〃 | 2,000円 |
| 4 | 婦人雑誌の用語
——現代語の語彙調査—— | 〃 | 品切れ |
| 5 | 地域社会の言語生活
——鶴岡における実態調査—— | 〃 | 〃 |
| 6 | 少年と新聞
——小学生・中学生の新聞への接近と理解—— | 〃 | 〃 |
| 7 | 入門期の言語能力 | 〃 | 〃 |
| 8 | 談話語の実態 | 〃 | 〃 |
| 9 | 読みの実験的研究
——音読にあらわれた読みあやまりの分析—— | 〃 | 〃 |
| 10 | 低学年の読み書き能力 | 〃 | 〃 |
| 11 | 敬語と敬語意識 | 〃 | 〃 |
| 12 | 総合雑誌の用語(前編)——現代語の語彙調査—— | 〃 | 〃 |
| 13 | 総合雑誌の用語(後編)——現代語の語彙調査—— | 〃 | 〃 |
| 14 | 中学年の読み書き能力 | 〃 | 〃 |
| 15 | 明治初期の新聞の用語 | 〃 | 〃 |
| 16 | 日本方言の記述的研究 | 明治書院刊 | 〃 |
| 17 | 高学年の読み書き能力 | 秀英出版刊 | 〃 |
| 18 | 話しことばの文型(1)
——対話資料による研究—— | 〃 | 〃 |
| 19 | 総合雑誌の用字 | 〃 | 〃 |
| 20 | 同音語の研究 | 〃 | 〃 |
| 21 | 現代雑誌九十種の用語用字(1)
——総記および語彙表—— | 〃 | 〃 |
| 22 | 現代雑誌九十種の用語用字(2)
——漢字表—— | 〃 | 〃 |
| 23 | 話しことばの文型(2)
——独話資料による研究—— | 〃 | 〃 |
| 24 | 横組みの字形に関する研究 | 〃 | 〃 |
| 25 | 現代雑誌九十種の用語用字(3)
——分析—— | 〃 | 〃 |
| 26 | 小学生の言語能力の発達 | 明治図書刊 | 〃 |
| 27 | 共通語化の過程
——北海道における親子三代のことば—— | 秀英出版刊 | 〃 |
| 28 | 類義語の研究 | 〃 | 〃 |
| 29 | 戦後の国民各層の文字生活 | 〃 | 400円 |
| 30-1 | 日本語地図(1) | 大蔵省印刷局刊 | 品切れ |
| | 日本語地図(1)〈縮刷版〉 | 〃 | 17,000円 |
| 30-2 | 日本語地図(2) | 〃 | 品切れ |
| | 日本語地図(2)〈縮刷版〉 | 〃 | 17,000円 |

| | | | |
|------|--|---------|---------|
| 30-3 | 日 本 言 語 地 図 (3) | 大蔵省印刷局刊 | 品切れ |
| | 日 本 言 語 地 図 (3) <縮刷版> | " | 17,000円 |
| 30-4 | 日 本 言 語 地 図 (4) | " | 品切れ |
| 30-5 | 日 本 言 語 地 図 (5) | " | " |
| 30-6 | 日 本 言 語 地 図 (6) | " | " |
| 31 | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 | 秀英出版刊 | " |
| 32 | 社会構造と言語の関係についての基礎的研究(1)
——視族語彙と社会構造—— | " | " |
| 33 | 家庭における子どものコミュニケーション意識 | " | 350円 |
| 34 | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (II)
——新聞の用語用字調査の処理組織—— | " | 品切れ |
| 35 | 社会構造と言語の関係についての基礎的研究(2)
——マキ・マケと視族呼称—— | " | 450円 |
| 36 | 中学生の漢字習得に関する研究 | " | 品切れ |
| 37 | 電 子 計 算 機 に よ る 新 聞 の 語 彙 調 査 | " | " |
| 38 | 電 子 計 算 機 に よ る 新 聞 の 語 彙 調 査 (II) | " | 2,800円 |
| 39 | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (III) | " | 品切れ |
| 40 | 送 り が な 意 識 の 調 査 | " | 1,500円 |
| 41 | 待 遇 表 現 の 実 態
——松江24時間調査資料から—— | " | 900円 |
| 42 | 電 子 計 算 機 に よ る 新 聞 の 語 彙 調 査 (III) | " | 1,200円 |
| 43 | 動詞の意味・用法の記述的研究 | " | 6,000円 |
| 44 | 形容詞の意味・用法の記述的研究 | " | 4,000円 |
| 45 | 幼 児 の 読 み 書 き 能 力 | 東京書籍刊 | 4,500円 |
| 46 | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (IV) | 秀英出版刊 | 700円 |
| 47 | 社会構造と言語の関係についての基礎的研究(3)
——性用語彙と価値観—— | " | 700円 |
| 48 | 電 子 計 算 機 に よ る 新 聞 の 語 彙 調 査 (IV) | " | 3,000円 |
| 49 | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (V) | " | 900円 |
| 50 | 幼 児 の 文 構 造 の 発 達
——3歳~6歳児の場合—— | " | 品切れ |
| 51 | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (VI) | " | 1,000円 |
| 52 | 地 域 社 会 の 言 語 生 活
——鶴岡における20年前との比較—— | " | 1,800円 |
| 53 | 言 語 使 用 の 変 遷 (1)
——福島県北部地域の面接調査—— | " | 2,500円 |
| 54 | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (VII) | " | 1,000円 |
| 55 | 幼 児 語 の 形 態 論 的 な 分 析
——動詞・形容詞・述語名詞—— | " | 品切れ |
| 56 | 現 代 新 聞 の 漢 字 | " | 6,000円 |
| 57 | 比 喩 表 現 の 理 論 と 分 類 | " | 6,000円 |
| 58 | 幼 児 の 文 法 能 力 | 東京書籍刊 | 5,500円 |
| 59 | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (VIII) | 秀英出版刊 | 1,300円 |
| 60 | X線映画資料による母音の発音の研究
——フォネーム研究序説—— | " | 2,500円 |
| 61 | 電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (IX) | 秀英出版刊 | 品切れ |

| | | | |
|------|----------------------|-------|---------|
| 62 | 研究報告集 (1) | 秀英出版刊 | 1,700円 |
| 63 | 児童の表現力と作文 | 東京書籍刊 | 6,000円 |
| 64 | 各地方言親族語彙の言語社会学的研究(1) | 秀英出版刊 | 2,000円 |
| 65 | 研究報告集 (2) | " | 3,000円 |
| 66 | 幼児の語彙能力 | 東京書籍刊 | 8,000円 |
| 67 | 電子計算機による国語研究(X) | 秀英出版刊 | 1,500円 |
| 68 | 専門語の諸問題 | " | 4,000円 |
| 69 | 幼児・児童の連想語彙表 | 東京書籍刊 | 6,800円 |
| 70-1 | 大都市の言語生活(分析編) | 三省堂刊 | 7,800円 |
| 70-2 | 大都市の言語生活(資料編) | " | 12,000円 |
| 71 | 研究報告集 (3) | 秀英出版刊 | 4,800円 |
| 72 | 幼児・児童の概念形成と言語 | 東京書籍刊 | 6,800円 |
| 73 | 企業の中の敬語 | 三省堂刊 | 9,500円 |
| 74 | 研究報告集 (4) | 秀英出版刊 | 4,200円 |
| 75 | 現代表記のゆれ | " | 2,700円 |
| 76 | 高校教科書の語彙調査 | " | 5,000円 |
| 77 | 敬語と敬語意識 | 三省堂刊 | 8,000円 |

——岡崎における20年前との比較——

国立国語研究所資料集

| | | | |
|------|--------------------------|---------|--------|
| 1 | 国語関係刊行書目(昭和17~24年) | 秀英出版刊 | 品切れ |
| 2 | 語彙調査——現代新聞用語の一例—— | " | " |
| 3 | 送り仮名法資料集 | " | " |
| 4 | 明治以降国語学関係刊行書目 | " | " |
| 5 | 沖繩語辞典 | 大蔵省印刷局刊 | 4,300円 |
| 6 | 分類語彙表 | 秀英出版刊 | 1,800円 |
| 7 | 動詞・形容詞問題語用例集 | " | 1,700円 |
| 8 | 現代新聞の漢字調査(中間報告) | " | 500円 |
| 9 | 牛店安愚楽鍋用語索引 | " | 1,500円 |
| 10 | 方言談話資料(1)——山形・群馬・長野—— | " | 6,000円 |
| 10-2 | 方言談話資料(2)——奈良・高知・長崎—— | " | 6,000円 |
| 10-3 | 方言談話資料(3)——青森・新潟・愛知—— | " | 6,000円 |
| 10-4 | 方言談話資料(4)——福井・京都・島根—— | " | 6,000円 |
| 10-5 | 方言談話資料(5)——岩手・宮城・千葉・静岡—— | " | 6,000円 |
| 10-6 | 方言談話資料(6)——鳥取・愛媛・宮崎・沖繩—— | " | 6,000円 |
| 11 | 日本言語地図語形索引 | 大蔵省印刷局刊 | 1,500円 |

国立国語研究所研究部資料

| | | | |
|-----|-------------------------------|-------|--------|
| 1 | 幼児のことば資料(1) —2歳・3歳誕生日のことばの記録— | 秀英出版刊 | 3,800円 |
| 1-2 | 幼児のことば資料(2) —4歳誕生日のことばの記録— | " | 3,800円 |
| 1-3 | 幼児のことば資料(3) —1歳児のことばの記録— | " | 6,000円 |
| 1-4 | 幼児のことば資料(4) —2歳児のことばの記録— | " | 6,000円 |
| 1-5 | 幼児のことば資料(5) —3歳前半のことばの記録— | " | 6,000円 |
| 1-6 | 幼児のことば資料(6) —3歳後半のことばの記録— | " | 6,000円 |

国立国語研究所論集

| | | | |
|---|-------------------|-------|--------|
| 1 | こ と ば の 研 究 | 秀英出版刊 | 品切れ |
| 2 | こ と ば の 研 究 第 2 集 | 〃 | 〃 |
| 3 | こ と ば の 研 究 第 3 集 | 〃 | 〃 |
| 4 | こ と ば の 研 究 第 4 集 | 〃 | 1,300円 |
| 5 | こ と ば の 研 究 第 5 集 | 〃 | 1,300円 |

国立国語研究所年報 秀英出版刊

| | | | | | | | | |
|----|--------|------|----|--------|------|----|--------|--------|
| 1 | 昭和24年度 | 品切れ | 12 | 昭和35年度 | 品切れ | 23 | 昭和46年度 | 450円 |
| 2 | 昭和25年度 | 〃 | 13 | 昭和36年度 | 〃 | 24 | 昭和47年度 | 品切れ |
| 3 | 昭和26年度 | 160円 | 14 | 昭和37年度 | 〃 | 25 | 昭和48年度 | 〃 |
| 4 | 昭和27年度 | 160円 | 15 | 昭和38年度 | 250円 | 26 | 昭和49年度 | 〃 |
| 5 | 昭和28年度 | 品切れ | 16 | 昭和39年度 | 品切れ | 27 | 昭和50年度 | 700円 |
| 6 | 昭和29年度 | 200円 | 17 | 昭和40年度 | 〃 | 28 | 昭和51年度 | 非売品 |
| 7 | 昭和30年度 | 品切れ | 18 | 昭和41年度 | 300円 | 29 | 昭和52年度 | 〃 |
| 8 | 昭和31年度 | 〃 | 19 | 昭和42年度 | 300円 | 30 | 昭和53年度 | 800円 |
| 9 | 昭和32年度 | 〃 | 20 | 昭和43年度 | 品切れ | 31 | 昭和54年度 | 1,200円 |
| 10 | 昭和33年度 | 〃 | 21 | 昭和44年度 | 〃 | 32 | 昭和55年度 | 1,300円 |
| 11 | 昭和34年度 | 〃 | 22 | 昭和45年度 | 〃 | 33 | 昭和56年度 | 1,300円 |

国 語 年 鑑 秀英出版刊

| | | | | | |
|--------|-----|--------|--------|--------|--------|
| 昭和29年版 | 品切れ | 昭和39年版 | 品切れ | 昭和49年版 | 3,800円 |
| 昭和30年版 | 〃 | 昭和40年版 | 〃 | 昭和50年版 | 3,800円 |
| 昭和31年版 | 〃 | 昭和41年版 | 〃 | 昭和51年版 | 4,000円 |
| 昭和32年版 | 〃 | 昭和42年版 | 〃 | 昭和52年版 | 品切れ |
| 昭和33年版 | 〃 | 昭和43年版 | 〃 | 昭和53年版 | 〃 |
| 昭和34年版 | 〃 | 昭和44年版 | 〃 | 昭和54年版 | 〃 |
| 昭和35年版 | 〃 | 昭和45年版 | 1,500円 | 昭和55年版 | 〃 |
| 昭和36年版 | 〃 | 昭和46年版 | 2,000円 | 昭和56年版 | 〃 |
| 昭和37年版 | 〃 | 昭和47年版 | 2,200円 | 昭和57年版 | 5,500円 |
| 昭和38年版 | 〃 | 昭和48年版 | 2,700円 | 昭和58年版 | 5,500円 |

| | | | |
|-----------------|----------------------|-------|--------|
| 高 校 生 と 新 聞 | 国立国語研究所
日本新聞協会 共編 | 秀英出版刊 | 280円 |
| 青年とマス・コミュニケーション | 日本新聞協会
国立国語研究所 共編 | 金沢書店刊 | 品切れ |
| 国立国語研究所三十年のあゆみ | ——研究業績の紹介—— | 秀英出版刊 | 1,500円 |

日本語教育教材

| | | | | | |
|---|---------------------------------|---------------------|---------|------|------|
| 1 | 日 本 語 と 日 本 語 教 育
——発音・表現編—— | 国立国語研究所
文 化 庁 共編 | 大蔵省印刷局刊 | 650円 | |
| 2 | 日 本 語 と 日 本 語 教 育
——文字・表現編—— | 〃 | 〃 | 850円 | |
| 3 | 日 本 語 の 文 法 (上) | ——日本語教育指導参考書4—— | 〃 | 450円 | |
| 4 | 日 本 語 の 文 法 (下) | —— | 5—— | 〃 | 550円 |
| 5 | 日 本 語 教 育 の 評 価 法 | —— | 6—— | 〃 | 700円 |
| 6 | 中 ・ 上 級 の 教 授 法 | —— | 7—— | 〃 | 500円 |

| | | | | |
|---|----------------|---------------|---------|--------|
| 7 | 日本語の指示詞 | —日本語教育指導参考書8— | 大蔵省印刷局刊 | 500円 |
| 8 | 日本語教育基本語彙比較対照表 | — | ” 9— ” | 1,000円 |
| 9 | 日本語教育参考文献一覧 | — | ” 10— ” | 1,400円 |

日本語教育教材映画一覧（各巻16ミリカラー，5分，日本シネセル社販売）

| 巻 題 名 | プリント価格 |
|--|---------|
| 第1巻* これは かえるです —「こそあど」+「は～です」— | 30,000円 |
| 第2巻* さいふは どこにありますか —「こそあど」+「が～ある」— | ” |
| 第3巻* やすくないです，たかいです —形容詞とその活用導入— | ” |
| 第4巻* なにを しましたか —動詞— | ” |
| 第5巻* しずかなこうえんで —形容動詞— | ” |
| 第6巻* さあ，かぞえましょう —助数詞— | ” |
| 第7巻* うつくしいさらに になりました —「なる」「する」— | ” |
| 第8巻* きりんは どこにいますか —「いる」「ある」— | ” |
| 第9巻* かまくらを あるきます —移動の表現— | ” |
| 第10巻 おかねを とられました —受身の表現1— | ” |
| 第11巻* どちらが すきですか —比較・程度の表現— | ” |
| 第12巻* もみじが とてもきれいでした —「です」「でした」「でしょう」— | ” |
| 第13巻* きょうは あめがふっています —「して」「している」「していた」— | ” |
| 第14巻* そうじは してありますか —「してある」「しておく」「してしまう」— | ” |
| 第15巻* おみまいに いきませんか —依頼・勧誘の表現— | ” |
| 第16巻* なみのおとが きこえてきます —「いく」「くる」— | ” |
| 第17巻 みずうみのえを かいたことが ありますか —経験・予定の表現— | ” |
| 第18巻* あのいわまで およげますか —可能の表現— | ” |
| 第19巻 よみせを みに いきたいです —意志・希望の表現— | ” |
| 第20巻 てんきが いいから さんぽを しましょう —原因・理由の表現— | ” |
| 第21巻 さくらが きれいだそうです —伝聞・様態の表現— | ” |
| 第22巻 あめに ふられて こまりました —受身の表現2— | ” |
| 第23巻 おけいこを みにいっても いいですか —許可・禁止の表現— | ” |
| 第24巻 あそこに のぼれば うみが みえます —条件の表現1— | ” |
| 第25巻 いえが たくさんあるのに とてもしずかです —条件の表現2— | ” |
| 第26巻 このきっぷを あげます —「やり」「もらい」の表現,1— | ” |
| 第27巻 にもつを もってもらいました —「やり」「もらい」の表現2— | ” |
| 第28巻 てつだいを させました —使役の表現— | ” |

第1巻～第3巻は，文化庁との共同企画

VTR 価格1/2インチオープンリール21,000円，3/4インチカセット20,000円

*印については日本語教材映画解説の冊子がある。

NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE PUBLICATIONS

SOURCE X-VII

TEXTS OF TAPE-RECORDED CONVERSATIONS
IN JAPANESE DIALECTS

(Volume 7)

CONVERSATIONS BETWEEN OLDER AND YOUNGER SUBJECTS

CONTENTS

Foreword

Purpose and Outline

Text

- Part 1 ; AOMORI PREFECTURE (Hamlet Usitate, City Aomori)
Part 2 ; IWATE PREFECTURE (Hamlet Oisi, City Esasi)
Part 3 ; NÎGATA PREFECTURE (Hamlet Motirô-Orii, City Kasiwazaki)
Part 4 ; TIBA PREFECTURE (Hamlet Aihama, City Tateyama)
Part 5 ; SIZUOKA PREFECTURE (Hamlet Kita, City Sizuoka)
Part 6 ; NAGANO PREFECTURE (Hamlet Minakata, Village Nakagawa,
District Kamiina)
Part 7 ; AITI PREFECTURE (Hamlet Nakanokô, Village Tomiyama,
District Kitasitara)
Part 8 ; HUKUI PREFECTURE (Hamlet Simonakatuhara, City Takehu)

**THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE
TOKYO JAPAN**

1983